

東上之宮遺跡

国道354号玉村伊勢崎バイパス社会資本総合整備
(活力創出基盤整備)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第3分冊

2015

群馬県伊勢崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

東上之宮遺跡

国道354号玉村伊勢崎バイパス社会資本総合整備
(活力創出基盤整備)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第三分冊 二〇一五

群馬県伊勢崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



東上之宮遺跡

国道354号玉村伊勢崎バイパス社会資本総合整備
(活力創出基盤整備)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第3分冊

2015

群馬県伊勢崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

目次

第3分冊 自然科学分析・総括・遺構一覧表・遺物観察表・写真図版編

目次

挿図目次

表目次

本文写真目次

写真図版目次

第13章 自然科学分析

- 1 分析の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 937
- 2 テフラ分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 938
- 3 人骨鑑定分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 943
- 4 獣歯骨鑑定分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 961

第14章 総括

- 1 天明三(1783)年の浅間山噴火による泥流被害の復旧について(1面)
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 965
- 2 天明三年前の遺構について(2面)・・・・・・・・・・・・ 966
- 3 近世洪水における被害について(2.5・3面)・・・・・・ 970
- 4 As-B軽石混土層中の耕作について(4～7面)・・・・・・ 971
- 5 古墳時代～平安時代の集落について(8・9面)・・・・・・ 971
- 6 古墳時代後期の甕について(8面)・・・・・・・・・・・・ 981
- 7 古墳時代前期土器について(9面)・・・・・・・・・・・・ 986

土坑計測表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 992

ピット計測表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 996

遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1001

写真図版

発掘調査報告書抄録

挿図目次

第912図	4区北東隅地点の土層柱状図	938	第925図	5区2面1号墓地における墓の配列	970
第913図	東上之宮遺跡のテフラ組成ダイヤグラム	941	第926図	4世紀代の住居分布図	975
第914図	1区6面82号土坑出土歯萌出状態想定図[約11歳]	943	第927図	6世紀前半の住居分布図	976
第915図	5区2面1～14号墓平面図	949	第928図	6世紀後半の住居分布図	977
第916図	5区2面8号墓出土歯萌出状態想定図[約10歳]	954	第929図	7世紀代の住居分布図	978
第917図	5区2面11号墓出土歯萌出状態想定図[約4歳]	956	第930図	8世紀代の住居分布図	979
第918図	5区2面12号墓出土歯萌出状態想定図[約8歳]	956	第931図	9世紀代の住居分布図	980
第919図	5区2面13号墓出土歯萌出状態想定図[新生児]	957	第932図	甌出土住居の土師器(杯、甕)時期区分(6世紀)	982
第920図	5区2面14号墓出土歯萌出状態想定図[生後9ヶ月]	957	第933図	甌出土住居の土師器(杯、甕)時期区分(7世紀)	983
第921図	墓坑と被葬者の性別	959	第934図	A類(有孔鉢形甌)の変遷	983
第922図	墓の大きさと被葬者	959	第935図	B類(甕形甌の変遷)(1)	984
第923図	2面畑の畝幅とサク間幅の相関図	966	第936図	B類(甕形甌の変遷)(2)	985
第924図	2面水田の歩行列分類図	968	第937図	古墳時代前期土器の分類	987

表目次

第14表	テフラ検出分析結果	940	第20表	下顎白歯計測値	963
第15表	火山ガラス比分析結果	940	第21表	2面畑一覧表	967
第16表	重鉱物組成分析結果	940	第22表	2面水田一覧表	967
第17表	屈折率測定結果	940	第23表	出土土器組成表	988
第18表	東上之宮遺跡出土人骨まとめ	958	第24表	土坑計測表	992
第19表	東上之宮遺跡出土人骨歯冠計測値及び比較表	960	第25表	ピット計測表	996

本文写真図版目次

写真1. 1区6面82号土坑出土遊離歯	943	写真35. 5区2面12号墓出土遊離歯	956
写真2. 1区6面83号土坑出土遊離歯咬合面観	944	写真36. 5区2面14号墓出土遊離歯	957
写真3. 3区7面4号土坑出土下顎骨右側面観	944	写真37. 1号馬一括	963
写真4. 3区7面4号土坑出土左右膝蓋骨前面観	944	写真38. 1号馬A	963
写真5. 3区7面4号土坑出土人骨左右上顎骨前面観	945	写真39. 2号馬一括	963
写真6. 3区7面5号土坑出土前頭骨片	945	写真40. 3号馬A	963
写真7. 3区7面5号土坑出土上顎骨	946	写真41. 4号馬	963
写真8. 5区1面泥流中人骨第2・3頸椎前面観	946	写真42. 5号馬A	963
写真9. 5区1面泥流中人骨第2・3頸椎左側面観	946	写真43. 5号馬B	964
写真10. 5区1面泥流中人骨第2・3頸椎後面観	947	写真44. 5号馬C	964
写真11. 5区1面1号土坑出土遊離歯	947	写真45. 5号馬D	964
写真12. 5区1面1号土坑出土前頭骨	947	写真46. 5号馬E	964
写真13. 5区1面2号土坑出土左右大腿骨	948	写真47. 5号馬F	964
写真14. 5区1面2号土坑出土頭蓋骨前面観	948	写真48. 6号馬A	964
写真15. 5区1面2号土坑出土頭蓋骨上面観(左が前)	948	写真49. 6号馬B	964
写真16. 5区1面2号土坑出土下顎骨咬合面観	949	写真50. 6号馬C	964
写真17. 5区2面1号墓出土遊離歯	949	写真51. 6号馬D	964
写真18. 5区2面3号墓出土頭蓋骨前面観	950	写真52. 6号馬一括	964
写真19. 5区2面3号墓出土頭蓋骨上面観	950	写真53. 6号馬G	964
写真20. 5区2面3号墓出土頭蓋骨左側面観	950	写真54. 6号馬K	964
写真21. 5区2面3号墓出土上顎骨咬合面観(無歯顎)	951	写真55. 8号馬	964
写真22. 5区2面3号墓出土下顎骨咬合面観(無歯顎)	951	写真56. 9号馬A	964
写真23. 5区2面3号墓出土下顎骨咬合面観	951	写真57. 9号馬B	964
写真24. 5区2面4号墓出土前頭骨	951	写真58. 9号馬D	964
写真25. 5区2面4号墓出土遊離歯異常磨耗	951	写真59. 9号馬E	964
写真26. 5区2面5号墓出土遊離歯咬合面観	952	写真60. 9号馬F	964
写真27. 5区2面6号墓出土遊離歯咬合面観	952	写真61. 12号馬A	964
写真28. 5区2面6号墓左右側頭骨	953	写真62. 13号馬A	964
写真29. 5区2面7号墓出土遊離歯咬合面観	953	写真63. 14号馬	964
写真30. 5区2面8号墓出土遊離歯咬合面観	954	写真64. 15号馬A	964
写真31. 5区2面9号墓出土遊離歯咬合面観	954	写真65. 15号馬B	964
写真32. 5区2面10号墓出土右頭頂骨片	955	写真66. 16号馬A	964
写真33. 5区2面10号墓出土左側頭骨岩様部	955	写真67. 17号馬A	964
写真34. 5区2面11号墓出土遊離歯	955	写真68. 焼骨A	964

写真図版目次

- PL. 1 1. 4区1・2面全景(北から)
2. 4区1・2面全景(上空から)
- PL. 2 1. 4区1面1・2・6号復旧溝全景(南西から)
2. 4区1面6号復旧溝全景(北東から)
3. 4区1面7号復旧溝全景(北西から)
4. 4区1面8号復旧溝全景(北西から)
5. 4区1面1号溝(上層)全景(北東から)
6. 4区1面1号溝(上層)全景(北から)
7. 5区1面1号土坑人骨出土状態(南から)
8. 5区1面2号土坑人骨出土状態(西から)
- PL. 3 1. 1区2面西側全景(上空から)
2. 1区2面東側全景(上空から)
- PL. 4 1. 1区2面1号溝全景(北西から)
2. 1区2面2号溝(上層)全景(北から)
3. 1区2面3号溝(上層)全景(北から)
4. 1区2面4号溝全景(南東から)
5. 1区2面5・6号溝(上層)、8号道路全景(北から)
6. 1区2面10・11(上層)号溝、5・6号道路全景(東から)
7. 1区2面11号溝土橋全景(南から)
- PL. 5 1. 1区2面12・64号溝(上層)、4号道路全景(東から)
2. 1区2面1号道路、63号溝全景(東から)
3. 1区2面1号道路の馬蹄痕(南東から)
4. 1区2面3号溝(上層)土橋全景(北東から)
5. 1区2面2号道路全景(南から)
6. 1区2面3号道路全景(北から)
7. 1区2面4号道路全景(北から)
- PL. 6 1. 1区2面北西部畑全景(北西から)
2. 1区2面As-A軽石上面における調査前の畑(南から)
3. 1区2面1号畑全景(西から)
4. 1区2面2号畑全景(北西から)
5. 1区2面2号畑、1号道路、1号溝の植物痕(北西から)
6. 1区2面2号畑の植物痕(北西から)
7. 1区2面2号畑の植物痕(西から)
8. 1区2面3号畑全景(北西から)
- PL. 7 1. 1区2面4号畑全景(西から)
2. 1区2面5号畑全景(西から)
3. 1区2面6号畑全景(北東から)
4. 1区2面6号畑断面(東から)
5. 1区2面6号畑の足跡(東から)
6. 1区2面7号畑全景(北から)
7. 1区2面7号畑の植物痕(南から)
8. 1区2面9号畑全景(東から)
- PL. 8 1. 1区2面8号畑全景(北西から)
2. 1区2面10号畑全景(南東から)
3. 1区2面10号畑の足跡(南から)
4. 1区2面10号畑の耕作痕(南から)
5. 1区2面10号畑の植物痕(南西から)
6. 1区2面11号畑全景(南東から)
7. 1区2面12号畑全景(南東から)
- PL. 9 1. 1区2面13・14号畑全景(北東から)
2. 1区2面15号畑全景(南東から)
3. 1区2面15号畑近景(東から)
4. 1区2面16号畑全景(東から)
5. 1区2面17号畑全景(北から)
6. 1区2面17号畑近景(南から)
7. 1区2面17号畑の足跡(北から)
8. 1区2面17号畑の足跡(東から)
- PL.10 1. 1区2面18号畑全景(東から)
2. 1区2面18号畑近景(東から)
3. 1区2面18・19号畑近景(東から)
4. 1区2面19号畑全景(東から)
5. 1区2面20号畑全景(東から)
6. 1区2面21号畑全景(北西から)
7. 1区2面22号畑全景(南西から)
8. 1区2面23号畑全景(南東から)
- PL.11 1. 1区2面24号畑全景(南西から)
2. 1区2面24号畑の足跡(東から)
3. 1区2面25号畑全景(南から)
4. 1区2面26号畑全景(南西から)
5. 1区2面27号畑全景(北から)
6. 1区2面36号畑全景(東から)
7. 1区2面37号畑全景(北東から)
8. 1区2面38号畑全景(北から)
- PL.12 1. 1区2面39号畑全景(北東から)
2. 1区2面水田全景(南東から)
3. 1区2面水田全景(北西から)
4. 1区2面水田全景(北から)
5. 1区2面水田水口(東から)
6. 1区2面水田の指跡(東から)
7. 1区2面水田の稲跡(東から)
8. 1区2面水田の株跡(西から)
- PL.13 1. 2区2面全景(南から)
2. 2区2面全景(上空から)
- PL.14 1. 2区2面1号溝(上層)全景(南から)
2. 2区2面3号溝(上層)全景(東から)
3. 2区2面4・5号溝(上層)全景(北から)
4. 2区2面4・5号溝(上層)全景(南から)
5. 2区2面6号溝(上層)全景(北から)
6. 2区2面7号溝(上層)全景(北から)
7. 2区2面8号溝(上層)全景(西から)
8. 2区2面9号溝(上層)全景(西から)
- PL.15 1. 2区2面10号溝(上層)全景(東から)
2. 2区2面1号畑全景(北東から)
3. 2区2面1号畑の足跡(北から)
4. 2区2面1号畑耕作痕(東から)
5. 2区2面2号畑全景(北から)
6. 2区2面2号畑近景(南から)
7. 2区2面3号畑全景(北東から)
8. 2区2面3号畑近景(北から)
- PL.16 1. 2区2面4号畑全景(北東から)
2. 2区2面5号畑全景(北から)
3. 2区2面5号畑の足跡(南から)
4. 2区2面6号畑全景(南から)
5. 2区2面6号畑近景(北から)
6. 2区2面7号畑全景(南から)
7. 2区2面8号畑全景(南から)
8. 2区2面9号畑全景(西から)
- PL.17 1. 2区2面9号畑の足跡(北から)
2. 2区2面10号畑全景(南から)
3. 2区2面11号畑全景(南から)
4. 2区2面11号畑近景(西から)
5. 2区2面12号畑全景(西から)
6. 2区2面12号畑近景(北東から)
7. 2区2面南西部水田全景(東から)
8. 2区2面北部水田全景(東から)
- PL.18 1. 2区2面南部水田全景(北から)
2. 2区2面南部水田全景(北から)
3. 2区2面水田近景(南から)
4. 2区2面水田ヌルメ(南から)
5. 2区2面水田水口(南から)
6. 2区2面水田水口(南から)
7. 2区2面水田の足跡(北から)
8. 2区2面水田の足跡(北から)
- PL.19 1. 2区2面水田の指跡(南東から)
2. 2区2面水田の指跡(北から)
3. 2区2面水田の鳥足跡(北から)
4. 2区2面水田の稲跡(北から)
5. 3区2面全景(上空から)
- PL.20 1. 3区2面西側全景(上空から)
2. 3区2面東側全景(上空から)
3. 3区2面1号溝全景(北東から)
4. 3区2面2号溝全景(北西から)
5. 3区2面3号溝全景(北西から)
6. 3区2面4号溝全景(北西から)
7. 3区2面5号溝全景(北東から)

- PL.21 1. 3区2面9(上層)・10号溝全景(北から)
2. 3区2面7号溝全景(南から)
3. 3区2面1号道路、6号溝全景(北から)
4. 3区2面1号道路近景(南から)
5. 3区2面1号道路の馬蹄痕(北東から)
6. 3区2面1号畑全景(北西から)
- PL.22 1. 3区2面1号畑全景(南東から)
2. 3区2面2号畑全景(北東から)
3. 3区2面2号畑の足跡(北東から)
4. 3区2面3号畑全景(北東から)
5. 3区2面4号畑全景(北東から)
6. 3区2面5号畑全景(南東から)
7. 3区2面5号畑近景(北東から)
8. 3区2面水田全景(北東から)
- PL.23 1. 3区2面水田全景(南東から)
2. 3区2面水田全景(南東から)
3. 3区2面水田全景(南東から)
4. 3区2面水田全景(南から)
5. 3区2面水田全景(西から)
6. 3区2面水田水口(北東から)
7. 3区2面水田の稲跡(北西から)
8. 3区2面水田の稲跡(南から)
- PL.24 1. 3区2面水田の鳥足跡(北東から)
2. 3区北東部微高地の植物痕(南から)
3. 4区2面1号溝(下層)全景(南西から)
4. 4区2面4号溝全景(北西から)
5. 4区2面3号溝全景(南西から)
6. 4区2面1号畑全景(北から)
7. 4区2面水田全景(北西から)
- PL.25 1. 5区2面全景(北西から)
2. 5区2面全景(上空から)
- PL.26 1. 5区2面1号墓地付近(上空から)
2. 5区2面4・5号溝全景(北から)
3. 5区2面6・7号溝全景(東から)
4. 5区2面1号道路全景(北から)
5. 5区2面2号畑全景(東から)
6. 5区2面2号畑の馬蹄痕(南から)
7. 5区2面3号畑全景(南から)
8. 5区2面3号畑近景(東から)
- PL.27 1. 5区2面3・4号畑西部全景(南から)
2. 5区2面4・6号畑全景(西から)
3. 5区2面5号畑全景(南から)
4. 5区2面5号畑の足跡(北から)
5. 5区2面6号畑全景(北から)
6. 5区2面7・8号畑全景(北東から)
7. 5区2面8号畑近景(南から)
8. 5区2面8・9号畑全景(北東から)
- PL.28 1. 5区2面13号畑全景(南から)
2. 5区2面東部水田全景(南から)
3. 5区2面西部水田全景(北から)
4. 5区2面水田の足跡(北から)
5. 5区2面水田の足跡(北から)
6. 5区2面1号墓地全景(As-A軽石直下)(南から)
7. 5区2面1号墓地全景(集石下層)(南から)
8. 5区2面1号墓地遺物出土状態(西から)
- PL.29 1. 5区2面1号墓集石(As-A軽石直下)(東から)
2. 5区2面1号墓集石(下層)(東から)
3. 5区2面1号墓人骨出土状態(西から)
4. 5区2面1号墓棺底板出土状態(南西から)
5. 5区2面2号墓集石(As-A軽石直下)(東から)
6. 5区2面2号墓集石(下層)(東から)
7. 5区2面2号墓人骨出土状態(西から)
8. 5区2面2号墓棺の痕跡(南から)
- PL.30 1. 5区2面3号墓集石(As-A軽石直下)(北から)
2. 5区2面3号墓集石(下層)(北から)
3. 5区2面3号墓遺物出土状態(南から)
4. 5区2面3号墓遺物出土状態(西から)
5. 5区2面3号墓人骨出土状態(西から)
6. 5区2面3号墓棺底板出土状態(北から)
7. 5区2面4号墓集石(As-A軽石直下)(北から)
8. 5区2面4号墓集石(中層)(東から)
- PL.31 1. 5区2面4号墓集石(下層)(北から)
2. 5区2面4号墓人骨出土状態(東から)
3. 5区2面4号墓棺底板出土状態(東から)
4. 5区2面5号墓集石(As-A軽石直下)(北から)
5. 5区2面5号墓集石(下層)(北から)
6. 5区2面5号墓遺物出土状態(北から)
7. 5区2面5号墓人骨出土状態(東から)
8. 5区2面6号墓集石(As-A軽石直下)(北から)
- PL.32 1. 5区2面6号墓集石(下層)(西から)
2. 5区2面6号墓人骨出土状態(西から)
3. 5区2面7号墓集石(As-A軽石直下)(東から)
4. 5区2面7号墓集石(下層)(東から)
5. 5区2面7号墓棺内に転落した礫(東から)
6. 5区2面7号墓人骨出土状態(東から)
7. 5区2面8号墓集石(As-A軽石直下)(東から)
8. 5区2面8号墓集石(下層)(西から)
- PL.33 1. 5区2面8号墓人骨出土状態(西から)
2. 5区2面9号墓集石(As-A軽石直下)(東から)
3. 5区2面9号墓集石(下層)(東から)
4. 5区2面9号墓人骨出土状態(北から)
5. 5区2面9号墓人骨・遺物出土状態(西から)
6. 5区2面10号墓集石(As-A軽石直下)(東から)
7. 5区2面10号墓集石(下層)(西から)
8. 5区2面10号墓人骨出土状態(北から)
- PL.34 1. 5区2面11号墓集石(As-A軽石直下)(東から)
2. 5区2面11号墓集石(上層)(東から)
3. 5区2面11号墓集石(下層)(南から)
4. 5区2面11号墓人骨出土状態(東から)
5. 5区2面11号墓遺物出土状態(西から)
6. 5区2面12号墓集石(As-A軽石直下)(東から)
7. 5区2面12号墓集石(下層)(東から)
8. 5区2面12号墓人骨出土状態(東から)
- PL.35 1. 5区2面12号墓遺物出土状態(北西から)
2. 5区2面12号墓遺物出土状態(南東から)
3. 5区2面13号墓集石(As-A軽石直下)(西から)
4. 5区2面13号墓集石(下層)(西から)
5. 5区2面13号墓人骨出土状態(西から)
6. 5区2面14号墓集石(As-A軽石直下)(西から)
7. 5区2面14号墓人骨出土状態(北から)
8. 5区2面14号墓棺底板出土状態(北から)
- PL.36 1. 1区2.5面1号復旧溝全景(南東から)
2. 1区2.5面1号復旧溝断面(北西から)
3. 1区2.5面2号復旧溝全景(北から)
4. 1区2.5面28号畑全景(南から)
5. 1区2.5面30号畑全景(南から)
6. 1区2.5面30号畑断面(南から)
7. 1区2.5面32号畑全景(南から)
8. 1区2.5面41・42号畑全景(北から)
- PL.37 1. 1区2.5面42号畑全景(東から)
2. 1区2.5面45号畑全景(東から)
3. 1区2.5面47号畑全景(南から)
4. 1区2.5面2号井戸全景(南西から)
5. 1区2.5面1号土坑全景(南から)
6. 1区2.5面3号土坑全景(南から)
7. 1区2.5面4号土坑全景(東から)
8. 3区2.5面6号畑全景(南東から)
- PL.38 1. 1区3面西側全景(東から)
2. 1区3面東側全景(東から)
- PL.39 1. 1区3面2号溝(下層)全景(北から)
2. 1区3面3号溝(中層)全景(北から)
3. 1区3面5・6号溝(中層)全景(南から)
4. 1区3面7号溝全景(北から)
5. 1区3面8号溝(上層)全景(南東から)
6. 1区3面64号溝(下層)全景(南から)
7. 1区3面29号畑全景(西から)
8. 1区3面33号畑全景(南東から)
- PL.40 1. 1区3面48号畑全景(西から)
2. 1区3面49号畑全景(東から)
3. 1区3面61号畑全景(西から)
4. 1区3面62号畑全景(東から)
5. 1区3面水田全景(北から)
6. 1区3面水田全景(北から)
7. 1区3面水田水口(北東から)
8. 1区3面7号溝水口(南から)

- PL.41 1. 1区3面水田の足跡(東から)
2. 1区3面水田の足跡(西から)
3. 1区3面水田の稲株跡全景(南から)
4. 1区3面水田西断面C-C'(北から)
5. 2区3面全景(東から)
- PL.42 1. 2区3面1号溝(中層)全景(北から)
2. 2区3面3号溝(下層)全景(東から)
3. 2区3面3(下層)・46～48号溝全景(西から)
4. 2区3面4・5号溝(中層)全景(北から)
5. 2区3面6号溝(下層)全景(南から)
6. 2区3面7号溝(中層)全景(北から)
7. 2区3面8・9号溝(中層)全景(西から)
8. 2区3面10号溝(中層)全景(東から)
- PL.43 1. 2区3面11号溝全景(西から)
2. 3区3面9号溝(下層)全景(南から)
3. 4区3面全景(西から)
4. 4区3面水田疑似畦畔全景(北西から)
5. 4区3面水田疑似畦畔全景(南東から)
- PL.44 1. 4区3面水田疑似畦畔全景(北東から)
2. 4区3面水田疑似畦畔断面(南東から)
3. 5区3面14号畑全景(西から)
4. 5区3面水田疑似畦畔全景(西から)
5. 1区4面東側全景(西から)
- PL.45 1. 1区4面西側全景(南西から)
2. 1区4面3号溝(下層)全景(北から)
3. 1区4面8号溝(下層)全景(南東から)
4. 1区4面9号溝全景(北から)
5. 1区4面9号溝近景(西から)
- PL.46 1. 1区4面中央付近水田疑似畦畔全景(南から)
2. 1区4面中央付近水田疑似畦畔全景(南から)
3. 1区4面南東部耕作痕群全景(西から)
4. 1区4面3号井戸全景(南西から)
5. 2区4面全景(南東から)
- PL.47 1. 2区4面東側全景(南西から)
2. 2区4面1号溝(下層)全景(南から)
3. 2区4面4・5号溝(下層)全景(南から)
4. 2区4面7号溝(下層)全景(北から)
5. 2区4面8・9号溝(下層)全景(西から)
- PL.48 1. 2区4面10号溝(下層)全景(東から)
2. 2区4面12・15号溝全景(西から)
3. 2区4面13号溝全景(西から)
4. 2区4面14号溝全景(南から)
5. 2区4面16号溝全景(東から)
6. 2区4面東側水田疑似畦畔全景(南から)
7. 2区4面水田疑似畦畔全景(北から)
8. 2区4面1号土坑全景(東から)
- PL.49 1. 3区4面全景(西から)
2. 3区4面全景(東から)
- PL.50 1. 3区4面11号溝全景(南から)
2. 4区4面5号溝全景(北西から)
3. 4区4面1号井戸全景(東から)
4. 5区4面全景(東から)
- PL.51 1. 5区4面8号溝全景(東から)
2. 5区4面9号溝(上層)全景(東から)
3. 5区4面10号溝全景(南から)
4. 5区4面9(上層)・10号溝間礫出土状況(北から)
5. 5区4面11号溝北側全景(北から)
6. 5区4面11号溝南側全景(南から)
7. 5区4面12号溝全景(北から)
8. 5区4面12号溝礫出土状況(東から)
- PL.52 1. 5区4面13号溝全景(東から)
2. 5区4面14号溝(上層)全景(南から)
3. 5区4面15号溝全景(北西から)
4. 5区4面3号土坑全景(南から)
5. 5区4面4号土坑全景(北から)
6. 5区4面5号土坑全景(北から)
7. 5区4面6号土坑全景(北から)
8. 5区4面7号土坑全景(南から)
- PL.53 1. 1区5面西側全景(東から)
2. 1区5面東側全景(西から)
- PL.54 1. 1区5面西側全景(南から)
2. 1区5面西側全景(西から)
3. 1区5面西側ピット集中部全景(西から)
4. 1区5面中央付近全景(北から)
5. 1区5面1号掘立柱建物全景(西から)
6. 1区5面13号溝全景(南から)
7. 1区5面14号溝全景(南から)
8. 1区5面15号溝全景(南から)
- PL.55 1. 1区5面16号溝全景(南西から)
2. 1区5面17号溝全景(南東から)
3. 1区5面18号溝全景(南東から)
4. 1区5面19号溝全景(南東から)
5. 1区5面20号溝全景(北から)
6. 1区5面21号溝全景(南から)
7. 1区5面22・23号溝全景(南東から)
8. 1区5面24号溝全景(南東から)
- PL.56 1. 1区5面25号溝全景(東から)
2. 1区5面29・30号溝、46号畑全景(西から)
3. 1区5面29号溝、46号畑全景(東から)
4. 1区5面31～37号溝全景(南から)
5. 1区5面33～37号溝全景(北から)
6. 1区5面38・40号溝全景(南から)
7. 1区5面39号溝全景(南から)
- PL.57 1. 1区5面41号溝全景(南から)
2. 1区5面42号溝全景(南から)
3. 1区5面40号畑全景(東から)
4. 1区5面中央付近水田・耕作痕全景(北から)
5. 1区5面東側水田・耕作痕全景(南東から)
- PL.58 1. 1区5面西側水田・耕作痕全景(南から)
2. 1区5面東側水田・耕作痕全景(南から)
3. 1区5面中央付近水田・耕作痕近景(南から)
4. 1区5面東側水田・耕作痕全景(北から)
5. 1区5面7～9・11・13・24号土坑全景(東から)
6. 1区5面14・15・26・31～34号土坑全景(南から)
7. 1区5面15・23・24号土坑全景(東から)
- PL.59 1. 1区5面10号土坑全景(西から)
2. 1区5面16号土坑全景(南から)
3. 1区5面17号土坑全景(東から)
4. 1区5面18・19号土坑全景(東から)
5. 1区5面20号土坑全景(東から)
6. 1区5面21号土坑全景(南から)
7. 1区5面22号土坑全景(南から)
8. 1区5面25号土坑全景(東から)
9. 1区5面27号土坑全景(南から)
10. 1区5面28号土坑全景(南から)
11. 1区5面29・30号土坑全景(南から)
12. 1区5面35・36号土坑全景(東から)
13. 1区5面37号土坑全景(南から)
14. 1区5面38号土坑全景(南西から)
15. 1区5面39～42号土坑全景(南から)
- PL.60 1. 1区5面43号土坑全景(東から)
2. 1区5面44号土坑全景(北西から)
3. 1区5面45号土坑全景(南から)
4. 1区5面62号土坑全景(南から)
5. 1区5面63号土坑全景(東から)
6. 1区5面64号土坑全景(南から)
7. 1区5面9・10号ピット全景(南から)
8. 1区5面54号ピット全景(西から)
9. 1区5面48・71・72・77号ピット全景(東から)
10. 1区5面216号ピット全景(東から)
11. 1区5面218号ピット全景(西から)
12. 1区5面220号ピット全景(北から)
13. 1区5面221号ピット全景(南から)
14. 1区5面遺物(遺構外3)出土状況(南西から)
- PL.61 1. 2区5面全景(東から)
2. 2区5面全景(西から)
- PL.62 1. 2区5面2号溝全景(南から)
2. 2区5面2号溝礫出土状態(西から)
3. 2区5面17号溝全景(西から)
4. 2区5面18号溝全景(南から)
5. 2区5面19号溝全景(南から)
6. 2区5面31号溝全景(南から)
7. 2区5面西側水田・耕作痕全景(南から)
8. 2区5面西側水田・耕作痕全景(南東から)

- PL.63 1. 2区5面中央付近水田・耕作痕全景(南から)
2. 2区5面東側水田・耕作痕全景(南から)
3. 2区5面西側水田・耕作痕近景(西から)
4. 2区5面西側水田・耕作痕近景(北から)
5. 2区5面中央付近水田・耕作痕近景(北から)
6. 2区5面2号土坑全景(北から)
7. 2区5面3号土坑全景(北から)
8. 2区5面4号土坑全景(南から)
- PL.64 1. 3区5面全景(東から)
2. 3区5面12号溝全景(南から)
3. 3区5面13号溝全景(南東から)
4. 3区5面32号溝全景(北東から)
5. 3区5面7号畑全景(南西から)
- PL.65 1. 3区5面8号畑全景(南東から)
2. 3区5面9号畑全景(南西から)
3. 3区5面中央付近水田疑似畦畔全景(南から)
4. 3区5面東側水田疑似畦畔全景(南から)
5. 4区5面8号溝全景(南から)
6. 4区5面9・11号溝全景(南東から)
7. 4区5面12号溝全景(北東から)
8. 4区5面水田疑似畦畔全景(北西から)
- PL.66 1. 4区5面水田疑似畦畔全景(南西から)
2. 5区5面全景(北から)
3. 5区5面16号溝全景(北から)
4. 5区5面17号溝全景(南から)
5. 1区6面西側全景(東から)
- PL.67 1. 1区6面東側全景(南東から)
2. 1区6面東側全景(西から)
- PL.68 1. 1区6面西側全景(北東から)
2. 1区6面11号掘立柱建物全景(南から)
3. 1区6面26号溝全景(東から)
4. 1区6面27号溝全景(東から)
5. 1区6面43・44号溝全景(北から)
6. 1区6面45～52号溝全景(南から)
7. 1区6面45～52号溝全景(南から)
8. 1区6面53号溝全景(西から)
- PL.69 1. 1区6面46号溝全景(南から)
2. 1区6面47号溝全景(西から)
3. 1区6面48号溝全景(南から)
4. 1区6面49号溝全景(南東から)
- PL.70 1. 1区6面52号溝全景(南から)
2. 1区6面西側水田疑似畦畔全景(北から)
3. 1区6面中央付近水田・耕作痕全景(北東から)
4. 1区6面中央付近水田・耕作痕近景(南から)
5. 1区6面46・47号土坑全景(南から)
6. 1区6面48号土坑全景(南から)
7. 1区6面70号土坑全景(北東から)
8. 1区6面81号土坑全景(南から)
- PL.71 1. 1区6面82号土坑全景(南東から)
2. 1区6面82号土坑人骨・遺物出土状態(南から)
3. 1区6面83号土坑人骨出土状態(南西から)
4. 1区6面83号土坑全景(南西から)
5. 1区6面81・82・87～89・91・151・154号ピット全景(南から)
6. 1区6面104～117・142～144号ピット全景(東から)
7. 1区6面98～114号ピット全景(北から)
8. 1区6面129～134号ピット全景(南から)
9. 1区6面五輪塔出土状況(北から)
- PL.72 1. 3区6面全景(東から)
2. 3区6面14・15号溝全景(西から)
3. 3区6面16号溝全景(北西から)
4. 3区6面17号溝全景(西から)
5. 3区6面18号溝全景(北西から)
- PL.73 1. 3区6面19号溝全景(北西から)
2. 3区6面20号溝全景(北西から)
3. 3区6面21号溝全景(北東から)
4. 3区6面22・24号溝全景(北西から)
5. 3区6面23号溝全景(北西から)
6. 3区6面25号溝全景(北西から)
7. 3区6面26号溝全景(北から)
8. 3区6面27号溝全景(北西から)
- PL.74 1. 3区6面28号溝全景(北西から)
2. 3区6面29号溝全景(北西から)
3. 3区6面30号溝全景(南東から)
4. 3区6面31号溝全景(北西から)
5. 3区6面33号溝全景(西から)
6. 3区6面東側水田・耕作痕全景(南西から)
7. 3区6面中央付近水田・耕作痕(南から)
- PL.75 1. 3区6面中央付近水田・耕作痕全景(南東から)
2. 3区6面1号井戸全景(南西から)
3. 4区6面全景(上空から)
4. 4区6面東側全景(上空から)
5. 4区6面中央付近全景(上空から)
- PL.76 1. 4区6面中央付近全景(上空から)
2. 4区6面西側全景(上空から)
3. 4区6面6号溝全景(南東から)
4. 4区6面7・56・57号溝全景(北西から)
5. 4区6面10号溝全景(北西から)
6. 4区6面13号溝全景(南から)
7. 4区6面14・32号溝全景(南東から)
- PL.77 1. 4区6面15号溝全景(北西から)
2. 4区6面16号溝全景(北西から)
3. 4区6面17号溝全景(北西から)
4. 4区6面18・17・33・34号溝全景(北東から)
5. 4区6面18・20号溝全景(南西から)
6. 4区6面19・20・22・23・36・37号溝全景(北東から)
7. 4区6面21号溝全景(北東から)
8. 4区6面23・27号溝全景(南東から)
- PL.78 1. 4区6面24号溝全景(西から)
2. 4区6面25号溝全景(南東から)
3. 4区6面26・28～30・80号溝全景(北東から)
4. 4区6面29号溝全景(南西から)
5. 4区6面31号溝全景(南東から)
6. 4区6面33号溝全景(北東から)
7. 4区6面34号溝全景(南西から)
8. 4区6面36・37号溝全景(北西から)
- PL.79 1. 4区6面38号溝全景(南西から)
2. 4区6面39号溝全景(南東から)
3. 4区6面40号溝全景(南東から)
4. 4区6面41・42号溝全景(南西から)
5. 4区6面43・47～49・52～55号溝全景(南東から)
6. 4区6面45・46号溝全景(南東から)
- PL.80 1. 4区6面47～49号溝全景(南西から)
2. 4区6面50号溝全景(南西から)
3. 4区6面51号溝全景(北東から)
4. 4区6面52号溝全景(南東から)
5. 4区6面53号溝全景(南東から)
6. 4区6面54号溝全景(東から)
7. 4区6面55号溝全景(南から)
- PL.81 1. 4区6面58号溝全景(南西から)
2. 4区6面64号溝全景(東から)
3. 4区6面57号土坑全景(南から)
4. 4区6面1号ピット全景(南から)
5. 1区7面西側全景(北東から)
- PL.82 1. 1区7面西側全景(南から)
2. 1区7面2号掘立柱建物全景(北から)
3. 1区7面3号掘立柱建物全景(東から)
4. 1区7面4号掘立柱建物全景(南から)
5. 1区7面5～10号掘立柱建物全景(西から)
- PL.83 1. 1区7面5～10号掘立柱建物全景(南から)
2. 1区7面28号溝全景(東から)
3. 1区7面西側水田・耕作痕全景(西から)
4. 1区7面西側水田・耕作痕全景(東から)
5. 1区7面東側水田・耕作痕全景(東から)
6. 1区7面中央付近水田・耕作痕全景(南から)
7. 1区7面東側水田・耕作痕全景(南から)
8. 1区7面中央付近耕作痕近景(南から)
- PL.84 1. 1区7面東側水田・耕作痕全景(南から)
2. 1区7面南東部水田・耕作痕全景(南から)
3. 1区7面南東部水田・耕作痕近景(南から)
4. 1区7面1号井戸全景(南東から)
5. 1区7面49号土坑全景(南から)
6. 1区7面50号土坑全景(南から)

- PL.85 1. 1区7面51号土坑全景(南から)
2. 1区7面52号土坑全景(南から)
3. 1区7面53・54号土坑全景(南から)
4. 1区7面55号土坑全景(南東から)
5. 1区7面56号土坑全景(南から)
6. 1区7面57号土坑全景(南から)
7. 1区7面58号土坑全景(南西から)
8. 1区7面65号土坑全景(南から)
9. 1区7面66・67号土坑全景(西から)
10. 1区7面68号土坑全景(西から)
11. 1区7面69号土坑全景(南から)
12. 1区7面84号土坑全景(南から)
13. 1区7面85号土坑全景(南から)
14. 1区7面177～181号ピット全景(東から)
- PL.86 1. 2区7面全景(東から)
2. 2区7面全景(西から)
- PL.87 1. 2区西側7面全景(南から)
2. 2区7面20・21号溝全景(西から)
3. 2区7面22号溝全景(南から)
4. 2区7面23・24号溝全景(北東から)
5. 2区7面25号溝全景(北から)
- PL.88 1. 2区7面26・27号溝全景(北から)
2. 2区7面28～30号溝全景(南から)
3. 2区7面29号溝全景(東から)
4. 2区7面32・33号溝全景(南から)
5. 2区7面44号溝全景(南西から)
6. 2区7面西側水田・耕作痕全景(南から)
7. 2区7面西側水田・耕作痕全景(南から)
8. 2区7面西側水田・耕作痕全景(南から)
- PL.89 1. 2区7面西側水田・耕作痕近景(西から)
2. 2区7面西側水田・耕作痕近景(西から)
3. 2区7面6号土坑全景(北東から)
4. 2区7面8号土坑全景(南から)
5. 2区7面9号土坑全景(東から)
6. 2区7面10号土坑全景(南から)
7. 2区7面11号土坑全景(南から)
8. 2区7面12号土坑全景(東から)
9. 2区7面13号土坑全景(南から)
10. 2区7面14号土坑全景(南から)
11. 2区7面15号土坑全景(北から)
12. 2区7面16号土坑全景(西から)
13. 2区7面2号ピット全景(南から)
14. 2区7面3号ピット全景(南から)
15. 2区7面4号ピット全景(東から)
- PL.90 1. 3区7面全景(東から)
2. 3区7面東側全景(東から)
3. 3区7面34号溝全景(北から)
4. 3区7面35・36号溝全景(北から)
5. 3区7面37号溝全景(北から)
6. 3区7面38・39号溝全景(南東から)
7. 3区7面40・41号溝全景(南西から)
- PL.91 1. 3区7面42号溝全景(北東から)
2. 3区7面中央付近水田・耕作痕全景(南から)
3. 3区7面中央付近水田・耕作痕全景(南西から)
4. 3区7面東側水田・耕作痕全景(南西から)
5. 3区7面東側水田・耕作痕全景(南西から)
- PL.92 1. 3区7面2号土坑全景(西から)
2. 3区7面3号土坑全景(北西から)
3. 3区7面4号土坑灰・人骨出土状態(東から)
4. 3区7面4号土坑人骨出土状態(東から)
5. 3区7面5号土坑灰・人骨出土状態(西から)
6. 3区7面5号土坑全景(西から)
7. 3区7面6号土坑全景(南から)
8. 3区7面7号土坑全景(西から)
- PL.93 1. 4区7面全景(上空から)
2. 4区7面東側全景(上空から)
3. 4区7面中央付近全景(上空から)
4. 4区7面西側全景(上空から)
5. 4区7面59～62号溝全景(北から)
- PL.94 1. 4区7面59・69号溝全景(北から)
2. 4区7面60号溝全景(南から)
3. 4区7面61号溝全景(南から)
4. 4区7面62号溝全景(南から)
- PL.95 1. 4区7面63号溝全景(北東から)
2. 4区7面65号溝全景(南から)
3. 4区7面66号溝全景(東から)
4. 4区7面67号溝全景(東から)
5. 4区7面68号溝全景(南西から)
6. 4区7面69号溝全景(北から)
7. 4区7面69・72号溝全景(北東から)
- PL.96 1. 4区7面69号溝工具痕(南西から)
2. 4区7面69・70号溝全景(南西から)
3. 4区7面74・75号溝全景(南西から)
4. 4区7面76号溝全景(南から)
5. 4区7面北西部水田・耕作痕全景(東から)
6. 4区7面中央付近水田・耕作痕全景(南東から)
- PL.97 1. 4区7面西側水田・耕作痕近景(東から)
2. 4区7面58号土坑全景(西から)
3. 4区7面59号土坑全景(南から)
4. 5区7面全景(東から)
- PL.98 1. 5区7面東側全景(北西から)
2. 5区7面西側全景(北西から)
- PL.99 1. 5区7面9号溝(下層)東側全景(南西から)
2. 5区7面9号溝(下層)西側全景(西から)
3. 5区7面14号溝(下層)全景(北西から)
4. 5区7面18・19号溝全景(北から)
5. 5区7面20号溝全景(北から)
6. 5区7面21号溝全景(北から)
7. 5区7面22号溝全景(北西から)
8. 5区7面23号溝全景(北から)
- PL.100 1. 5区7面24号溝全景(北から)
2. 5区7面25号溝全景(北から)
3. 5区7面26号溝全景(北西から)
4. 5区7面27号溝全景(北西から)
5. 5区7面28号溝全景(北西から)
6. 5区7面29号溝全景(南東から)
7. 5区7面31号溝全景(北から)
8. 5区7面32号溝全景(南から)
- PL.101 1. 5区7面中央付近水田・耕作痕全景(北西から)
2. 5区7面西側水田・耕作痕全景(北から)
3. 5区7面東側水田・耕作痕全景(東から)
4. 5区7面8号土坑全景(南から)
5. 5区7面9号土坑全景(南東から)
6. 5区7面10号土坑全景(北西から)
7. 5区7面11号土坑全景(南から)
8. 5区7面12号土坑全景(南西から)
- PL.102 1. 1区8面西側全景(東から)
2. 1区8面西側全景(西から)
- PL.103 1. 1区8面東側全景(西から)
2. 1区8面東側全景(南東から)
- PL.104 1. 1区8面1号住居全景(南から)
2. 1区8面1号住居カマド(南から)
3. 1区8面1号住居貯蔵穴(南から)
4. 1区8面2号住居全景(西から)
5. 1区8面2号住居遺物出土状態(西から)
6. 1区8面2号住居貯蔵穴(西から)
7. 1区8面2号住居掘り方(西から)
8. 1区8面3号住居全景(北から)
- PL.105 1. 1区8面4号住居全景(西から)
2. 1区8面4号住居カマド遺物出土状態(西から)
3. 1区8面4号住居掘り方(南西から)
4. 1区8面5号住居全景(西から)
5. 1区8面5号住居カマド(西から)
6. 1区8面6号住居全景(西から)
7. 1区8面6号住居カマド(西から)
8. 1区8面6号住居周溝(西から)
- PL.106 1. 1区8面6号住居遺物出土状態(北から)
2. 1区8面7号住居全景(南西から)
3. 1区8面7号住居カマド(南西から)
4. 1区8面8号住居掘り方(南西から)
5. 1区8面9号住居全景(南西から)
6. 1区8面9号住居カマド(南西から)
7. 1区8面9号住居掘り方(南西から)
8. 1区8面10号住居全景(西から)

- PL.107 1. 1区8面10号住居カマド(西から)
2. 1区8面10号住居遺物出土状態(西から)
3. 1区8面11号住居全景(西から)
4. 1区8面11号住居カマド(西から)
5. 1区8面12号住居全景(西から)
6. 1区8面13号住居全景(西から)
7. 1区8面13号住居遺物出土状態(南から)
8. 1区8面13号住居カマド(西から)
- PL.108 1. 1区8面14号住居全景(東から)
2. 1区8面14号住居2号カマド(東から)
3. 1区8面14号住居貯蔵穴(東から)
4. 1区8面15号住居全景(西から)
5. 1区8面15号住居カマド(西から)
6. 1区8面16号住居全景(西から)
7. 1区8面16号住居カマド(西から)
8. 1区8面17号住居全景(西から)
- PL.109 1. 1区8面17号住居カマド(西から)
2. 1区8面17号住居掘り方(西から)
3. 1区8面18号住居全景(南西から)
4. 1区8面18号住居カマド(南西から)
5. 1区8面19号住居全景(東から)
6. 1区8面19号住居遺物出土状態(北から)
7. 1区8面20号住居全景(西から)
8. 1区8面20号住居1号カマド全景(東から)
- PL.110 1. 1区8面20号住居2号カマド全景(西から)
2. 1区8面21号住居全景(東から)
3. 1区8面21号住居カマド全景(東から)
4. 1区8面22号住居全景(西から)
5. 1区8面22号住居カマド(西から)
6. 1区8面23号住居全景(南から)
7. 1区8面23号住居カマド(南から)
8. 1区8面24号住居全景(東から)
- PL.111 1. 1区8面24号住居カマド(東から)
2. 1区8面25号住居全景(北西から)
3. 1区8面25号住居カマド(北西から)
4. 1区8面26号住居全景(北西から)
5. 1区8面26号住居カマド(西から)
6. 1区8面27号住居全景(北から)
7. 1区8面27号住居カマド(北から)
8. 1区8面28号住居全景(西から)
- PL.112 1. 1区8面28号住居カマド(西から)
2. 1区8面29号住居全景(北から)
3. 1区8面29号住居カマド(北から)
4. 1区8面30号住居全景(西から)
5. 1区8面30号住居カマド(西から)
6. 1区8面31号住居全景(西から)
7. 1区8面31号住居カマド(西から)
8. 1区8面32号住居全景(北東から)
- PL.113 1. 1区8面32号住居カマド(北東から)
2. 1区8面32号住居遺物出土状態(北東から)
3. 1区8面33号住居全景(西から)
4. 1区8面33号住居カマド(西から)
5. 1区8面34号住居全景(西から)
6. 1区8面35号住居全景(東から)
7. 1区8面36号住居全景(南から)
8. 1区8面36号住居カマド(西から)
- PL.114 1. 1区8面37号住居全景(東から)
2. 1区8面38号住居全景(西から)
3. 1区8面38号住居カマド(西から)
4. 1区8面39号住居全景(北西から)
5. 1区8面39号住居床下土坑遺物出土状態(西から)
6. 1区8面39号住居1号土坑遺物出土状態(南から)
7. 1区8面40号住居全景(西から)
8. 1区8面40号住居カマド(西から)
- PL.115 1. 1区8面41号住居カマド(東から)
2. 1区8面41号住居カマド掘り方(東から)
3. 1区8面42号住居カマド(西から)
4. 1区8面42号住居カマド掘り方(西から)
5. 1区8面43号住居全景(西から)
6. 1区8面43号住居カマド(西から)
7. 1区8面44号住居全景(東から)
8. 1区8面45号住居カマド(西から)
- PL.116 1. 1区8面45号住居カマド掘り方(西から)
2. 1区8面46号住居カマド(西から)
3. 1区8面46号住居カマド掘り方断面(南から)
4. 1区8面47号住居全景(西から)
5. 1区8面47号住居カマド(西から)
6. 1区8面48号住居全景(西から)
7. 1区8面48号住居カマド(西から)
8. 1区8面49号住居全景(南から)
- PL.117 1. 1区8面49号住居カマド(南から)
2. 1区8面50号住居全景(北西から)
3. 1区8面51号住居西側全景(東から)
4. 1区8面51号住居東側全景(西から)
5. 1区8面51号住居1~4号カマド(西から)
6. 1区8面51号住居1・3・4号カマド(西から)
7. 1区8面52・65号住居全景(南西から)
8. 1区8面53号住居全景(西から)
- PL.118 1. 1区8面53号住居カマド(西から)
2. 1区8面54号住居全景(北西から)
3. 1区8面54号住居カマド(北西から)
4. 1区8面55号住居全景(北東から)
5. 1区8面55号住居カマド(北から)
6. 1区8面56号住居カマド(西から)
7. 1区8面57号住居全景(南から)
8. 1区8面57号住居カマド(北西から)
- PL.119 1. 1区8面57号住居遺物出土状況(西から)
2. 1区8面58号住居カマド(北から)
3. 1区8面59号住居全景(北西から)
4. 1区8面59号住居カマド(北西から)
5. 1区8面60号住居全景(北西から)
6. 1区8面60号住居カマド(北西から)
7. 1区8面61号住居全景(西から)
8. 1区8面61号住居カマド(西から)
- PL.120 1. 1区8面62号住居全景(西から)
2. 1区8面62号住居カマド(西から)
3. 1区8面62号住居遺物出土状態(西から)
4. 1区8面63号住居全景(北西から)
5. 1区8面63号住居粘土出土状態(東から)
6. 1区8面64号住居全景(西から)
7. 1区8面64号住居カマド掘り方断面(西から)
8. 1区8面66号住居全景(北から)
- PL.121 1. 1区8面66号住居カマド(北西から)
2. 1区8面66号住居遺物出土状態(西から)
3. 1区8面67号住居全景(西から)
4. 1区8面67号住居カマド・貯蔵穴(西から)
5. 1区8面67号住居遺物出土状態(南から)
6. 1区8面67号住居カマド遺物出土状態(南から)
7. 1区8面68号住居全景(北西から)
8. 1区8面68号住居土坑1全景(西から)
- PL.122 1. 1区8面69号住居全景(北東から)
2. 1区8面70号住居全景(南から)
3. 1区8面70号住居カマド(西から)
4. 1区8面70号住居遺物出土状態(南西から)
5. 1区8面71号住居全景(西から)
6. 1区8面71号住居カマド(西から)
7. 1区8面71号住居貯蔵穴(西から)
8. 1区8面72号住居全景(西から)
- PL.123 1. 1区8面73号住居全景(西から)
2. 1区8面73号住居カマド(西から)
3. 1区8面74号住居全景(西から)
4. 1区8面74号住居カマド(西から)
5. 1区8面75号住居全景(西から)
6. 1区8面75号住居カマド(西から)
7. 1区8面75号住居遺物出土状態(南から)
8. 1区8面76号住居全景(西から)
- PL.124 1. 1区8面76号住居カマド(西から)
2. 1区8面77号住居全景(西から)
3. 1区8面78号住居全景(西から)
4. 1区8面78号住居カマド掘り方断面(西から)
5. 1区8面79号住居全景(南から)
6. 1区8面80号住居全景(東から)
7. 1区8面80号住居カマド(東から)
8. 1区8面81号住居全景(南から)

- PL.125 1. 1区8面81号住居カマド(西から)
2. 1区8面82号住居全景(東から)
3. 1区8面83号住居全景(北東から)
4. 1区8面83号住居カマド(北東から)
5. 1区8面84号住居全景(西から)
6. 1区8面84号住居カマド(西から)
7. 1区8面85号住居全景(南から)
8. 1区8面85号住居カマド(南から)
- PL.126 1. 1区8面86号住居全景(南西から)
2. 1区8面86号住居カマド(南西から)
3. 1区8面87号住居全景(南西から)
4. 1区8面87号住居カマド(南西から)
5. 1区8面88号住居全景(西から)
6. 1区8面88号住居カマド(西から)
7. 1区8面88号住居遺物出土状態(南から)
8. 1区8面88号住居貯蔵穴(西から)
- PL.127 1. 1区8面88号住居床下土坑4全景(北から)
2. 1区8面89号住居全景(東から)
3. 1区8面89号住居カマド(東から)
4. 1区8面90号住居全景(南西から)
5. 1区8面90号住居カマド(南西から)
6. 1区8面91号住居全景(西から)
7. 1区8面91号住居カマド遺物出土状況(西から)
8. 1区8面91号住居カマド全景(西から)
- PL.128 1. 1区8面92号住居全景(南東から)
2. 1区8面92号住居カマド(南西から)
3. 1区8面93号住居全景(東から)
4. 1区8面93号住居カマド(東から)
5. 1区8面93号住居貯蔵穴遺物出土状態(東から)
6. 1区8面94号住居全景(東から)
7. 1区8面94号住居カマド(東から)
8. 1区8面95号住居全景(西から)
- PL.129 1. 1区8面95号住居カマド(西から)
2. 1区8面96号住居全景(西から)
3. 1区8面96号住居カマド遺物出土状態(西から)
4. 1区8面96号住居カマド(西から)
5. 1区8面96号住居カマド支脚(西から)
6. 1区8面97号住居全景(西から)
7. 1区8面97号住居カマド(西から)
8. 1区8面98号住居全景(西から)
- PL.130 1. 1区8面98号住居カマド(西から)
2. 1区8面99号住居全景(西から)
3. 1区8面99号住居カマド(西から)
4. 1区8面99号住居遺物出土状態(西から)
5. 1区8面100号住居全景(西から)
6. 1区8面100号住居カマド(西から)
7. 1区8面100号住居貯蔵穴(西から)
8. 1区8面100号住居掘り方(西から)
- PL.131 1. 1区8面101号住居全景(北から)
2. 1区8面102号住居全景(南から)
3. 1区8面103号住居全景(西から)
4. 1区8面103号住居カマド・貯蔵穴(西から)
5. 1区8面104号住居全景(西から)
6. 1区8面104号住居カマド(西から)
7. 1区8面104号住居カマド袖の石組(北から)
8. 1区8面105号住居全景(南から)
- PL.132 1. 1区8面105号住居カマド(南から)
2. 1区8面105号住居貯蔵穴(南から)
3. 1区8面106号住居全景(北西から)
4. 1区8面106号住居カマド(北西から)
5. 1区8面107号住居全景(西から)
6. 1区8面107号住居カマド(北西から)
7. 1区8面108号住居全景(東から)
8. 1区8面108号住居カマド(東から)
- PL.133 1. 1区8面109号住居全景(南西から)
2. 1区8面110号住居全景(北西から)
3. 1区8面110号住居カマド(北西から)
4. 1区8面111号住居全景(東から)
5. 1区8面111号住居カマド(東から)
6. 1区8面112号住居全景(北西から)
7. 1区8面112号住居カマド(北西から)
8. 1区8面113号住居全景(西から)
- PL.134 1. 1区8面113号住居カマド(北西から)
2. 1区8面114号住居全景(東から)
3. 1区8面115号住居カマド(東から)
4. 1区8面115号住居カマド掘り方(東から)
5. 1区8面116号住居全景(西から)
6. 1区8面116号住居カマド(西から)
7. 1区8面116号住居炭化物出土状態(西から)
8. 1区8面117号住居全景(西から)
- PL.135 1. 1区8面117号住居カマド(西から)
2. 1区8面118号住居全景(西から)
3. 1区8面118号住居遺物出土状況(西から)
4. 1区8面118号住居カマド(西から)
5. 1区8面119号住居全景(西から)
6. 1区8面119号住居カマド断面(東から)
7. 1区8面120号住居カマド(西から)
8. 1区8面120号住居貯蔵穴(西から)
- PL.136 1. 1区8面121号住居全景(東から)
2. 1区8面122号住居全景(東から)
3. 1区8面123号住居全景(東から)
4. 1区8面124号住居全景(西から)
5. 1区8面124号住居2号カマド(西から)
6. 1区8面125号住居全景(西から)
7. 1区8面125号住居カマド(西から)
8. 1区8面126号住居全景(西から)
- PL.137 1. 1区8面126号住居カマド(西から)
2. 1区8面127号住居全景(南から)
3. 1区8面128号住居全景(北から)
4. 1区8面128号住居カマド(西から)
5. 1区8面128号住居貯蔵穴(西から)
6. 1区8面129号住居全景(西から)
7. 1区8面129号住居カマド(西から)
8. 1区8面130号住居全景(北から)
- PL.138 1. 1区8面130号住居カマド(北から)
2. 1区8面131号住居全景(西から)
3. 1区8面131号住居カマド遺物出土状態(西から)
4. 1区8面131号住居カマド(西から)
5. 1区8面132号住居全景(西から)
6. 1区8面132号住居カマド(西から)
7. 1区8面133号住居全景(西から)
8. 1区8面133号住居カマド(西から)
- PL.139 1. 1区8面134号住居全景(北から)
2. 1区8面134号住居カマド(北から)
3. 1区8面135号住居全景(南から)
4. 1区8面135号住居カマド(南から)
5. 1区8面135号住居遺物出土状態(南から)
6. 1区8面136号住居全景(南から)
7. 1区8面137号住居全景(東から)
8. 1区8面137号住居床下土坑1全景(東から)
- PL.140 1. 1区8面138号住居掘り方(西から)
2. 1区8面138号住居カマド掘り方(西から)
3. 1区8面139号住居全景(北から)
4. 1区8面139号住居周溝(東から)
5. 1区8面140号住居全景(南から)
6. 1区8面141号住居全景(西から)
7. 1区8面141号住居カマド遺物出土状態(西から)
8. 1区8面141号住居カマド(西から)
- PL.141 1. 1区8面141号住居P1遺物出土状態(西から)
2. 1区8面142号住居全景(南から)
3. 1区8面142号住居カマド(南から)
4. 1区8面143号住居全景(南から)
5. 1区8面144号住居全景(北から)
6. 1区8面144号住居カマド(西から)
7. 1区8面145号住居全景(西から)
8. 1区8面145号住居カマド(西から)
- PL.142 1. 1区8面145号住居貯蔵穴(北から)
2. 1区8面146号住居全景(西から)
3. 1区8面146号住居カマド(西から)
4. 1区8面146号住居遺物出土状態(北から)
5. 1区8面147号住居全景(東から)
6. 1区8面148号住居全景(南東から)
7. 1区8面149号住居全景(西から)
8. 1区8面149号住居カマド遺物出土状態(西から)

- PL.143 1. 1区8面149号住居カマド(西から)
2. 1区8面149号住居貯蔵穴(西から)
3. 1区8面150号住居全景(西から)
4. 1区8面151号住居全景(西から)
5. 1区8面151号住居カマド(西から)
6. 1区8面152号住居全景(南から)
7. 1区8面153号住居全景(西から)
8. 1区8面153号住居カマド(西から)
- PL.144 1. 1区8面153号住居貯蔵穴(西から)
2. 1区8面153号住居床下土坑1 炭化材出土状況(南から)
3. 1区8面154号住居全景(南から)
4. 1区8面154号住居カマド全景(南から)
5. 1区8面155号住居全景(西から)
6. 1区8面156号住居全景(東から)
7. 1区8面157号住居全景(西から)
8. 1区8面157号住居カマド(西から)
- PL.145 1. 1区8面158号住居全景(西から)
2. 1区8面158号住居カマド(西から)
3. 1区8面159号住居全景(西から)
4. 1区8面159号住居遺物出土状態(西から)
5. 1区8面159号住居1号カマド全景(西から)
6. 1区8面159号住居2号カマド全景(西から)
7. 1区8面159号住居遺物出土状態(北から)
8. 1区8面159号住居P2遺物出土状態(西から)
- PL.146 1. 1区8面159号住居遺物出土状態近景(東から)
2. 1区8面159号住居遺物出土状態近景(南から)
3. 1区8面160号住居全景(西から)
4. 1区8面160号住居遺物出土状態(北から)
5. 1区8面161号住居全景(西から)
6. 1区8面161号住居カマド遺物出土状況(西から)
7. 1区8面161号住居カマド全景(西から)
8. 1区8面162号住居全景(西から)
- PL.147 1. 1区8面162号住居カマド(西から)
2. 1区8面163号住居全景(西から)
3. 1区8面163号住居カマド(西から)
4. 1区8面164号住居全景(西から)
5. 1区8面164号住居カマド(西から)
6. 1区8面165号住居全景(北から)
7. 1区8面166号住居全景(西から)
8. 1区8面166号住居カマド(西から)
- PL.148 1. 1区8面167号住居全景(南から)
2. 1区8面167号住居カマド(南から)
3. 1区8面168号住居全景(西から)
4. 1区8面168号住居カマド(西から)
5. 1区8面168号住居貯蔵穴遺物出土状態(西から)
6. 1区8面168号住居遺物出土状態近景(北から)
7. 1区8面169号住居全景(南から)
8. 1区8面169号住居カマド(南から)
- PL.149 1. 1区8面170号住居全景(南から)
2. 1区8面170号住居カマド(南から)
3. 1区8面171号住居全景(北から)
4. 1区8面171号住居カマド(北から)
5. 1区8面172号住居全景(北から)
6. 1区8面173号住居全景(北から)
7. 1区8面174号住居全景(西から)
8. 1区8面174号住居カマド(西から)
- PL.150 1. 1区8面175号住居全景(北から)
2. 1区8面176号住居全景(西から)
3. 1区8面177号住居全景(北から)
4. 1区8面178号住居全景(南から)
5. 1区8面178号住居カマド(南から)
6. 1区8面1号竪穴状遺構全景(南西から)
7. 1区8面3号竪穴状遺構全景(南西から)
8. 1区8面4号竪穴状遺構全景(西から)
- PL.151 1. 1区8面4号竪穴状遺構遺物出土状態(西から)
2. 1区8面5号竪穴状遺構全景(北から)
3. 1区8面5号竪穴状遺構遺物出土状態(北から)
4. 1区8面6号竪穴状遺構全景(東から)
5. 1区8面7号竪穴状遺構全景(南から)
6. 1区8面54号溝全景(北から)
7. 1区8面54号溝遺物出土状態(東から)
8. 1区8面54号溝遺物出土状態(南東から)
- PL.152 1. 1区8面54号溝遺物出土状態(西から)
2. 1区8面56号溝全景(西から)
3. 1区8面55号溝全景(西から)
4. 1区8面57号溝全景(北から)
5. 1区8面60号土坑全景(南西から)
6. 1区8面72号土坑全景(東から)
7. 1区8面73号土坑全景(北から)
- PL.153 1. 1区8面61号土坑全景(東から)
2. 1区8面71号土坑全景(南から)
3. 1区8面75号土坑全景(東から)
4. 1区8面76号土坑全景(北西から)
5. 1区8面77号土坑全景(北西から)
6. 1区8面78号土坑全景(北から)
7. 1区8面79号土坑全景(北から)
8. 1区8面80号土坑全景(東から)
9. 1区8面86号土坑全景(南から)
10. 1区8面87号土坑全景(北東から)
11. 1区8面87号土坑遺物出土状態(東から)
12. 1区8面88号土坑全景(北から)
13. 1区8面89・90号土坑全景(北から)
14. 1区8面205～213号ピット全景(北西から)
15. 1区8面303～305号ピット全景(南から)
- PL.154 1. 2区8面全景(東から)
2. 2区8面西側全景(南から)
- PL.155 1. 2区8面34・35・37号溝全景(西から)
2. 2区8面36・38号溝全景(南から)
3. 2区8面37号溝全景(北から)
4. 2区8面38号溝全景(北から)
5. 2区8面39・40号溝全景(南から)
6. 2区8面41号溝全景(北西から)
7. 2区8面42号溝全景(南から)
8. 2区8面43号溝全景(東から)
- PL.156 1. 2区8面1号遺物集中全景(西から)
2. 2区8面1号遺物集中近景(西から)
3. 2区8面2号遺物集中全景(北から)
4. 2区8面2号遺物集中近景(北から)
5. 2区8面2号遺物集中馬歯出土状態(西から)
6. 2区8面17号土坑全景(南から)
7. 2区8面18号土坑全景(南から)
8. 2区8面19号土坑全景(西から)
- PL.157 1. 4区8面77号溝全景(南から)
2. 4区8面2・4・7号畑全景(北西から)
3. 4区8面2・4号畑全景(北東から)
4. 4区8面2・4～7号畑全景(北西から)
5. 4区8面4～6号畑全景(北東から)
6. 4区8面9～11号畑全景(北西から)
- PL.158 1. 4区8面12号畑全景(南東から)
2. 4区8面3・13～17号畑全景(南東から)
3. 4区8面18・19号畑全景(南東から)
4. 4区8面20号畑全景(南東から)
5. 4区8面3・13～17・21～25号畑全景(南東から)
- PL.159 1. 5区8面全景(東から)
2. 5区8面西側全景(北から)
- PL.160 1. 5区8面1号住居全景(西から)
2. 5区8面1号住居カマド(西から)
3. 5区8面2号住居全景(西から)
4. 5区8面2号住居カマド(西から)
5. 5区8面3号住居全景(西から)
6. 5区8面3号住居カマド(西から)
7. 5区8面4号住居全景(西から)
8. 5区8面4号住居カマド(西から)
- PL.161 1. 5区8面5号住居全景(西から)
2. 5区8面5号住居カマド(西から)
3. 5区8面6号住居全景(西から)
4. 5区8面6号住居カマド(西から)
5. 5区8面6号住居焼土(南から)
6. 5区8面7号住居全景(北から)
7. 5区8面7号住居P1(西から)
8. 5区8面8号住居全景(西から)

- PL.162 1. 5区8面8号住居カマド(西から)
2. 5区8面9号住居全景(北から)
3. 5区8面9号住居カマド(西から)
4. 5区8面10号住居全景(西から)
5. 5区8面10号住居カマド(西から)
6. 5区8面11号住居全景(北東から)
7. 5区8面12号住居全景(西から)
8. 5区8面12号住居カマド(西から)
- PL.163 1. 5区8面12号住居遺物出土状態(西から)
2. 5区8面13号住居全景(北から)
3. 5区8面13号住居カマド(西から)
4. 5区8面13号住居遺物出土状態(南から)
5. 5区8面14号住居全景(北から)
6. 5区8面15号住居全景(北西から)
7. 5区8面15号住居カマド掘り方(北西から)
8. 5区8面16号住居全景(北から)
- PL.164 1. 5区8面16号住居貯蔵穴(北から)
2. 5区8面17号住居全景(北西から)
3. 5区8面17号住居カマド(北西から)
4. 5区8面18号住居全景(西から)
5. 5区8面18号住居カマド(西から)
6. 5区8面19号住居全景(西から)
7. 5区8面19号住居カマド(西から)
8. 5区8面20号住居全景(南から)
- PL.165 1. 5区8面21号住居全景(西から)
2. 5区8面21号住居カマド(西から)
3. 5区8面22号住居全景(西から)
4. 5区8面22号住居カマド(西から)
5. 5区8面23号住居全景(西から)
6. 5区8面23号住居カマド(西から)
7. 5区8面24号住居全景(西から)
8. 5区8面24号住居カマド(西から)
- PL.166 1. 5区8面25号住居全景(西から)
2. 5区8面25号住居カマド(西から)
3. 5区8面26号住居全景(北から)
4. 5区8面27号住居全景(西から)
5. 5区8面27号住居カマド(西から)
6. 5区8面28号住居全景(西から)
7. 5区8面28号住居カマド(西から)
8. 5区8面28号住居カマド掘り方(西から)
- PL.167 1. 5区8面29号住居全景(南から)
2. 5区8面29号住居カマド(西から)
3. 5区8面30号住居全景(南西から)
4. 5区8面31号住居全景(南から)
5. 5区8面32号住居全景(南から)
6. 5区8面33号住居全景(西から)
7. 5区8面33号住居遺物出土状態(西から)
8. 5区8面33号住居カマド遺物出土状態(西から)
- PL.168 1. 5区8面33号住居カマド(西から)
2. 5区8面34号住居全景(西から)
3. 5区8面34号住居カマド(西から)
4. 5区8面35号住居全景(北西から)
5. 5区8面36号住居全景(南から)
6. 5区8面37号住居全景(北から)
7. 5区8面37号住居カマド(西から)
8. 5区8面38号住居全景(南から)
- PL.169 1. 5区8面39号住居全景(東から)
2. 5区8面40号住居全景(西から)
3. 5区8面41号住居全景(西から)
4. 5区8面41号住居カマド(西から)
5. 5区8面41号住居貯蔵穴(西から)
6. 5区8面42号住居全景(北から)
7. 5区8面48号住居全景(西から)
8. 5区8面48号住居カマド(西から)
- PL.170 1. 5区8面50号住居カマド(西から)
2. 5区8面50号住居カマド掘り方(西から)
3. 5区8面1号竪穴状遺構全景(南から)
4. 5区8面2号竪穴状遺構全景(北から)
5. 5区8面3号竪穴状遺構全景(西から)
6. 5区8面4号竪穴状遺構全景(南東から)
7. 5区8面5号竪穴状遺構全景(北から)
8. 5区8面30号溝全景(北から)
- PL.171 1. 5区8面33号溝西側全景(西から)
2. 5区8面33号溝東側全景(西から)
3. 5区8面33号溝遺物出土状態(北から)
4. 5区8面34・39号溝全景(北から)
5. 5区8面35号溝西側全景(東から)
6. 5区8面35号溝東側全景(西から)
7. 5区8面37号溝全景(南西から)
8. 5区8面38号溝全景(東から)
- PL.172 1. 5区8面13号土坑全景(北から)
2. 5区8面14号土坑全景(南東から)
3. 5区8面15号土坑全景(南から)
4. 5区8面16号土坑全景(北から)
5. 5区8面17号土坑全景(西から)
6. 5区8面18号土坑全景(南から)
7. 5区8面19号土坑東側全景(西から)
8. 5区8面19号土坑西側全景(西から)
9. 5区8面20号土坑東側全景(南西から)
10. 5区8面20号土坑西側全景(西から)
11. 5区8面21号土坑全景(南から)
12. 5区8面24号土坑全景(北から)
13. 5区8面24号土坑断面(西から)
14. 5区8面1号ピット全景(南から)
15. 5区8面2号ピット全景(南から)
- PL.173 1. 1区9面全景(東から)
2. 1区9面179号住居全景(南東から)
3. 1区9面179号住居遺物出土状態(南東から)
4. 1区9面179号住居遺物出土状態(南西から)
5. 1区9面180号住居全景(南から)
- PL.174 1. 1区9面180号住居遺物出土状態(東から)
2. 1区9面180号住居P1遺物出土状態(北から)
3. 1区9面181号住居全景(北から)
4. 1区9面181号住居P1(南から)
5. 1区9面182号住居全景(北西から)
6. 1区9面182号住居遺物出土状態(南から)
7. 1区9面183号住居全景(南から)
8. 1区9面183号住居炉(南から)
- PL.175 1. 1区9面183号住居周溝断面(西から)
2. 1区9面184号住居全景(東から)
3. 1区9面184号住居炭化材出土状態(東から)
4. 1区9面185号住居全景(北から)
5. 1区9面185号住居遺物出土状態(北から)
6. 1区9面185号住居焼土(北から)
7. 1区9面186号住居全景(南から)
8. 1区9面186号住居炉(東から)
- PL.176 1. 1区9面186号住居遺物出土状態(北西から)
2. 1区9面2号竪穴状遺構全景(東から)
3. 1区9面2号竪穴状遺構遺物出土状態(東から)
4. 1区9面8号竪穴状遺構全景(北から)
5. 1区9面9号竪穴状遺構全景(東から)
6. 1区9面10号竪穴状遺構全景(南西から)
7. 1区9面11号竪穴状遺構全景(北東から)
8. 1区9面51号畑全景(北から)
- PL.177 1. 1区9面51号畑全景(南から)
2. 1区9面52号畑全景(南から)
3. 1区9面53号畑全景(西から)
4. 1区9面54号畑全景(北から)
5. 1区9面55号畑全景(北から)
6. 1区9面56号畑全景(南東から)
7. 1区9面57号畑全景(南東から)
8. 1区9面58号畑全景(北東から)
- PL.178 1. 1区9面59号畑全景(南から)
2. 1区9面1号遺物集中全景(北から)
3. 1区9面1号遺物集中近景(北から)
4. 1区9面91号土坑全景(南から)
5. 1区9面92号土坑全景(南西から)
6. 1区9面93号土坑全景(北から)
7. 1区9面94号土坑全景(南から)
8. 1区9面327号ピット全景(東から)

PL.179	1. 1区9面328号ピット全景(南西から)	PL.195	2・3・4・5区4面、1区5面出土遺物
	2. 1区9面329号ピット全景(南から)	PL.196	1・2・5区5面、1・3・4区6面出土遺物
	3. 1区9面330号ピット全景(南から)	PL.197	4区6面、1・2・4・5区7面、1区8面住居出土遺物
	4. 1区9面331・332号ピット全景(東から)	PL.198	1区8面住居出土遺物
	5. 1区9面333・334号ピット全景(東から)	PL.199	1区8面住居出土遺物
	6. 1区9面335号ピット全景(西から)	PL.200	1区8面住居出土遺物
	7. 1区9面336号ピット全景(南から)	PL.201	1区8面住居出土遺物
	8. 1区9面337号ピット全景(南から)	PL.202	1区8面住居出土遺物
	9. 1区9面338号ピット全景(南から)	PL.203	1区8面住居出土遺物
	10. 1区9面339号ピット全景(南から)	PL.204	1区8面住居出土遺物
	11. 1区9面340号ピット全景(南から)	PL.205	1区8面住居出土遺物
	12. 1区9面341号ピット全景(南から)	PL.206	1区8面住居出土遺物
	13. 1区9面342号ピット全景(南から)	PL.207	1区8面住居出土遺物
	14. 1区9面343号ピット全景(南から)	PL.208	1区8面住居出土遺物
	15. 1区9面344号ピット全景(南から)	PL.209	1区8面住居出土遺物
PL.180	1. 5区9面全景(東から)	PL.210	1区8面住居出土遺物
	2. 5区9面西側全景(北から)	PL.211	1区8面住居出土遺物
PL.181	1. 5区9面43号住居全景(北から)	PL.212	1区8面住居出土遺物
	2. 5区9面43号住居炉(北から)	PL.213	1区8面住居出土遺物
	3. 5区9面43号住居P2(北から)	PL.214	1区8面住居出土遺物
	4. 5区9面44号住居全景(南から)	PL.215	1区8面住居出土遺物
	5. 5区9面44号住居炉(南から)	PL.216	1区8面住居出土遺物
PL.182	1. 5区9面45号住居全景(西から)	PL.217	1区8面住居出土遺物
	2. 5区9面45号住居遺物出土状態(東から)	PL.218	1区8面住居出土遺物
	3. 5区9面45号住居遺物出土状態近景(北西から)	PL.219	1区8面住居出土遺物
	4. 5区9面45号住居1号炉全景(南から)	PL.220	1区8面住居出土遺物
	5. 5区9面45号住居2号炉全景(南から)	PL.221	1区8面住居出土遺物
	6. 5区9面46号住居全景(北から)	PL.222	1区8面住居出土遺物
	7. 5区9面46号住居遺物出土状態(北から)	PL.223	1区8面住居出土遺物
	8. 5区9面46号住居P1(南西から)	PL.224	1区8面住居出土遺物
PL.183	1. 5区9面47号住居全景(北から)	PL.225	1区8面住居出土遺物
	2. 5区9面47号住居1号炉全景(東から)	PL.226	1区8面住居出土遺物
	3. 5区9面47号住居2号炉全景(南から)	PL.227	1区8面住居出土遺物
	4. 5区9面6号竪穴状遺構全景(北西から)	PL.228	1区8面住居出土遺物
	5. 5区9面10号畑全景(東から)	PL.229	1区8面住居・竪穴状遺構・溝出土遺物
	6. 5区9面11号畑全景(東から)	PL.230	1区8面溝出土遺物
	7. 5区9面12号畑全景(東から)	PL.231	1区8面溝・土坑・遺構外出土遺物
	8. 5区9面1号遺物集中全景(北から)	PL.232	2区8面、5区8面住居出土遺物
PL.184	1. 5区9面1号遺物集中近景(北から)	PL.233	5区8面住居出土遺物
	2. 5区9面2号遺物集中全景(西から)	PL.234	5区8面住居出土遺物
	3. 5区9面2号遺物集中近景(南西から)	PL.235	5区8面住居出土遺物
	4. 5区9面22号土坑全景(南から)	PL.236	5区8面住居出土遺物
	5. 5区9面23号土坑全景(西から)	PL.237	5区8面住居出土遺物
	6. 5区9面3号ピット全景(北から)	PL.238	5区8面住居・竪穴状遺構・溝・土坑出土遺物
	7. 3区北西部北壁基本土層(南から)	PL.239	5区8面遺構外、1区9面住居出土遺物
	8. 4区北東部北壁基本土層(南から)	PL.240	1区9面住居出土遺物
PL.185	4・5区1面出土遺物	PL.241	1区9面住居出土遺物
PL.186	5区1面、1区2面出土遺物	PL.242	1区9面住居出土遺物
PL.187	1・2・4・5区2面出土遺物	PL.243	1区9面竪穴状遺構出土遺物
PL.188	5区2面出土遺物	PL.244	1区9面竪穴状遺構・畑出土遺物
PL.189	5区2面出土遺物	PL.245	1区9面畑・遺物集中出土遺物
PL.190	5区2面出土遺物	PL.246	1区9面遺物集中・土坑出土遺物
PL.191	5区2面出土遺物	PL.247	1区9面遺構外、5区9面住居出土遺物
PL.192	5区2面、1区2.5面出土遺物	PL.248	5区9面竪穴状遺構・遺物集中出土遺物
PL.193	1区2.5面、1区3面出土遺物	PL.249	5区9面遺物集中出土遺物
PL.194	2・5区3面、1・2区4面出土遺物		

第13章 自然科学分析

1 分析の目的

東上之宮遺跡における発掘調査及び整理作業の工程の中で、(1)テフラ分析、(2)人骨鑑定分析、(3)獣歯骨鑑定分析の3種類の分析作業を委託した。これらの分析の目的と分析によって得られた成果の概要を述べることにする。

(1) テフラ分析

テフラ分析は、4区における発掘調査中に実施した。各面に関連する火山灰等の由来を特定し、遺構の時期を決定するため、地質調査とテフラ分析を火山灰考古学研究所の早田 勉氏へ委託した。分析の対象としたのは2面を被覆する白色軽石、7面下層の褐色の砂粒状の軽石、8面下層の火山灰や火山泥流堆積物である。地質調査及び分析の結果、2面を被覆する白色軽石はAs-A軽石(分析報告では浅間A軽石)であり、7面下層の軽石はAs-B軽石(分析報告では浅間Bテフラ)であった。4区8面の畑の下層に位置する層位からはHr-FA(分析報告では榛名二ッ岳渋川テフラ)及びその噴火に関係した可能性が指摘される火山泥流堆積物が検出された。なお、8面の畑上面を被覆する火山泥流はHr-FP(分析報告では榛名二ッ岳伊香保テフラ)に関係した火山泥流と指摘されている。これにより、2面は天明三(1783)年の浅間山噴火により埋没した面であることが確定した。一方、As-B軽石の検出により、7面より上の面はAs-B軽石を攪拌した層上に位置することから、中世以降に位置付けられた。そして、4区8面の畑は、6世紀初頭のHr-FA以降の畑であり、1区西寄りの8面の遺構も踏まえて検討すると、Hr-FP泥流に埋没した遺構が6世紀後半に位置付けられることから、少なくとも古墳時代後期といえよう。

(2) 人骨鑑定分析

人骨鑑定分析は、本遺跡で発見された人骨の性別・年齢・埋葬状態を明らかにするため、生物考古学研究所の榑崎修一郎氏に分析を委託した。1区6面及び5区の天明泥流層を精査中に発見された人骨については、発掘調査時に分析を委託し、それ以外の人骨については整理作業中に委託した。各人骨の分析結果については、本文中

の各遺構に関する記載及び人骨鑑定分析結果を参照されたい。ここでは、遺構の性格を理解する上で重要な指摘があった分析結果について記載したい。

3区6面4・5号土坑は、中世の土坑である。土坑底面は被熱により酸化変色し、土坑底面にある灰・焼土面の層から多数の焼けた骨片が出土している。

調査時の所見は、これらの土坑は火葬墓と判断している。出土した焼骨が人骨であるか否かを確認し、火葬墓としての性格付けを確認するために分析を行った。

分析の結果、4・5号土坑から出土した焼骨は人骨であることが判明した。出土骨の部位は全身に及ぶものの少量であった。この鑑定により、両土坑とも人を埋葬した墓ではなく、火葬を行った跡(火葬遺構)であることが判明した。

5区2面1～14号墓は、As-A軽石及び天明泥流によって埋没した墓地内に構築され、整然と並んだ墓である。これらの人骨の性別・年齢・埋葬状態を明らかにし、墓地の様相の解明に資するため分析を行った。

分析の結果、墓出土の人骨には、骨部位が不足する状態の個体が目立ち、墓14基中、5基が改葬された墓であることが判明した。これらの改葬された墓は、当該墓地内に改葬の痕跡が認められなかったことから、他所から移転改葬されたものと考えられる。また、改葬された墓には未成人・子供等の例がなかった。

また、被葬者の年代から当該墓地内での埋葬状況を見ると、北側の9基では被葬者が成人で、1基が子供であった。そして南側の4基では被葬者が子供であることが判明した。

(3) 獣歯骨鑑定分析

獣歯骨は、古墳時代後期から近世までの遺構及び確認面から出土したものであり、各年代における獣歯骨の動物種を解明するために宮崎重雄氏に分析を委託した。

分析によると、幼齢馬、壮齢馬、老齢馬と各年齢の馬の馬歯が万遍なく出土している。

その中でも、2区8面2号遺物集中は、6世紀後半の土器類とともに出土しており祭祀として使われていたと思われる。本遺構から出土した馬歯は分析の結果、幼齢馬である。馬は祭祀に関連して捧げられた可能性が指摘できる。

2 テフラ分析

1. はじめに

関東地方北西部に位置する伊勢崎市とその周辺には、浅間、榛名、赤城など北関東地方に位置する火山のほか、中部地方や中国地方、さらには九州地方の火山に由来するテフラ(tephra, いわゆる火山灰)が分布している。それらの中には、すでに年代や岩石記載の特徴が明らかにされているものがあり、それらとの層位関係を把握することで、地形や地層の形成年代のみならず、遺構や遺物包含層の年代などについても明らかにできるようになっている。

東上之宮遺跡の発掘調査では、層位や起源が不明な火山泥流堆積物や粗粒の軽石粒子が検出されたことから、火山灰編年学的手法をもちいて調査分析を行うことになった。最初に地質調査を実施して、土層の特徴と層序の記載を行い、高純度の室内分析用試料の採取を実施した。その後、テフラ検出分析とテフラ組成分析を実施してテフラ粒子の特徴把握を行った。さらに、火山ガラス、斜方輝石、角閃石の屈折率測定を実施して、指標テフラとの同定を行った。調査分析の対象となった地点は、4区北東隅地点(SPA' 付近)と4区E-E' セクションの2地点である。

2. 土層の層序

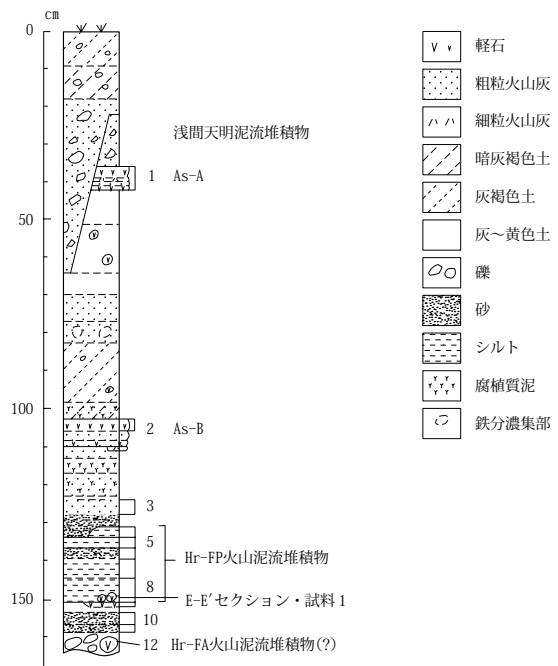
4区北東隅地点では、最下位に発泡がさほど良くない灰白色の粗粒軽石(最大径262mm)を含む亜円礫層(層厚80cm以上、礫の最大径181mm)が認められた(第912図)。その上位には、下位より灰色砂層(層厚2cm)、褐色がかった灰色シルト混じり砂層(層厚5cm)、灰色土(層厚2cm)、暗灰褐色泥層(層厚1cm、部分的)、成層した比較的細粒の火山泥流堆積物(層厚28cm)、砂混じり暗灰褐色泥層(層厚6cm)、砂混じり黒灰褐色泥層(層厚4cm)、砂混じりで鉄分を多く含む褐色土(層厚2cm)、成層したテフラ層(層厚7.2cm)、暗灰褐色砂質土(層厚4cm)、円磨された軽石混じり灰褐色砂質土(層厚16cm、軽石の最大径13mm)、褐色の鉄分濃集部が認められる砂混じり灰色土(層厚6cm)、砂混じり灰色土(層厚7cm)、灰色土(層厚6cm)、白色軽石混じり灰色土(層厚13cm、軽石の最大径4mm)、黄色がかった灰色土(層厚9cm)、成層したテ

フラ層(層厚4.6cm)、暗灰褐色泥流堆積物(層厚14cm)が認められる。

このうち、成層した比較的細粒の火山泥流堆積物は、下位より桃白色シルト層(層厚6cm)、若干褐色がかった黄色シルト層(層厚5cm)、灰色砂質シルト層(層厚3cm)、黄色シルト層(層厚3cm)、灰色砂質シルト層(層厚3cm)、灰色シルト質砂層(層厚8cm)からなる。なお、同じ4区のE-E' セクションでは、最下部の桃白色シルト層基底部に円磨された粗粒の白色軽石の濃集部(層厚2cm、軽石の最大径28mm、E-E' セクション試料1)が認められる。

また、下位の成層したテフラ層は、下位より青灰色砂質細粒火山灰層(層厚0.2cm)、基底部に比較的粗粒の褐色軽石を含む灰色粗粒火山灰層(層厚2cm、軽石の最大径7mm)、橙色粗粒火山灰層(層厚2cm)、黄色細粒軽石層(層厚3cm、軽石の最大径2mm)からなる。一方、上位の成層したテフラ層は、下位より、黄白色細粒軽石層(層厚1cm、軽石の最大径2mm)、黄白色粗粒火山灰層(層厚0.3cm)、桃色細粒火山灰層(層厚0.3cm)、黄灰色細粒軽石層(層厚3cm、軽石の最大径8mm)からなる。

その上位には、耕地の復旧のために造られたと推定されている溝状の遺構があり、その覆土は下位より桃橙色軽石などの礫混じり暗灰褐色砂質土(層厚29cm、礫の最大径118mm、軽石の最大径73mm)からなる。その上位には、さらに礫を多く含む暗灰褐色土(層厚9cm)、灰褐色作土(層厚9cm)が認められる。



第912図 4区北東隅地点の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

4区北東隅地点で認められた成層した火山泥流堆積物(試料8)および2層のテフラ層(試料1・試料2)に含まれるテフラ粒子の特徴を定性的に明らかにするために、テフラ検出分析を実施した。その分析手順は次のとおりである。

- 1) 4区北東隅地点試料8については150g、その他については10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置を用いながら、丁寧に泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で、テフラ粒子の量や色調などを観察。

(2) 分析結果

火山泥流堆積物やテフラ層を対象としたテフラ検出分析の結果を、第14表に示す。試料8には軽石やスコリアなど比較的粗粒なテフラ粒子は認められないものの、スポンジ状に比較的良く発泡した白色の軽石型ガラスが比較的多く含まれている。

成層したテフラ層から採取された試料のうち、下位の試料2には、比較的良く発泡した淡褐色の細粒軽石(最大径3.0mm)が比較的多く含まれている。また、その細粒物である褐色や淡褐色の軽石型ガラスも多く含まれている。一方、上位の試料1には、スポンジ状または繊維束状に良く発泡し、光沢をもつわずかに灰色がかった白色の細粒軽石(最大径3.7mm)が比較的多く含まれている。また、その細粒物である白色の軽石型ガラスも多く含まれている。

4. テフラ組成分析

(1) 分析試料と分析方法

4区北東隅地点の最下部で認められた灰白色軽石(試料12)、それより上位の成層した火山泥流堆積物中の白色軽石(4区E-E' セクション・試料1)および主体部(試料8)に含まれるテフラ粒子の特徴を定量的に明らかにするために、火山ガラス比分析と重鉍物組成分析を実施した。その分析手順は次のとおりである。

- 1) 軽石粒子について軽く粉碎し10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置を用いて泥分を除去。

3) 80℃で恒温乾燥。

4) 軽石2試料と、テフラ検出分析済みの4区北東隅地点試料8について、分析篩で1/4-1/8mmおよび

1/8-1/16mmの粒子を篩別。

5) 偏光顕微鏡下で250粒子を観察し、火山ガラス(形態色調別)、軽鉍物、重鉍物の含有率を求める(火山ガラス比分析)。

6) 偏光顕微鏡下で重鉍物250粒子を観察し、重鉍物組成を求める(重鉍物組成分析)。

(2) 分析結果

1) 火山ガラス比

テフラ組成分析の結果をダイアグラムにして第913図に、その内訳を第15表と第16表に示す。4区北東隅地点の最下部で認められた灰白色軽石(試料12)の1/4-1/8mm粒径での重軽鉍物比はおおよそ2:8である。一方、それより上位の成層した火山泥流堆積物中の白色軽石(4区E-E' セクション・試料1)の重軽鉍物比は2:8で、灰白色軽石(4区北東隅地点試料12)とさほど変わらない。

4区北東隅地点の火山泥流堆積物主体部(試料8)には、岩片や風化物など火山ガラスや鉍物以外の粒子(その他)が多く含まれており(42.8%)、火山ガラスの含有率は低い(6.4%)。含まれる火山ガラスは、比率が高い順にスポンジ状の軽石型ガラス(3.6%)、繊維束状の軽石型ガラスおよび分厚い中間型ガラス(各1.2%)、無色透明のバブル型ガラス(0.4%)である。

2) 重鉍物組成

4区北東隅地点の灰白色軽石(試料12)に含まれる重鉍物は、比率が高い順に角閃石(66.8%)、斜方輝石(20.0%)、不透明鉍物(おもに磁鉄鉍, 11.2%)、単斜輝石(0.8%)である。一方、4区E-E' セクションの試料1の軽石に含まれる重鉍物は、比率が高い順に角閃石(53.2%)、不透明鉍物(おもに磁鉄鉍, 25.2%)、斜方輝石(20.0%)、単斜輝石(0.4%)である。

また、4区北東隅地点の試料8に含まれる重鉍物は、比率が高い順に不透明鉍物(おもに磁鉄鉍, 32.4%)、斜方輝石(30.4%)、角閃石(29.6%)、単斜輝石(5.6%)である。

5. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

4区北東隅地点の最下部で認められた灰白色軽石(試料12)、またそれより上位の成層した火山泥流堆積物中の白色軽石(4区E-E' セクション・試料1)および主体部(試料8)に含まれる火山ガラス、斜方輝石、角閃石の

屈折率測定を実施して、テフラ粒子の起源を求めた。

測定に際しては、火山ガラスについては1/8-1/16粒径、斜方輝石および角閃石については1/4mmより大きい鉱物を実顕微鏡下でピッキングし軽く粉碎して測定の対象とした。また、測定には温度変化型屈折率測定装置(京都フィッション・トラック社RIMS2000)を利用した。

第14表 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
4区北東隅	1	**	白色	3.7	***	pm (sp>fb)	白色
	2	**	淡褐色	3.0	***	pm (sp)	褐色, 淡褐色
	8				**	pm (sp)	白色

****: とくに多い, ***: 多い, **: 中程度, *: 少ない. 最大径の単位はmm.

pm: 軽石型, sp: スポンジ状発泡, fb: 繊維束状発泡.

第15表 火山ガラス比分析結果

地点	試料	bw (cl)	bw (pb)	bw (br)	md	pm (sp)	pm (fb)	軽鉱物	重鉱物	合計
4区北東隅	8	1	0	0	3	9	3	101	26	250
	12	0	0	0	3	84	0	124	36	250
4区E-E' セクション	1	0	0	0	0	21	182	46	1	250

bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型, cl: 透明, pb: 淡褐色, br: 褐色, sp: スポンジ状発泡, fb: 繊維束状発泡.

数字は粒子数.

第16表 重鉱物組成分析結果

地点	試料	ol	opx	cpx	am	bi	opq	その他	合計
4区北東隅	8	0	76	14	74	0	81	5	250
	12	0	50	2	167	0	28	3	250
4区E-E' セクション	1	0	50	1	133	0	63	3	250

ol: カンラン石, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石, bi: 黒雲母, opq: 不透明鉱物(おもに磁鉄鉱).

数字は粒子数.

第17表 屈折率測定結果

試料・テフラ	試料	火山ガラス		斜方輝石		角閃石		文献
		屈折率(n)	測定点数	屈折率(γ)	測定点数	屈折率(n2)	測定点数	
東上之宮遺跡 4区北東隅	8	1.502-1.506	31	1.703-1.710	30	1.674-1.680	30	本報告
	12	1.502-1.506	30	1.706-1.710	32	1.674-1.681	30	本報告
東上之宮遺跡 4区E-E' セクション	1	1.506-1.509	31	1.705-1.711	33	1.673-1.680	30	本報告

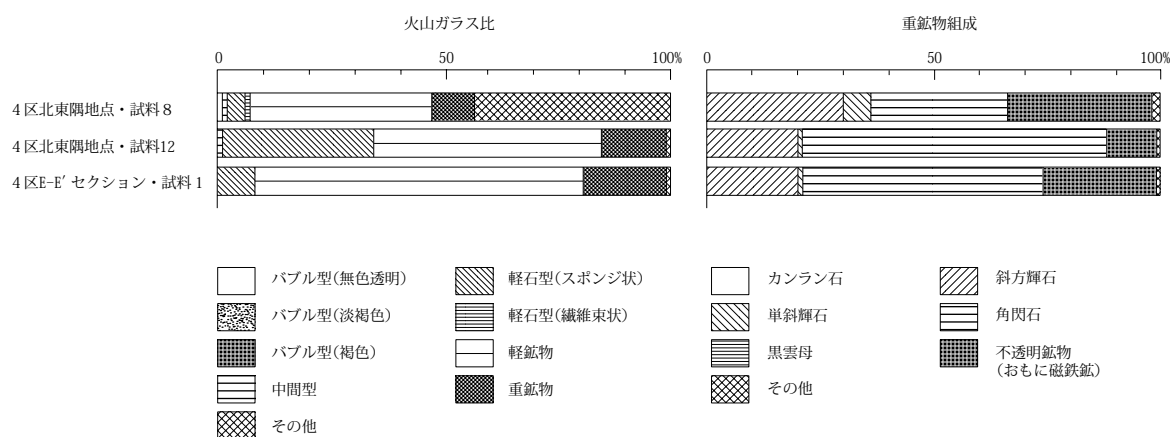
<榛名・浅間火山起源の完新世指標テフラ>

浅間A (As-A)	1.507-1.512	1.707-1.712	1)
浅間A' (As-A')	1.515-1.521	1.702-1.712	2)
浅間粕川(As-Kk)		1.706-1.710	2)
浅間B (As-B)	1.524-1.532	1.708-1.710	1)
榛名二ツ岳伊香保(Hr-FP)	1.501-1.504	1.708-1.712	2)
榛名二ツ岳渋川(Hr-FA)	1.500-1.502	1.709-1.712	2)
榛名有馬(Hr-Ar)	1.500-1.502	1.708-1.712	2)
浅間C (As-C)	1.514-1.520	1.706-1.711	1)
浅間D (As-D)	1.513-1.516	1.706-1.708	1)
		1.706-1.708	3)
浅間六合(As-Kn)		1.706-1.708	2)
浅間藤岡(As-Fo)		1.706-1.710	2)

千駄木遺跡における測定は、温度変化型屈折率測定装置(RIMS2000)による。

1): 町田・新井(1992, 2003), 2): 早田(1996), 3)新井(1979).

1) ~ 3)の測定は、いずれも故新井房夫群馬大学名誉教授による(温度一定型屈折率測定法)。



第913図 東上之宮遺跡のテフラ組成ダイヤグラム

(2) 測定結果

火山ガラスの屈折率測定の結果を第17表に示す。4区北東隅地点の灰白色軽石(試料12)の火山ガラス(n)、斜方輝石(γ)、角閃石(n_2)の屈折率は、順に1.502-1.506 (30粒子)、1.706-1.710 (32粒子)、1.674-1.681 (30粒子)である。それより上位の白色軽石(4区E-E' セクション・試料1)の火山ガラス(n)、斜方輝石(γ)、角閃石(n_2)の屈折率は、順に1.506-1.509 (31粒子)、1.705-1.711 (33粒子)、1.673-1.680 (30粒子)である。さらに、火山泥流堆積物主体部(試料8)に含まれる火山ガラス(n)、斜方輝石(γ)、角閃石(n_2)の屈折率は、順に1.502-1.506 (31粒子)、1.703-1.710 (30粒子)、1.674-1.680 (30粒子)である。

6. 考察

(1) テフラ層の同定

テフラ検出分析を実施した3試料のうち、2試料は上下の成層したテフラ層から採取されたものである。このうち、下位のテフラ層は、層相や含まれるテフラ粒子の特徴などから、1108(天仁元)年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(As-B, 荒牧, 1968, 新井, 1979)に同定される。一方、上位のテフラ層は、層位や層相さらに含まれるテフラ粒子の特徴などから、1783(天明3)年に浅間火山から噴出した浅間A軽石(As-A, 荒牧, 1968, 新井, 1979)に同定される。したがって、その直上にある暗灰褐色泥流堆積物は、層位や層相からいわゆる浅間天明泥流堆積物と考えられる。

(2) 火山泥流堆積物の起源

4区北東隅地点の最下部で認められた灰白色軽石(試料12)と、それより上位の成層した火山泥流堆積物(主体部: 試料8, 軽石: 4区E-E' セクション・試料1)は、いずれも層相や岩相さらに重鉱物組成やテフラ粒子の屈折率特性などから、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)や、6世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 新井, 1962, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)に関係した火山泥流など二次的な堆積物あるいはそれに含まれるテフラ粒子と考えられる。

今後、さらに調査分析を実施して、Hr-FAやHr-FPと今回調査分析対象となった堆積物との層位関係を明らかにする必要があるが、ここでは分析測定結果をもとに、それぞれの粒子や堆積物の起源について現段階での所見を述べる。

4区北東隅地点の最下部で認められた灰白色軽石(試料12)と、それより上位の成層した火山泥流堆積物(主体部: 試料8, 軽石: 4区E-E' セクション・試料1)を比較すると、前者の方に分厚い火山ガラスが認められ、発泡の程度が後者の方がより高いことと矛盾しない。ただ、重軽鉱物比の点では両者はよく似た傾向にある。屈折率特性をみると、後者の屈折率がやや高い。また、4区北東隅地点の試料8は、軽石ではなく火山泥流堆積物でさまざまな起源に由来する粒子が混在しているためか、上述2者の重鉱物組成と比較すると、斜方輝石の含有率が

高く、角閃石のそれが低い。ただし、火山ガラス、斜方輝石、角閃石の屈折率特性は、下位の試料12とよく似ている。

分析報告担当者は、これまでHr-FPの最下部に灰色の軽石を多く含む薄いユニットが存在することを記載しているが、Hr-FPの噴火に関係した火山泥流のおもな要因と考えられる火砕流堆積物の発生は、その後の白色軽石を大量に噴火した活動の後半である(早田, 1989, 1993, 2006など)。また、発泡がさほど良くない灰白色軽石を多く含むようなHr-FAに関係した火山泥流堆積物の報告例を知らない。一方、Hr-FAの噴火で発生したHr-PPF1(新井, 1979)と呼ばれる火砕流堆積物中には、溶岩ドームの一部であったと思われる灰色のいわゆる角閃石安山岩が多く含まれている(早田 1989, 1993, 2006など)。また、灰白色軽石を含む砂礫層と、成層した火山泥流堆積物の間には腐植質の暗灰褐色泥層(層厚 1 cm)が認められ、上位の成層した火山泥流堆積物の直下にHr-FAは認められない。

これらのことから、ここでは、灰白色軽石をHr-FAの噴火に由来するテフラ粒子で、それを含む砂礫層をHr-FAの火山泥流に関係が深いものと考えておきたい。一方、それより上位の成層した火山泥流堆積物は、桃色がかかった色調をもつことや、円磨された榛名系の白色軽石を含むことなどから、Hr-FPの噴火に関係した火山泥流堆積物と考える。

ただ、これまで榛名系テフラの岩石記載学的特徴把握は、火山体から比較的離れた場所の降下テフラを対象としたものが多く、降下ユニットごとや、火砕流堆積物、火山泥流堆積物に含まれるテフラ粒子など系統だった分析事例はほとんどない。実際、今回の分析測定でも、従来よりガラス部の屈折率が高い軽石の存在が明らかになったことから、今後詳細な岩石記載学的調査研究が必要である。

いずれにしても、灰白色軽石については、古くから群馬地域とその周辺において、特徴的に古墳の石室に使われてきたいわゆる角閃石安山岩に関係するように思われることから、その起源や年代を明らかにすることは群馬の考古学研究にとって非常に重要と思われる。

7. まとめ

伊勢崎市東上之宮遺跡において、地質調査とテフラ分析(テフラ検出分析, テフラ組成分析, 火山ガラスと鉱物の屈折率測定)を実施した。その結果、下位より榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)および榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)の噴火に関係した可能性が高い火山泥流堆積物、浅間Bテフラ(As-B, 1108年)、浅間A軽石(As-A, 1783年)および浅間天明泥流堆積物を検出することができた。

文献

- 新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層. 考古学ジャーナル, no.157, p.41-52.
- 荒牧重雄(1968)浅間火山の地質. 地団研専報, no.45, 65p.
- 町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫(2003)新編火山灰アトラス. 東京大学出版会, 336p.
- 坂口 一(1986)榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器. 群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井 神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.
- 坂口 一(2010)高崎市・中居町一丁目遺跡周辺集落の動向—中居町一丁目遺跡H22の水田耕作地と周辺集落との関係—. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編「中居町一丁目遺跡3」, p.17-22.
- 早田 勉(1989)6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害. 第四紀研究, 27, p.297-312.
- 早田 勉(1993)古墳時代におこった榛名山二ツ岳の噴火. 新井房夫編「火山灰考古学」, 古今書院, p.128-150.
- 早田 勉(2006)古墳時代の榛名大噴火—火山灰からさぐる噴火のうつりかわり, かみつけの里博物館編「はるな30年物語。—古墳時代に榛名山が大噴火した。災害と向き合うヒト、そして復興へ」, p.54-66.

3 人骨鑑定分析

はじめに

東上之宮遺跡は、群馬県伊勢崎市東上之宮町に所在する。(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が、平成23年4月から平成24年12月まで実施された。

本遺跡では、古墳時代住居及び畑、中世の水田、近世の水田・畑・墓地等が検出されている。特に、近世面では天明三(1783)年の浅間山噴火に伴う泥流が遺跡近くを走行する利根川から氾濫して約2m近くを覆っており、当時のまま保存されていた。

本遺跡の1区・3区・5区から、中世及び近世の人骨が出土したので以下に報告する。時代で天明三年以前と天明三年以降と記載したものは、1783年前後という意味である。

出土人骨は、清掃後、可能な限り接合を行った後で、観察・計測・写真撮影を行った。なお、歯の計測方法は藤田恒太郎の方法に従い(藤田 1949)、歯冠計測値の比較は、現代人は権田和良(権田 1959)を、近世人骨は松村博文(Matsumura 1995)を引用した。

なお、写真中にある略称は、永久歯はI1(第1切歯)・I2(第2切歯)・C(犬歯)・M1(第1大臼歯)・M2(第2大臼歯)・M3(第3大臼歯)を意味する。また、乳歯はm1(第1乳臼歯)・m2(第2乳臼歯)を意味する。

1.1 区出土人骨

1区6面からは、82号土坑及び83号土坑の2基から人骨が検出されている。

(1) 82号土坑出土人骨〔6面〕

① 埋葬形態

人骨は、長軸約100cm・短軸約65cm・深さ約42cmの規模の隅丸長方形土坑から検出されている。長軸方向は、北西～南東である。被葬者は、約11歳の男性(男児)であると推定されている。1975年の日本人身長統計では、男子が140.9cm・女子が141.9cmと報告されている(鈴木 1996)。土坑の規模から、伸展位で埋葬することは不可能であるので、頭位を北西にした屈葬で埋葬されたと推定される。

② 副葬品

銭貨が出土している。



写真1. 1区6面82号土坑出土遊離歯

③ 人骨の出土部位

人骨は、遊離歯が出土している。写真1からも、土坑北部から遊離歯のみが検出されている状況がわかる。頭蓋骨や四肢骨は、溶解したと推定される。

④ 被葬者の個体数

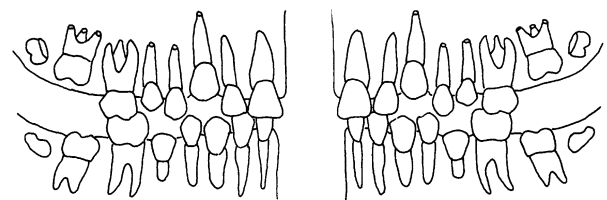
出土遊離歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑤ 被葬者の性別

出土遊離歯の永久歯歯冠計測値は比較的大きいため、被葬者の性別は男性(男児)であると推定される。

⑥ 被葬者の死亡年齢

出土遊離歯は、永久歯のみの歯冠部であり、乳歯は検出されていない。咬耗度を観察すると、ほとんど認められない。歯根が残存していればもう少し正確な推定ができるが、総合的に、乳歯がすべて脱落し永久歯のみの状態の約11歳であると推定される。



第914図 1区6面82号土坑出土歯萌出状態想定図〔約11歳〕

⑦ 被葬者の古病理

出土遊離歯の内、上顎右犬歯と下顎右犬歯の唇側面にエナメル質減形成が認められた。このエナメル質減形成は、通常生後4年～5年の時期に疾患や栄養欠乏により生じる事が知られている。近世人骨では上顎犬歯に約31%・下顎犬歯に約65.1%が認められている(山本 1988)。但し、これと死因との因果関係は不明である。

(2)83号土坑出土人骨[6面]

本人骨は、本報告者が依頼されて、2012年5月17日に現場で取り上げている。

①埋葬形態

人骨は、長軸110cm・短軸72cm・深さ59cmの規模の隅丸長方形土坑から出土している。長軸方向は、北西～南東である。人骨の出土位置から、被葬者は頭位を北西にして顔面部を西に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

②副葬品

銭貨が出土している。

③人骨の出土部位

写真では、人骨は全身が出土しているが、残存状態は非常に悪く、遊離歯の歯冠部以外は痕跡的である。

④被葬者の個体数

遊離歯には、重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑤被葬者の性別

頭蓋骨片の骨壁の厚さは薄い。また、出土遊離歯の歯冠計測値は比較的小さいため、被葬者の性別は女性であると推定される。

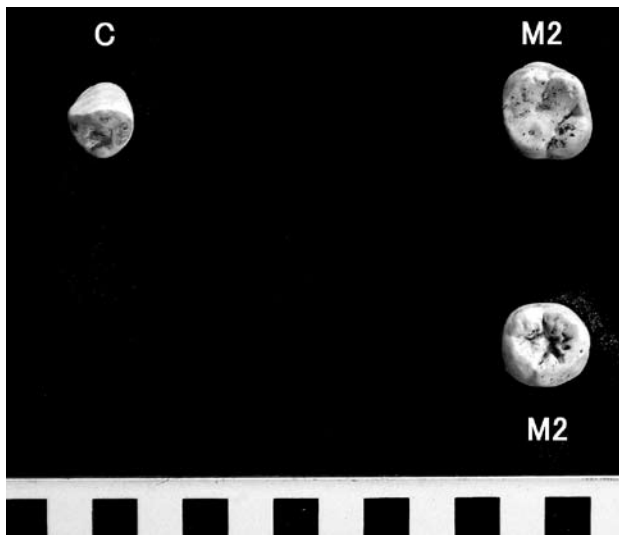


写真2. 1区6面83号土坑出土遊離歯咬合面観

⑥被葬者の死亡年齢

上顎右犬歯の咬耗度を観察すると、エナメル質のみのマルティンの1度の状態である。しかしながら、咬耗に異常が認められる。経験則であるが、歯がほとんど出土しないという状況から、ほとんどの歯が生前に脱落した状態の老齢である可能性が高い。

2. 3区出土人骨

3区7面からは、4号土坑及び5号土坑の2基から人骨が検出されている。なお、この2基は隣接しておらず、離れた場所に位置している。2基共に、火葬跡であると推定される。

(1)4号土坑出土人骨[7面]

①火葬遺構

長方形土坑に西側に突出部がつく形の火葬跡である。主体部は、長軸(南北)123cm・短軸(東西)70cm・深さ21cmの規模であり、突出部は長軸(東西)40cm・短軸(南北)23cmの規模である。群馬県中世火葬遺構は、このタイプはタイプIIに分類されており、長方形のタイプIが54.1% [170基中92基]であり、長方形+袖のタイプIIが32.3% [170基中55基]であり、この2つのタイプで86.4%をしめている(檜崎 2007)。

②火葬方法

火葬人骨の出土位置から、被火葬者は頭位を北にした屈位で火葬されたと推定される。火葬人骨の色は、白色を呈しているため、火葬の際の温度は約900℃以上であると推定される。また、火葬人骨には、亀裂・歪み・捻れが認められるため、白骨化させたものを火葬にしたのではなく、死体をそのまま火葬にしたと推定される。この事は、手や足の小さな指の骨も検出されている事からも裏付けられる。



写真3. 3区7面4号土坑出土顎骨右側面観



写真4. 3区7面4号土坑出土左右膝蓋骨前面観

③副葬品

副葬品は、検出されていない。

④火葬人骨の出土部位

火葬人骨の出土部位は、少しずつであるが全身に及ぶ。

⑤被火葬者の個体数

人骨の出土部位には、明確な重複部位が認められないため、被火葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被火葬者の性別

火葬の際の被熱による収縮を考慮しても、火葬人骨は小さく華奢であるため、被火葬者の性別は女性であると推定される。

⑦被火葬者の死亡年齢

出土上顎骨を観察すると、歯槽は多くが閉鎖せずに開放の状態である。この事は、少なくとも、歯が生前脱落をして歯槽が吸収され閉鎖した老齢では無い事を示している。また、上顎骨の切歯縫合は癒合して消失している状態である。この事から、被葬者の死亡年齢は少なくとも約30歳代以上であると推定される。恐らく、30歳代から40歳代であろう。



写真5. 3区7面4号土坑出土人骨左右上顎骨前面観

⑧収骨(拾骨)方法

火葬人骨の残存量は比較的小さいため、全部拾骨して収骨した東日本タイプの拾骨(収骨)方法であると推定される。

(2) 5号土坑出土人骨[7面]

①火葬遺構

長方形土坑に西側に突出部がつく形の火葬跡である。主体部は、長軸(南北)157cm・短軸(東西)109cm・深さ22cmの規模であり、突出部が認められる。本報告者は、この突出部は火葬の際の焼き口であると推定している。群馬県中世火葬遺構は、このタイプはタイプIに分類さ

れており、長方形のタイプIが54.1% [170基中92基]であり、長方形+袖のタイプIIが32.3% [170基中55基]であり、この2つのタイプで86.4%をしめている(榎崎2007)。

②火葬方法

火葬人骨の出土位置から、被火葬者は頭位を北にした屈葬で火葬されたと推定される。火葬人骨の色は、白色を呈しているため、火葬の際の温度は約900℃以上であると推定される。また、火葬人骨には、亀裂・歪み・捻れが認められるため、白骨化させたものを火葬にしたのではなく、死体をそのまま火葬にしたと推定される。この事は、手や足の小さな指の骨も検出されている事からも裏付けられる。

③副葬品

副葬品は、検出されていない。

④火葬人骨の出土部位

火葬人骨の出土部位は、少しずつであるが全身に及ぶ。

⑤被火葬者の個体数

人骨の出土部位には、明確な重複部位が認められないため、被火葬者の個体数は1個体であると推定される。

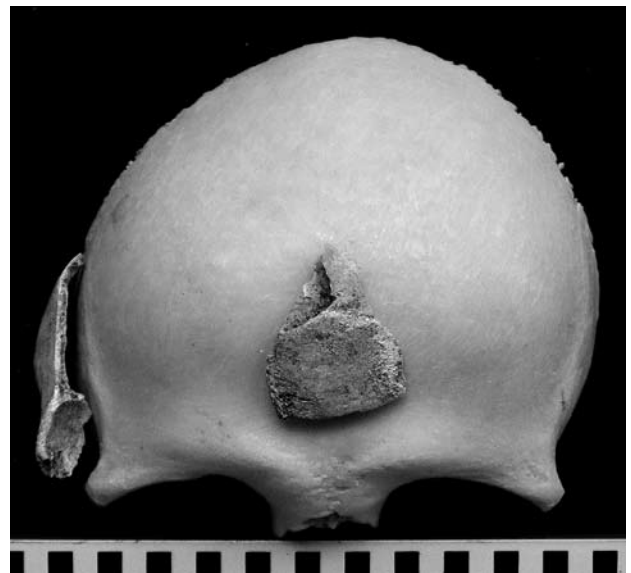


写真6. 3区7面5号土坑出土前頭骨片

⑥被火葬者の性別

火葬の際の被熱による収縮を考慮しても、火葬人骨は小さく華奢であるため、被火葬者の性別は女性であると推定される。

⑦被火葬者の死亡年齢

出土上顎骨を観察すると、歯槽は多くが閉鎖せずに開放

の状態である。この事は、少なくとも、歯が生前脱落をして歯槽が吸収され閉鎖した老齢では無い事を示している。また、上顎骨の切歯縫合は癒合して消失している状態である。この事から、被葬者の死亡年齢は少なくとも約30歳代以上であると推定される。恐らく、30歳代から40歳代であろう。

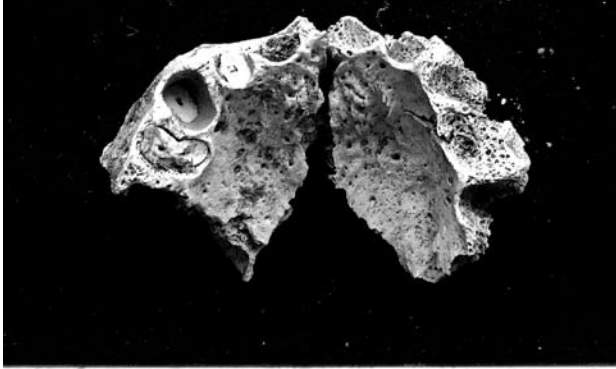


写真7. 3区7面5号土坑出土上顎骨

⑧収骨(拾骨)方法

火葬人骨の残存量は比較的少ないため、全部拾骨して収骨した東日本タイプの拾骨(収骨)方法であると推定される。

3.5区出土人骨

5区からは、泥流中下層人骨・泥流中人骨・1号土坑(以上1面)・2号土坑・1号墓・2号墓・3号墓・4号墓・5号墓・6号墓・7号墓・8号墓・9号墓・10号墓・11号墓・12号墓・13号墓・14号墓(以上2面)の18から人骨が検出されている。

(1)泥流中下層出土人骨[1面]

人骨は、天明三(1783)年の浅間山噴火に伴う天明泥流中の下層から出土している。発掘調査中に、重機による表土掘削中に発見されたもので、遺構は確認できなかった。出土人骨は四肢骨片である。人骨である事は間違いないが、恐らく、性別不明の成人のものであると推定される。

(2)泥流中人骨[1面]

①埋葬形態

人骨は、甕の中から検出されている。人骨の色は黒色を呈しており、長い間水に浸かった状態であったと推定される。この状態は、東京都内の寺院墓域から出土する近世人骨と同様である。

②副葬品

副葬品は、検出されていない。

③人骨の出土部位

人骨は、鎖骨・頸椎・胸椎・腰椎・中足骨・距骨・踵骨等が出土している。出土した人骨の保存状態は良いが、他の部位が認められない事から、恐らく、改葬された際の取り残しであると推定される。

④被葬者の個体数

出土人骨には、重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑤被葬者の性別

人骨は全体的に小さいため、被葬者の性別は女性であると推定される。

⑥被葬者の死亡年齢

年齢指標となる部位が出土していないが、出土人骨の骨端部は癒合が完了しているため、被葬者の死亡年齢は成人であると推定される。出土人骨の内、踵骨は約16歳～19歳で、鎖骨は男女で差があるが、約21歳～24歳で癒合が完了する。また、脊椎骨の頸椎・胸椎・腰椎には、経年変化による棘突起は認められない。したがって、被葬者の死亡年齢は、少なくとも、約24歳以上老齢以下であると推定される。



写真8. 5区1面泥流中人骨第2・3頸椎全面観



写真9. 5区1面泥流中人骨第2・3頸椎左側面観



写真10. 5区1面泥流中人骨第2・3頸椎後面観

⑦被葬者の古病理

本出土人骨の内、第2頸椎と第3頸椎は癒合した状態である。全身骨格が残存していないが、恐らく、クリッペル・ファイル症候群であると推定される。発症率は、約3万人から4万人に1人で女性に多いと報告されており、群馬県における遺跡出土人骨では初めての報告であると推定される。

(3) 1号土坑出土人骨[1面]

①埋葬形態

人骨は、一辺約83cmから85cm・深さ約45cmの正方形土坑から検出されている。この土坑内部には、一辺約45cmから50cmの方形木棺が認められており、座葬で埋葬されたと推定される。

②副葬品

がま口口金及び銭貨の寛永通寶・文久通寶・半銭銅貨・稲5銭白銅貨が出土している。

③人骨の出土部位

出土状況写真を見る限り、かなり保存状態が良いように見えるが、取り上げられた人骨は、ほとんどが細片化している。

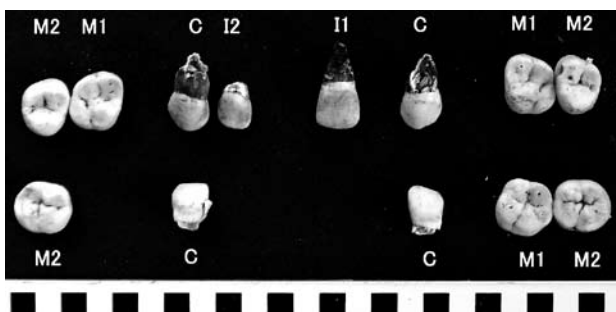


写真11. 5区1面1号土坑出土遊離歯

④被葬者の個体数

出土遊離歯には重複部位が認められないため、被葬者

の個体数は1個体であると推定される。

⑤被葬者の性別

出土遊離歯の歯冠計測値は、大きいものもあれば小さいものもある。しかしながら、肉眼で観察する限り、比較的小さくかつ歯根も短い。さらに、前頭骨には前頭結節が認められる。総合的に、被葬者の性別は女性であると推定される。



写真12. 5区1面1号土坑出土前頭骨

⑥被葬者の死亡年齢

出土遊離歯の咬耗度を観察すると、大白歯は、象牙質がわずかな点状に露出する程度のマルティンの2度の状態である。したがって、被葬者の死亡年齢は、約20歳代であると推定される。

(4) 2号土坑出土人骨[1面]

①埋葬形態

人骨は、長軸(北西～南東)約95cm・短軸(北東～南西)約65cm・深さ約25cmの不整隅丸長方形土坑から検出されている。この土坑内部には、一辺約45cmから50cmの方形木棺が認められており、座葬で埋葬されたと推定される。人骨の出土状況から、頭位を南にした俯臥屈葬で埋葬されたと推定される。但し、経年変化で座葬にしたものが前に倒れた可能性もある。

本土坑は、天明三(1783)年の浅間山泥流で埋もれた後で、約2mに及ぶ泥流層を掘り込んで構築しているという。

②副葬品

櫛及び銭貨の寛永通寶・半銭銅貨等が出土している。

③人骨の出土部位

人骨の出土部位は、ほぼ全身に及んでいる。改葬の痕跡は認められない。

④被葬者の個体数

出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。



写真13. 5区1面2号土坑出土左右大腿骨



写真14. 5区1面2号土坑出土頭蓋骨前面観



写真15. 5区1面2号土坑出土頭蓋骨上面観(左が前)

⑤被葬者の性別

頭蓋骨を観察すると、眉弓は発達していない。しかしながら、前頭結節及び頭頂結節は発達している。また、乳様突起も発達していない。寛骨の大坐骨切痕跡部は破

損しており観察できなかった。さらに、四肢骨も小さく華奢である。総合的に、被葬者の性別は女性であると推定される。

⑥被葬者の死亡年齢

頭蓋骨の主要縫合である、冠状縫合・矢状縫合・ラムダ(人字)縫合の3縫合は、内板及び外板共に癒合しておらず開放の状態である。さらに、頭蓋底部の蝶後頭軟骨結合は癒合が完了していない状態である。この蝶後頭軟骨結合は、一般的に男性では14歳～15歳で、女性では12歳～13歳で癒合が完了する。別の研究者による研究では、男性では14歳から癒合が認められ18歳で大部分が癒合し、22歳までに完了し、女性では15歳で大部分が癒合し、19歳までに完了すると報告されている。本被葬者の性別は女性と推定されているため、12歳～19歳と推定される。ところが、出土歯の咬耗度を観察すると、象牙質が線状あるいは点状に露出する程度のマルティンの2度の状態である。しかしながら、本被葬者の出土遊離歯は切歯・犬歯・小白歯のみで、大白歯は1本も認められなかった。次項の「被葬者の古病理」で記載するように、左上顎骨及び下顎骨では多くの歯が生前脱落をして、歯槽も吸収されて閉鎖した状態である。特に、大白歯部にその傾向が顕著である。但し、第3大白歯(M3)部は破損しており、確認はできなかったが、先天性欠如の可能性もある。本被葬者は何らかの理由ですべての大白歯が生前脱落したために、咀嚼を行う際に、切歯・犬歯・小白歯のみで行っていたと推定される。本被葬者の場合は、通常よりも早く咬耗が進んだとも推定される。もし、仮に、遊離歯のみ出土した場合は死亡年齢を約30歳代から40歳代と推定すべきところである。最終的に、ここでは、歯の咬耗度ではなく、頭蓋縫合の癒合度及び蝶後頭軟骨結合の状態を重視して、被葬者の死亡年齢は約12歳～19歳となるが、恐らく19歳前後であると推定される。

⑦被葬者の古病理

・生前脱落

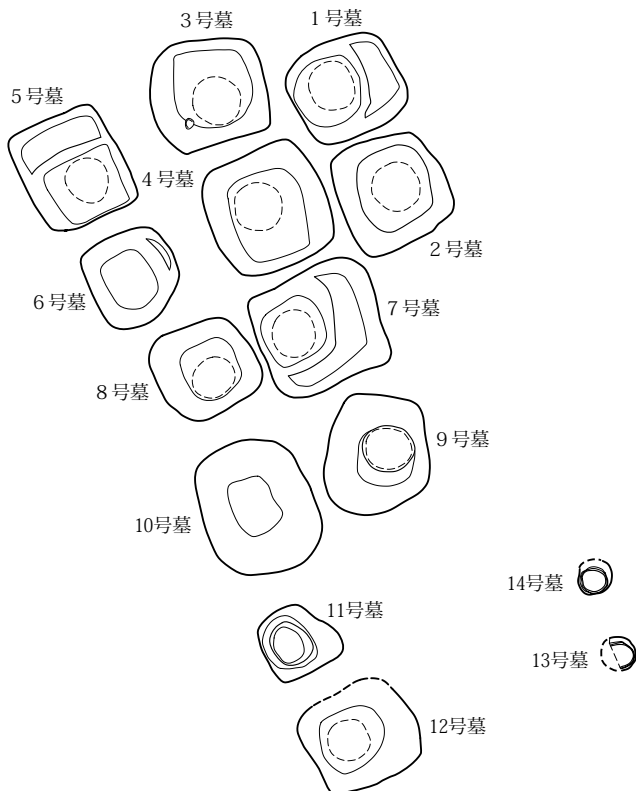
左上顎骨を観察すると、第1切歯(I1)～第2小白歯(P2)部までの歯槽部は開放状態であるが、少なくとも、第1大白歯(M1)及び第2大白歯(M2)は生前脱落をして、歯槽も吸収されて閉鎖した状態である。下顎骨は、左右共に、第1切歯(I1)～第1小白歯(P1)部までの歯槽部は開放状態であり、第1大白歯(M1)及び第2大白歯(M2)

は生前脱落をして歯槽も吸収されて閉鎖している状態である。原因は、不明である。



写真16. 5区1面2号土坑出土下顎骨咬合面観

以下に報告する、1号墓から14号墓の14基の墓坑は、近接して位置しており、墓域として構築されたものと推定される。墓坑の上面は川原石で組まれており、中には、年号が刻まれた墓石も検出されているが、天明三(1783)年の浅間山泥流により流されているため特定できない。墓坑の構造は似通っているため、家族墓である可能性が高い。なお、本14基の墓坑は、すべて、天明三(1783)年以前に構築されたものである。



第915図 5区2面1～14号墓平面図

(5) 1号墓出土人骨[2面]

①埋葬形態

人骨は、一辺が118cm×117cm・深さ129cmの隅丸正方形土坑から検出されている。土坑下部には、円形の木棺が認められる。

②副葬品

磁器碗及び銭貨の寛永通寶が出土している。

③人骨の出土部位

頭蓋骨片・四肢骨片が出土している。出土した人骨の保存状態は比較的良いが、本来出土すべき、脊椎骨・上腕骨・橈骨・尺骨・大腿骨・脛骨・腓骨・距骨・踵骨が検出されていない。検出されたのは、頭蓋骨片・遊離歯・腰椎・寛骨である。このことから、恐らく、どこかの時点で改葬のために人骨を取り出したのだと推定される。その際、経年変化で頭部は土坑下部に位置していたため、寛骨と同様に取り残されたのであろう。

④被葬者の個体数

遊離歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑤被葬者の性別

遊離歯の歯冠計測値は大きい。側頭骨の乳様突起は大きく頑丈であり、後頭骨の外後頭隆起厚は、20mmある。中世人骨の研究によると、外後頭隆起厚の平均値は、男性が17.5mm・女性が15mmである(長岡・平田 2005)。総合的に、被葬者の性別は男性であると推定される。

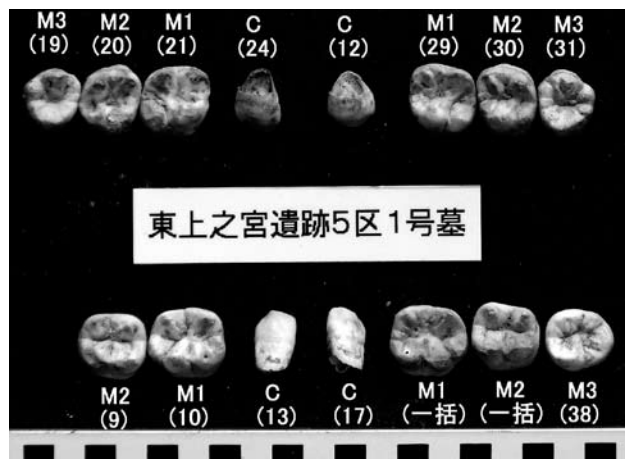


写真17. 5区2面1号墓出土遊離歯

⑥被葬者の死亡年齢

遊離歯の咬耗度を観察すると、ほとんどが、エナメル質のみのマルチンの1度の状態である。また、主要頭蓋縫合も内板及び外板共に癒合していない状態である。

したがって、被葬者の死亡年齢は約10歳代後半～20歳代であると推定される。

(6) 2号墓出土人骨[2面]

①埋葬形態

人骨は、一辺が112cm×108cm・深さ132cmの正方形土坑から検出されている。土坑下部には、円形の木棺が認められる。恐らく、座葬で埋葬されたと推定される。

②副葬品

副葬品は、出土していない。

③人骨の出土部位

わずかな頭蓋骨片と四肢骨片のみ出土している。改葬された可能性が高い。

④被葬者の個体数

出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑤被葬者の性別

頭蓋骨片は比較的厚いため、被葬者の性別は男性であると推定される。

⑥被葬者の死亡年齢

年齢推定の指標となる部位が出土していないため、被葬者の死亡年齢推定は困難である。恐らく、成人であると推定される。

(7) 3号墓出土人骨[2面]

①埋葬形態

人骨は、一辺が117cm×110cm・深さ137cmの正方形土坑から検出されている。土坑下部には、円形の木棺が認められる。恐らく、座葬で埋葬されたと推定される。

②副葬品

磁器碗・在地系土器皿・銭貨の寛永通寶が出土している。

③人骨の出土部位

人骨の出土部位は、ほぼ全身に及ぶ。改葬の痕跡は、認められない。

④被葬者の個体数

出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑤被葬者の性別

頭蓋骨及び四肢骨共に大きく頑丈である。ほぼ無歯顎であるため歯冠計測値の比較はできないが、被葬者の性別は男性であると推定される。



写真18. 5区2面3号墓出土頭蓋骨前面観



写真19. 5区2面3号墓出土頭蓋骨上面観



写真20. 5区2面3号墓出土頭蓋骨左側面観

⑥被葬者の死亡年齢

頭蓋骨の主要縫合である、冠状縫合・矢状縫合・ラムダ(人字)縫合を観察すると、内板及び外板共に癒合して消失している状態である。また、上顎骨及び下顎骨を観察すると、ほとんどすべての歯が生前脱落をして歯槽も吸収されて閉鎖した無歯顎の状態である。

正確には、下顎左犬歯(C)・同第1小白歯(P1)・同第1大白歯(M1)は遊離歯の状態出土している。これらの



写真21. 5区2面3号墓出土上顎骨咬合面観(無歯顎)



写真22. 5区2面3号墓出土下顎骨咬合面観(無歯顎)

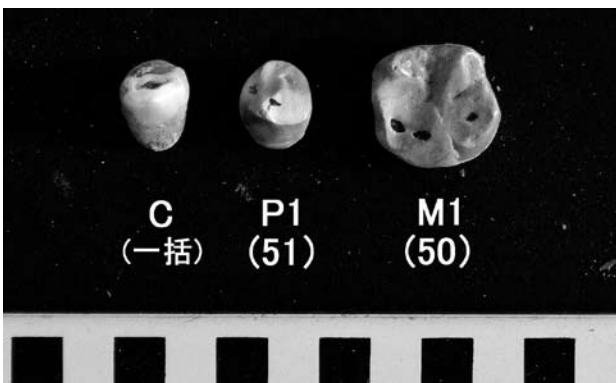


写真23. 5区2面3号墓出土下顎骨咬合面観

遊離歯の咬耗度を観察すると、象牙質が線状あるいは点状に露出する程度のマルティンの2度の状態である。もし、この遊離歯だけが出土している場合は、死亡年齢を約30歳代と推定する事になるが、歯が生前脱落をして咬耗が進まなかったためであり、総合的に被葬者の死亡年齢は老齢であると推定される。

(8) 4号墓出土人骨[2面]

①埋葬形態

人骨は、一辺が120cm×119cm・深さ124cmの隅丸正方形土坑から検出されている。土坑下部には、円形の木棺が認められる。

②副葬品

銭貨の寛永通寶が出土している。

③人骨の出土部位

人骨の出土部位は、ほぼ全身に及ぶ。改葬の痕跡は、認められない。

④被葬者の個体数

出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑤被葬者の性別

頭蓋骨の眉弓は比較的発達している。また、後頭骨の外後頭隆起厚も厚い。さらに、異常磨耗をしている歯を除く上下の犬歯の歯冠計測値は大きい。総合的に、被葬者の性別は男性であると推定される。



写真24. 5区2面4号墓出土前頭骨

⑥被葬者の死亡年齢

頭蓋骨の主要縫合である、冠状縫合・矢状縫合は、内板及び外板共に癒合している状態である。出土遊離歯の咬耗度を観察すると、象牙質が線状及び点状に露出する程度のマルティンの2度の状態である。被葬者の死亡年齢は約30歳代と推定される。

⑦被葬者の古病理

上下大臼歯には、異常磨耗が認められた。歯冠部のみで歯根部が破損しており歯種の同定は困難だが、上顎右第2大臼歯(M2)・下顎左右第2大臼歯(M2)であると推定される。上顎第2大臼歯の舌側面に異常磨耗が、下顎左右第2大臼歯の頬側面に異常磨耗が認められた。



写真25. 5区2面4号墓出土遊離歯異常磨耗
[左から右下M2・左下M2・右上M2]

歯の異常磨耗は、法歯学では、大工職・靴縫工・飾職・硝子吹工・音楽師等にみられるという(鈴木 1996)。この職業により異常磨耗が起きる歯種は、第1切歯(I1)・第2切歯(I2)・犬歯等であり、大臼歯ではない。人類学の分野では、戸塚山第137号古墳出土壮年中後期女性人骨に、同様の異常磨耗が認められている(馬場他 1984)。同人骨の上顎左第1大臼歯(M1)と下顎左第2小臼歯(P2)・同第1大臼歯(M1)は、歯冠の半分が失われており、上顎歯では舌側が、下顎歯では頬側が斜めに磨耗している。要因として、顎関節の異常が原因として指摘されているが、本事例では顎関節部が破損しているため確認はできなかった。本事例では、下顎では左右に認められるためその要因と同じかどうかは不明である。

(9) 5号墓出土人骨[2面]

①埋葬形態

人骨は、一辺が111cm×99cm・深さ135cmの正方形土坑から検出されている。土坑下部には、円形の木棺が認められる。

②副葬品

在地系土器皿2点及び錢貨の開元通寶・寛永通寶が出土している。

③人骨の出土部位

人骨の出土部位は、ほぼ全身に及ぶ。改葬の痕跡は、認められない。

④被葬者の個体数

出土人骨及び出土遊離歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

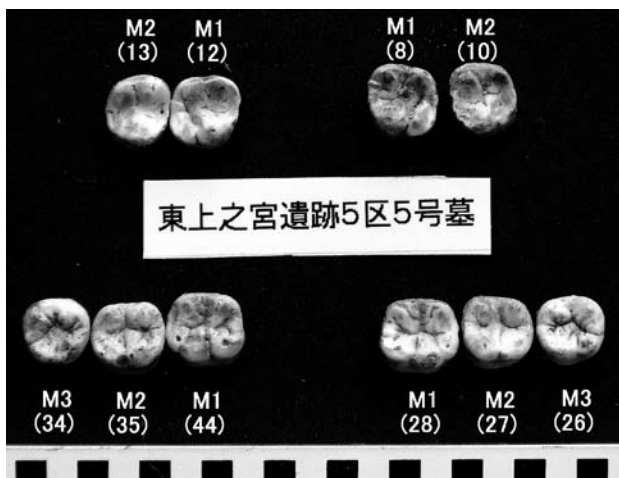


写真26. 5区2面5号墓出土遊離歯咬合面観

⑤被葬者の性別

出土頭蓋骨片の骨壁は比較的薄く、女性的である。出土遊離歯の歯冠計測値は、比較的大きく男性的である。この事は、華奢な男性であるか歯が大きい女性を意味するが、ここでは骨の大きさや頑丈さを重視して後者を採用し、被葬者の性別は女性であると推定される。

⑥被葬者の死亡年齢

出土遊離歯の咬耗度を観察すると、象牙質が点状に露出する程度のマルティンの2度の状態である。しかしながら、その程度は低いため、総合的に被葬者の死亡年齢は、約20歳代であると推定される。

(10) 6号墓出土人骨[2面]

①埋葬形態

人骨は、一辺が93cm×90cm・深さ121cmの正方形土坑から検出されている。土坑下部には、円形の木棺が認められる。

②副葬品

在地系土器皿及び錢貨の寛永通寶が出土している。

③人骨の出土部位

人骨の出土部位は、ほぼ全身に及ぶ。改葬の痕跡は、認められない。

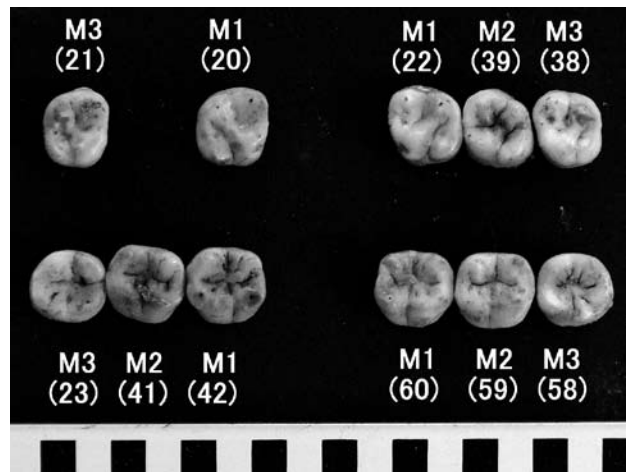


写真27. 5区2面6号墓出土遊離歯咬合面観

④被葬者の個体数

出土人骨及び出土遊離歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑤被葬者の性別

出土遊離歯の歯冠計測値は比較的大きく、男性的である。しかし、頭蓋骨片の骨壁は薄く、乳様突起も小さく華奢であるため、被葬者の性別は女性であると推定される。

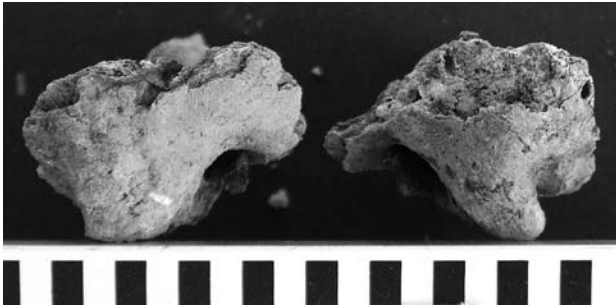


写真28. 5区2面6号墓左右側頭骨

⑥被葬者の死亡年齢

出土遊離歯の咬耗度を観察すると、上下左右第1大臼歯(M1)は象牙質が点状に露出する程度のマルティンの2度の状態であるが、その他の大臼歯はエナメル質のみのマルティンの1度の状態である。被葬者の死亡年齢は、約20歳代であると推定される。

(11) 7号墓出土人骨〔2面〕

①埋葬形態

人骨は、一辺が126cm×119cm・深さ122cmの正方形土坑から検出されている。土坑下部には、円形の木棺が認められる。

②副葬品

在地系土器皿・キセル・銭貨の寛永通寶が出土している。

③人骨の出土部位

人骨の出土部位は、ほぼ全身に及ぶ。しかしながら、主な出土部位は、頭蓋骨片・遊離歯・脊椎骨等であり、四肢骨片も遠位端部である。本来出土すべき上腕骨・大腿骨・脛骨等の四肢骨片が見当たらないため、どこかの時点で改葬のために人骨を取り出したのだと推定される。その際、経年変化で頭部は土坑下部に位置していたため取り残されたのであろう。同様に、四肢骨の遠位端部も土坑下部にあったために取り残されたのだと推定される。この事は、出土した人骨の保存状態が良いことから推定される。

④被葬者の個体数

出土人骨及び出土遊離歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑤被葬者の性別

頭蓋骨片の骨壁は、比較的厚く男性的である。また、出土遊離歯の歯冠計測値は比較的大きいため、被葬者の性別は男性であると推定される。

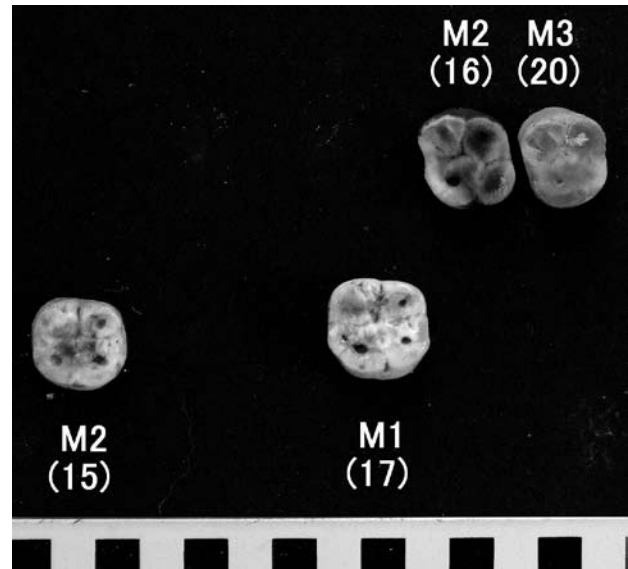


写真29. 5区2面7号墓出土遊離歯咬合面観

⑥被葬者の死亡年齢

出土遊離歯の咬耗度を観察すると、象牙質が点状に露出する程度のマルティンの2度の状態であるため、被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

(12) 8号墓出土人骨〔2面〕

①埋葬形態

人骨は、一辺が100cm×91cm・深さ121cmの正方形土坑から検出されている。土坑下部には、円形の木棺が認められる。

②副葬品

漆製品・在地系土器皿が出土している。

③人骨の出土部位

頭蓋骨片・遊離歯・四肢骨片が出土している。被葬者は未成年と推定されているため、骨が薄く、経年変化で溶解したものと推定される。従って、恐らく改葬は実施されていないと推定される。

④被葬者の個体数

出土人骨及び出土遊離歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑤被葬者の性別

出土遊離歯の永久歯歯冠計測値は比較的小さいため、被葬者の性別は女性(女兒)であると推定される。

⑥被葬者の死亡年齢

出土遊離歯は、乳歯と永久歯の混合歯である。遊離歯はすべて歯冠部のみであり、歯根は残存していない。遊離歯には白色のものと茶色を呈した歯がある。これは経

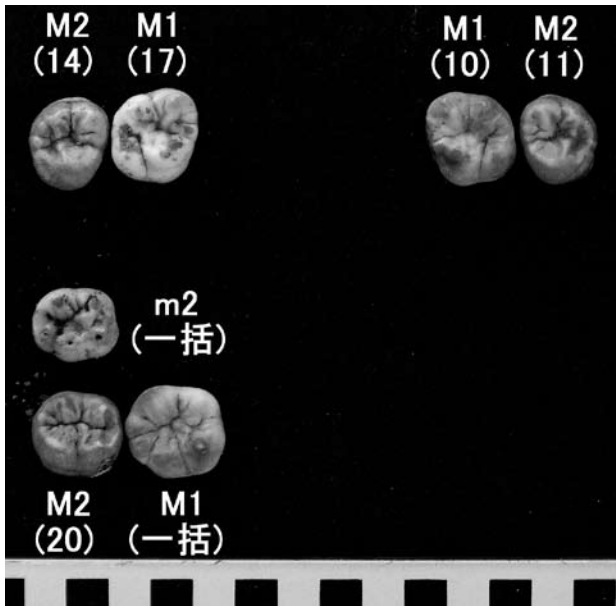
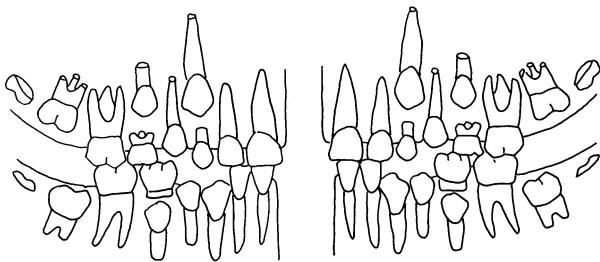


写真30. 5区2面8号墓出土遊離歯咬合面観

験則であるが、白色のものはすでに萌出しており、茶色のものは顎骨内にあり萌出していない場合が多い。第1大臼歯(M1)の咬耗はエナメル質のみのマルティンの1度である。したがって、被葬者の死亡年齢はほぼすべての乳歯が脱落した約10歳であると推定される。



第916図 5区2面8号墓出土歯萌出状態想定図[約10歳]

(13) 9号墓出土人骨[2面]

①埋葬形態

人骨は、一辺が119cm×102cm・深さ131cmの隅丸正方形土坑から検出されている。土坑下部には、円形の木棺が認められる。

②副葬品

在地系土器皿・銭貨である寛永通寶が出土している。

③人骨の出土部位

頭蓋骨片・四肢骨片が出土している。四肢骨は、かなり細片化しているが、主な四肢骨が検出されていない。被葬者は成人と推定されているため、経年変化による溶解ではなく、恐らく、どこかの時点で改葬のために人骨を取り出したのだと推定される。経年変化で、頭部は土

坑下部に位置していたために取り残されたのであろう。

④被葬者の個体数

出土人骨及び遊離歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

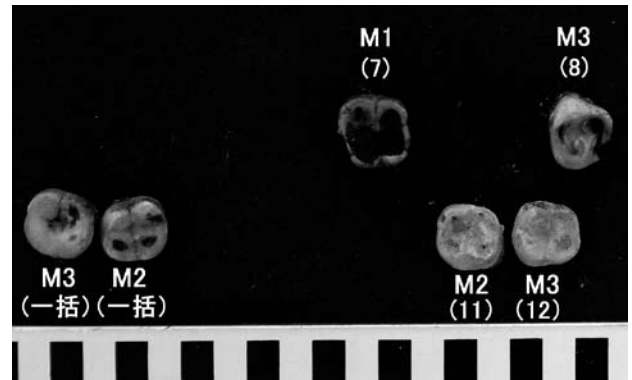


写真31. 5区2面9号墓出土遊離歯咬合面観

⑤被葬者の性別

頭蓋骨の骨壁は薄く、四肢骨も小さく華奢である。また、出土遊離歯の歯冠計測値も比較的小さいため、被葬者の性別は女性であると推定される。

⑥被葬者の死亡年齢

出土遊離歯の咬耗度を観察すると、上顎第1大臼歯(M1)は、象牙質が点状に露出する程度のマルティンの2度の状態であるが、かなり面積を有してきているため、被葬者の死亡年齢は約40歳代であると推定される。

(14) 10号墓出土人骨[2面]

①埋葬形態

人骨は、一辺が135cm×111cm・深さ89cmの長方形土坑から検出されている。土坑下部には、他の土坑で検出された円形の木棺は認められない。これは、本土坑出土人骨は火葬人骨であるためであると推定される。

②副葬品

副葬品は、出土しなかった。

③火葬人骨の出土部位

人骨は、基本的にすべて被熱を受けている火葬人骨である。残存量は少ないが、頭蓋骨片や四肢骨片が出土している。一部、焼かれていない人骨がある。解釈は2通りで、一旦埋葬してその後白骨化した人骨を取り出して火葬にして埋葬したのか火葬の際の焼成温度が低かったとなる。火葬人骨には収縮・捻れ・亀裂が認められず、土坑は他の土坑と同様に深さが89cmあるため、本報告者は前者の説を採用したい。なお、わずかな火葬人骨しか

認められないため、全部収骨する東日本タイプではなく部分収骨する西日本タイプの火葬習俗だと推定される。

④被火葬者の個体数

火葬人骨の残存量は非常に少ないが、出土人骨には明らかな部位が認められないため、被火葬者の個体数は1個体であると推定される。

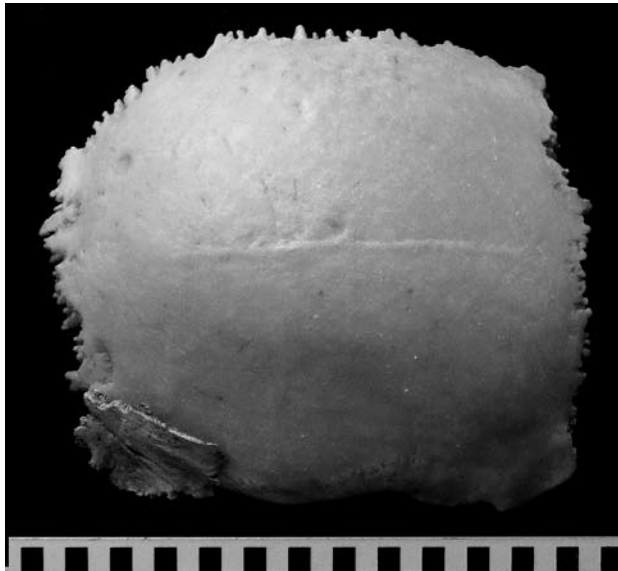


写真32. 5区2面10号墓出土右頭頂骨片

⑤被火葬者の性別

火葬による被熱の際の収縮を考慮しても、火葬人骨は大きいいため、被火葬者の性別は男性であると推定される。

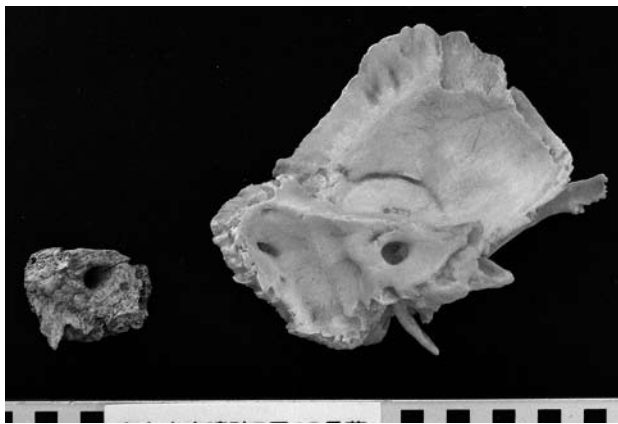


写真33. 5区2面10号墓出土左側側頭骨岩様部

⑥被火葬者の死亡年齢

残念ながら、火葬人骨の残存量が少なく、年齢指標となる部位が出土していないが、成人であると推定される。

(15)11号墓出土人骨〔2面〕

①埋葬形態

人骨は、一辺が75cm×70cm・深さ106cmの隅丸正方形土坑から検出されている。土坑下部には、円形の木棺が認められる。被葬者は約4歳の男性(男児)と推定されて

いる。現代日本人の1975年時点での平均身長は、男子が102.3cm・女子が101.7cmである。恐らく、座葬であったと推定される。

②副葬品

在地系土器皿・施釉陶器ミニチュア・銭貨の寛永通寶・宝永通寶等が出土した。

③人骨の出土部位

人骨片と遊離歯が出土している。被葬者は約4歳の男性(男児)と推定されている。本被葬者に関しては約4歳と推定されているため、骨が脆く薄いために溶解した可能性が高い。



写真34. 5区2面11号墓出土遊離歯

④被葬者の個体数

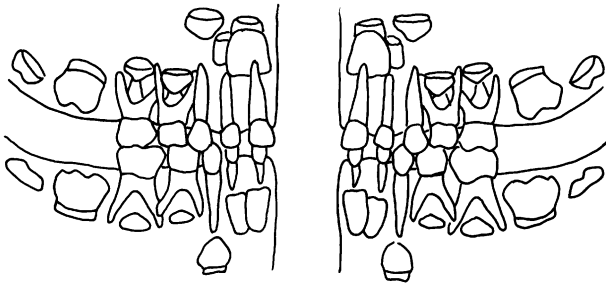
出土遊離歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑤被葬者の性別

出土遊離歯の歯冠計測値が比較的大きいため、被葬者の性別は男性(男児)であると推定される。

⑥被葬者の死亡年齢

遊離歯は、乳歯と永久歯の混合歯である。乳歯の内、第2乳臼歯には、咬耗はあまり認められない。第2乳臼歯は、3歳頃から咬合するため、咬耗が少ないと推定すると矛盾しない。永久歯の第1大臼歯は3本検出されているが、第2大臼歯は検出されていない。これは、歯冠が形成過程の途上にありまだ完成していないためであると推定される。また、上顎切歯及び第1大臼歯には咬耗は認められず、色も白色ではなく色素が沈着した状態である。経験則であるが、この場合は歯が顎骨内にあり未萌出である場合が多い。さらに、歯根の発達状態から、被葬者の死亡年齢は、約4歳であると推定される。



第917図 5区2面11号墓出土歯萌出状態想定図[約4歳]

(16) 12号墓出土人骨[2面]

①埋葬形態

人骨は、一辺が111cm×99cm・深さ126cmの隅丸正方形土坑から検出されている。土坑下部には、円形の木棺が認められる。恐らく、座葬であったと推定される。

②副葬品

在地系土器皿・漆器・銭貨の寛永通寶が出土している。

③人骨の出土部位

頭蓋骨片と遊離歯が出土している。他の土坑墓では、改葬の可能性があるものも認められたが、本被葬者に関しては約8歳と推定されているため、骨が脆く薄いために溶解した可能性が高い。

④被葬者の個体数

出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

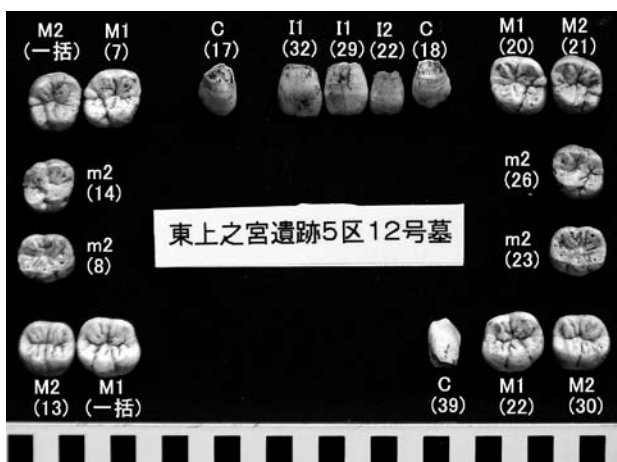


写真35. 5区2面12号墓出土遊離歯

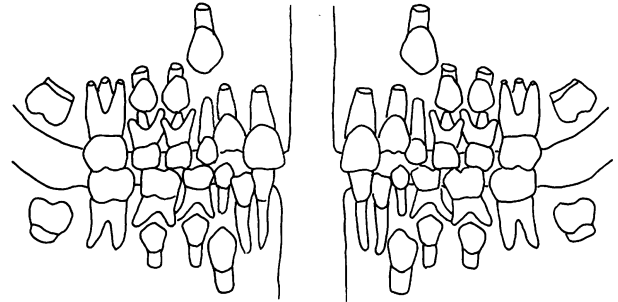
⑤被葬者の性別

出土遊離歯の歯冠計測値が比較的大きいため、被葬者の性別は男性(男児)であると推定される。

⑥被葬者の死亡年齢

遊離歯は、乳歯と永久歯の混合歯である。乳歯の内、

第2乳臼歯の咬耗は、象牙質が点状に露出する程度である。永久歯を観察すると、第1大臼歯の咬耗はエナメル質のみであるが認められる。一方、第2大臼歯には咬耗は認められない。これは、まだ顎骨内にあり未萌出であ



第918図 5区2面12号墓出土歯萌出状態想定図[約8歳]

るためであると推定される。さらに、第2大臼歯の歯根は発達していない状態であるため、被葬者の死亡年齢は、約8歳であると推定される。

(17) 13号墓出土人骨[2面]

①埋葬形態

人骨は、直径35cm・深さ68cmの円形土坑から検出されている。土坑下部には、円形の木棺が認められる。被葬者は新生児と推定されている。新生児の身長は、男女共に、約45cmから52cmである。恐らく、座葬あるいは屈葬であったと推定される。

②副葬品

副葬品は、出土していない。

③人骨の出土部位

遊離歯片のみ出土している。他の土坑墓では、改葬の可能性があるものも認められたが、本被葬者に関しては新生児と推定されているため、骨が脆く薄いために溶解した可能性が高い。

④被葬者の個体数

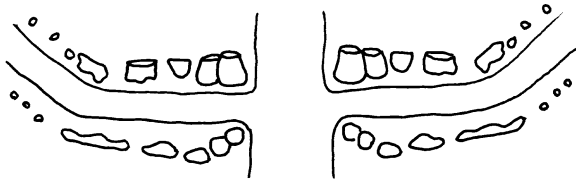
被葬者の個体数は、恐らく1個体であると推定される。

⑤被葬者の性別

性別は不明である。

⑥被葬者の死亡年齢

遊離歯片は、乳歯のみである。被葬者の死亡年齢は、恐らく新生児であると推定される。この事は、本遺跡出土土坑の中で、本土坑の規模が一番小さい事からも裏付けられる。



第919図 5区2面13号墓出土歯萌出状態想定図[新生児]

(18) 14号墓出土人骨[2面]

①埋葬形態

人骨は、直径33cm・深さ80cmの円形土坑から検出されている。土坑下部には、円形の木棺が認められる。被葬者は生後約9ヶ月と推定されている。新生児の身長は、男女共に、約66cmから77cmである。恐らく、座葬あるいは屈葬であったと推定される。

②副葬品

副葬品は、出土していない。

③人骨の出土部位

人骨片及び遊離歯のみ出土している。他の土坑墓では、改葬の可能性があるものも認められたが、本被葬者に関しては生後9ヶ月と推定されているため、骨が脆く薄いために溶解した可能性が高い。

④被葬者の個体数

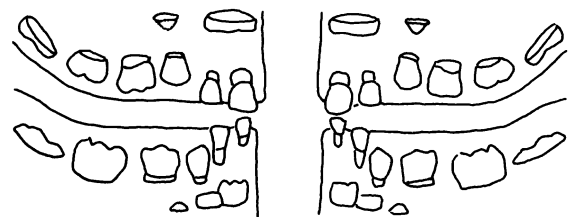
出土遊離歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑤被葬者の性別

遊離歯の歯冠の内、上顎右第2乳臼歯(m2)の近遠心径は8.7mmであり頬舌径は9.5mmである。日本人男子及び女子の近遠心径は9.06mmと8.92mmであり、頬舌径は9.91mmと9.65mmである(船津他 1999)ので、被葬者の性別は女性(女兒)であると推定される。

⑥被葬者の死亡年齢

遊離歯は、乳歯のみ出土しており、第1乳臼歯及び第2乳臼歯の歯冠はほぼ形成が完成しているので、被葬者の死亡年齢は、生後約9ヶ月であると推定される。



第920図 5区2面14号墓出土歯萌出状態想定図[生後9ヶ月]

まとめ

東上之宮遺跡の1区・3区・5区から、中近世の人骨が出土した。5区の墓域では、天明三(1783)年以前に14基が、また以後に2基の墓坑が構築されていた。墓域の位置と被葬者の関係は、大きな傾向として、北部が成人男性と成人女性、南部が未成年であった。また、墓坑の大きさもある程度の傾向が認められる。人骨の残存状態には大きな差があったが、未成年の場合は骨が薄くて脆いために溶解したと考えられた。しかしながら、成人の場合は明らかに人骨の残存状態に差があるため、1号墓・2号墓・7号墓・9号墓の4基は改葬されたと推定した。なお、10号墓は、改葬して火葬にしてからさらに再葬したものと推定された。本遺跡は、群馬県の近世墓解明に貴重なデータを提供した重要な遺跡である。以下の第18表に出土人骨のまとめ・第921図に5区墓坑と被葬者の関係・第922図に墓坑の大きさと被葬者の関係・第19表に歯冠計測値を示した。

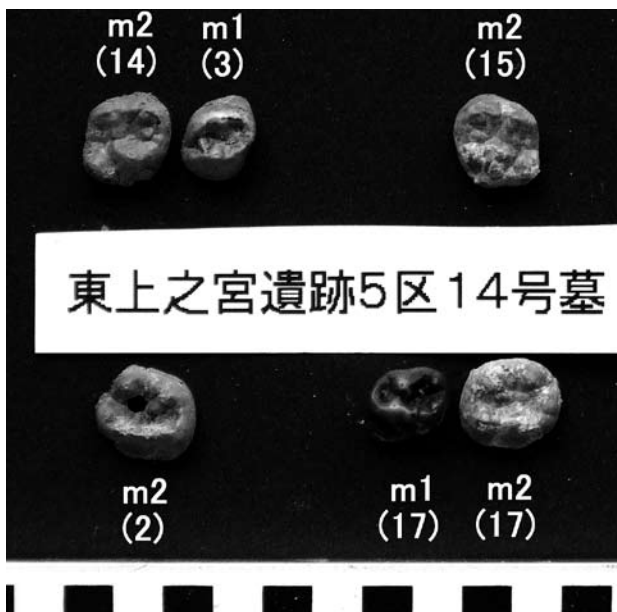


写真36. 5区2面14号墓出土遊離歯

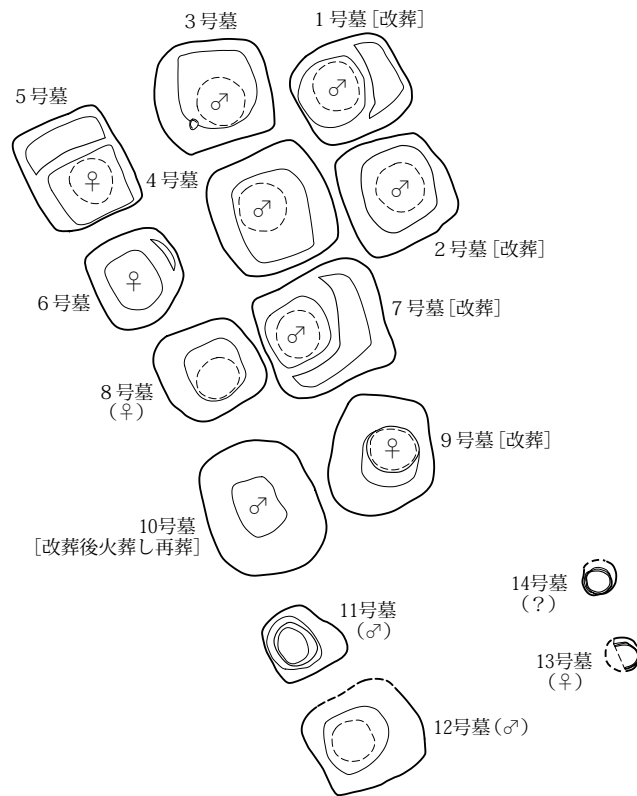
第13章 自然科学分析

引用文献

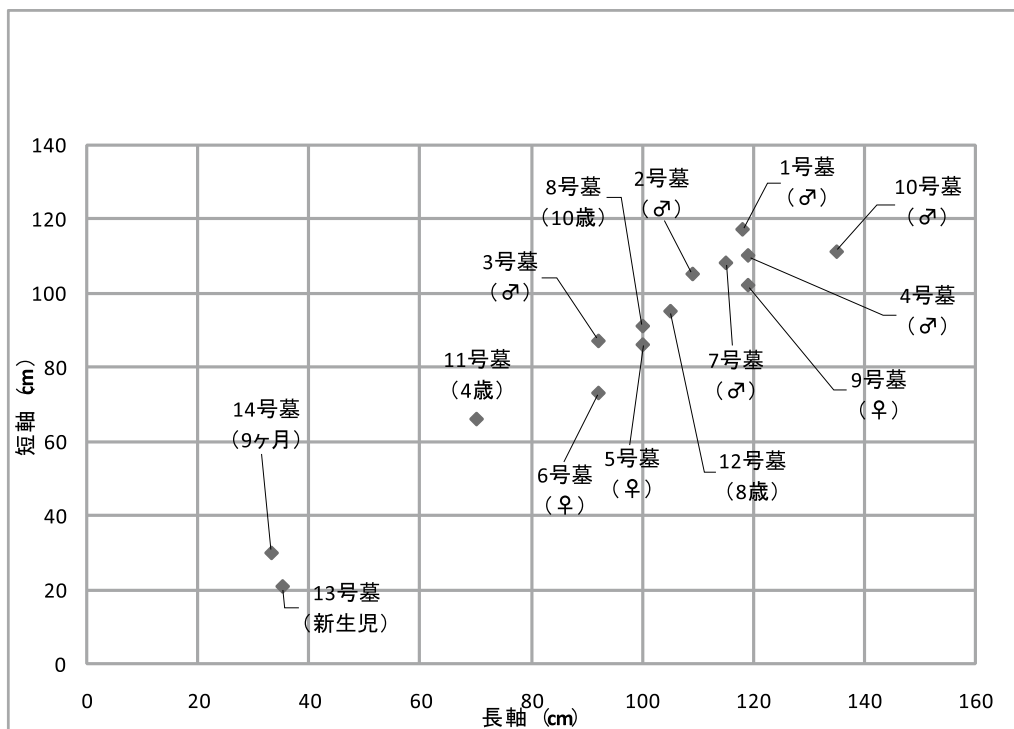
- 馬場悠男・茂原信生・芹沢雅夫・江藤盛治 1984 「戸塚山古墳出土女性人骨の拡大した顎関節と歯の異常磨耗」『人類学雑誌』92：45-52
- 藤田恒太郎 1949 「歯の計測規準について」『人類学雑誌』61：1-6
- 船津敬弘・近藤信太郎・井上美津子・若月英三・佐々竜二 1999 「日本人乳歯の大きさにあける性差」『小児歯科学雑誌』、37：700-707
- 権田和良 1959 「歯の大きさの性差について」『人類学雑誌』67：151-163
- MATSUMURA, Hirofumi 1995 A microevolutional history of the Japanese people as viewed from dental morphology, National Science Museum Monographs No.9, National Science Museum
- 山本美代子 1988 「日本古人骨永久歯のエナメル質減形成」『人類学雑誌』96：417-433
- 橋崎修一郎 2007 「群馬県出土中世火葬遺構」『(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『研究紀要』25：101-120
- 長岡朋人・平田和明 2005 「中世日本人の破損頭蓋の性別判定」『Anthropological Science』113：17-26
- 鈴木隆雄 1996 『日本人のからだ』朝倉書店

第18表 東上之宮遺跡出土人骨まとめ

区名	土坑墓名	時期	個体数	性別	死亡年齢	古病理	その他	改葬
1区	82号土坑	中世	1個体	男性(男児)	約11歳	エナメル質減形成	土葬人骨	無し
	83号土坑	中世	1個体	女性	老齢	—	土葬人骨	無し
3区	4号土坑	中世	1個体	女性	約30歳代～40歳代	—	火葬人骨	無し
	5号土坑	中世	1個体	女性	約30歳代～40歳代	—	火葬人骨	無し
5区	泥流下層	近世	不明	不明	成人？	—	火葬人骨	不明
	泥流中	近世	1個体	女性	約24歳以上	クリッパ [®] ル・ファイル症候群	土葬人骨	有り
	1号土坑	近世	1個体	女性	約20歳代	—	土葬人骨	無し
	2号土坑	近世	1個体	女性	19歳前後	歯の生前脱落	土葬人骨	無し
	1号墓	近世	1個体	男性	約10歳代後半～20歳代	—	土葬人骨	有り
	2号墓	近世	1個体	男性	成人	—	土葬人骨	有り
	3号墓	近世	1個体	男性	老齢	—	土葬人骨	無し
	4号墓	近世	1個体	男性	約30歳代	歯の異常磨耗	土葬人骨	無し
	5号墓	近世	1個体	女性	約20歳代	—	土葬人骨	無し
	6号墓	近世	1個体	女性	約20歳代	—	土葬人骨	無し
	7号墓	近世	1個体	男性	約30歳代	—	土葬人骨	有り
	8号墓	近世	1個体	女性(女児)	約10歳	—	土葬人骨	無し
	9号墓	近世	1個体	女性	約40歳代	—	土葬人骨	有り
	10号墓	近世	1個体	男性	成人	—	火葬人骨	改葬後火葬
11号墓	近世	1個体	男性(男児)	約4歳	—	土葬人骨	無し	
12号墓	近世	1個体	男性(男児)	約8歳	—	土葬人骨	無し	
13号墓	近世	1個体	不明	新生児	—	土葬人骨	無し	
14号墓	近世	1個体	女性(女児)	生後約9ヶ月	—	土葬人骨	無し	



第921図 墓坑と被葬者の性別



第922図 墓の大きさと被葬者

第19表 東上之宮遺跡出土人骨歯冠計測値及び比較表

歯種	東上之宮遺跡												江戸時代人*		現代人**																	
	計測		1区82号		5区1号土坑		5区1号墓		5区4号墓		5区5号墓		5区6号墓		5区7号墓		5区8号墓		5区9号墓		5区11号墓		5区12号墓		Matsumura, 1995		権田, 1959					
	項目	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	♂	♀	♂	♀				
I1	MD	8.6	8.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8.7	8.5	8.78	8.38	8.67	8.55			
	BL	—	破損	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	破損	破損	7.52	7.06	7.35	7.28		
I2	MD	—	7.0	6.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6.7	7.16	6.97	7.13	7.05			
	BL	—	破損	6.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	破損	6.74	6.33	6.62	6.51		
C	MD	—	6.9	8.2	8.1	7.6	7.6	8.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7.5	7.4	8.01	7.60	7.94	7.71	
	BL	—	8.1	8.8	8.9	8.2	8.5	8.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8.1	8.3	8.66	8.03	8.52	8.13	
M1	MD	—	—	10.2	10.1	11.0	10.9	—	—	11.4	11.2	10.3	10.6	—	—	10.7	11.2	11.3	—	—	—	—	—	—	—	11.0	11.0	10.61	10.18	10.68	10.47	
	BL	—	—	11.5	11.6	11.6	11.7	—	—	12.0	12.1	11.3	11.5	—	—	11.8	11.3	11.5	—	—	—	—	—	—	—	11.5	11.4	11.87	11.39	11.75	11.40	
M2	MD	9.8	—	9.4	9.4	9.7	9.6	—	—	10.5	10.4	—	9.9	—	—	10.2	9.6	9.1	—	—	—	—	—	—	—	10.3	10.5	9.88	9.48	9.91	9.74	
	BL	11.7	—	11.4	11.3	11.7	11.7	—	—	12.1	12.4	—	11.6	—	—	11.5	11.2	10.9	—	—	—	—	—	—	—	11.5	11.4	12.00	11.52	11.85	11.31	
M3	MD	—	—	—	—	9.4	9.3	—	—	—	—	9.4	10.0	—	—	9.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8.94	8.86	
	BL	—	—	—	—	10.2	10.8	—	—	—	—	11.4	11.2	—	—	11.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10.79	10.50	
C	MD	6.4	—	—	7.1	6.8	6.7	—	7.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6.7	7.06	6.69	7.07	6.68		
	BL	6.8	—	—	7.9	7.7	7.8	—	8.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8.14	7.50	
M1	MD	11.6	11.6	—	11.0	12.6	12.6	—	—	12.8	12.8	11.4	11.4	—	—	11.6	12.0	—	—	—	—	—	—	—	—	12.5	12.1	11.72	11.14	11.72	11.32	
	BL	10.8	10.9	—	10.4	11.2	11.4	—	—	12.1	11.9	10.9	10.9	—	—	11.5	11.0	—	—	—	—	—	—	—	—	11.7	11.6	11.15	10.62	10.89	10.55	
M2	MD	11.1	11.2	11.4	11.4	11.3	11.0	—	—	12.0	11.8	11.5	11.6	10.9	—	11.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11.6	11.4	11.3	11.39	10.78	11.30	10.89
	BL	10.9	10.9	9.9	10.2	10.3	10.3	—	—	11.3	11.5	10.8	11.0	10.5	—	9.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11.1	10.4	10.6	10.75	10.21	10.53	10.20
M3	MD	—	—	—	—	—	—	—	—	11.3	11.2	11.2	11.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10.96	10.65
	BL	—	—	—	—	—	—	—	—	10.8	10.8	10.4	10.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10.28	10.02

註1. 計測値の単位は、すべて、「mm」である。

註2. 歯種は、I1 (第1切歯)・I2 (第2切歯)・C (犬歯)・P1 (第1小臼歯)・P2 (第2小臼歯)・M1 (第1大白歯)・M2 (第2大白歯)・M3 (第3大白歯)を意味する。

註3. 計測項目は、MD (歯冠近遠心径)・BL (歯冠唇側舌径)を意味する。

註4. 「破損」とは、歯冠が破損しており計測不能であることを示す。

註5. 「*」は、MATSUMURA (1995)より引用。なお、MATSUMURA (1995)には、第3大白歯のデータは無い。

註6. 「**」は、権田(1959)より引用。

4 獣歯骨鑑定分析

本報告でのウマの年齢推定は主に西中川・松元(1991)と野村(1977)によった。

1. 1区出土の馬

(1) 38号溝出土馬[5面]

① 1号馬：3・4歳の幼齡馬

A：右下顎の第4前臼歯と思われる。歯冠高がかなり高く、歯根がまだ分岐していないことは幼齡馬のものであることを示している。

一括①：右下顎臼歯が3本確認されている。第3前臼歯、第2後臼歯、第3後臼歯である。第3大臼歯は10片ほどに分離している。歯冠高や歯根の分岐状況から3・4歳の幼齡馬であることがわかる。

② 2号馬：老齡馬

一括②a：右下顎臼歯片で、歯冠高が25.0±mmである。歯冠幅14.1mm、下後錘谷長6.9mm、doubleknot長14.3mmである。

一括②b：右上顎臼歯2片である。舌側歯冠高は26.9mmと低い。

一括②c：左下顎臼歯片。数片に分離している。Doubleknot長12.5mm、下内錘谷長7.4mmを計測し、頬側歯冠高が27.6mmと低い。

以上3本の臼歯の歯冠高は老齡馬かそれにごく近い馬齡であることを示している。

(2) 49号溝出土馬[6面]

① 3号馬：壯齡馬

A：数片に分離している左下顎第3後臼歯で、歯冠高38.0+(2.0±)mm、doubleknot長11.3mmである。

2. 2区出土の馬

(1) 1号溝出土馬[2面]

① 4号馬：10歳前後の壯齡馬

数10片に分離している右上顎第3後臼歯である。原錘幅3.0mm、頬側歯冠高39.9mmである。

(2) 2号溝出土馬[5面]

① 5号馬：壯齡馬

A：9片の細歯片で、ウマの臼歯であるが、詳細を知る

のは困難である。

B：10数片の細歯片で、ウマの上顎臼歯片と思われるが、詳細を知るのは困難である。

C：10数片の細歯片で、ウマの上顎臼歯片であることは確認できるが、詳細を知るのは困難である。歯冠高29.7+mmである。

D：右下顎臼歯片で、下後錘谷長8.0mm、頬側歯冠高35.9+mmを計測する。他に数10片の細歯片がある。

E：数10片の細歯片である。詳細を知るのは困難である。

F：左下顎臼歯片で、舌側歯冠高32.2+mm、下内錘谷長12.2mm、下内錘幅6.3mmである。下内錘幅が大きく、前臼歯と思われる。

なお、5号馬の一部の歯片は6号馬のものである可能性もある。

② 6号馬：7歳前後の壯齡馬(第20表)

A：数10片に分離した下顎歯片である。歯冠高27.2+mmあり、それ以上の詳細を知るのは困難である。

B：右下顎第2前臼歯である。10片ほどに分離している。舌側歯冠高は32.0mm、下後錘谷長は17.2mm、doubleknot長は15.1mmである。

C：右下顎第3前臼歯である。歯冠高は頬側が50.8mm、舌側が51.2mmを計測し、6・7歳の年齢を想定させる。

D：右下顎第4前臼歯である。歯冠高は頬側が56.7mm、舌側が57.7mmを計測し、7・8歳の年齢を想定させる。

一括：数10片の臼歯片で、左下顎臼歯片の存在が確認できる。歯冠高38.1+mm、下後錘幅6.7mmである。

数10片の微細歯片で、詳細を知るのは困難である。

E：数10片の細歯片で、上顎臼歯と思われるが、詳細を知るのは困難である。歯冠高24.0+mm。

F：数10片の細歯片で、下顎臼歯片と思われるが、詳細を知るのは困難である。歯冠高は23.5+mm。

G：右下顎の第1後臼歯である。舌側歯冠高が50.1mmで、6～7歳と思われる。

H：右下顎臼歯で、Doubleknot長13.5mm、下後錘谷長7.5mm、下内錘谷長7.4mm、舌側歯冠長33.3+mmである。

I：右下顎臼歯であるが、下内錘幅が4.2mmと小さいことから、第2後臼歯と思われる。歯冠高は舌側が51.2mm、頬側が53.0mmあり、年齢は7・8歳が推定される。

J：10数片に分離した下顎臼歯細片で、詳細を知るのは

困難である。

K：数10片の微細骨片で、詳細を知るのは困難である。

(3) 7面出土馬

①7号馬：壮齡馬

A：数10片に細片化した下顎臼歯片である。歯冠高32.1+mm。

(4) 17号溝出土馬[5面]

①8号馬：老齡馬

左上顎臼歯片で数片に分離している。原錘幅13.0mm、舌側歯冠高23.0+ (2.0±) mmである。歯冠高は老齡馬かそれにごく近い馬齡であることを示している。

(5) 2号遺物集中出土馬[8面]

①9号馬：3歳前後の幼齡馬(第20表)

A：10数片に分離した左下顎臼歯である。下後錘谷長11.4mm、下内錘谷長11.3mm、下内錘幅4.0mmである。下内錘幅が4.0mmと小さいことから、後臼歯と思われる。舌側歯冠高68.4±mmあり、幼齡馬であることを示している。

B：左下顎臼歯で、頬側歯冠高は51.2mmである。第1後臼歯の可能性はある。

C：切歯片6片と下顎臼歯片が5片である。もっとも歯冠高の高い歯片は52.4+mmである。下内錘谷長(?)は13.4mmである。

D：右下顎の臼歯6本で、比較的保存良好であるが、第3後臼歯は破片化している。第4前臼歯は未咬耗で、第2前臼歯、第3前臼歯は咬耗が始まってまだ間もない。まだ2～3才の幼齡馬である。第2前臼歯～第2後臼歯までの歯列長は133.5mmで、中型在来馬相当の馬格を思わせる。

E：3本の左上顎臼歯が確認できる。歯冠高、中附錘幅、咬耗の様子、咬合面の傾斜などから、それぞれ第3前臼歯又は第4前臼歯、第2後臼歯、第3後臼歯と判断される。前臼歯は咬耗が始まってまだ間もなく、第3後臼歯は未咬耗である。

F：右上顎の臼歯5本で、第3後臼歯だけが確認されない。歯冠高、中附錘幅、咬耗の様子などの様子から、Eと同一個体であろう。

歯の大きさは中型在来馬相当の馬格を思わせる。

一括：上顎臼歯で、数10片に分離していて、詳細を知るのは困難である。

(6) 5面出土馬

①10号馬：幼齡馬または壮齡馬?

A：左下顎第3後臼歯で、歯冠長25.7+mm、歯冠幅11.9mm、頬側歯冠高41.2+mm、下後錘谷長7.6mm、doubleknot長12.8mmを計測する。

②11号馬：壮齡馬?

A：ウマの歯であるが、細片化して詳細を知るのは困難である。歯冠高27.2+mm。

③12号馬：幼齡馬または壮齡馬

A：切歯片である。歯冠長9.5mm、歯冠幅7.2+mm、歯冠高36.4+mmである。

④13号馬：4歳前後の幼齡馬

A：左上顎第3前臼歯か第4前臼歯である。10片ほどに分離している。頬側歯冠高69.4mm、中附錘幅4.3mmである。なお、10号、11号、12号、13号馬はどれも2区5面の出土であるが、出土地点が互いにかなり離れていることで、別個体として扱った。

3. 5区出土の馬

(1) 4号溝出土馬[2面]

①14号馬：壮齡馬

左上顎臼歯片で、歯冠高は33.9mmである。

(2) 22号溝出土馬[7面]

①15号馬：6歳前後の壮齡馬(第20表)

A：10数片に細片化した右下顎臼歯で、第3前臼歯又は第4前臼歯と思われる。歯冠長14.6+mm、舌側歯冠高39.0+mm、doubleknot長13.6mm、下内錘幅6.0mmである。

B：左下顎の臼歯で、第4前臼歯～第3後臼歯までの存在が確認される。歯冠高からは5・6歳と推定され、歯の大きさは小型在来馬相当の馬格を思わせる。

(3) 23号溝出土馬[7面]

①16号馬：6・7歳の壮齡馬(第20表)

A：右下顎臼歯である。歯冠長、内錘幅、咬耗面の傾斜から第2後臼歯の可能性が高い。歯冠高は頬側が53.0mm、舌側が51.2mmである。

(4) 33号溝出土馬[8面]

①17号馬：老齡馬

A：左上顎臼歯片で、歯冠高が22.8mmと低く、老齡馬かそれにごく近い馬齡であることを示している。中附錘幅5.2mm。

4. 3区出土の骨

(1) 4面出土骨

①種不明の焼骨

A：焼骨片2片である。最大保存長は23.1×14.9mmである。亀裂や歪みが生じていて、1000°Cに近い高熱で焼かれたものと思われる。

第20表 下顎臼歯計測値

1号馬

	一括①	A	一括①
	第3前臼歯	第4前臼歯	第2後臼歯
	右	右	右
歯冠近遠心径	28.5+	27.5	27.3
歯冠頬舌径	15.1	15.9	12.5
歯冠高頬側	60.7+	76.3	76.8
歯冠高舌側	66.5	80.7	78.9
下後錘谷長	10.8	10.3	10.2
下内錘谷長	17.2		12.1
doubleknot長	16.8	15.6	12.6
咬合面の傾斜	93°	90°	80°
下内錘幅	6.3	6.1	4.8

主な参考文献

西中川駿・松元光春 1991「遺跡出土骨同定のための基礎研究—特に在来種および現代種の骨、歯の計測値の比較」『古代遺跡から見たわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究』平成2年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書、164-188.

野村晋一 1977『概説馬学』西川書店.

6号馬

	C	D	G	I
	第3前臼歯	第4前臼歯	第1後臼歯	第2後臼歯
	右	右	右	右
歯冠近遠心径	28.3	28.0	23.1	25.7
歯冠頬舌径	15.0	14.8	13.1	13.6
歯冠高頬側	50.8	56.7	43.0+	53.0
歯冠高舌側	51.2	57.7	50.1	51.2
下後錘谷長	9.7		10.0	
下内錘谷長	15.2	13.6		
doubleknot長	16.3	15.9	13.2	12.2
咬合面の傾斜	92°	85°	80°	
下内錘幅	6.5	6.3	4.7	4.2

9号馬

	D					
	第2前臼歯	第3前臼歯	第4前臼歯	第1後臼歯	第2後臼歯	第3後臼歯
	右	右	右	右	右	右
歯冠近遠心径	31.3	29.3	28.5	26.4	26.7	
歯冠頬舌径	13.4	16.0	14.5	14.0	13.5	
歯冠高頬側	52.5	57.9	52.0	66.5	65.7	
歯冠高舌側	52.7	61.4	48.5+	71.2	68.7	43.9
下後錘谷長		11.5		9.5	7.7	
下内錘谷長		8.6		9.6	10.9	9.2
doubleknot長	13.3	16.8	15.4	13.4	12.3	
咬合面の傾斜	100°	95°		75°	72°	
下内錘幅		5.0		4.6	4.2	

15号馬

	B			
	第4前臼歯	第1後臼歯	第2後臼歯	第3後臼歯
	左	左	左	左
歯冠近遠心径	24.6	22.1	20.4+	30.6
歯冠高頬側	63.2	52.2	63.9	65.6
下後錘谷長			8.8	
下内錘谷長			10.7	
doubleknot長	14.6	12.3	11.1	
咬合面の傾斜			85°	
下内錘幅	5.9	4.6+	5.4	4.9

単位：mm



写真37. 1号馬一括



写真38. 1号馬A



写真39. 2号馬一括



写真40. 3号馬A



写真41. 4号馬

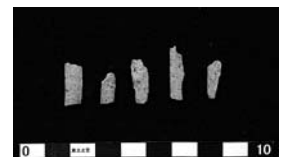


写真42. 5号馬A

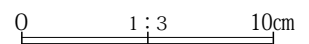




写真43. 5号馬 B



写真44. 5号馬 C



写真45. 5号馬 D



写真46. 5号馬 E



写真47. 5号馬 F



写真48. 6号馬 A



写真49. 6号馬 B



写真50. 6号馬 C



写真51. 6号馬 D



写真52. 6号馬一拵



写真53. 6号馬 G



写真54. 6号馬 K



写真55. 8号馬



写真56. 9号馬 A



写真57. 9号馬 B



写真58. 9号馬 D



写真59. 9号馬 E



写真60. 9号馬 F



写真61. 12号馬 A



写真62. 13号馬 A



写真63. 14号馬



写真64. 15号馬 A



写真65. 15号馬 B



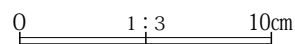
写真66. 16号馬 A



写真67. 17号馬 A



写真68. 焼骨 A



第14章 総括

1 天明三(1783)年の浅間山噴火による泥流被害の復旧について(1面)

天明三年当時、本遺跡地は東上之宮村に属していた。東上之宮村は、利根川の左岸に位置し、天明三年の浅間山噴火による軽石及び同年七月八日(旧暦)の天明泥流によって大きな被害を受けた。今回、発掘調査を行ったのは、利根川と宮川(現葦川放水路)の合流点の東側であるが、各調査区において天明泥流が厚く堆積している様子が確認できた。近接する宮柴前遺跡では、伊勢崎市教育委員会による発掘調査で同様に被災した農耕地が確認され、文献資料も含めてその被害の実態が明らかにされている。

東上之宮村やその周辺における被災状況の記録は、『前橋藩松平家記録』^(註1)及び『沙降記』^(註2)などで確認することができる。

『沙降記』によれば、東上之宮村の南方に位置する柴街(町)では七月八日に一步(坪)あたり一斛(石)三斗程度の沙(軽石)が積もったという。そして、被害を拡大させたのは泥流の発生であり、民家、巨木、人畜漂流する者許多(あまた)であったという。七月十日に伊勢崎藩士が、那波郡を巡県(検)中に上宮村(上之宮村)を経た際の様子として、泥に埋もれる里民が数十人あり、という記載がある。

『前橋藩松平家記録』天明三癸卯年九月廿五日条によれば、東上之宮村の用水堀は、長さ千三百二十間程、幅五間程、深さ一丈五尺程、「焼石泥」に埋もれたとのことである。

東上之宮村では、耕作地の四割程度が天明泥流により被災したとされており^(註3)、今回の発掘調査を行った範囲は、全て泥流による被害を受けていた。

天明泥流による被害を受けた農耕地の復旧は、前橋市や玉村町の天明泥流被災遺跡で確認されている。本遺跡においても復旧作業が行われた状況が4区において確認できている。

4区における天明泥流の復旧作業は、天明泥流を掘り抜き、その下面にある耕作土を掘り出して、天明泥流の

上において耕作土として使う、いわゆる天地返しである。本遺跡の復旧痕は、溝状と土坑状の2種類が確認できるが、土坑状の復旧痕は溝沿いの一部に限られる。復旧痕の掘削位置は、天明泥流で埋没する前の溝や畦畔の位置を意識して決められていたと考えられ、溝の屈曲に合わせて復旧痕が掘削されている部分や、畦畔の位置で掘削単位が掘り分けられている状況が確認できる。復旧痕には、溝状・土坑状を問わず、充填されていたのは焼石の混じった天明泥流であり、泥のみや焼石のみといった選択はなされていない。抜き取った天明泥流下の耕作土の厚さは0.3m程度である。

復旧作業は、一度で終了しておらず、掘り残し部分の追加掘削や掘削した範囲のさらなる掘り下げが行われた場所も確認できる。掘り残し部分の追加掘削は1号溝(上層)の両側と3号溝の北東側で確認できる。最初の復旧溝の掘削が溝から1~2m程度空いていたためか、一部は当初の復旧溝と重なるようにして、土坑状に掘削が行われている。ただし、1号溝(上層)と5号復旧溝群の間に掘削された10号復旧溝群は、折り重なる溝状に掘削される。一方、さらなる掘り下げの例としては4号復旧溝群の東側に掘削された9号復旧溝群であり、0.1~0.2m程度深く、耕作土を掘り下げている。

4区南西部の北西~南東方向の畦畔を境にして復旧作業を行った範囲と行わない範囲とが分けられているが、天明泥流埋没前の旧地表面の標高を確認した限りでは、明瞭な高低差は認められない。ただし、残存している天明泥流の厚さにおいては、4区東端で0.3m程度に対し、西端では0.7m程度であり、利根川寄りの西へ行くほど堆積が厚くなっていることから、天明泥流の厚さを目安として復旧作業を行う範囲を決めていたことが推測される。なお、復旧作業が行われた形跡のない1区~3区では1m以上の天明泥流が残存しており、1・5区では2mを超える地点もある。そして各区とも天明泥流内層に止まる復旧痕は確認していない。

天明泥流被害の復旧作業は、耕作土確保のための天地返しだけでなく、用排水路の復旧も行われた。復旧が行われたのは、4区1号溝であり、天明泥流で埋没したも

の掘り返されており、昭和40年代の圃場整備で埋没するまでの間、使用され続けた。掘り直しにおいては、溝の規模等を変えられていないものと考えられ、溝の両脇にはAs-A軽石が残存し、深度はやや浅く復旧された部分では天明泥流が残存していた。本遺跡における天明泥流の溝の復旧が確認できたのは、この4区1号溝のみであり、同規模の溝であっても、同溝より西側に位置する溝の復旧は確認できなかった。これについても天明泥流の堆積した厚さにより復旧が行われる範囲が決められていたことを示すものと考えられる。

2 天明三年前の遺構について(2面)

本遺跡では、天明三年の浅間山噴火によるAs-A軽石の堆積により、当時の地表面が保護されたことにより、極めて良好な状態で残存していた。今回の発掘調査地内は、耕作地が中心であり、屋敷等は発見されなかったが、田畑の他に溝や道路、墓地も確認できた。作物などの植物遺存体はほとんど出土しなかったものの、作物の痕跡が見られた他、人の行動を示す足跡や指跡、当時の環境を現す動物等の足跡までが確認できている。

(1) 畑について

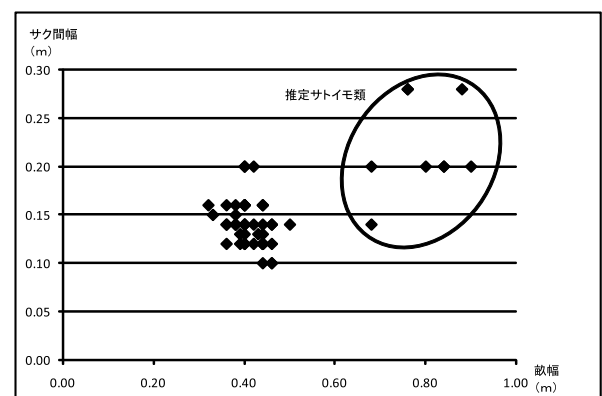
2面における畑は、1～5区で計59区画確認している。菊池誠一氏が「小前御書上帳」を基にまとめた東上之宮村における畑の全体の面積は463,727㎡で、筆数は393筆である。平均すると1筆あたり1180.0㎡であり、菊池誠一氏の水田区画における指摘^(註3)と同様に、当時の「筆」は複数の小区画から成るものと考えられる。発掘調査された畑の区画から「筆」を想定することは困難であるが、区画を完全に確認できた畑の面積の平均は132.2㎡であり、9区画で1筆と考えられ、道路や溝が筆境となっていたものと考えられる。

畑の畝及びサクについては、その規模や形状に多様性が見られる。畝幅は、0.35～0.5m程度の畑が大半であり、0.68m以上の広い畝幅の畑が一部のみみられる。幅の広い畑については、作物の株跡の穴に石膏を流し込んで形取りを行った結果、サトイモの可能性が指摘されるが、それ以外の畑については、作物の種類について推測する根拠を得ることができなかった。サク間幅については、

幅広の畑については、0.2m以上の広い傾向にあるといえるが、それ以外の畑については0.1～0.2m程度であり、鋤の幅や土寄せ後の畝の崩れにより、幅の計測値に差が出た可能性が指摘できる。

1つの区画で複数の作物を栽培する間作については、1区の2・5・25号畑で行っていた可能性が確認できる。ただし、他の区では確認できておらず、限定的に行われた栽培方法と考えられる。

畑の作物は残存していなかったものの1区画を除いてすべて区画に作物が植わっていたと考えられる。唯一の例外として、1区9号畑は、わずかに東西方向に帯状のサクの痕跡が見えるものの、畝立てが行われておらず、耕作土のブロックが区画一面に散らばっている状態であった。耕作土は柔らかく、当時の人の足跡が各所に見られ、荒起こしの状態と考えられる。耕作土中に少量ではあるが、As-A軽石が見られることから、七月八日以前のAs-A軽石の降下後に荒起こしが行われたものと考えられる。やや時代は下るが、柴町の荻野求馬の日記より復元された農作業暦^(註4)や伊勢崎町武家の農業日記^(註5)によると、天明泥流で埋没する前後1か月の時期に蒔かれる作物には粟、大根、菜、蕎麦がある。1区9号畑に蒔く予定であった具体的な作物名は不明であるが、前述の作物のいずれかであった可能性がある。ただし、天候不良により通常と異なる時期の作業を行っている可能性もある。



第923図 2面畑の畝幅とサク間幅の相関図

第21表 2面畑一覧表

区	畑No.	面積(m ²)	畝幅(m)	サク間幅(m)	備考
1	1	(3.0)	(0.22)	0.10	
	2	(169.0)	0.52 0.28	0.15	間作A 間作B
	3	(18.3)	0.44	0.14	
	4	(27.2)	0.40	0.12	
	5	(52.1)	0.80	0.30~0.36 0.12~0.14	間作か
	6	187.5	0.46	0.10	
	7	(67.8)	0.68	0.20	
	8	(53.3)	0.68	0.14	
	9	58.4	(0.4)	(0.12)	畝立て前
	10	(57.3)	0.84	0.20	
	11	(27.1)	0.40	0.14	
	12	(88.6)	0.42	0.14	
	13	(21.7)	0.44	0.12	
	14	(23.9)	0.44	0.16	
	15	(119.5)	0.36	0.14	
	16	(21.0)	0.80	0.20	
	17	119.9	0.46	0.12	
	18	(39.3)	0.40	0.16	
	19	74.6	0.38	0.15	
	20	71.1	0.40	0.13	
	21	(89.7)	0.44	0.10	
	22	(125.2)	0.44	0.13	
	23	(24.9)	0.44	0.12	
	24	144.8	0.44	0.12	
2	25	(46.2)	0.45 0.24	0.10~0.20	間作A 間作B
	26	(99.9)	0.42	0.20	
	27	(73.9)	0.40	0.12	
	36	(124.2)	0.76	0.28	
	37	(8.7)	0.44	0.12	
	38	(84.8)	0.36	0.12	
	39	(68.5)	0.39	0.12	
	1	(159.4)	0.40	0.16	
	2	(4.4)	0.40	0.16	
	3	(94.2)	0.43	0.13	
	4	178.3	0.36	0.14	
	5	(81.8)	0.38	0.14	
6	(63.2)	0.38	0.14		
7	170.5	0.38	0.16		
8	154.6	0.40	0.14		
9	(141.9)	0.46	0.10		
10	(210.0)	0.42	0.12		
11	177.2	0.40	0.14		
12	(50.2)	0.90	0.20		
3	1	(151.5)	0.36	0.16	
	2	(80.3)	0.33	0.15	
	3	(7.1)	0.76	0.28	
	4	(64.2)	0.84	0.20	
	5	(31.3)	0.32	0.16	
4	1	(4.9)	0.46	0.14	
	1	(1.0)	0.38	0.14	
5	2	(121.7)	0.40	0.20	
	3	121.5	0.40	0.16	
	4	(34.9)	0.46	0.14	
	5	128.0	0.40	0.20	
	6	(7.2)	0.50	0.14	
	7	(149.2)	0.44	0.16	
	8	(20.9)	0.44	0.12	
	9	(189.6)	0.88	0.28	
	13	(72.9)	0.39	0.13	

第22表 2面水田一覧表

区	水田No.	面積(m ²)	長軸(m)	短軸(m)	巡り方	歩み方
1	1	(20.4)	8.6	(2.5)	①or②	B
	2	(14.1)	9.3	(1.6)	①or②	B
	3	109.8	12.7	8.8	②	B
	4	102.6	11.3	8.9	②	B
	5	113.5	12.6	8.7	②	B
	6	105.8	12.9	8.1	②	B
	7	(25.4)	(9.3)	(2.8)	②	B
	8	(44.7)	9.8	(4.5)	②	B
	9	(86.9)	(18.8)	5.0	②	B
	1	(67.9)	11.8	(6.0)	②	A
	2	152.8	12.8	12.5	①+②	A
	3	(156.8)	(14.6)	10.6	①	A
	4	(137.0)	(13.7)	10.0	③	A
	5	(144.8)	(14.1)	10.4	①+②	A
	6	(4.3)	(9.7)	(0.8)	?	?
	7	127.4	13.0	9.5	②	B
	8	138.4	15.2	9.3	②	B
	9	(133.9)	12.0	11.6	③	B
10	148.6	14.0	10.4	①+③	B	
11	(21.3)	(7.8)	(4.8)	①+②?	B	
12	(112.4)	13.5	10.0	②	B	
13	(24.7)	(3.0)	(1.3)	?	?	
14	126.3	11.2	11.2	①+②	B	
15	(34.1)	10.9	(3.1)	②?	B	
16	116.1	10.9	10.5	①+②	B	
17	(39.8)	10.8	(3.6)	①or②	A+B	
18	(121.00)	12.1	9.8	①+②	B	
19	(51.1)	12.0	(4.6)	①or②	B	
20	(4.7)	(9.0)	(8.5)	?	?	
21	(61.5)	12.4	(5.0)	①or②	A	
22	(22.0)	(6.3)	(4.6)	①or②	A	
2	1	(67.9)	(10.2)	(9.0)	①or②	B
	2	(98.2)	10.1	(9.6)	②	B
	3	(48.3)	(8.4)	(7.3)	②	B
	4	(11.1)	(6.4)	(2.9)	?	B
	5	(107.57)	12.6	8.3	①+②	B
	6	(123.3)	12.8	10.5	②	B
	7	(0.5)	(1.1)	(0.5)	?	?
	8	(96.1)	(11.6)	9.8	①+②	B
	9	124.9	12.8	9.7	①+②	B
	10	(25.6)	9.3	(4.5)	①+②?	B
	11	120.9	14.9	9.8	①+②	A
	12	122.4	15.1	8.2	②	A+B
	13	(88.0)	14.5	7.1	①+②	B
	14	(57.0)	(9.0)	8.2	①+②	B
	15	(104.6)	(14.7)	8.5	②	B
	16	121.6	15.4	7.9	①	A
	17	128.8	16.4	8.0	①+②	A+B
	18	72.7	10.2	6.9	①	A
	19	(0.4)		(0.5)	?	?
	20	(26.4)	7.6	(6.8)	②	B
	21	(84.1)	11.2	(8.9)	②	B
	22	(84.1)	11.2	8.9	①+②	B
	23	(0.7)	(1.2)	(0.7)	?	?
	24	(43.7)	9.4	(8.0)	①+②?	B
	25	(96.8)	11.6	11.3	①	B
	26	(23.9)	(6.9)	(6.3)	①?	B
3	1	(116.9)	15.8	9.1	①	B
	2	(141.83)	15.5	9.0	①+②	B
	3	(106.9)	(14.4)	8.8	①	B
	4	(59.8)	(9.3)	8.3	①?	B
	5	(20.3)	(8.0)	(4.5)	①?	B
	6	(0.1)	(0.2)	(0.1)	?	?
	7	(9.7)	(7.1)	(2.3)	?	?
	8	(21.6)	(7.5)	(4.8)	?	?
	9	(72.8)	(11.1)	8.5	?	?
	10	(121.1)	(17.1)	8.1	?	?
	11	(96.5)	11.7	10.3	?	?
	12	131.1	11.5	11.2	?	?
	13	162.7	19.8	8.3	?	?
	14	160.1	19.3	8.3	?	?
	15	159.1	18.8	8.3	?	?
	16	(127.7)	(18.2)	8.2	?	?
4	1	(79.8)	(11.8)	(10.3)	②	B
	2	(100.6)	11.4	(10.7)	②	B
	3	(13.3)	(1.4)		?	?
	4	(91.27)	19.6	4.7	①	B
	5	(20.5)	(8.8)	(5.3)	①or②	B
	6	(28.9)	(7.2)	(3.8)	②	B

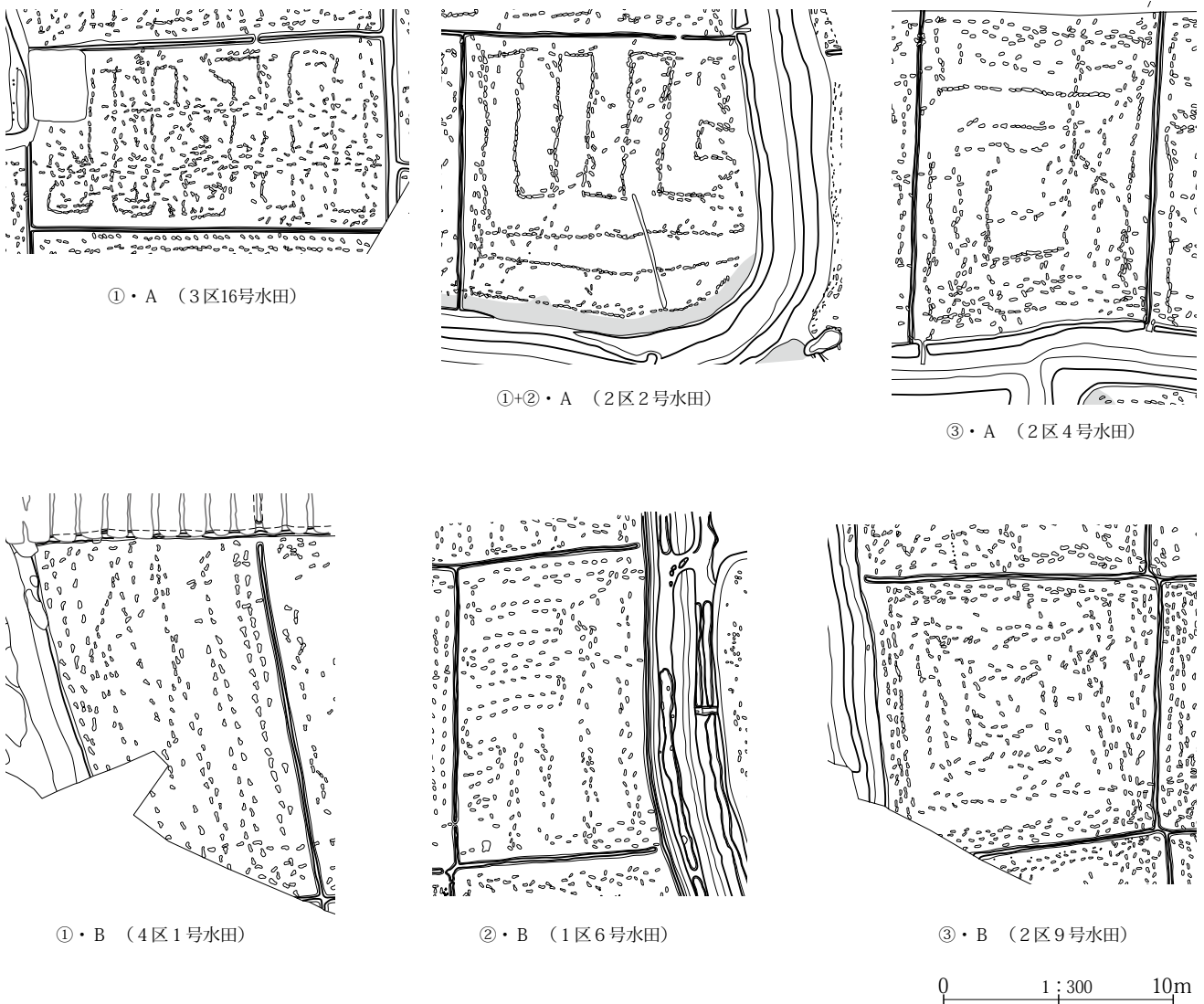
(2) 水田について

2面における水田は、1～5区で計79区画確認している。前述の菊池誠一氏による「小前御書上帳」を基にまとめた東上之宮村における水田(上田～下々田)の全体の面積は725,778㎡で、筆数は382筆である。畑よりも1筆あたりの面積は広く、1,899.9㎡である。本遺跡における2面水田で、四隅まで完全に調査できたのは20区画であり、その平均面積は127.3㎡であり、15区画程度で1筆に相当することとなる。この1筆の面積は本遺跡における調査区の半分程度の面積であり、細長く発掘を行った今回の調査から「筆」の在り様を想定することは困難である。

今回の調査では、水田内に多数の足跡を確認すること

ができた。宮柴前遺跡と同様に水田の足跡には、稲株の列(水田の四辺)に沿って規則正しく歩行しているものと、それとは関係なく、斜めに横切るものがある。足跡は、裸足によるものであり、草履や下駄を履いたと確認できる足跡はない。このことは、宮柴前遺跡と同様である。そして本遺跡では、畑や道路の脇などでも足跡を確認しているが、これらも裸足であった。

水田作業に伴って、水田内を歩行するのは、田植えと草取りであるが、田植えによる歩行とは、足の向きが異なることから、草取りによるものと考えられる。天明泥流によって水田が埋没したのは、田植えが終わってから1か月程度経ており、草取りが行われた後である。万遍なく、規則的な方向は草取りによるものと考えられ、全ての水田区画で確認することができる。



第924図 2面水田の歩行列分類図

水田区画内の歩行列には、耕作者の個性が表れていると考えられ、区画によって歩行の仕方が異なる。区画内をどのように巡るかであるが、①辺から反対側の辺まで往来する「往來型」、②反対側の辺より手前で折れ曲がる「半往來型」、③区画の外側から辺に沿って歩行し、中心へ向かう「渦巻き型」が確認できる。そして、これらは単独ではなく、縦(あるいは横)の①「往來型」と横(あるいは縦)の②「半往來型」を組み合わせることで区画内を巡ることもある。そして、一步一步の歩み方であるが、A左右の足の間を開けずに一列に前後でつながるようにして、1本の直線状の歩行列を作るような歩み方と、B左右の足の間は0.3～0.4m程度開けて、股下に稲株を跨ぐようにして「い」の字状の歩行列を作るような歩み方が見られる。

この歩き方から水田を見てみると、1区ではBの歩み方で、②「半往來型」で区画内を巡っており、全て同一耕作者の可能性が考えられる。

2区では、1号溝(上層)北部の1～5号水田(6号水田は不明)でAの歩み方を基本としている。巡り方は様々であるが、角を直角に曲がる特徴から、1区や2区1号溝(上層)南の水田とは異なる耕作者である。2区1号溝(上層)の東西では、Bの歩み方を基本としているが、1号溝(上層)西側の7～12号水田(13号水田は不明)は角の曲がり方がやや曲線的であり、14～19号水田とは耕作者が異なる可能性がある。ただし、2区14～19号水田と3区1～3号水田は、歩み方が共通であることから同一の耕作者の可能性が指摘できる。2区21・22号水田は、Aの歩み方であり、北の区画とは異なる耕作者の可能性はあるが、大畦畔といえるような太い畦畔ではなく、筆境と考えられるような要素はない。

3区の5～10号水田(4号水田は不明)は、東西どちらかの辺沿いを①「往來型」で巡り、残りをやや曲線的な②「半往來型」で巡る特徴があることから、これらは同一耕作者であると考えられる。そして、11～13・16～18号水田についてはAの歩み方を基本としていることから、同一耕作者の可能性が指摘できるが、14・15号水田については、Bの歩み方が主体的であり、歩み方で考える限りは同一耕作者と見なすことはできない。20～22・24号水田(19・23号水田は不明)は、やや歩幅の広いBの歩み方を特徴としており、25・26号水田の狭い歩幅

とは異なることから、それぞれ別の耕作者の可能性が考えられる。

4区では、1～5号水田のみしか足跡を確認できない。これらの区画は3区25・26号水田と共通する④「往來型」のBの歩み方を基本としており、これらは共通する耕作者と考えることができる。

5区においては、西端の1～4号水田と東端の5・6号水田とは、所在地から別の耕作者と考えられる。1・2号水田は、Bの歩み方で、角の曲がり方がやや曲線的であることから、同一耕作者と考えられるが、4号水田は水田形状が南北に細長いいためか、そのような巡り方は確認できず、同一であるか否かは明らかにできない。

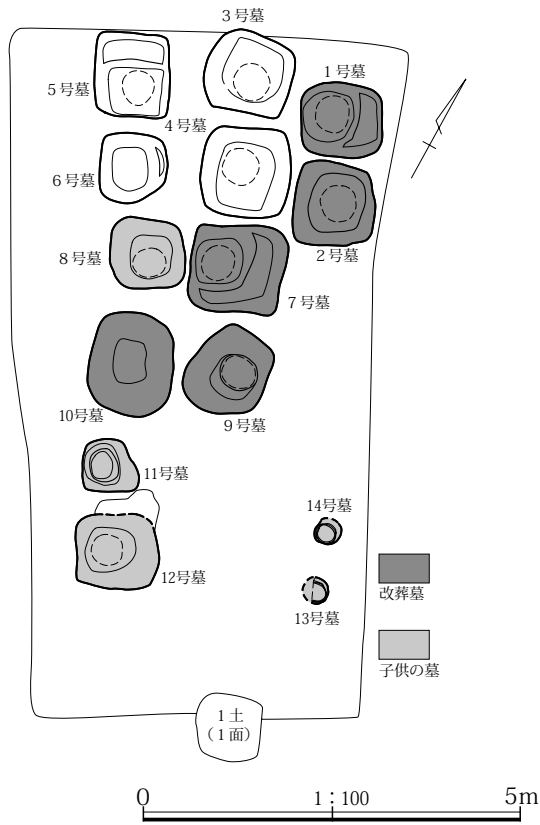
以上のように、草取りにおける水田歩行の状況から、耕作者を想定してみたが、同一耕作者が複数の水田区画を受け持っていたことは確実と考えられる。「1筆」を1人の耕作者が耕していたとは限らず、歩行列のみで「1筆」を想定するのは困難かもしれない。しかし、2区14～19号水田・3区1～3号水田のように多数の水田区画が同一耕作者である可能性が確認できており、「1筆」に近い耕作が行われていたと考えられる。細長い発掘調査区のため、「小前御書上帳」に見られるような「1筆」の規模の復元までには至らなかったものの、小畦畔による区画を超える耕作者の在り様を想定することができた。

(3)墓について

5区では、畑に囲まれた場所に1号墓地が形成されており、天明三年までに14基の墓が構築されていた。1号墓地は、天明泥流により2m程度埋没してしまったが、この位置に墓地が存在していたことはその後も引き継がれていた可能性があり、明治期における墓坑である1・2号土坑や、掘削が天明泥流中に止まっていた2体の人骨の存在から裏付けられる。

1号墓地におけるAs-A軽石直下の墓は、天明三年以前に埋葬されたことが確実な資料であり、近世農村部における貴重な資料といえよう。

人骨鑑定分析(第13章3参照)によれば、14基中5基(1・2・7・9・10号墓)が改葬されたものであった。墓は整然と構築されており、北西部に当初から埋葬された墓(3～6号墓と子供の8号墓)が構築され、北東部と中央部に上記の改葬された墓があり、南部には子供の墓



第925図 5区2面1号墓地における墓の配列

(10～14号墓)が構築されていた。

墓の構造は、13・14号墓を除くと共通しており、隅丸方形の掘り込みに円形棺(桶)が用いられている。13・14号墓は1歳未満の子供であるためか、掘り込みは小型の円形であり、円形棺(桶)の存在は確認できなかった。

墓の構築は、その位置関係から3～6・8号墓が古く、その後に1・2・7・9・10号墓が改葬されてきたと考えられる。集石の埋没状況から、最も古い時期に属するのは3・5号墓であり、最も新しい時期に属するのは1・2号墓と考えられる。

1号墓地内では、元禄三(1690)年記銘の墓標が出土しているが、別の場所から改葬されてきた5基の墓に伴って持ち込まれた可能性もあることから、1号墓地形成の時期を示しているかは定かではない。また、1号墓地の直下には、3面の近世洪水層が堆積していないことから、寛保二(1742)年以降とも断定できない。ただし、1号墓地内では、最も古い可能性がある3・5号墓であっても副葬品である銭貨には3期の新寛永通寶が含まれて

おり、18世紀以降の墓地と考えられる。そして、基本的な墓の構造に差がないことから、14基の墓が構築された時期は短いものと考えられる。

3 近世洪水における被害について (2.5・3面)

天明三年以前の近世における、利根川の洪水の記録が残されているのは、延宝年中(1673～1681)(下福島村流没)、天和三(1683)年(戸谷塚村川欠)、寛保二(1742)年(関東一円)、宝暦七(1757)年(利根川等満水)が挙げられる^(註6)。その中で最大の水害が寛保二年の洪水であるとされている^(註7)。

本遺跡の発掘調査では、天明三年の2面耕作土より下層に洪水層が堆積しており、出土遺物から18世紀代に比定される。この近世洪水層及びその直下の遺構は、1区西側で良好な残存状態で確認することができる。本遺跡における土層の堆積は、火山噴出物を除くと洪水起源によるものであり、これらの堆積は耕作等により土壌化されているのがほとんどである。しかし、3面を覆う洪水層は厚く、その後に行われた耕作によっても消滅することはなかった。これは、洪水の規模の大きさを示すものと考えられ、18世紀代の記録に残る洪水は、寛保二年と宝暦七年とがあるが、前者によるものと見なすのが合理的であろう。

『寛保洪水記録』^(註8)によると寛保二年八月一日(旧暦)から発生した洪水は、「古今未聞の大難」であり、「烏、神奈(流)川、利根、荒川一ツニ成テ流レタリ」と記載されている。この洪水による東上之宮村の被害については記載がないが、南に位置する芝(柴)町では、「水長一丈計リニテ大家小屋押流サレ、田畑荒地トナリ」と記載される被害を受けている。3m程度の高さまで溢れる洪水は、東上之宮村でも同様であったと考えられる。

本遺跡における洪水直下の遺構には、水田や畑、溝が挙げられるが、1区中央付近の水田は特に良好な状態であった。1区14～19号水田では、区画内を隈なく巡るように歩行した跡が確認できている。天明三年の噴火の時よりも1か月近く遅いものの、稲刈りが始まる2か月程度前の時期であることから、2面水田における歩行列と同様に草取りによる歩行と考えられる。

本遺跡で確認できる近世洪水の影響としては、土地利

用の変化が生じている。

1区3面の5・6号溝(中層)西に広がる10号水田から19号水田は洪水後に畑に転換しているが、直接的な要因として洪水層による埋没が考えられる。洪水層によって、用排水路が埋没したこと、水田面の標高が上がったことが想定され、水田の復旧が困難であり、畑への転換につながったと考えられる。しかし、5・6号溝(中層)東については、その後も水田が続けられ、As-A軽石降下時(2面)においても水田であった。洪水による埋没後の標高自体は畑に転換したところと同程度であることから、洪水砂層による埋没の程度は同様であったと考えられる。したがって、洪水被害を受けやすい利根川寄りについては、復旧のしやすさを考慮して畑へ転換し、それ以外の場所ではこれまで通りに復旧した可能性が考えられる。

洪水被害後の復旧作業が行われた痕跡としては、1区で溝状の復旧痕を確認している(2.5面)。これらには、洪水層を掘り抜いて、洪水砂層が充填されており、耕作再開にあたって、不要な砂抜きをしたものと考えられる。また、洪水層そのものを耕作した畑も2.5面で9区画確認できており、被災後も同じ場所で生活を続けようとした様子が確認できる。

4 As-B軽石混土層中の耕作について (4～7面)

1～5区のすべての区で遺構面が確認できてはいるが、中世から近世(近世洪水以前)に至るまで、連続と耕作が続けられていた。微高地である1区では耕作だけでなく、掘立柱建物が建てられることもあった。

4～7面における水田遺構は、疑似畦畔や深く鋤き込まれた耕作痕であり、当時の耕作面は残存していない。そのため、残存状態は良好ではなく、水田区画を確認することはほとんどできていない。また、疑似畦畔が近接している状態も見受けられることから、複数の時期の遺構を同一面で確認している可能性もある。各面における土層はAs-B軽石を攪拌しており、上層に行くにつれて、As-B軽石の混入度が低下している。天仁元(1108)年の浅間山噴火によるAs-B降下後、当初は降下前の表土とAs-B軽石を攪拌して耕作土としていたものが、その後に堆積した洪水層と耕作によって混和し、次第にAs-B軽石の混入度が低下したと考えられる。

なお、As-B軽石を鋤き込む無数の耕作痕は、本遺跡においては、6・7面で確認している。同様の耕作痕は高崎市～伊勢崎市などで発見されており、これらは日常的な耕作によるものではなく、噴火後の天地返しとの指摘がなされている^(註9)。

本遺跡においては、As-B降下後の耕作は確認できるが、As-B降下前の水田等は確認できていない。平安時代に属する遺構は1・5区の8面で、9世紀代の住居を確認しているが、その後の遺構は確認できていない。12世紀以降に新たな開発が進められたものと考えられる。

5 古墳時代～平安時代の集落について(8・9面)

東上之宮遺跡では、古墳時代から平安時代までの住居数が235軒であった。各々の住居について出土遺物及び重複関係をもとに所属時期を想定して位置付けたのが第926～931図である。集落の広がりや、同じように河成段丘上の旧中洲に所在する阿弥大寺本郷遺跡においても確認されているが、後背湿地を隔てて分かれている。本遺跡と阿弥陀寺本郷遺跡の集落を同一とみなすことは難しく、ここでは、本遺跡において調査された集落の変遷と分布についてのみ概要を述べることにする。

(1)古墳時代前期(第926図)

この遺跡における集落形成が始まったのは、住居出土遺物の年代観から、概ね古墳時代前期、4世紀前半であったと考えられる。1区で8軒、5区で5軒の住居が確認されている。両区画共に畑が居住区に近接していた。

1区の住居は畑と一部重複している。加えて、それぞれが洪水起源と想定される砂～シルト質土で埋没していることから、多分に洪水被害を受けていたと考えられる。1区で確認できた8軒の住居は、中洲の微高地に立地していた。出土遺物及び形状から、いずれも4世紀前半の住居と判断され、これらの住居は、ほぼ同時期に中心を囲うように集落を形成していたと考えられる。集落に対して西方の低地に畑が区画されていた。生産域が居住域近辺に設けられていた可能性が高い。ただし、集落形成を始めた目的が畑にあったとは考えられず、本来の目的は、遺跡の周囲に広がる低地部の水田開発にあったと推察される。また、182・184号住居は焼失住居であった。

2つの住居は近接しており、同時期の焼失であるかは明瞭でないが、その後の住居群の様相には少なからず影響を与えたと考えられる。

5区で確認できた5軒の住居は、東部の微高地から西部の低地にかけて位置していた。やはり畑と住居の一部が重複している。それぞれが洪水起源と考えられる褐灰～灰黄褐色シルト質土(18層)で埋没しており、洪水被害を受けていたと考えられる。東部から中部にかけての43・45号住居は、4世紀前半のものであり、西部の46・47住居もまた、4世紀前半のものであった。水流の状況に応じ住居の配置を考えて生活していた経緯が見て取れる。つまり、河道の状況が住居立地の条件に影響を与えていたと考えられる。畑は1区と同様に居住区の近辺に立地していたことが観察されるが、やはり集落形成の目的は周辺低地部の水田開発にあったのだろう。

この時期における、1区の集落と5区の集落は同一集落内にあると思われるが、具体的な関連については明瞭にすることはできなかった。

その後、1区、5区共に集落が再び形成されるのは6世紀初頭である。実に、およそ1世紀半の間、集落が形成されずに経過している。河道の変化による著しい洪水被害等により、住居群周辺の低地部の水田開発という本来の目的が果たせなかった可能性が高く、この地域に比較的短い時間居住の後、他地域への集落の移転を余儀なくされていたことが推察される。

(2)古墳時代後期～平安時代(第927～931図)

この遺跡に再び集落が形成されたのは、古墳時代後期、6世紀になってからである。1区に178軒、5区に44軒の住居が確認された。この時期の遺構もまた洪水起源と推察される褐灰色～灰黄褐色シルト質土(12層)で埋没しており、少なからず洪水被害を受けたと考えられる。ただし、6世紀以降は、9面の住居群と異なり、このような自然災害を克服して水田開発にある程度成果を上げていたと推察される。この遺跡の集落の変遷は、中心部の移動を伴いながら平安時代まで断続的に続くため、時期を区切ってそれぞれの様相を述べることにする。

6世紀(第927・928図)

1区は6世紀前半に、30軒の住居が確認された。住居

群は、中洲に立地しているが、微高地の平地の部分が広がっており、集落の規模が拡大したことを意味する。38・45・54溝のように、自然の流路に手を加えて、水の流れを意図的に管理し、住居立地の環境を整える術を身に付けていたことが推察される。それと同時に、これらの溝は、水を低地部に送水するための用水路とも考えられ、6世紀における集落が安定的に発展、継続していることから、低地部の開発が一定の成果を上げたものであると考えられる。さらに、数軒の重複が見られるが、それぞれの住居が程よい距離感で立地し、溝と溝の間の土地を有効に利用していたことが見て取れる。その後、6世紀後半になると住居軒数は89軒となり、集落の範囲はさらに広がり、この地域における住居軒数のピークを迎えることとなる。また、中央部では、住居を拡張するために盛んに建て替えが行われている。このことは住居期間が長いことを示すものであり、住居群が集落の中心に近いことを物語っている。また、66号住居は焼失の可能性があり、116号住居は焼失住居である。ただし、住居群の様相に対する影響に関しては明瞭でない。東西共に中心から外側へ向かって住居の範囲が広がっていることから、好条件の土地を求めて人々が新たに集まってきたことが考えられる。集落の中心部で確認された住居の重複の様相からは、短時間で住居を建て替えている経緯が観察され、生活の充実や豊かさが見て取れる。住居間の距離は近くなり、近親者の集合体として集落を形成していたと考えられる。生産域は本地域には確認できなかったが、住居数の増加から、溝の送水による低地部の開発の成果で、周辺の低地部にまとまった生産域があったと推察される。その他、6世紀中頃または前後に区分できなかった6世紀代の住居が7軒確認できている。

5区は、6世紀中頃から再び集落が出現する。そして、6世紀の後半から7世紀前半にかけて集落のピークを迎える。6世紀後半は、住居が17軒確認できた。5区は、1区に対して南に位置し、集落の変遷がやや遅れる傾向にある。また、33・35号溝のように東西に走る溝や30・34・39号溝のように南北に走る溝が確認されている。これらの溝と住居群の立地が同時期であったかは明瞭でないが、水田開発のための送水に使用された可能性は考えられる。調査区内に生産域は確認できなかったが、集落の繁栄ぶりから、1区同様、周辺低地部に溝の送水によ

り開発されたまとまった生産域があったと考えるのが自然である。その他、6世紀中頃または前後に区分できなかった6世紀代の住居が5軒確認できた。

1区が集落の中心に近い地域なのに対して、5区は、集落の中心を外れ、その南縁に位置すると考えられる。この時期における、1区の集落と5区の集落は、4世紀の前半と同様に、やはり同一集落内にあると考えられる。

7世紀(第929図)

1区には、7世紀前半に18軒の住居が確認された。7世紀前半の集落の立地は、6世紀後半の集落の縁辺部にあたる。6世紀後半の集落の中心部は、7世紀には住居の間隔が広がり閑散とした様子であった。特に、6世紀後半に繁栄していた住居群が衰退して、当時縁辺部に住んでいた住居群が7世紀になっても居住を続けていたと考えられる。所謂、集落中心部の空洞化に相当する状況が発生していたようである。7世紀後半には、12軒の住居が確認された。住居の立地位置が中心から縁辺部に向かう傾向は、さらに強まったと考えられる。この時期も生産域は周辺の低地部にあったと推察される。集落の形成が継続されたおり、河道の変遷など大きな環境的变化はなかったと考えられる。その他、7世紀中頃または前後に区分できなかった7世紀代の住居が16軒確認できた。

5区は、7世紀前半に、住居が7軒確認できた。6世紀後半に引き続き、東西及び南北の走る溝に沿うように住居が立地している。7世紀後半は、住居を確認することができなかった。8世紀前半には住居が出現することから、数十年間、住居のない状態が続いたと考えられる。この時期、畑の効果的な利用など他の土地利用を考えるべきなのだろうが、本調査では明瞭でなかった。やはり、自然災害等の環境の変化に伴う河道の変動を管理することができず、住居の移動を余儀なくされ、集落の中心が移動した結果であると考えるのが自然である。

1区を集落の中心に近い地域とすると、5区の住居群はさらに縁辺部に移動したと考えられる。この時期における、1区の集落と5区の集落は、6世紀から継続して同一集落内にあると考えられ、集落の中心が移動した時期である可能性が指摘できる。

8世紀(第930図)

1区は、8世紀前半に3軒の住居が確認された。7世紀から住居数が大幅に減少している。繁栄を誇っていた住居群はすっかり影を潜めることとなる。ただし、集落の中心の移動に伴う現象であると推察され、集落の形成は継続していると考えられる。2・59・158号住居は、それぞれ離れて位置しており、多少の交流はあったとしても、各住居である程度独立して生活を営んでいた様子が見て取れる。また、この時期、溝が埋没することにより生産域に影響を与えたことが推察され、8世紀の急激な集落の衰退の要因の1つになった可能性が高い。ただ、まだ少数の住居が存在することから、自然環境等の変化は、決定的に居住を阻害するものではなく、代替わりと共に、より有利な土地を求めて移住していったと推察するのが自然である。8世紀後半には、住居軒数は1軒となる。ただし、9世紀とは継続性が見られており集落の構成は辛うじて維持されていると考えられる。

5区は、8世紀前半に1軒の住居が確認された。7世紀後半住居が途絶えていたが、8世紀になると再度住居が出現する。河道の変遷等より住めなくなった他地域から移り住んできた可能性がある。8世紀後半には、住居軒数は5軒に増えている。代替わりではなく新たな人口の流入があったと考えられる。その他、8世紀中頃または8世紀代の住居は2軒確認できた。

この時期、1区の住居群が衰退するのに対して、5区の住居群は増加している。自然環境の変化による河道の変遷、及び生産域への影響により、北から南へ住居群の中心が移動したと考えるのが自然である。

9世紀(第931図)

1区の住居は、9世紀前半に1軒、9世紀後半に1軒、9世紀中頃または9世紀代に2軒が確認できた。この4軒については、近接しており、106号住居と133号住居に関しては、全体が重複しており、建て替えと考えるのが自然である。周辺に集落の中心はなく、この数軒で生活していたと考える。先述の通り8世紀には住居群の急激な衰退があったものの、まだ居住に耐えうる環境であったことが推測される。

5区の住居は、9世紀後半に6軒、9世紀中頃または9世紀代に5軒が確認できた。9世紀においても依然と

して住居群が確認できた。8世紀代の住居に近接または重複していることから、8世紀に流入してきた人たちが代替わりしながら居住を続けていた様子が見て取れる。

この時期、1区の住居群は閑散としており、5区の住居群は代替わりを継続している。8世紀から住居群の大きな変動はなかったと考えられる。環境の変化は少なく、住居群の移動は一段落したと考える。

10世紀

1区の18号住居には灰釉陶器が1点出土したものの、他の出土土器や重複関係から、7世紀前半の住居と考えた。従って、灰釉陶器は混入であると判断し、1区に於いて10世紀代の住居は確認できなかった。

5区の5・14号住居は出土遺物と重複関係から9世紀後半のものであると判断した。5号住居からは灰釉陶器が2点、14号住居からは灰釉陶器が1点出土した。5号住居出土の灰釉陶器は混入品と考えられ、14号住居出土の灰釉陶器は9世紀後半の時期決定にかなうものであった。従って、5区に於いても10世紀代の住居は確認されなかった。ただし、10世紀代の灰釉陶器がこの地域から出土したことから、この時期に人々の活動があったことは推察される。この2軒を最後に、本地域における住居群は終末を迎えたと考えられる。

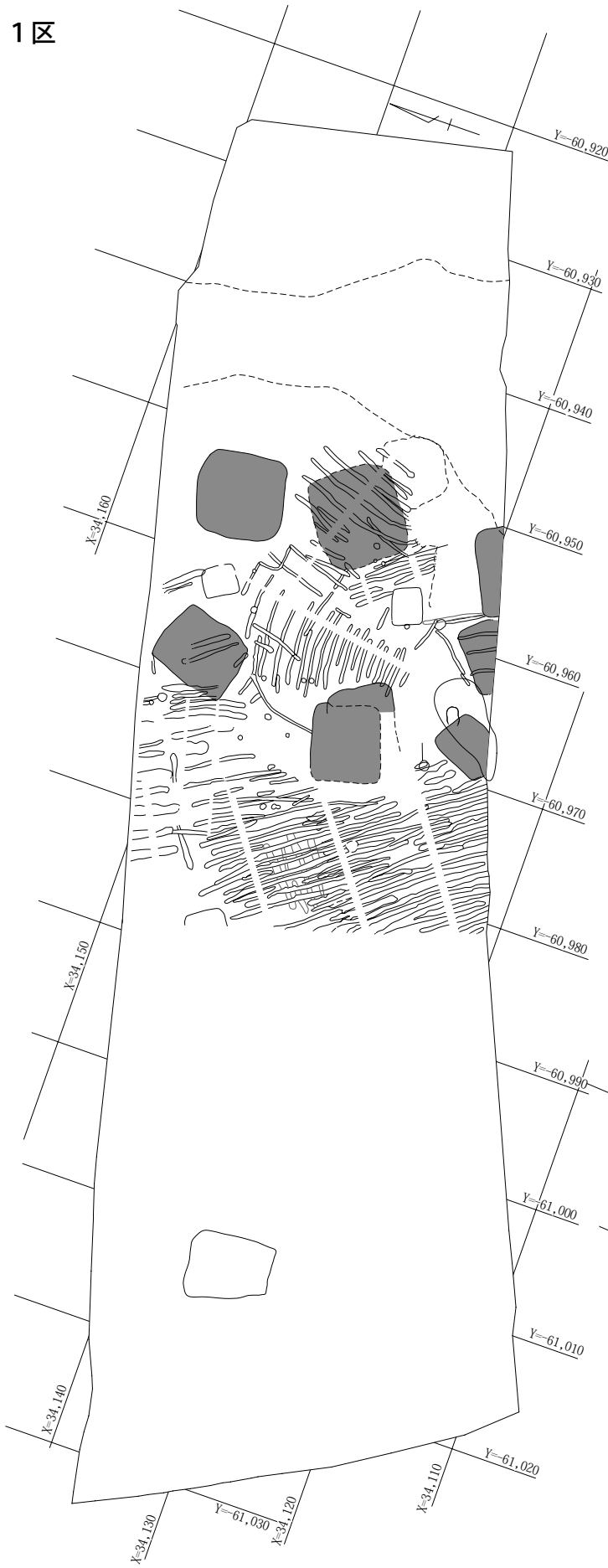
(3)小結

上記の通り、この地域においては、住居は4世紀前半に出現している。しかし、自然災害による河道等の変化により1世紀半の間、他地域への移動を余儀なくされた。再び集落が形成されたのは6世紀前半であり、6世紀後半から7世紀前半にかけて住居数はピークを迎える。その要因は、溝による送水で水田開発が成果を上げたものであると考える。その後、8世紀前半で住居群は大幅に減少し、9世紀まで継続される。5区に於いては、僅かに10世紀の土器の痕跡が認められる。10世紀初頭には本地域においては住居群が消滅していたと考える。また、住居の減少が1区は8世紀に顕著だったのに対して、5区は、7世紀後半に減少して、8世紀になると再度、住居が増加していた。5区は、かつて中心地だった1区の南方にあたり、これらの状況は、北から南へ住居群の中心の移動が行われた様相の一端を示していると推察でき

る。従って、調査地域においては、4世紀前半から10世紀初頭の間に一連の集落の消長があったものとみて良いであろう。特に、6世紀から7世紀にかけて継続する集落は、遺跡の周囲に広がっていたと推察される低地部の開発を目的としており、それにより繁栄の成果を収めていたと考えられる。

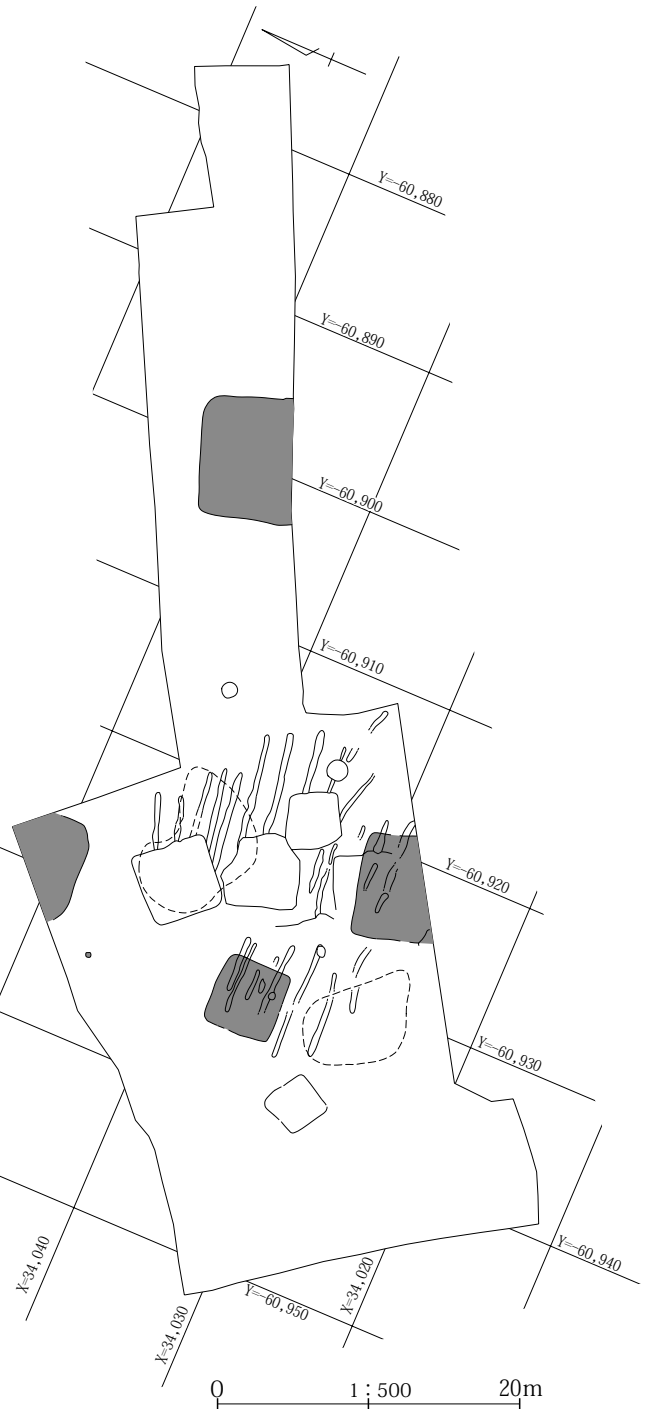
なお、各年代の住居数に関しては、重複して数えているものもあり、出土住居数と各時期の合計住居数は異なる。

1区



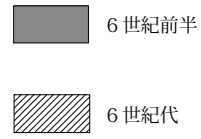
■ 4世紀前半

5区

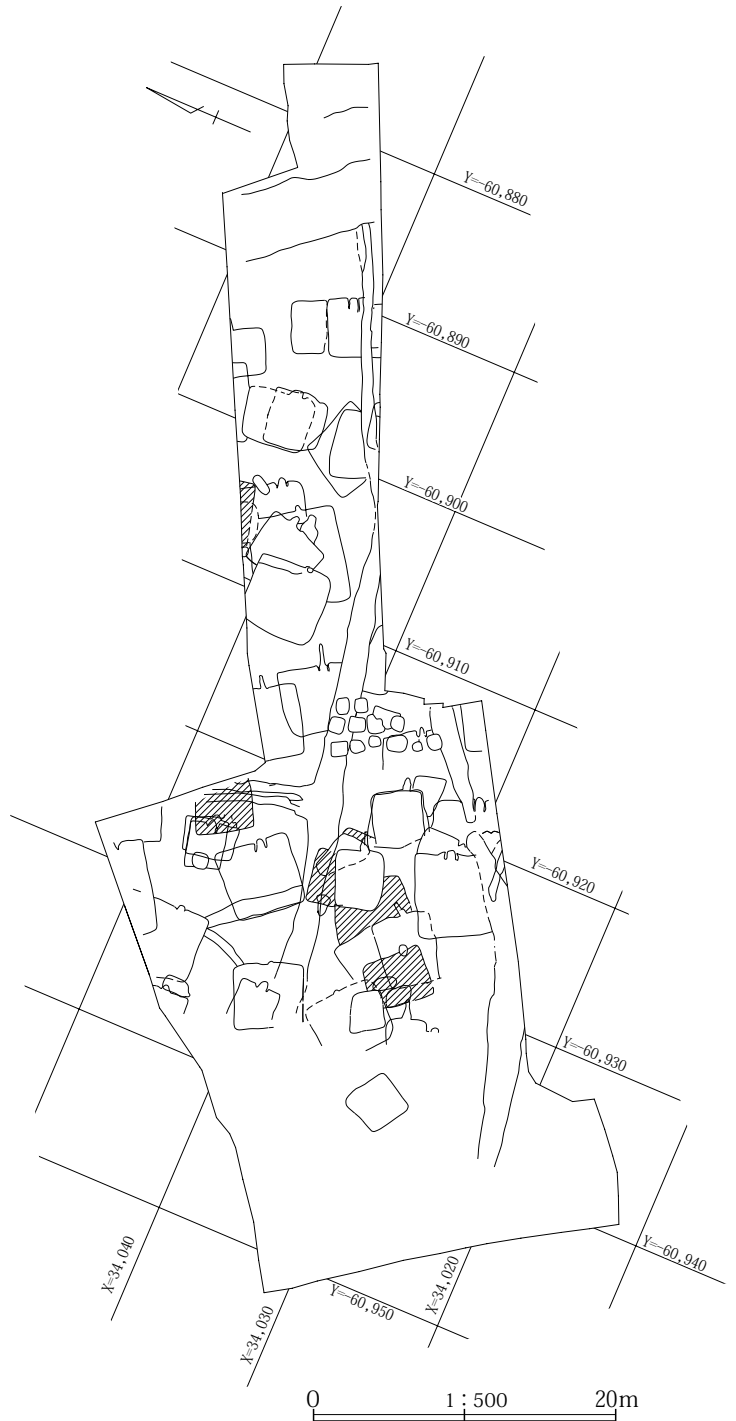


第926図 4世紀代の住居分布図

1区

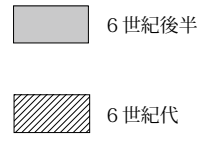


5区

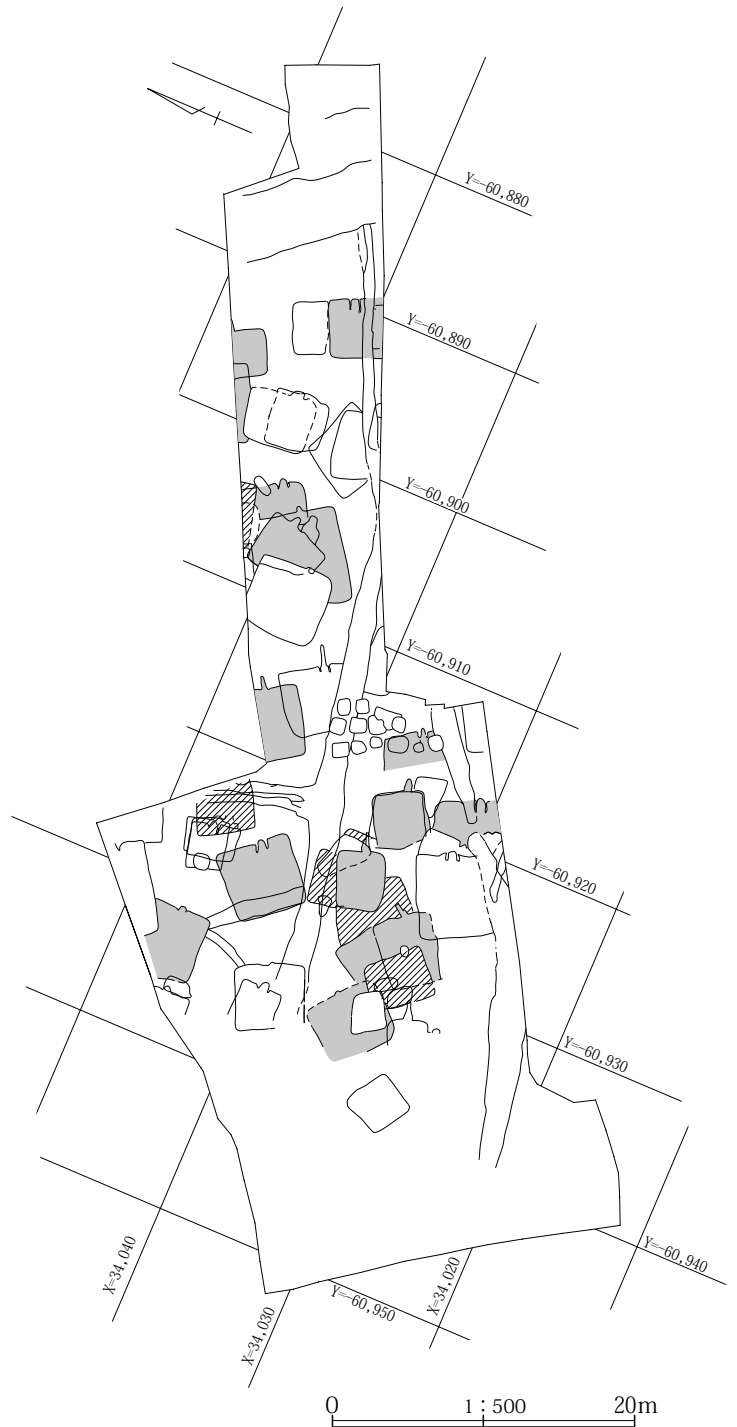


第927図 6世紀前半の住居分布図

1区

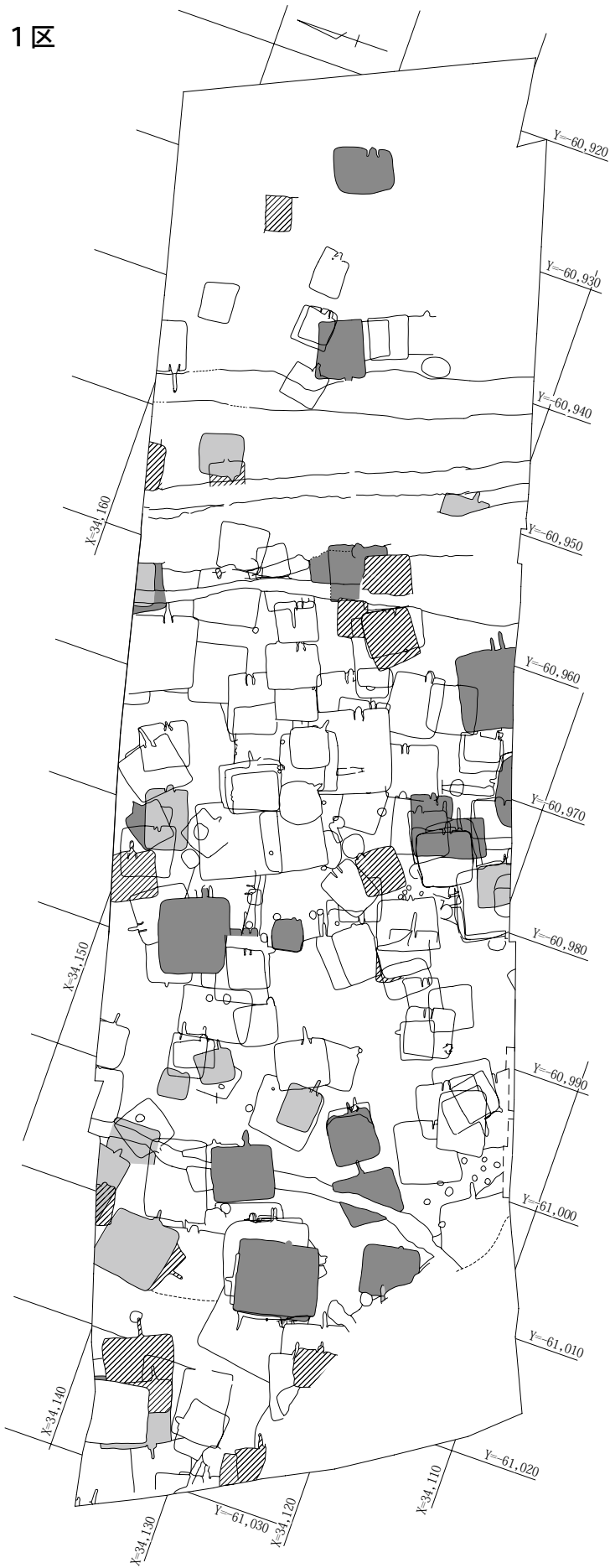


5区

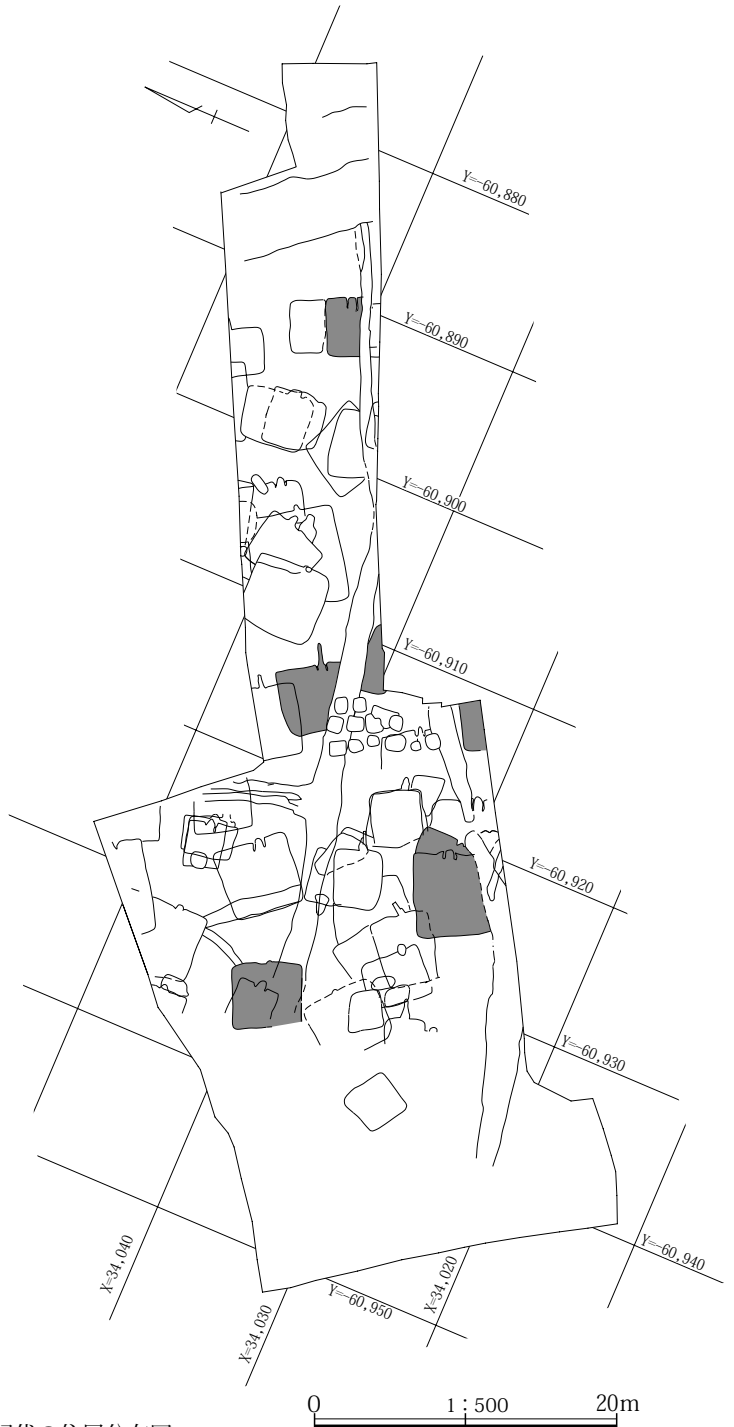


第928図 6世紀後半の住居分布図

1区

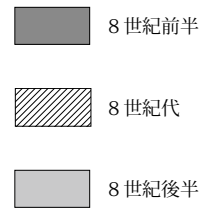
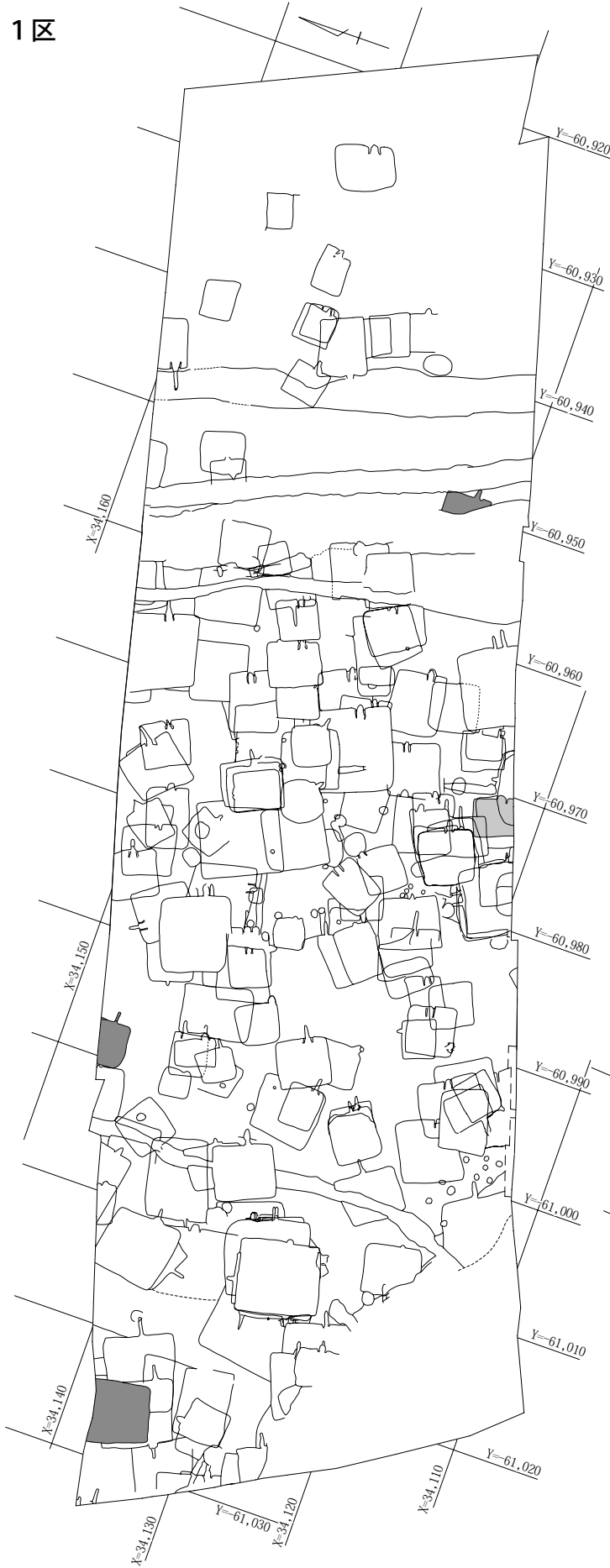


5区

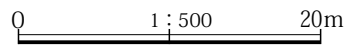
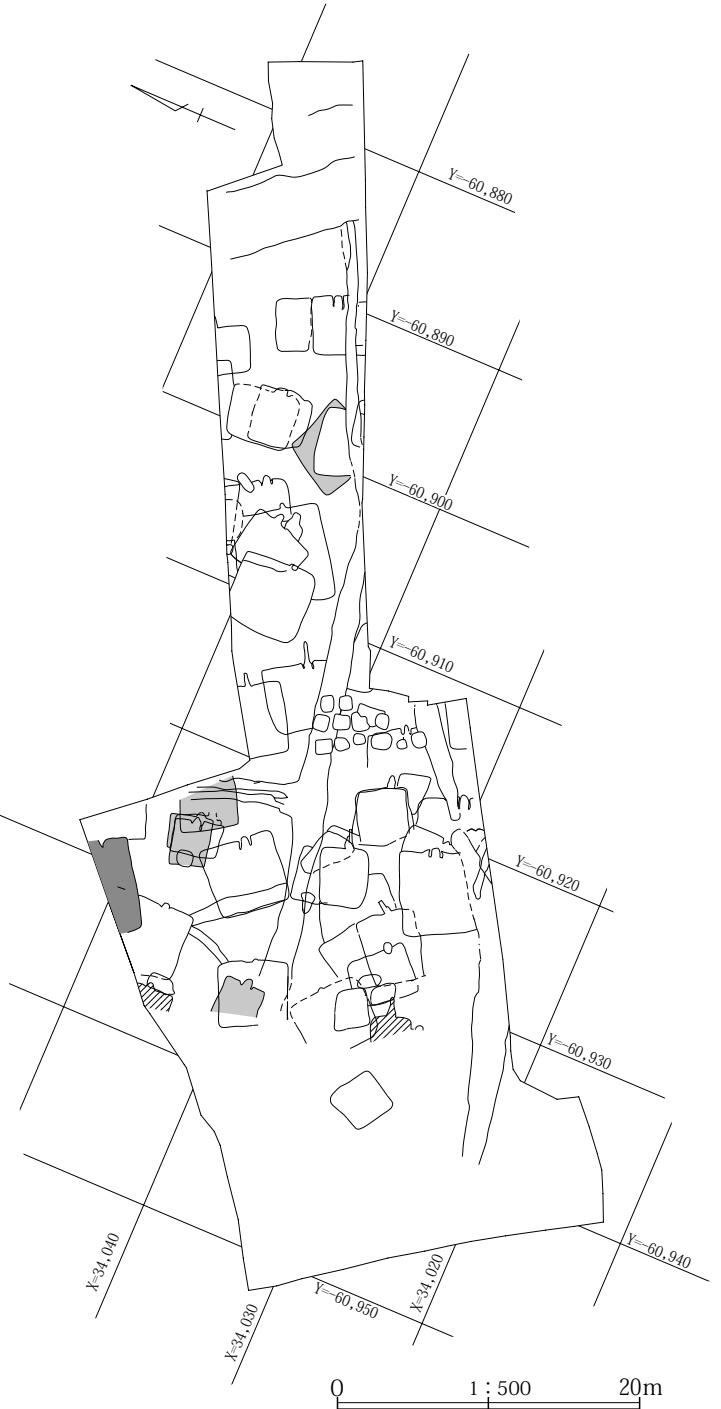


第929図 7世紀代の住居分布図

1区

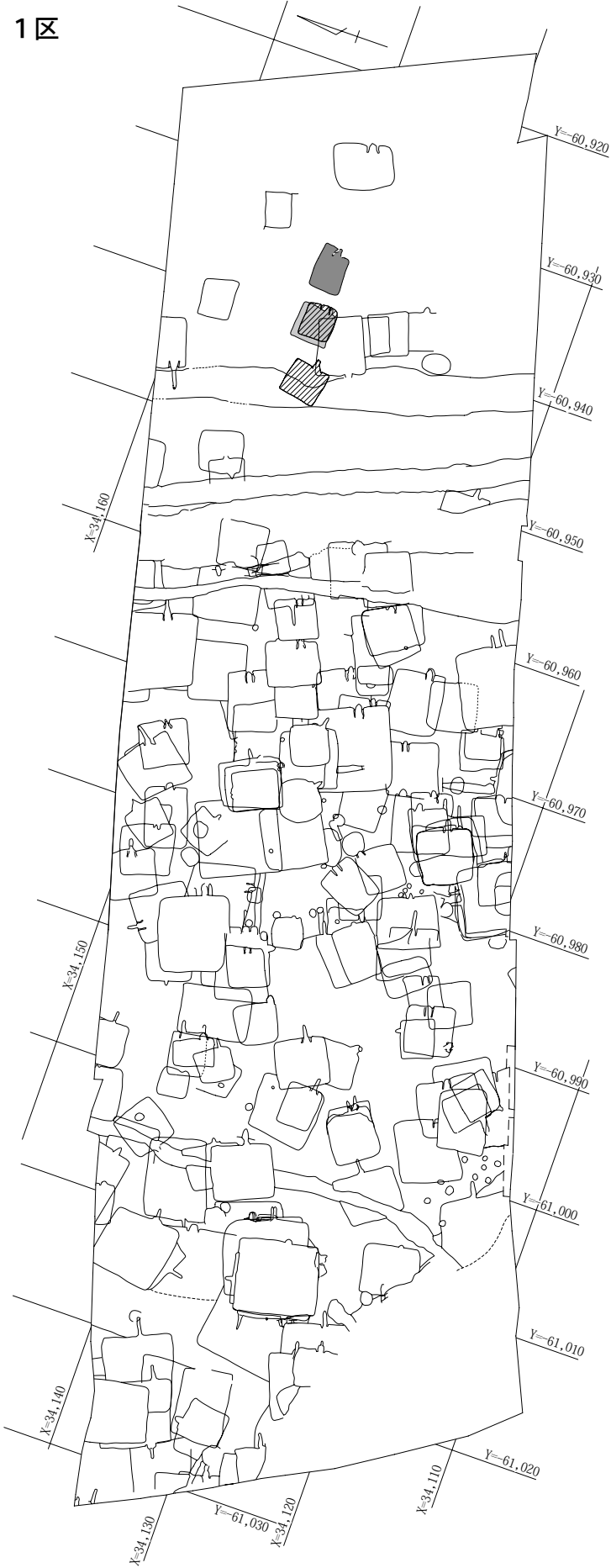


5区



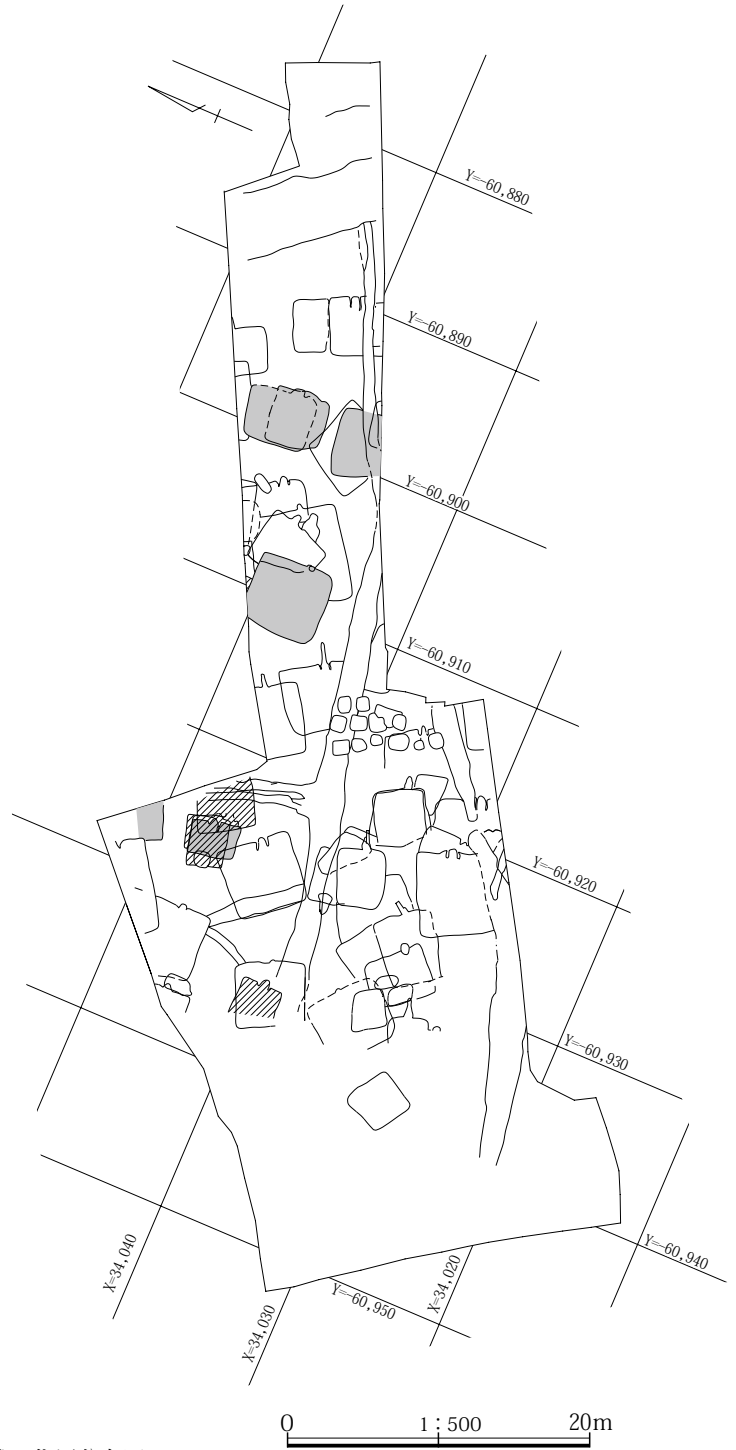
第930図 8世紀代の住居分布図

1区



- 9世紀前半
- 9世紀代
- 9世紀後半

5区



第931図 9世紀代の住居分布図

6 古墳時代後期の甗について(8面)

(1)はじめに

本遺跡の発掘調査により、200軒近くもの古墳時代後期の住居を確認した。住居出土の土器は、他の同時期の遺跡における住居出土土器と同様に、杯類や甗類が普遍的に見られ、数量はやや少ないものの高杯や壺、甗等も見られる。本遺跡においては、全体で40点を超える甗の出土が見られ、他の遺跡よりも多い傾向が見られる。そこで本遺跡出土の甗に着目し、検討を試みたい。

検討の対象とする甗は以下の条件に当てはまるものとする。①焼成前に底部の穿孔がなされている土師器で器形がわかるもの。②甗の出土位置が、住居の床面であるなど、住居に帰属することが確実なもの。③甗以外の時期区分が行える杯や甗等の土器が出土しており、その土器も住居の床面から出土するなど、住居に帰属することが確実なもの。

(2)分類

本遺跡出土の「甗」とした土器は、その形態により大きく二分できる。

A類：有孔鉢形の甗

底部が筒抜け状にはなっておらず、底部中央に小孔を開けるものである。器形は鉢形や甗形を呈し、小型である。器高は20cm未満である。口縁部は横ナデであり、胴部外面はヘラ削り、内面はヘラナデが多い。底部の穿孔は1cm未満～4cm程度と幅があるが、直径2～3cm程度が多い。

a 底部から口縁部に向かって直線的に開くほぼ逆三角形形状を呈する形態。器高/口径比が0.7前後未満とする。

a-1 器高が低いもの(器高/口径比が0.5未満)。

a-2 一般的な鉢の器高を呈するもの(器高/口径比が0.5以上)。

b 胴部にわずかな膨らみを有し、口縁部が頸部から外反するもの。

B類：甗形の甗

底部が完全に切り開かれる筒抜け状のものである。器形は甗形を呈し、大型である。器高は20cmを超える。口

縁部は頸部から外反している。口縁部は横ナデで、胴部外面はヘラ削り、内面はヘラナデが多い。そして、内面は縦位のヘラ磨きが施されるものがある。

a 胴部の最大径が頸部下もしくは頸部下付近にあるものの。

a-1 胴部全体が緩やかな曲線を描く形態のもの。

a-2 胴部上位～中位は直線的であり、下位が急にすぼまる形態のもの。

b 胴部中位付近に胴部最大径を持つもの。

c 胴部上位に胴部最大径を持つもの。

d 胴部が球状の膨らみを持つもの。甗としては一般的ではない可能性がある。

(3)変遷

甗の時期の位置付けは、甗が出土した住居の床面等から出土した土師器(杯、甗)に基づいている。6・7世紀をそれぞれ前半・後半に二分しているが、7世紀後半の形態のわかる甗がないため、6世紀前半から7世紀前半の3時期のみの提示としている。なお、時期決定の指標とした土師器(杯、甗)は第932・933図の通りである。

①6世紀前半

A類は、bが見られるが、出土量が少ない。bの口縁部から頸部の外反はやや弱く、胴部外面は縦位のヘラ削りである。

B類は、a-1、b、cが見られる。a-1は口径がやや大きく内面にヘラ磨きがみられる。bはこの時期にしか見られない。胴部外面の縦位に施されるヘラ削りの幅はやや狭い。cは中位に近い胴部上位に最大径を持つ。内面にヘラ磨きが施されるものがある。

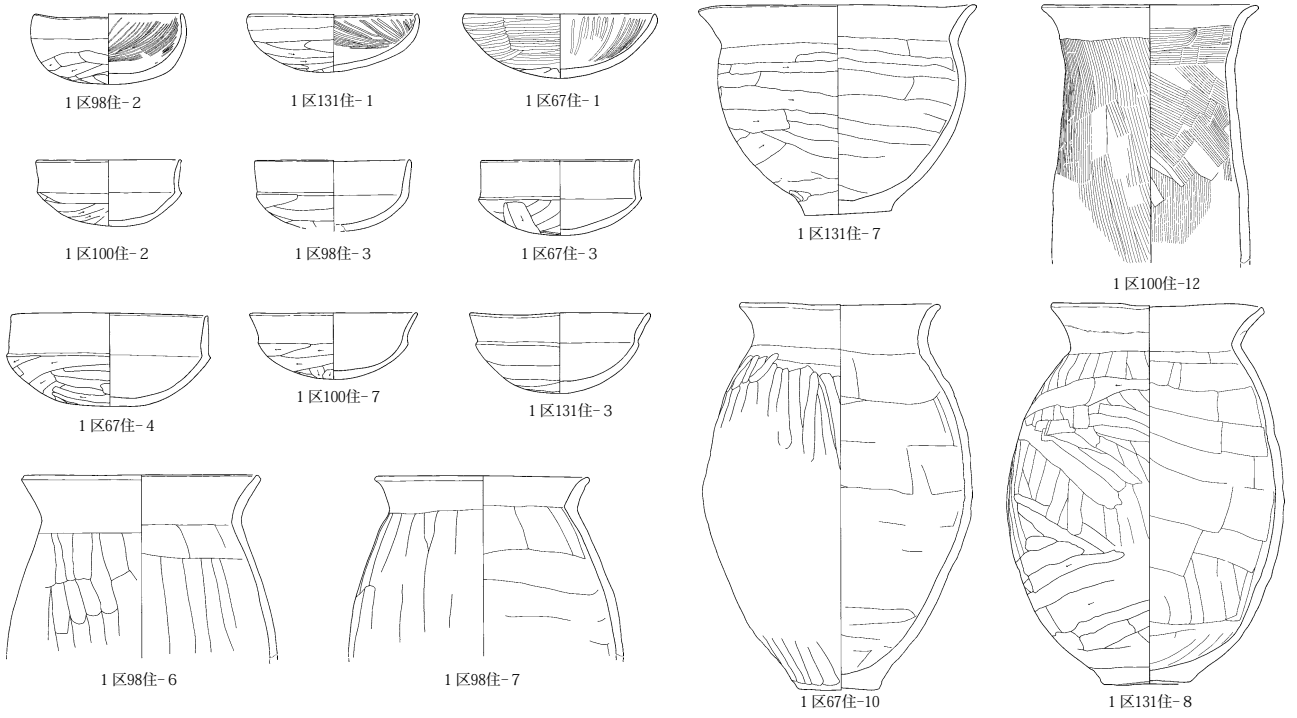
②6世紀後半

本遺跡では資料数が最も多い時期である。

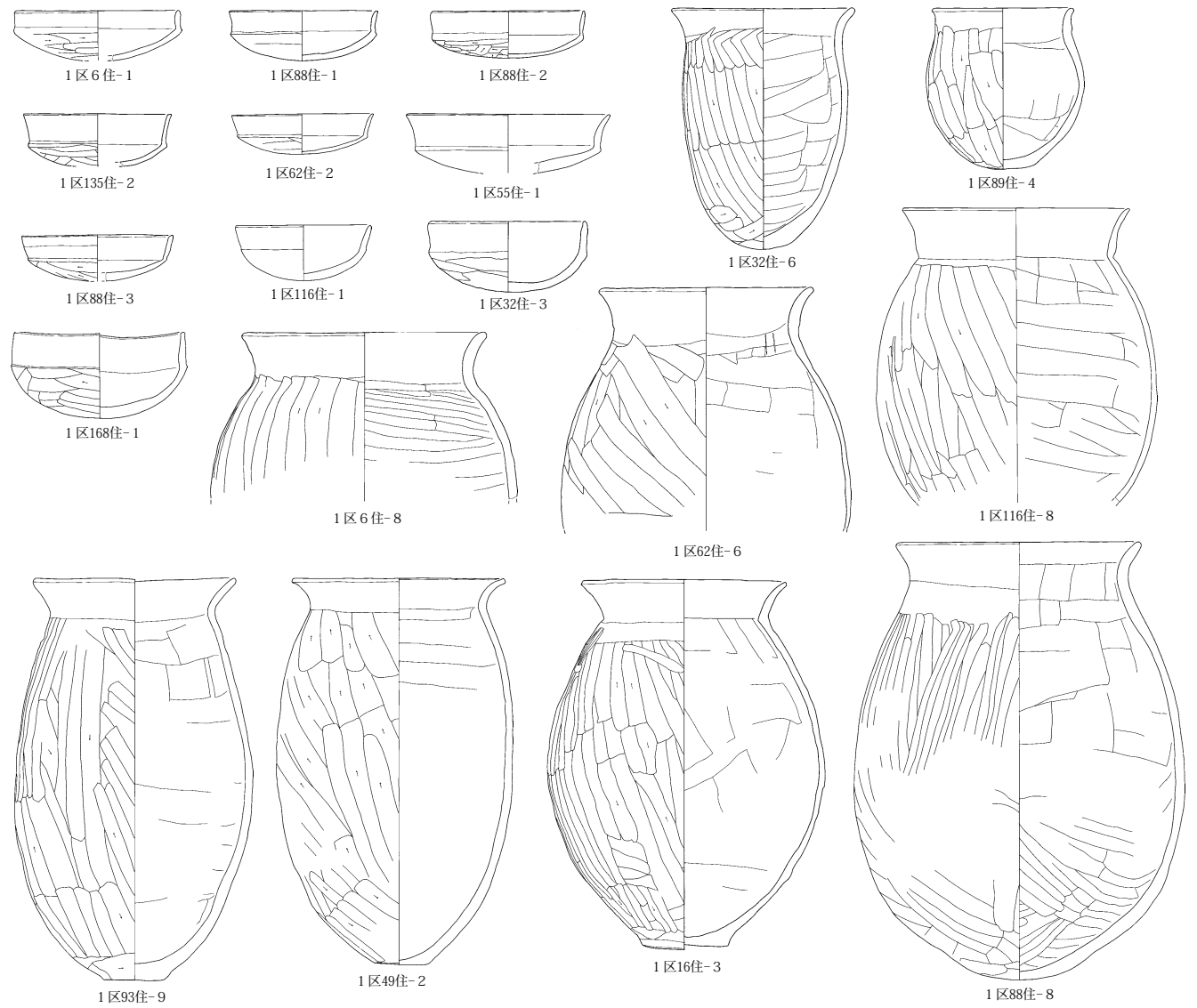
A類はa-1・2、bが見られる。a-1の胴部外面は縦位のヘラ削りで、内面は横位のヘラナデである。a-2は口縁部がわずかに内湾するものがある。bの口縁部は厚みがあるが、外反は6世紀前半と変わらず弱い。胴部は内外面ヘラナデである。

B類はa-1・2、c、dが見られる。a-1は口縁部から頸部の外反が強まる傾向が見られる。胴部外面のヘラ削りは縦位もしくは斜位であり、内面は横位もしくは斜位のヘラナデである。a-2はa-1程には口縁部

6世紀前半

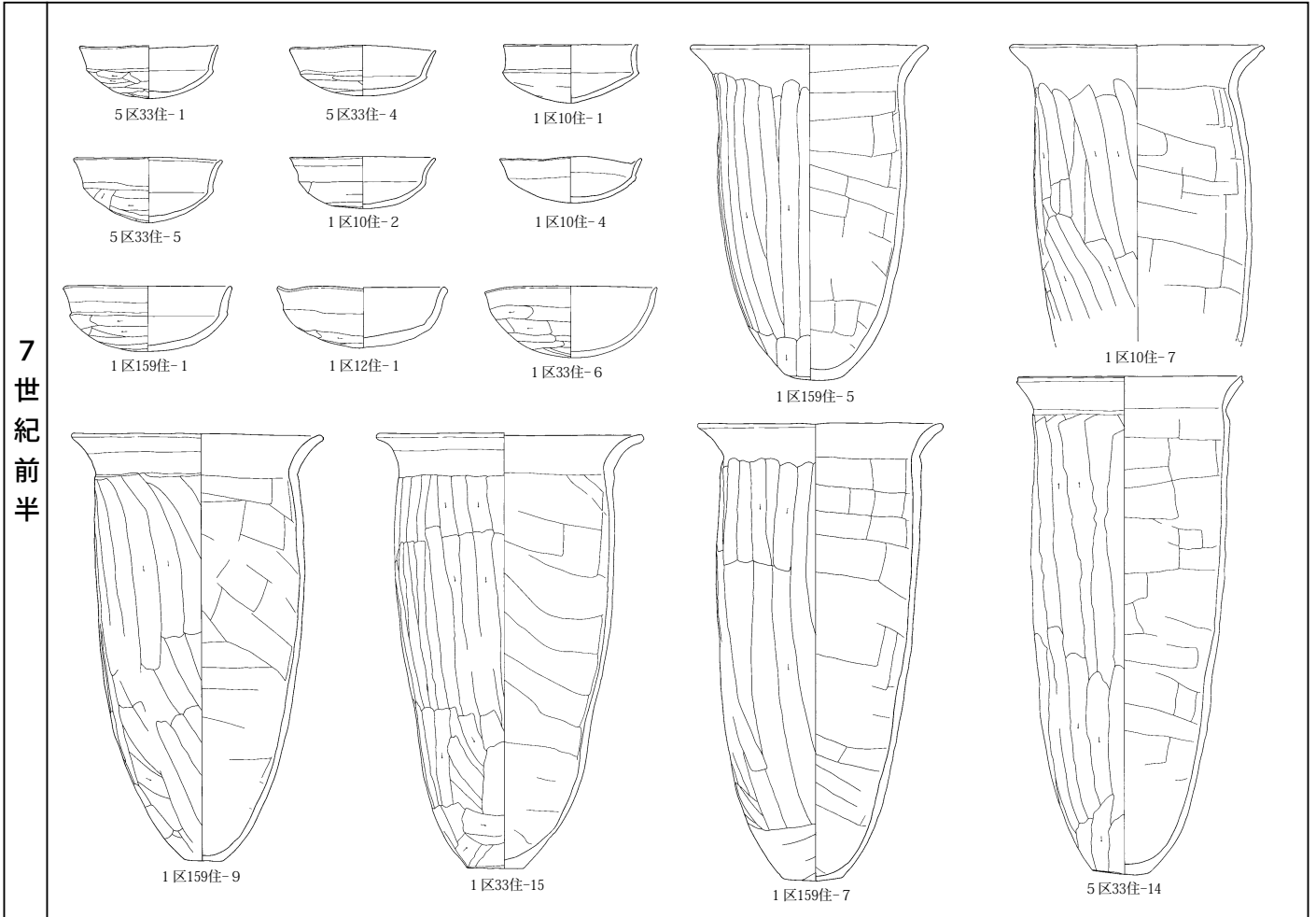


6世紀後半



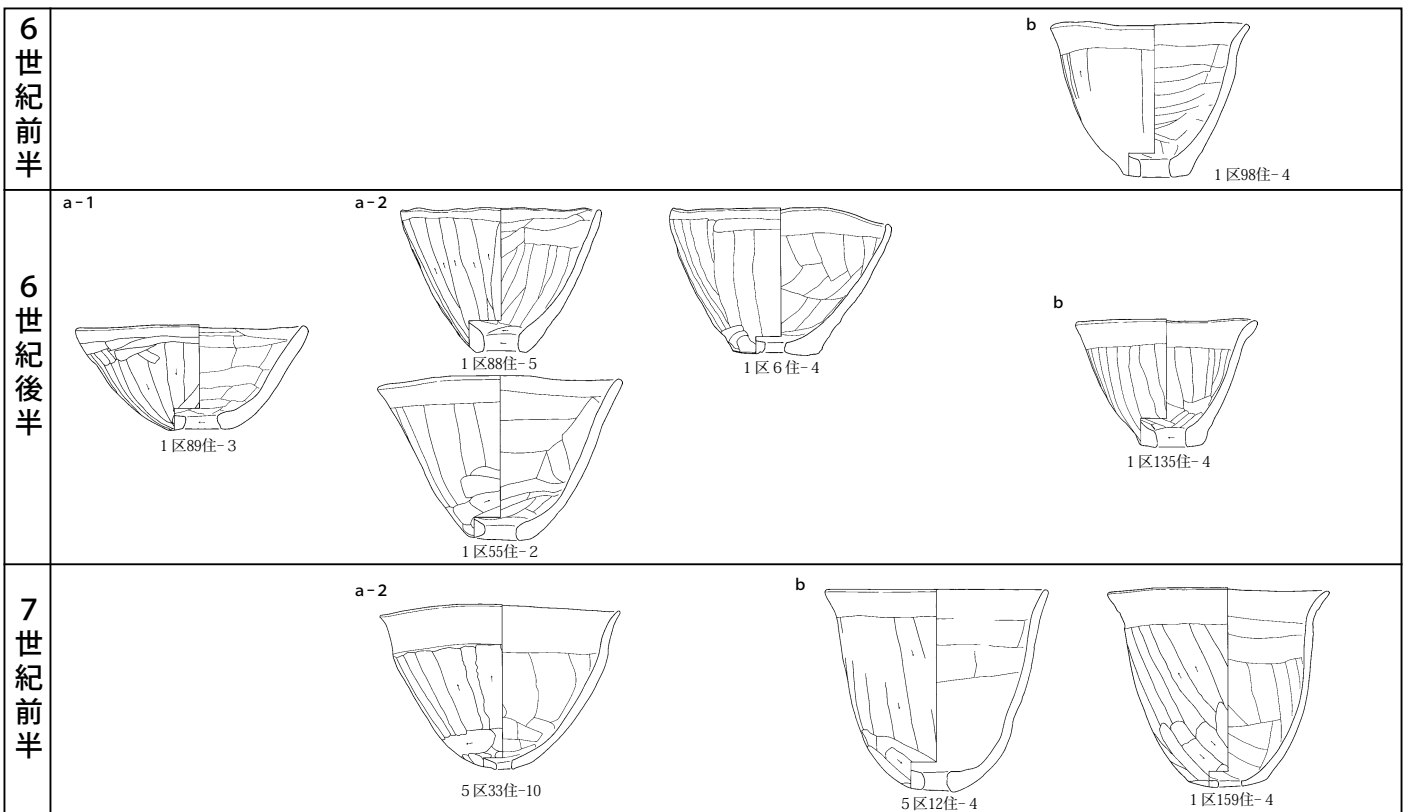
第932図 甌出土住居の土師器(杯、甕)時期区分(6世紀)

0 1:6 12cm



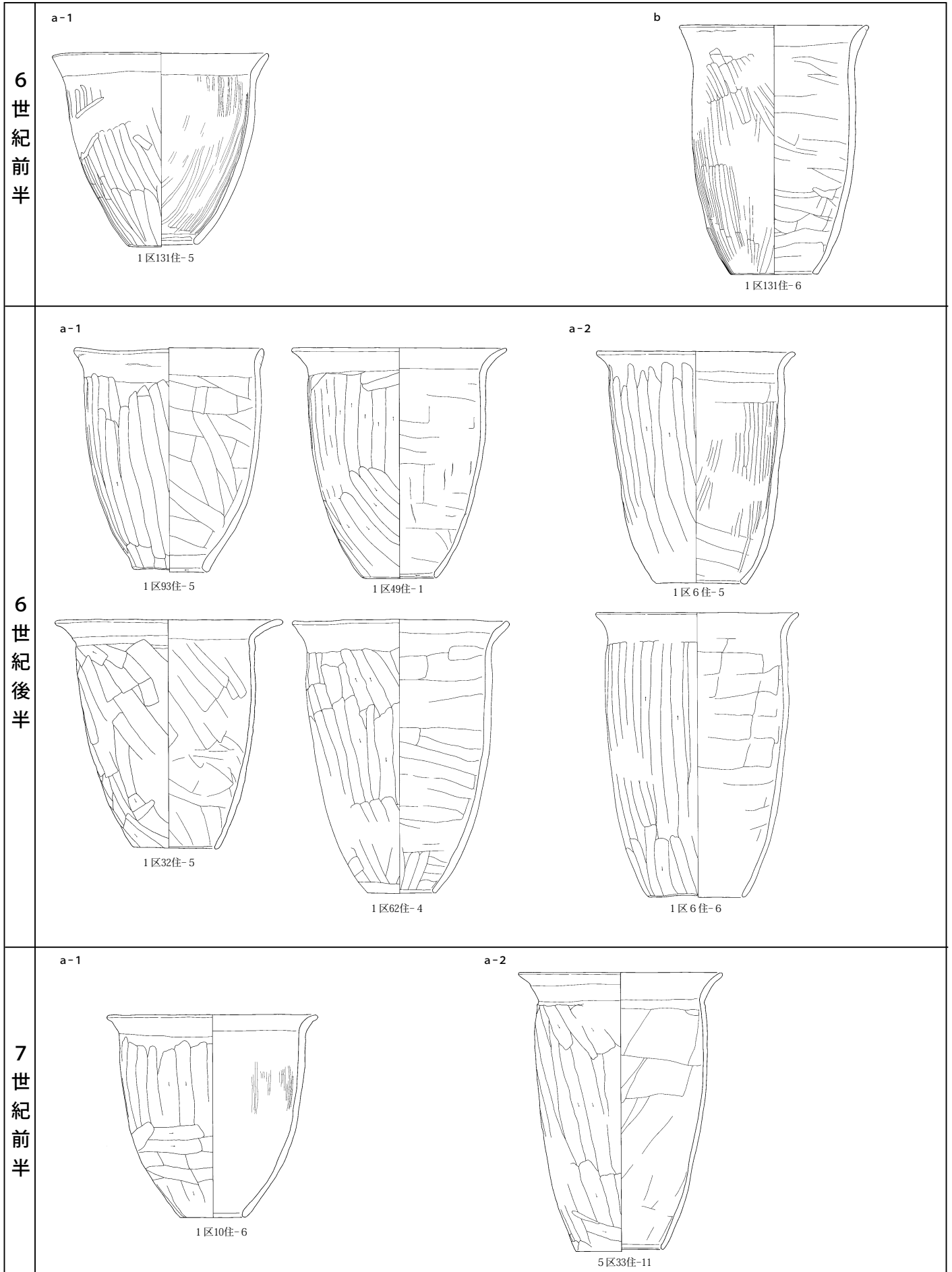
第933図 甗出土住居の土師器(杯、甗)時期区分(7世紀)

0 1:6 12cm



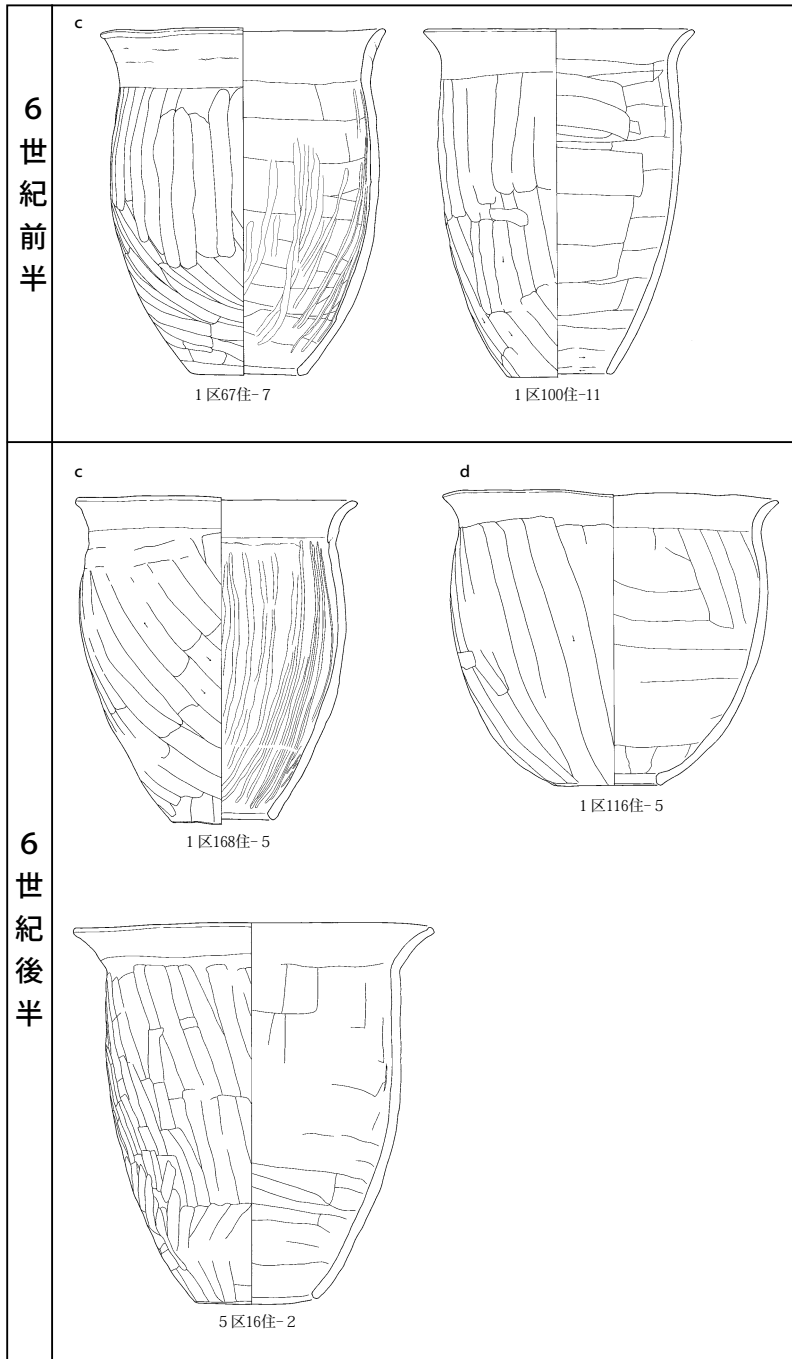
第934図 A類(有孔鉢形甗)の変遷

0 1:6 12cm



第935図 B類(褻形甌)の変遷(1)

0 1:6 12cm



第936図 甑形甑の変遷(2)

から頸部の外反は強くない。胴部外面は縦位のヘラ削りであり、内面には横位のヘラナデのみのものでその後にはヘラ磨きが施されるものがある。cは口縁部から頸部の外反が強まる。胴部外面は斜縦位もしくは斜位のヘラ削りが施され、内面は横位のヘラナデもしくはヘラ磨きが施される。dは、この時期にしか見られない。口径が大きく、胴部外面は斜縦位のヘラ削りで、内面は横位と斜位のヘラナデである。

③7世紀前半

A類はa-2、bが見られる。a-2は口縁部から頸

部がわずかに外反し、底部は丸みを帯びる。胴部外面は縦位のヘラ削りだが、下位には横位のヘラ削りが施される。内面はヘラナデである。bは口縁部から頸部の外反が強いものと弱いものがある。底部はわずかに丸みを帯びる。胴部外面は縦位もしくは斜位のヘラ削りで、内面はヘラナデである。

B類はa-1・2が見られる。a-1は引き続き口縁部から頸部の外反が強い。胴部外面は縦位と横位のヘラ削りであり、内面には縦位のヘラ磨きが施される。a-2は口縁部から頸部が強く外反する。頸部と胴部の境には段が付く。胴部外面は斜縦位のヘラ削り、内面は横位と斜縦位のヘラナデが施される。

(4)小結

以上のように、本遺跡出土の甑について分類と時期ごとの傾向をまとめてみた。ここでは、底部に穿孔が施された土器を甑として取り扱ったが、有孔鉢形(A類)のものと甑形(B類)のものとは大きく形態は異なり、土器全体の容量や孔の大きさも差異が大きい。これは甑として使用した場合、対応する甑に合わせた結果の可能性もあるが、用途も別である可能性を示しているといえよう。ただし、ここでは、用途についての検討を行うことはできず、資料の提示にとどめる。

A類は、aが特徴的な器形であり、bは小型甑の器形に近い。ただし、内外面の整形はa・b共に鉢や小型甑などと共通していることが

指摘できる。

B類は、形態的には甑に近い傾向がある。ただし、外山政子氏の指摘があるように、整形は異なり、内面にヘラ磨きが施される^(註10)など、甑とは異なる傾向がある。器形は、胴部下半に最大径を持つ甑は存在せず、中位以上に最大径を持つ。6世紀後半以降になるとやや長胴化し、口縁部から頸部の外反が強まる。この変化は甑類に共通する変化と考えられる。ただし、甑がより長胴化する7世紀前半には、それに対応した変化は確認できなかった。

7 古墳時代前期土器について

(1)はじめに

本遺跡における古墳時代前期調査面(9面)では、古墳時代前期の住居・土坑・畑等が調査され、一定数の土器が出土している。それら土器の型式内容について分類・検討し、変遷過程について提示する。また、本遺跡東に隣接する阿弥大寺本郷遺跡でも、古墳時代前期の集落が調査され、土器が出土している。筆者は以前、この土器群について編年の提示を行った^(註11)。本遺跡での検討結果と阿弥大寺本郷遺跡での編年を比較検討し、本遺跡を含む周辺古墳時代前期土器について考察する。

(2)型式内容について

本遺跡から出土し、検討対象とした土器は、器種別には甕・壺・高杯・器台・鉢・有孔鉢・片口である。今回出土土器の分類・検討作業を行うにあたり、土器の帰属時期を考える上で、床面・床面付近の床上等から出土した確実に住居に伴うと判断される土器を、基本的に対象とすることとした。器種によりばらつきはあるが、以下に、可能な限り分類する。

分類については、器種ごとに大区分をA・B・C、中区分をa・b・cとし、さらに細区分が必要なときは1・2・3とした(第937図)。

I 甕の分類 甕は10種類に分類した。

甕A いわゆる「S字状口縁台付甕」(以下、S字甕と表記する)をAとした。口縁部の形態・整形技法、器面外面の整形技法等から5分類した。Aaは肩部に横線(ヨコハケメ)を有するものとした。内面はヘラナデ整形が施されている^(註12)。肩部の横線が喪失しているものをAbとした。Abはさらに細分する。Ab1は、口縁部中段内面に平坦面を有し、口縁端部に向け直立気味に立ち上がる。内面は縦位のユビナデ整形している。Ab2は、口縁部中段内面に平坦部が無く、口縁が外傾気味に立ち上がる。内面はヘラナデ整形している。Acは、Aa・Abの器形に、口縁部が上へ伸長しているものである。Ac1は、肩部に横線(ヨコハケメ)を有し、内面は上部が縦位のユビナデ整形、下部が横位のヘラナデ整形する

ものとした。Ac2は外面のハケメが喪失しており、斜位のケズリ整形されている。内面はヘラナデ整形が施されている。

甕B 単口縁台付甕をBとした。Baは球胴型を呈し、くの子に屈曲する短い口縁部を有する。器面内外面にハケメ調整を施している。Bbは、Baに比べやや長胴化し、胴部中位に最大径を持つ。器面内面はケズリ整形している。

甕C 口縁部が「く」の字状に伸展する平底甕である。胴部最大径に対して、口縁部径がその半分程度である。輪積み痕がみられることから、弥生時代からの在来系の技法で作成された土器とみられる。

甕D 平底の甕をDとした。口縁部が「く」の字状に立ち上がっており、球形状を呈する。口縁部形態から、口縁部が外傾して立ち上がるものをDaとした。口縁部が外反して立ち上がるものをDbとした。

II 壺の分類 壺は6種類に分類した。

壺A やや倒卵形を呈する胴部を有し、肩部から頸部がすぼむという器形的特徴と器面外面にミガキやハケメを有するという技法的特徴を持つ、在来の弥生土器的な壺をAとした。折り返し口縁部を有し、器面外面がミガキ整形されているものをAa、単口縁部を有し、器面外面がハケメ整形されているものをAbとした。

壺B 二重口縁壺をBとした。Baは頸部が直立し、屈折して口縁部が開く。口縁部外面には、重円形浮文が配されている。頸部外面には、櫛描き文が施文されている。Bbは、頸部が外傾気味に直立する。器面外面には、施文がみられない。

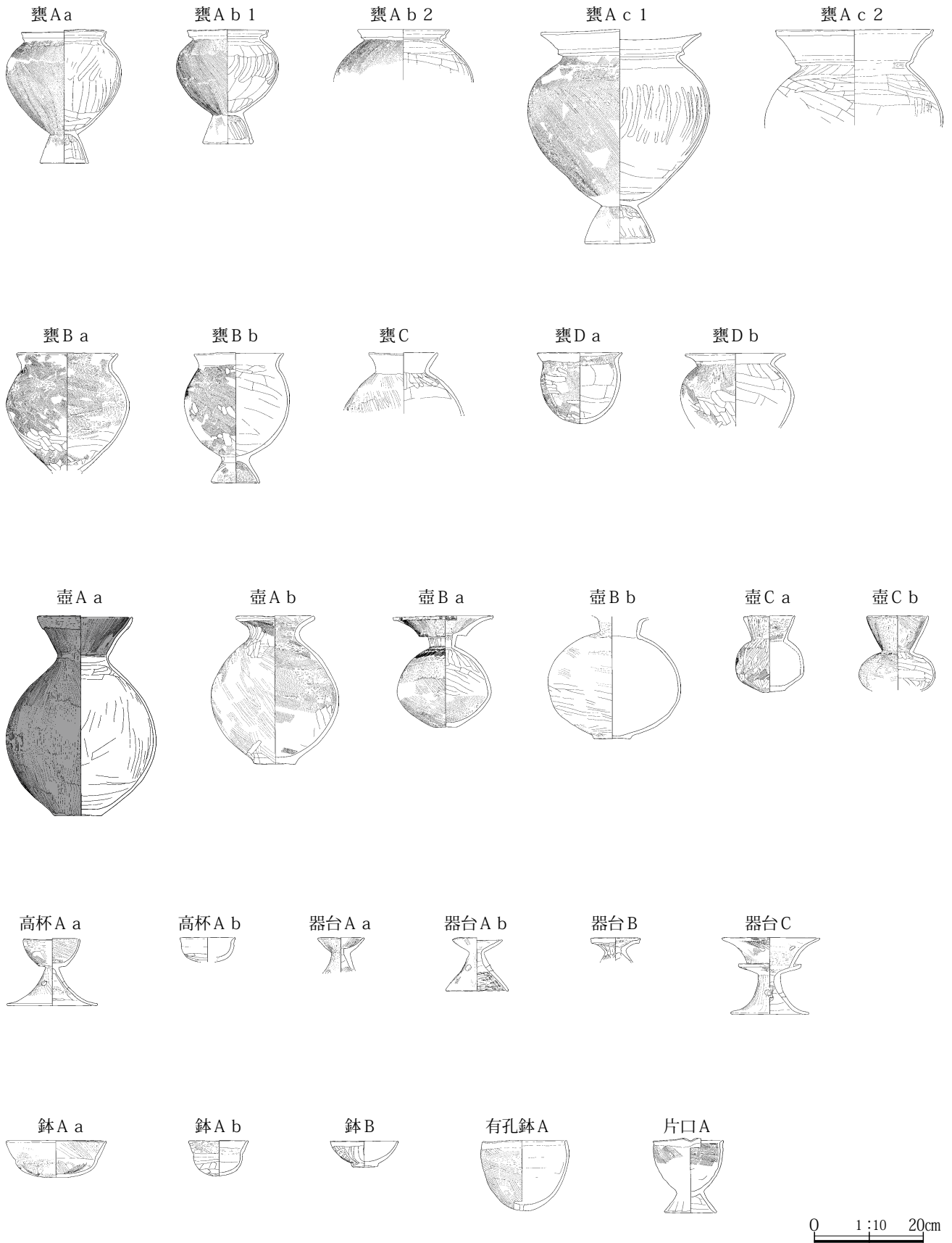
壺C 口縁部が長い罌形の壺をCとした。Caは口縁部が外傾気味に立ち上がり、球胴形を呈する。外面はヘラミガキにより整形されている。胴部の高さが、口縁部の長さより大きい。Cbは口縁がCaと比べ、外傾して立ち上がる。口縁端部がやや内湾する。胴部はそろばん玉状を呈し、口縁部の高さが、胴部の高さより大きい。

III 高杯の分類 高杯は2種類に分類した。

高杯A 椀形の杯部を有する。杯部の下半に稜を有するものをAaとした。杯部の下半に稜を有さず、口縁端部が内斜するものをAbとした。

IV 器台の分類 器台は4種類に分類した。

器台A 単口縁で小型の器台をAとした。受け部がやや



第 937 図 古墳時代前期土器の分類

第14章 総括

第23表 出土土器組成表

●床面及び床面付近出土遺物 ○埋没土中出土遺物

区	1	1	1	1	1	1	1	5	5	5	1	2	2	1
遺構番号	183	184	185	94	2	10	11	43	45	46	179	180	186	9
遺構種	住居	住居	住居	土坑	竪穴状遺構	竪穴状遺構	竪穴状遺構	住居	住居	住居	住居	住居	住居	竪穴状遺構
器種	1期			2期前半						2期後半				
甕	A a			○							○		●	
	A b 1	○		○	●			●		●	○	●		
	A b 2										○	●		
	A c 1				●						○			
	A c 2										●			
	B a		●											
	B b				●									
	C												●	
	D a					●	●							
	D b										●			
壺	A a			●										
	A b				●									
	B a						●							
	B b											●		
	C a		●											
	C b										●			●
高杯	A a									●				
	A b										●			
器台	A a	●												
	A b												●	
	B								●					
	C							○	○			○	●	
鉢	A a	●												
	A b												●	
	B								●					
有孔鉢	A				●									
片口	A		●											

内湾して開くものをA aとし、受け部が直線的に開くものをA bとした。

器台B 小型で、受け部が浅く、口縁端部が屈曲し、段を有するものをBとした。

器台C いわゆる「特殊器台」である。受け部に円形の穿孔を穿ち、鏝をもつ。口縁部は、屈曲して開く。脚部はハの字状に開く。

V 鉢の分類 鉢は3種類に分類した。

鉢A 頸部が屈曲する鉢をAとした。体部の高さより口縁部の長さの方が大きいものをA aとした。口縁部の長さより体部の高さの方が大きいものをA bとした。

鉢B 鉢Bは、やや内湾して立ち上がる口縁部を有する平底の鉢である。

VI 有孔鉢・片口の分類 有孔鉢・片口はそれぞれ1種類の分類とした。

(3)組列仮定の検討

I 型式組列仮定の提示

分類した土器のなかには、器形の形態変化や整形技法の変化を示すものがある。それら変化を元に、型式の組列について仮定し、提示する。

II 甕の型式組列仮定

甕A bについて、口縁部の変化・整形技法の省力という変化から組列を想定したい。S字状口縁の中段内面平坦面の喪失という変化及び、ユビナデ整形からヘラによるヨコナデ整形という器面内面の整形技法の省力からA b 1→A b 2という組列を想定する。A cは、器面外面のハケメの喪失、ケズリ整形という整形技法の省力からA c 1→A c 2という組列を想定する本遺跡から出土したA aは、口縁の中段内面が喪失しており、内面がヘラナデ整形であることから、A b 2と並行する段階のものと捉えられる。

甕Bは、球胴形から長胴形へという器形の変化、器面内面のハケメ整形からヘラナデ整形という、成形技法の省力変化からB a→B bを想定する。

甕Dは、口縁部の立ち上がり、外傾から外反へという変化から、D a→D bという組列を仮定する。甕Cは1分類なので、型式組列仮定を行わない。

III 壺の型式組列仮定

壺Bについて、器面外面装飾の有無、頸部の立ち上が

りが外傾するという変化からB a→B bの組列を想定する。

壺Cは、口縁部の外傾が進むという変化からC a→C bの組列を想定する。

尚、壺Aは、在来弥生系で分類したが、共通の変化基準が持てないため、型式組列仮説を行わない。

IV 高杯の型式組列仮定

高杯は、共通する変化基準が持てないため、型式組列仮定を行わない。

V 器台の型式組列仮定

器台Aは、やや内湾して開く受け部から直線的に開く受け部という変化からA a→A bという組列を想定した。器台B・Cは1分類なので、型式組列仮定を行わない。

VI 鉢・有孔鉢・片口の型式組列仮定

鉢は共通する変化基準が持てないため、有孔鉢・片口は1分類であるため、型式組列仮定を行わない。

VII 型式組列の検証

Iで想定した型式組列を、出土遺構ごとの共伴関係から検証する。第23表は、分類した土器型式を遺構ごとに並べ、想定した土器の組列順に並べたものである。

第23表では、想定した組列が、大筋的に矛盾するところなく並ぶ。甕A b 2は、A b 1と共伴している。組列仮定した新しい型式が、古い型式とともに出土しているのだが、これは、古い型式が継続して使われていたと考えたい。また、壺B aは共伴する遺物がなく、B bとの組列の整合性が確認できなかった。田口一郎氏の研究^(註13)や若狭徹氏・深澤敦仁氏の研究^(註14)など先行する研究事例を援用するならば、本遺跡でも逆転はないと考えたい。

住居の重複関係からも検証を試みたが、検証の結果、新旧関係の矛盾は確認されなかった。

(4)画期の設定と編年案

I 画期の設定

(3)で提示した型式組列及び、第23表による各遺構の遺物共伴状況から、本遺跡における出土遺物を3つの段階に区分した(第23表)。画期として、甕Aの出現を想定し、2期に区分した。さらに甕Aの変遷を元に2期内を、前半・後半とした。それぞれの段階について、以下に提示する。

1期

1期は、甕B a・甕B b、壺A a・壺B a・壺C aが主体となる。この時期の遺構からは、甕Aが共存しない。本遺跡ではS字甕が出現する前段階であると言えよう。甕Aが埋土中から出土する遺構もある。これは廃絶後の混入と考えられ、甕Aが出現する前段階であることの証左であると捉える。この期に比定される遺構は、1区183号住居・1区184号住居・1区185号住居・1区11号竪穴状遺構・1区94号土坑・5区45号住居である。

2期

2期は甕A類が主体となる。甕A b 1からA b 2への変化を小画期として2期を前半・後半に二分する。これは、画期が、同一器種内の変化であり、甕Aの出現という画期と比べ小画期であり、本遺跡出土の甕A b 2は甕A b 1と共存していることから、時間幅が短いと考え、前・後半とした。

2期前半

2期前半は、甕A b 1・甕A c 1・甕D a・甕D b、高杯A aが主体となる。この期に比定される遺構は1区2号竪穴状遺構・1区10号竪穴状遺構・5区43号住居・5区46号住居である。

2期後半

2期後半は、甕A a・甕A b 2・甕A c 2・甕C、壺B b・壺C b、器台A b・器台Cが主体となる。この期に比定される遺構は、1区180号住居・1区186号住居・1区179号住居・1区9号竪穴状遺構である。1区179号住居は、埋没土中から出土した土器が、2期前半も含む2期のものである。埋没土中の土器が、住居廃絶後に投棄された土器であれば、本住居は2期前半もしくは、それより早い段階に位置づけなければならないであろう。しかし、本住居に伴うと考えられる甕A c 2は、器面外面にハケメを施さない、S字状口縁台付甕の口縁が伸展したものである。管見では、このA c 2がハケメを有するA c 1に先行する例は見当たらない。このことから、埋没土中の土器は、本住居廃絶後に他の住居で、継続して使用していた土器を投棄したものであると解釈する。

(5) 阿弥大寺本郷遺跡との比較

I 阿弥大寺本郷遺跡出土の古墳時代前期土器

隣接する阿弥大寺本郷遺跡では、古墳時代前期の遺構

として、住居・溝・流路・水田・遺物集中地点が調査された。住居47軒からは、甕・壺・高杯・器台・鉢・有孔鉢・台付鉢・蓋・埴・手捏ねが出土している。このうち、洪水や流路等に重複、あるいはそれが原因で喪失したと考えられる住居を除いた27軒から出土した土器について、分類・型式編年を行った。

紙幅の都合もあり、概略して述べる。出土した土器は3期4段階とした。画期の基準としたのはS字甕である。S字甕の出現と消失を画期として3期に区分した。

1期は、S字甕が出現する前段階とし、主な土器は、「く」の字口縁平底甕・単口縁台付甕・稜線のある杯部を有する高杯などである。

2期は、S字甕の出現を画期とした。さらにS字甕の口縁形態の差異を小画期とし、前半・後半に画期した。2期前半は、器面外面に横線部を持たないS字甕のうち口縁部中段内面に平坦面を有し、口縁端部に向け直立気味に立ち上がるものを指標とした。S字甕の他に主体となるのは、単口縁台付甕・単口縁壺・小型低脚高杯・特殊器台などである。2期後半は、器面外面に横線部を持たないS字甕のうち口縁部中段内面に平坦面が無く、口縁が外傾気味に立ち上がるものを指標とし、口縁部が伸長するS字甕・長胴化した単口縁台付甕・特殊器台なども含まれる。

3期は、S字甕の消失を指標とした。この段階に含まれるのは、「く」の字口縁平底甕・単口縁壺・屈折長脚高杯などである。いずれもナデ・ケズリ整形の土器である。

II 本遺跡出土土器と阿弥大寺本郷遺跡出土土器について

本遺跡出土土器の編年と阿弥大寺本郷出土土器の編年について、どちらの遺跡も、出土の主体を占めるS字甕の組列を基準として、編年案を提示した。その基準も、同じ形態・技法のもの(本遺跡甕A b 1・A b 2)であり、両遺跡は、以下のように併行関係にあると位置付けたい。

本遺跡	阿弥大寺本郷遺跡
1期	1期
2期前半	2期前半
2期後半	2期後半
	3期

時期的に併行関係にあると位置付けた両遺跡であるが、差異もある。阿弥大寺本郷遺跡では、本遺跡甕A bに続くS字甕としてS字状口縁部が形骸化し、器面外面

のケズリが顕在化するものが続いている。本遺跡では、それが見られない。しかし、口縁部が伸長するS字甕(甕A c)について、器面外面のケズリが顕在化するものが見られた。また、本遺跡では、1期に在来弥生系の壺が出土しているが、阿弥大寺本郷遺跡では出土していない。阿弥大寺本郷遺跡では、1期に東海西部系譜である有稜高杯が出土しているが、本遺跡では出土していない。この差異が何に起因するのかは、今回の調査及び論稿では言及することができない。しかし、推測ではあるが、大局的には歩調を同じくする隣接した二つの集団の、個性とも言える小さな差と考えたい。

本遺跡は、阿弥大寺本郷遺跡3期に相当する遺物を持った遺構が確認されなかった。本遺跡は古墳時代2期後半をもって、本章5(1)で述べたように、一度集落経営が断絶する。再開されるのは、6世紀以降である。一方、阿弥大寺本郷遺跡は6世紀まで途切れることなく続いていく。土器について論じている本稿の中では、これ以上取り上げられないが、これは両遺跡の最も大きな差異と考えられる。

阿弥大寺本郷遺跡については、先行する研究成果の中での位置付けを行った。その結果、地域編年を仔細に行った若狭氏・深澤氏の編年^(註15)において、1期が古墳時代前期中段階、2期が前期中段階から新段階にかけて、3期が前期新段階に併行すると結論付けた。本遺跡は阿弥大寺本郷遺跡と併行することから、1期は前期中段階、2期は前期中段階から新段階にかけての時期に相当すると考えられる。

(6)小結

本遺跡古墳時代前期の土器について、分類し、2期3段階の編年を示した。隣接する阿弥大寺本郷遺跡の古墳時代前期土器と比較したところ、ほぼ同時期のものであるが、本遺跡の方が早く消滅したと結論づけることができた。

東西約1.5km間という限定的な空間ではあるが、那波地区内^(註16)での古墳時代前期土器の動向がわかったことこの意義は大きいと考える。

今回の検討では、埋土扱いであるため検討対象としなかったが、調査では、北陸系の甕が出土した^(註17)。その形態・技法から模倣が進んだ在地のものである

が、東海系の土器以外に北陸系の土器を使っていた可能性が考えられる。本遺跡より時代は遡るが、北西約3.5kmに位置する砂町遺跡では、北陸東北系の甕が出土しており^(註18)、関連する可能性も考えられる。いずれにせよ、検討するにはまだ資料が少ない状況であると言える。この状況については、今後の資料蓄積を待って改めて論じていく課題と考えている。

註1 前橋市立図書館編1986『前橋藩松平家記録』第13巻

註2 関重嶺『沙降記』(萩原進1985『浅間山天明噴火史料集成』I日記編に所収)

註3 菊池誠一2003「文献から見た宮柴前遺跡の耕地群」『宮柴前遺跡I・II』伊勢崎市文化財調査報告書 第49集 伊勢崎市教育委員会 pp.55-59

註4 篠木弘明1993「農業生産」『伊勢崎市史』通史編2 伊勢崎市教育委員会 pp.348-352

註5 伊勢崎市1989「一六六 寛政十年 伊勢崎町武家農業日記」『伊勢崎市史』資料編2 近世II

註6 監物聖善・菊池誠一1993「伊勢崎の近世史主要年表」『伊勢崎市史』伊勢崎市教育委員会

註7 萩原進1992「第五章 災害と飢饉の推移」『群馬県史』通史編6 近世3 群馬県 pp.833-838

註8 萩原進編1949『寛保洪水記録』創元書房

註9 飯森康広2013「荒廢地の再開発と中世の幕開け」『自然災害と考古学』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 pp.127-134

註10 外山政子1989「群馬県地域の土師器甕について」『研究紀要』6 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

註11 長谷川博幸2015「阿弥大寺本郷遺跡出土古墳時代前期土器の編年的位置付けについて」『研究紀要』33 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

註12 今回調査では、床面付近からは出土しなかったが、埋土中から外面に横線文を有し、内面をユビナデ整形しているS字状口縁台付甕が出土している(たとえば第865図3)。甕A aが2分類する可能性も考えられる。

註13 田口一郎1981「X1遺物の検討(2)二重口縁壺の系譜の検討」『元島名将塚古墳』高崎市教育委員会 pp.85-90

註14 若狭徹氏・深澤敦仁氏が示した編年。若狭徹・深澤敦仁2005「北関東における古墳出現期の社会」『新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』新潟県考古学会

註15 註14同

註16 遺跡の所在は共に伊勢崎市であるが、ここでの地区区分は註14の文献に倣った。

註17 北陸系の土器は、北陸北東系のもので1区179号住居(第849図18)から、北陸南西系のもので1区179号住居(第849図17)・5区遺物集中(第886図6)から出土しているが埋土中から出土していることなどから、今回の分析対象とはしなかった。

註18 深澤敦仁・中里正憲 2002「群馬県玉村町所在・砂町遺跡出土の北陸系土器の位置づけをめぐって」『研究紀要』20 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

土坑計測表

第24表 土坑計測表

1区土坑計測表

番号	面	挿図	PL.	グリッド	形状	主軸方位	長軸×短軸×深さ	出土遺物(番号)	重複遺構・備考
1	2.5	154	37	X=136 Y=-011	楕円形	N-39°-E	1.80×1.45×0.31	近世磁器1片・施釉陶器1片、土師器(甕類1片)	
3	2.5	155	37・192	X=144 Y=-995	隅丸長方形	N-80°-E	2.34×1.34×0.15	肥前磁器蓋物(1)	
4	2.5	154	37	X=137 Y=-023	不整形	N-17°-W	1.61×1.10×0.08	土師器(甕類3片)	
6	4	197		X=131 Y=-008	円形	N-87°-E	1.46×0.44×0.11		
7	5	235	58	X=140 Y=-011	隅丸長方形	N-73°-E	1.35×0.44×0.05		13溝
8	5	235	58	X=138 Y=-011	隅丸長方形	N-80°-E	1.50×0.49×0.33		
9	5	235	58	X=138 Y=-013	隅丸長方形	N-82°-E	1.26×0.36×0.34	土師器(杯類3片、甕類7片)	
10	5	235	59	X=138 Y=-014	隅丸長方形	N-86°-E	1.07×0.37×0.15	土師器(甕類1片)	
11	5	235	58	X=138 Y=-010	隅丸長方形	N-85°-E	1.46×0.46×0.15		
12	5	235		X=137 Y=-012	隅丸長方形	N-27°-W	1.15×0.41×0.10	土師器(杯類4片)	13土坑
13	5	235	58	X=137 Y=-011	隅丸長方形	N-75°-E	1.28×0.45×0.12		12土坑
14	5	235・239	58・195	X=136 Y=-013	隅丸長方形	N-14°-W	1.29×0.48×0.12	肥前系磁器染付小碗(1)、肥前磁器染付瓶(2)、肥前陶器陶胎染付碗(3)、砥石(4)、近世磁器1片、土師器(甕類1片)	
15	5	235	58	X=134 Y=-011	隅丸長方形	N-10°-W	1.65×0.43×0.18		P55
16	5	235	59	X=132 Y=-019	隅丸長方形	N-12°-W	1.10×0.41×0.15	土師器(甕類1片)	
17	5	235	59	X=128 Y=-020	円形	N-26°-W	1.57×1.47×0.23	近世施釉陶器2片、土師器(杯類7片、甕類12片)、須恵器(甕類1片)	P40・76、1掘立
18	5	236	59	X=134 Y=-021	楕円形	N-78°-W	1.17×1.06×0.21	土師器(杯類4片、甕類18片)	
19	5	236	59	X=135 Y=-021	楕円形	N-38°-E	1.48×1.37×0.28	近世施釉陶器1片・在地系土器(鍋類1片)、土師器(杯類6片、甕類11片)	
20	5	236	59	X=126 Y=-019	楕円形	N-78°-W	0.84×0.72×0.28	土師器(杯類2片、甕類2片)	
21	5	236	59	X=127 Y=-017	隅丸長方形	N- 5°-W	1.64×0.39×0.06		
22	5	236	59	X=127 Y=-020	円形	N- 7°-W	0.73×0.71×0.07		
23	5	236	58	X=136 Y=-010	隅丸長方形	N-85°-E	1.14×0.47×0.19		
24	5	236	58	X=136 Y=-010	隅丸長方形	N-77°-E	1.90×0.48×0.20	不明銭貨1枚	P73
25	5	236	59	X=125 Y=-020	楕円形	N-71°-W	0.82×0.53×0.21		
26	5	236	58	X=133 Y=-013	隅丸長方形	N-13°-W	1.28×0.69×0.05		
27	5	236	59	X=130 Y=-010	隅丸長方形	N- 2°-W	0.91×0.35×0.08		
28	5	236	59	X=137 Y=-020	隅丸長方形	N-10°-W	1.15×0.45×0.06		
29	5	236	59	X=128 Y=-013	隅丸長方形	N- 8°-W	1.69×0.45×0.11		30土坑と併せて土師器(甕類2片)出土
30	5	236	59	X=128 Y=-013	隅丸長方形	N- 9°-W	1.44×0.45×0.13		29土坑と併せて土師器(甕類2片)出土
31	5	236・239	58・195	X=134 Y=-013	隅丸長方形	N-14°-W	(1.20)×(0.31)×0.06	不明石製品(5・6)、近世施釉陶器1片、土師器(杯類1片、甕類3片)	32・33・34土坑
32	5	236	58	X=135 Y=-013	隅丸長方形	N-13°-W	(1.27)×0.52×0.12		31土坑
33	5	236	58	X=135 Y=-013	隅丸長方形	N-10°-W	(1.38)×0.40×0.24		31・34土坑、P54
34	5	236	58	X=134 Y=-013	隅丸長方形	N-10°-W	(1.36)×(0.49)×0.15		31・33土坑、P54
35	5	237	59	X=131 Y=-022	楕円形	N-73°-E	2.97×1.72×0.44	土師器(杯類5片、甕類4片)	36・37土坑 36土坑と併せて近世施釉陶器2片、土師器(杯類10片、甕類40片)、須恵器(杯類1片)出土
36	5	237	59	X=131 Y=-021	円形	N-35°-E	1.49×1.41×0.46	土師器(杯類37片、甕類84片)、不明銭貨?1枚	35・37土坑 35土坑と併せて近世施釉陶器2片、土師器(杯類10片、甕類40片)、須恵器(杯類1片)出土
37	5	237	59	X=129 Y=-021	円形	N- 8°-E	(0.77)×0.83×0.16	近世施釉陶器1片、土師器(杯類2片、甕類1片)	35・36土坑
38	5	237・239	59・196	X=120 Y=-010	楕円形	N-61°-E	1.35×0.98×0.59	板碑片(7・8)、刀子(9)、板碑片、土師器(杯類3片、甕類25片)、須恵器(杯類3片)	24溝
39	5	237	59	X=137 Y=-027	隅丸長方形	N-14°-W	(1.52)×0.4×0.34	須恵器(杯類1片)	40土坑
40	5	237	59	X=136 Y=-027	隅丸長方形	N-16°-W	(2.00)×0.61×0.24	不明鉄製品、土師器(杯類11片、甕類7片)	39土坑

土坑計測表

番号	面	挿図	PL.	グリッド	形状	主軸方位	長軸×短軸×深さ	出土遺物(番号)	重複遺構・備考
41	5	237	59	X=133 Y=-026	隅丸長方形	N-10°-W	(1.40)×0.48×0.15		42土坑と併せて土師器(杯類26片、甕類52片)、須恵器(杯類2片、甕類1片)
42	5	237	59	X=133 Y=-026	隅丸長方形	N-16°-W	1.78×0.42×0.24		41土坑と併せて土師器(杯類26片、甕類52片)、須恵器(杯類2片、甕類1片)
43	5	237	60	X=128 Y=-025	楕円形	N-73°-E	(0.68)×0.61×0.25		5土坑、21溝
44	5	237	60	X=121 Y=-012	楕円形	N-54°-W	2.33×1.97×1.12	不明鉄製品、土師器(杯類20片、甕類53片)、須恵器(杯類3片、甕類1片)	16・18・22・24溝
45	5	238	60	X=132 Y=-007	隅丸長方形	N-14°-W	1.93×(1.65)×0.09		9・15溝
46	6	273	70	X=138 Y=-023	隅丸長方形	N-3°-W	(0.58)×0.54×0.12		
47	6	273	70	X=137 Y=-023	長楕円形	N-90°-E	1.00×0.44×0.03	土師器(杯類1片)	
48	6	273	70	X=128 Y=-014	不整形	N-44°-E	0.49×0.39×.0.17		
49	7	321	84	X=131 Y=-015	円形	N-34°-E	1.07×1.03×0.37	土師器(杯類1片、甕類2片)	
50	7	321	84	X=133 Y=-015	隅丸方形	N-33°-W	0.90×0.78×0.18	土師器(甕類1片)、須恵器(杯類1片)	
51	7	321	85	X=145 Y=-995	隅丸長方形	N-88°-W	1.65×1.21×0.08		
52	7	321	85	X=138 Y=-992	隅丸長方形	N-79°-W	1.58×1.43×.0.18	土師器(杯類8片、甕類14片)	
53	7	321	85	X=138 Y=-990	隅丸長方形	N-10°-W	2.11×0.29×.0.03	土師器(杯類5片、甕類7片)、須恵器(杯類1片)	
54	7	321	85	X=139 Y=-989	隅丸方形	N-23°-W	0.73×0.69×0.07	土師器(杯類1片、甕類3片)	
55	7	321	85	X=132 Y=-990	隅丸長方形	N-59°-W	1.23×1.06×0.31	土師器(杯類1片、甕類8片)	
56	7	322	85	X=122 Y=-992	楕円形	N-40°-W	0.82×0.67×0.17		
57	7	322	85	X=125 Y=-002	楕円形	N-14°-E	0.73×0.61×0.26	土師器(杯類2片、甕類4片)	
58	7	322	85	X=120 Y=-986	楕円形	N-64°-E	0.63×0.35×0.08		
59	8	735		X=119 Y=-981	隅丸長方形	N-30°-W	1.40×(0.99)×0.31	土師器(杯類1片、甕類1片)	
60	8	735・737	152・231	X=137 Y=-018	楕円形	N-45°-W	(1.00)×(0.99)×0.13	土師器杯(1)、土師器甕(2)、土師器(杯類2片、甕類3片)	43住
61	8	735・737	153	X=133 Y=-007	隅丸方形	N-48°-E	0.85×0.72×0.29	土師器杯(3)、土師器(杯類5片、甕類8片)	82住、2土坑
62	5	238	60	X=161 Y=-932	隅丸長方形	N-76°-E	(1.90)×0.77×0.15		29溝
63	5	238	60	X=143 Y=-957	隅丸方形?	N-31°-W	0.80×(0.52)×0.11		5溝
64	5	238	60	X=132 Y=-957	隅丸長方形	N-15°-W	(2.50)×1.05×0.17	土師器(甕類1片)	
65	7	322	85	X=162 Y=-925	隅丸方形	N-27°-W	1.31×1.17×0.17	土師器(杯類3片、甕類1片)	29溝
66	7	322	85	X=149 Y=-919	隅丸方形?	N-12°-W	3.35×(2.00)×0.19	土師器(甕類14片)	P227・231・236・257・277
67	7	322	85	X=146 Y=-918	隅丸長方形	N-12°-W	3.76×2.10×0.14	土師器(杯類2片、甕類6片)	P238～240・242～245・250～252・259～261・280・302
68	7	322	85	X=163 Y=-932	隅丸長方形?	N-75°-E	(5.35)×1.37×0.12		29溝
69	7	322	85	X=150 Y=-921	隅丸長方形	N-78°-W	0.55×0.45×0.08		
70	6	273	70	X=133 Y=-955	楕円形	N-29°-W	0.99×(0.75)×0.08		46・47溝
71	8	735・737	153・231	X=144 Y=-980	隅丸方形	N-50°-E	1.30×1.12×0.17	土師器杯(4)、凹石(5)	110・119住
72	8	735・737	152・231	X=144 Y=-982	隅丸長方形	N-40°-E	1.50×1.21×0.28	土師器杯(6)、小型甕(7)	130住
73	8	735	152	X=139 Y=-939	楕円形	N-12°-W	2.25×1.60×0.16	土師器(杯類1片、甕類268片)	
75	8	735	153	X=131 Y=-974	楕円形	N-20°-W	0.68×0.63×0.10		149住
76	8	735	153	X=134 Y=-977	隅丸長方形	N-45°-E	1.69×0.52×0.18	土師器(杯類1片、甕類3片)	77・79土坑
77	8	735	153	X=134 Y=-976	楕円形	N-31°-E	0.97×(0.80)×0.17		149住、76土坑、P319
78	8	736・737	153	X=139 Y=-083	隅丸長方形	N-68°-E	1.21×1.05×0.54	土師器杯(8)、土師器(杯類2片、甕類2片)	55溝
79	8	736・737	153・231	X=134 Y=-978	楕円形	N-58°-E	3.01×(1.22)×0.49	土師器杯(9・10)、土師器甕(11)、土師器(杯類1片、甕類34片)	87・139住、76土坑、P318
80	8	736・737	153	X=135 Y=-064	隅丸長方形	N-18°-W	2.80×1.38×0.51	土師器杯(12)、土師器甕(13)、土師器(杯類3片、甕類29片)、須恵器(甕類3片)	86・131住、7竪穴

土坑計測表

番号	面	挿図	PL.	グリッド	形状	主軸方位	長軸×短軸×深さ	出土遺物(番号)	重複遺構・備考
81	6	273	70	X=127 Y=959	楕円形	N-4°-W	1.00×0.93×0.50	土師器(杯類5片、甕類13片)	
82	6	271・272	71・196	X=134 Y=940	隅丸長方形	N-23°-W	0.98×0.67×0.42	銭貨(1~3)、土師器(甕類4片)	人歯出土、土壙墓
83	6	271・272	71・196	X=133 Y=940	隅丸長方形	N-26°-W	1.30×0.74×0.59	銭貨(4~9)	人骨出土、土壙墓
84	7	322	85	X=138 Y=921	隅丸長方形	N-63°-E	1.66×1.11×0.15		
85	7	322	85	X=125 Y=965	隅丸長方形	N-72°-E	0.99×0.77×0.24	土師器(杯類8片、甕類13片)、須恵器(甕類4片)	
86	8	736	153	X=127 Y=977	円形?	N-67°-E	1.15×(0.67)×0.21	土師器(甕類1片)	163住
87	8	736・737	153	X=124 Y=979	楕円形?	N-78°-E	1.17×0.95×0.49	土師器杯(14)、土師器甕(15)、土師器(杯類7片、甕類6片)、モモの核(2点)	167・170住
88	8	736・737	153	X=126 Y=970	隅丸長方形	N-79°-E	1.31×1.03×0.14	土師器杯(16)、土師器(杯類8片、甕類9片)	57溝
89	8	736・737	153	X=120 Y=977	隅丸長方形	N-70°-E	2.29×(1.16)×0.25	土師器杯(17)、土師器(杯類10片、甕類13片)	166・167・177住、90土坑
90	8	736・737	153	X=121 Y=976	隅丸方形?	N-73°-E	(1.10)×(1.22)×0.18	土師器甕(18)、土師器(杯類5片、甕類20片)	166・174住、89土坑
91	9	888	178	X=151 Y=971	隅丸方形	N-20°-W	0.73×0.65×0.14	土師器(甕類4片)	56畑
92	9	888	178	X=132 Y=958	隅丸長方形	N-58°-W	0.91×0.69×0.13	土師器(甕類1片)	55畑
93	9	888	178	X=129 Y=965	隅丸長方形	N-62°-E	(1.38)×0.89×0.16	土師器(杯類1片、甕類19片)	182住
94	9	889	178・246	X=129 Y=969	円形	N-46°-E	0.83×0.78×0.20	土師器壺(1)、土師器台付甕(2・3)、土師器小型壺(4)、土師器(杯類3片、甕類25片)	

2区土坑計測表

番号	面	挿図	PL.	グリッド	形状	主軸方位	長軸×短軸×深さ	出土遺物(番号)	重複遺構・備考
1	4	205		X=153 Y=859	円形	N-68°-E	(0.76)×0.80×0.36		28溝
2	5	250	63	X=136 Y=874	楕円形	N-81°-W	2.51×1.93×0.12		
3	5	250	63	X=155 Y=850	隅丸長方形	N-68°-E	0.89×0.53×0.49		
4	5	250	63	X=170 Y=820	楕円形	N-68°-E	1.18×0.90×0.77		
5	7	332		X=158 Y=901	隅丸長方形	N-77°-E	1.52×1.19×0.16	土師器(杯類1片)	
6	7	332	89	X=163 Y=906	不明	N-69°-E	(0.60)×(1.87)×0.41	須恵器(甕類1片)	
7	7	332		X=148 Y=898	楕円形	N-41°-W	1.12×0.76×0.10		
8	7	332	89	X=171 Y=887	不明	N-25°-W	(0.65)×1.07×0.08		
9	7	332	89	X=163 Y=827	楕円形	N-25°-W	1.35×0.95×0.23		
10	7	332	89	X=160 Y=841	隅丸長方形	N-70°-E	0.83×0.56×0.26	土師器(杯類1片)	10溝
11	7	332	89	X=167 Y=821	隅丸長方形	N-48°-W	0.65×0.55×0.16		
12	7	332	89	X=167 Y=819	円形	N-28°-E	0.82×0.80×0.20		
13	7	332	89	X=154 Y=856	円形	N-31°-W	0.70×0.66×0.15	土師器(杯類1片)	
14	7	332	89	X=161 Y=835	円形	N-24°-E	1.11×1.00×0.58		34・35溝
15	7	332	89	X=154 Y=821	隅丸長方形	N-9°-W	0.65×0.51×0.20		
16	7	332	89	X=155 Y=820	楕円形	N-27°-E	(1.14)×(0.93)×0.31		
17	8	747	156	X=174 Y=849	楕円形	N-75°-E	0.61×0.43×0.13	凹石(1)	
18	8	747	156	X=165 Y=844	楕円形	N-81°-E	0.67×0.58×0.30		
19	8	747	156	X=137 Y=893	円形?	N-30°-W	0.85×0.51×0.25		

3区土坑計測表

番号	面	挿図	PL.	グリッド	形状	主軸方位	長軸×短軸×深さ	出土遺物(番号)	重複遺構・備考
2	7	342	92	X=154 Y=775	楕円形	N-43°-E	0.90×0.68×0.10		
3	7	342	92	X=155 Y=776	楕円形	N-29°-E	0.99×0.85×0.30	土師器(杯類1片、甕類5片)、須恵器(杯類3片)	
4	7	340	92	X=140 Y=741	隅丸長方形+張出	N-5°-W	(1.23)×1.16×0.21		人骨出土、火葬遺構
5	7	341	92	X=160 Y=742	隅丸長方形+張出	N-22°-E	1.57×1.09×0.22		人骨出土、火葬遺構
6	7	342	92	X=146 Y=772	円形	N-66°-E	2.02×1.85×0.88		
7	7	342	92	X=147 Y=667	楕円形?	N-23°-W	(0.98)×(0.56)×0.25		

4区土坑計測表

番号	面	挿図	PL.	グリッド	形状	主軸方位	長軸×短軸×深さ	出土遺物(番号)	重複遺構・備考
56	6	298		X=145 Y=626	隅丸長方形?	N-30°-E	1.07×0.38×0.05		
57	6	298	81	X=127 Y=576	不整形	N-49°-W	0.67×0.66×0.14		
58	7	353	97	X=145 Y=643	楕円形	N-15°-E	1.11×0.89×0.15		
59	7	353	97	X=123 Y=613	楕円形	N-19°-E	1.19×0.75×0.37		
60	7	353		X=114 Y=554	隅丸長方形	N-57°-E	(1.58)×(0.70)×0.12		

5区土坑計測表

番号	面	挿図	PL.	グリッド	形状	主軸方位	長軸×短軸×深さ	出土遺物(番号)	重複遺構・備考
1	1	21	2・185	X=033 Y=-912	隅丸方形	N-27°-W	0.85×0.82×0.50	がま口口金(1)、寛永通寶(2~4)、文久永寶(5)、半銭銅貨(6)、稲5銭白銅貨(7)	人骨出土、土壙墓
2	1	22	2・186	X=035 Y=-914	隅丸長方形	N-21°-W	0.95×0.67×0.38	櫛(1)、寛永通寶(2~4)、半銭銅貨(5)、銅製小鉤、土師器(杯類1片、甕類2片)	人骨出土、土壙墓
3	4	218	52	X=046 Y=-905	円形	N-0°	1.09×1.09×0.12	土師器(杯類12片、甕類2片)	
4	4	218	52	X=043 Y=-905	円形	N-36°-W	(0.90)×1.05×0.17	土師器(杯類9片、甕類5片)、須恵器(甕類2片)	
5	4	218	52	X=044 Y=-905	円形	N-27°-W	0.72×0.69×0.14	土師器(杯類3片)	
6	4	218	52	X=048 Y=-910	円形	N-44°-W	0.73×0.71×0.05	土師器(杯類2片)	
7	4	218	52	X=050 Y=-903	円形	N-49°-W	0.77×0.59×0.13	土師器(甕類1片)	
8	7	361	101	X=043 Y=-933	隅丸長方形	N-60°-E	1.78×1.05×0.08	平瓦(1)、土師器(杯類9片)、須恵器(甕類1片)	
9	7	361	101	X=052 Y=-928	円形?	N-50°-E	(2.71)×(1.07)×0.23	土師器(杯類6片、甕類2片)、須恵器(杯類2片)	24・26溝
10	7	361	101	X=055 Y=-893	楕円形	N-47°-W	0.83×0.75×0.19	土師器台付甕(2)、土師器(杯類2片)	
11	7	361	101・197	X=044 Y=-934	隅丸長方形	N-14°-W	1.59×1.43×0.13	土師器杯(3)、丸瓦(4)、平瓦(5)、土師器(甕類11片)、瓦1片	
12	7	361	101	X=049 Y=-926	隅丸長方形	N-25°-W	1.65×0.35×0.13	土師器(杯類3片、甕類6片)	
13	8	843・844	172・238	X=044 Y=-936	隅丸長方形	N-7°-E	1.97×0.99×0.35	土師器埴(1)、土師器小型壺(2)、土師器台付甕(3)、土師器(杯類5片、甕類3片)	2・22住
14	8	843	172	X=052 Y=-903	隅丸長方形	N-30°-E	1.43×0.63×0.25		24住
15	8	843	172	X=046 Y=-927	隅丸方形	N-60°-W	1.10×1.05×0.59	土師器(杯類2片)	21・29住
16	8	843・844	172	X=037 Y=-927	不整形	N-73°-E	1.40×0.91×0.43	土師器高杯(4)、土師器(杯類3片、甕類8片)、須恵器(甕類1片)	40住、35溝
17	8	843・844	172	X=038 Y=-914	隅丸長方形?	N-8°-E	(1.78)×1.22×0.44	土師器杯(5)、土師器(杯類7片、甕類5片)、須恵器(杯類1片)	7・9墓
18	8	843	172	X=031 Y=-930	楕円形?	N-40°-W	(1.68)×(0.84)×0.14		1・6・36・38住
19	8	843	172	X=032 Y=-932	隅丸長方形	N-63°-E	2.58×2.24×0.22	土師器(杯類1片、甕類7片)、須恵器(甕類1片)	1・36・38・48住
20	8	843・844	172	X=030 Y=-930	隅丸長方形	N-42°-W	1.67×1.16×0.17	土師器特殊器台(6)、土師器(杯類4片、甕類1片)	6・36・38・48住
21	8	844	172	X=031 Y=-927	楕円形	N-39°-E	0.78×0.55×0.34		6・36住
22	9	909	184	X=035 Y=-916	円形	N-52°-W	1.43×1.40×0.17		34住、3竪穴
23	9	909	184	X=043 Y=-914	円形	N-87°-E	1.10×1.05×0.17	土師器(杯類2片、甕類4片)	33住
24	8	844	172	X=027 Y=-932	円形	N-22°-W	0.50×(0.27)×0.11	須恵器椀(7)、土師器甕(8)、土師器(甕類1片)	

ピット計測表

第25表 ピット計測表

1区ピット計測表

番号	面	挿図	PL.	グリッド	形状	長軸×短軸×深さ	出土遺物(番号)	重複遺構・備考
1	5	240		X=143 Y=-009	楕円形	0.25×0.22×0.08		
2	5	240		X=142 Y=-009	隅丸方形	0.30×0.27×0.25	土師器(甕類 4片)	
3	5	240		X=141 Y=-008	隅丸方形	0.28×0.28×0.10	土師器(杯類 2片)	
4	5	240		X=140 Y=-008	不整形	0.44×0.36×0.33		
5	5	240		X=140 Y=-007	楕円形	0.28×0.24×0.14		
6	5	240		X=140 Y=-009	隅丸方形	0.24×0.22×0.07		
7	5	240		X=139 Y=-008	隅丸方形	0.19×0.18×0.21		
8	5	240		X=139 Y=-009	隅丸方形	0.43×0.38×0.29		
9	5	240	60	X=138 Y=-008	隅丸方形	0.28×0.27×0.20	土師器(甕類 1片)	15溝
10	5	240	60	X=138 Y=-008	楕円形	0.30×0.26×0.17	土師器(杯類 2片)	15溝
11	5	240		X=142 Y=-012	隅丸方形	0.33×0.24×0.20		
12	5	241		X=136 Y=-011	隅丸方形	0.35×0.30×0.07		
13	5	240		X=139 Y=-014	楕円形	0.27×0.21×0.05		
14	5	240		X=139 Y=-016	楕円形	0.39×0.35×0.35	土師器(甕類 1片)	
15	5	240		X=138 Y=-017	隅丸方形	0.23×0.23×0.10		
16	5	240		X=138 Y=-015	隅丸方形	0.22×0.19×0.16		
17	5	240		X=137 Y=-015	隅丸方形	0.31×0.30×0.06		
18	5	240		X=137 Y=-014	円形	0.48×0.48×0.40	土師器(杯類 4片)	
19	5	240		X=137 Y=-014	楕円形	0.35×0.26×0.18		
20	5	241		X=135 Y=-016	隅丸方形	0.38×0.31×0.10		
21	5	240		X=137 Y=-016	楕円形	0.52×0.38×0.16	土師器(甕類 1片)	
22	5	240		X=137 Y=-017	隅丸方形	0.23×0.21×0.25		
23	5	240		X=139 Y=-018	隅丸方形	0.19×0.18×0.09		
24	5	240		X=139 Y=-018	隅丸方形	0.20×0.19×0.11		
25	5	240		X=138 Y=-018	隅丸長方形	0.18×0.12×0.06		
26	5	240		X=137 Y=-018	隅丸方形	0.19×0.17×0.11		
27	5	240		X=137 Y=-018	隅丸方形	0.25×0.25×0.21		
28	5	240		X=137 Y=-018	隅丸方形	0.21×0.16×0.07		
29	5	240		X=138 Y=-019	隅丸方形	0.18×0.18×0.08		
30	5	240		X=137 Y=-019	半円形	0.20×0.14×0.14		
31	5	240		X=138 Y=-020	隅丸方形	0.21×0.18×0.12		
32	5	241		X=135 Y=-018	隅丸方形	0.33×0.26×0.22		P33と併せて土師器(杯類 3片)
33	5	241		X=135 Y=-018	隅丸方形	(0.18)×0.23×0.06		P32と併せて土師器(杯類 3片)
34	5	241		X=135 Y=-017	楕円形	0.27×0.25×0.18	土師器(杯類 2片)	
35	5	241		X=135 Y=-017	不整形	0.45×0.25×0.18		
36	5	240		X=136 Y=-020	円形	0.25×0.25×0.18		
37	5	241		X=135 Y=-021	楕円形	0.33×0.32×0.28		
41	5	242		X=137 Y=-008	隅丸方形	0.30×(0.19)×0.22	近世施釉陶器 1片、土師器(甕類 1片)	5溝、P45
42	5	242		X=136 Y=-008	隅丸方形	0.25×0.23×0.33		
43	5	242		X=135 Y=-010	隅丸方形	0.35×0.30×0.16		埋没土中に円礫
44	5	242		X=135 Y=-010	隅丸方形	0.29×0.26×0.10		
45	5	242		X=137 Y=-008	隅丸方形	(0.31)×0.27×0.32		15溝、P41
46	5	242		X=133 Y=-011	隅丸長方形	0.34×0.21×0.08		
47	5	242		X=132 Y=-012	隅丸方形	0.26×0.24×0.05	土師器(甕類 1片)	
48	5	242	60	X=129 Y=-009	隅丸方形	0.30×0.27×0.39		
49	5	241		X=129 Y=-019	隅丸方形	0.25×0.22×0.36	土師器(杯類 3片)	
51	5	241		X=129 Y=-020	楕円形	(0.24)×0.25×0.10		P52
52	5	241		X=130 Y=-020	不整形	(0.31)×0.30×0.24	土師器(甕類 2片)	P51
53	5	241		X=130 Y=-020	隅丸方形	0.19×0.13×0.17	土師器(杯類 1片)	
54	5	242	60	X=134 Y=-013	隅丸方形	(0.32)×0.39×0.18		31・33・34土坑
55	5	242		X=135 Y=-011	隅丸方形	0.37×0.35×0.31	土師器(甕類 4片)	15土坑
58	5	241		X=131 Y=-022	隅丸方形	0.35×0.34×0.27	土師器(杯類 6片、甕類 4片)	35土坑
59	5	241		X=129 Y=-022	隅丸方形	0.25×0.21×0.28	土師器(甕類 3片)	
61	5	241		X=129 Y=-022	隅丸方形	0.18×0.16×0.07		P62
62	5	241		X=129 Y=-022	隅丸台形	0.45×0.36×0.35	土師器(甕類 6片)、須恵器(甕類 1片)	P61
63	5	241		X=128 Y=-022	楕円形	0.38×0.30×0.27		P64
64	5	241		X=128 Y=-022	隅丸方形	(0.15)×0.26×0.04	近世施釉陶器 1片	P63
65	5	241		X=128 Y=-021	不整形	0.48×0.28×0.28	土師器(甕類 5片)	
67	5	241		X=127 Y=-022	隅丸方形	0.31×(0.25)×0.24		P66
68	5	241		X=127 Y=-021	隅丸方形	0.21×0.19×0.42	土師器(甕類 2片)	
70	5	241		X=127 Y=-019	隅丸方形	0.19×0.18×0.08		
71	5	242	60	X=130 Y=-008	楕円形	0.38×0.27×0.11		
72	5	242	60	X=127 Y=-007	隅丸方形	0.30×0.23×0.32		15溝
73	5	242		X=137 Y=-010	隅丸方形	(0.12)×0.18×0.31		24土坑

番号	面	挿図	PL.	グリッド	形状	長軸×短軸×深さ	出土遺物(番号)	重複遺構・備考
74	5	241		X=131 Y=-023	不整形	(0.40)×0.38×0.25	土師器(甕類5片)、須恵器(甕類1片)	35土坑
75	5	241		X=132 Y=-020	隅丸方形	0.34×(0.19)×0.32		35土坑
76	5	241		X=128 Y=-020	隅丸方形	0.28×0.26×0.12	須恵器(甕類1片)	17土坑
77	5	242	60	X=126 Y=-008	隅丸方形	0.30×0.28×0.36		16溝
78	6	274		X=137 Y=-024	隅丸方形	0.20×0.20×0.07		
79	6	274		X=137 Y=-024	隅丸方形	0.22×0.16×0.19		
80	6	274		X=136 Y=-024	楕円形	0.33×0.21×0.06		
81	6	274	71	X=135 Y=-022	円形	0.21×0.20×0.11		
82	6	274	71	X=137 Y=-021	楕円形	0.19×0.15×0.04		
83	6	274		X=132 Y=-024	隅丸長方形	0.33×0.13×0.11		
84	6	274		X=131 Y=-023	円形	(0.21)×0.22×0.34	土師器(杯類2片、甕類4片)	P85
85	6	274		X=131 Y=-023	隅丸方形	(0.18)×0.23×0.20	土師器(杯類7片)、須恵器(甕類1片)	P84
86	6	274		X=135 Y=-024	隅丸方形	0.17×0.16×0.06		
87	6	274	71	X=138 Y=-017	隅丸方形	0.21×0.18×0.11		
88	6	274	71	X=137 Y=-018	隅丸方形	0.22×0.18×0.10		
89	6	274	71	X=139 Y=-016	隅丸方形	0.17×0.15×0.05		
90	6	274		X=138 Y=-015	隅丸方形	0.17×0.16×0.07		
91	6	274	71	X=137 Y=-015	隅丸方形	0.22×(0.18)×0.06		
92	6	274		X=138 Y=-014	隅丸方形?	0.11×0.01×0.05		
93	6	274		X=137 Y=-014	隅丸方形?	0.11×0.15×0.10		
94	6	274		X=137 Y=-014	隅丸方形?	0.18×(0.11)×0.14		
95	6	274		X=138 Y=-013	隅丸方形	0.26×0.21×0.16	土師器(甕類3片)	
96	6	274		X=139 Y=-013	隅丸方形	0.17×0.17×0.05		
97	6	274		X=140 Y=-012	隅丸方形	0.22×0.20×0.04		
98	6	274	71	X=140 Y=-011	隅丸長方形	0.35×0.27×0.16		
99	6	274	71	X=139 Y=-011	隅丸長方形	0.24×0.18×0.03		
100	6	274	71	X=139 Y=-011	隅丸方形	0.17×0.17×0.11		
101	6	275	71	X=141 Y=-015	隅丸長方形	0.15×0.11×0.03		
102	6	274	71	X=142 Y=-010	隅丸長方形	0.17×0.13×0.11		
103	6	274	71	X=141 Y=-011	隅丸長方形	0.18×0.11×0.04		
104	6	274	71	X=140 Y=-010	隅丸方形	0.17×0.15×0.23		
105	6	274	71	X=140 Y=-010	隅丸長方形	0.28×0.17×0.08		
106	6	274	71	X=141 Y=-010	隅丸方形	0.21×0.20×0.05		
107	6	274	71	X=141 Y=-010	隅丸方形?	0.28×0.20×0.15		
108	6	274	71	X=141 Y=-010	隅丸方形	0.28×0.20×0.15		
109	6	274	71	X=141 Y=-007	隅丸方形	0.27×0.19×0.14		
110	6	274	71	X=142 Y=-008	隅丸方形	0.23×0.18×0.25	土師器(甕類2片)	
111	6	274	71	X=142 Y=-008	隅丸方形?	(0.20)×(0.23)×0.10		P112・113
112	6	274	71	X=142 Y=-008	不整形	0.45×0.35×0.17		P111・113
113	6	274	71	X=142 Y=-008	隅丸長方形?	(0.19)×0.18×0.12		P111・112
114	6	274	71	X=139 Y=-008	隅丸方形	0.24×0.19×0.09	土師器(甕類1片)	
115	6	275	71	X=137 Y=-009	隅丸長方形	0.22×0.11×0.01		
116	6	275	71	X=135 Y=-007	隅丸長方形	0.35×0.26×0.17		
117	6	275	71	X=135 Y=-009	楕円形	0.28×0.27×0.20		
118	6	275		X=129 Y=-010	隅丸長方形	0.17×0.11×0.06		
119	6	275		X=128 Y=-009	隅丸方形	0.22×0.18×0.18		
120	6	275		X=128 Y=-009	隅丸長方形	0.20×0.11×0.04		
121	6	275		X=128 Y=-008	不整形	0.47×0.35×0.23	土師器(杯類1片)	
122	6	275		X=127 Y=-009	隅丸長方形	0.28×0.23×0.24	土師器(杯類2片)	
123	6	275		X=126 Y=-009	隅丸長方形	0.24×0.15×0.20		
124	6	275		X=125 Y=-008	隅丸長方形	0.30×0.21×0.16		
125	6	275		X=129 Y=-012	隅丸方形	0.20×0.18×0.03		
126	6	275		X=129 Y=-012	隅丸方形	0.15×0.13×0.02		
127	6	275		X=129 Y=-012	隅丸方形	0.19×0.15×0.04	土師器(甕類2片)	
128	6	275		X=125 Y=-013	隅丸長方形	0.25×0.21×0.10		
129	6	275	71	X=129 Y=-022	隅丸方形	0.18×0.17×0.11		
130	6	275	71	X=130 Y=-021	隅丸方形	0.15×0.14×0.06		
131	6	275	71	X=128 Y=-021	楕円形?	(0.31)×(0.25)×0.10		
132	6	275	71	X=127 Y=-021	隅丸方形	0.20×0.20×0.08		
133	6	275	71	X=127 Y=-019	隅丸方形	0.22×0.21×0.32		
134	6	275	71	X=128 Y=-019	隅丸方形	0.20×0.19×0.12		
135	6	274		X=140 Y=-012	楕円形	0.23×0.18×0.08		
136	6	274		X=141 Y=-010	隅丸方形	0.16×0.14×0.06		
137	6	275		X=137 Y=-010	隅丸長方形	0.18×0.15×0.04		
138	6	275		X=136 Y=-011	隅丸方形	0.24×0.22×0.16		
139	6	275		X=136 Y=-014	隅丸方形	0.20×0.17×0.06		
140	6	275		X=134 Y=-014	隅丸方形	0.32×0.25×0.15		

ピット計測表

番号	面	挿図	PL.	グリッド	形状	長軸×短軸×深さ	出土遺物(番号)	重複遺構・備考
141	6	275		X=134 Y=-012	楕円形	0.22×0.19×0.10		
142	6	275	71	X=133 Y=-010	楕円形	0.17×0.14×0.02	土師器(杯類1片)	
143	6	275	71	X=138 Y=-007	隅丸方形	0.26×0.22×0.14		
144	6	275	71	X=137 Y=-007	円形	0.33×0.30×0.10		
145	6	275		X=126 Y=-008	隅丸長方形	0.22×0.18×0.18		
146	6	275		X=126 Y=-027	隅丸長方形	(0.29)×0.18×0.17	中世在地系土器(鍋類1片)、 土師器(甕類1片)	5土坑
147	6	275		X=126 Y=-027	楕円形	0.28×0.22×0.11		
148	6	275		X=129 Y=-022	隅丸長方形?	(0.14)×(0.12)×0.16		
149	6	274		X=130 Y=-023	隅丸長方形	(0.22)×0.17×0.04		
150	6	275		X=126 Y=-007	楕円形	0.25×0.19×0.19		
151	6	275	71	X=135 Y=-020	楕円形	0.30×0.25×0.40		19土坑
152	6	276		X=131 Y=-996	円形	0.32×0.30×0.43	土師器(甕類3片)	
153	6	276		X=128 Y=-097	隅丸長方形	0.20×0.15×0.24	土師器(杯類1片)	
154	6	276	71	X=137 Y=-019	隅丸長方形	0.19×0.15×0.12		
162	7	323		X=137 Y=-998	楕円形?	0.30×(0.14)×0.18		
167	7	323		X=138 Y=-997	隅丸方形	(0.29)×0.22×0.09		P 168
168	7	323		X=138 Y=-997	隅丸長方形	(0.16)×0.17×0.05		P 167
169	7	323		X=137 Y=-996	楕円形	0.63×0.43×0.12		
172	7	323		X=134 Y=-994	楕円形	0.37×(0.27)×0.15	土師器(甕類1片)	P 173
173	7	323		X=134 Y=-994	楕円形	0.48×(0.35)×0.17		P 172
174	7	323		X=133 Y=-991	楕円形	0.52×0.43×0.14		
175	7	323		X=129 Y=-997	楕円形	0.19×0.16×0.06	土師器(甕類1片)	
176	7	323		X=125 Y=-005	隅丸方形	0.28×0.27×0.05		
177	7	323	85	X=125 Y=-001	隅丸方形	0.16×0.12×0.12		
178	7	323	85	X=131 Y=-986	円形	0.40×0.28×0.33		
179	7	323	85	X=123 Y=-000	楕円形	0.19×0.15×0.12		
180	7	323	85	X=121 Y=-000	楕円形	0.45×0.34×0.09	土師器(杯類5片)	
181	7	323	85	X=120 Y=-000	隅丸方形	0.13×0.13×0.11		
182	7	323		X=135 Y=-988	隅丸方形	0.26×0.24×0.29		
183	7	323		X=131 Y=-987	円形	0.25×0.24×0.07		
189	7	323		X=127 Y=-990	隅丸長方形?	0.39×0.32×0.59		3掘立P12と併せて土師器(杯類1片、甕類2片)
197	7	323		X=124 Y=-993	隅丸長方形	0.21×(0.18)×0.14		P 198
198	7	323		X=124 Y=-993	隅丸方形	0.30×(0.23)×0.15		P 197
199	7	323		X=124 Y=-991	楕円形	0.26×0.26×0.11		
202	8	738		X=116 Y=-003	隅丸方形	0.55×0.46×0.23	土師器(杯類6片、甕類8片)	6住
203	8	738		X=136 Y=-008	楕円形	0.46×0.33×0.18	土師器(甕類6片)	69住
204	8	738		X=134 Y=-009	楕円形	0.57×0.54×0.25	土師器(甕類5片)	
205	8	738	153	X=118 Y=-002	隅丸方形	0.49×0.42×0.34		
206	8	738	153	X=116 Y=-000	隅丸長方形	0.69×0.58×0.59	土師器(杯類1片、甕類2片)	
207	8	738	153	X=115 Y=-009	楕円形	0.50×0.36×0.35	土師器(杯類3片、甕類2片)	
208	8	738	153	X=116 Y=-008	楕円形	0.49×0.44×0.25	土師器(杯類1片)	
209	8	738	153	X=114 Y=-009	隅丸方形	0.48×0.42×0.24		
210	8	738	153	X=115 Y=-008	隅丸方形	0.42×0.40×0.37	土師器(甕類2片)	
211	8	738	153	X=115 Y=-007	隅丸長方形	0.40×0.35×0.16		
212	8	738	153	X=114 Y=-007	隅丸長方形	0.49×0.40×0.47		
213	8	738	153	X=117 Y=-000	隅丸長方形	0.52×0.31×0.43		38住
214	8	738		X=132 Y=-007	楕円形	0.21×0.17×0.41		63住
215	8	738		X=141 Y=-003	楕円形	(0.72)×(0.58)×0.55		83住
216	5	242	60	X=153 Y=-963	楕円形	0.50×0.43×0.24		42溝
217	5	242		X=150 Y=-963	楕円形?	(0.48)×0.43×0.02		42溝
218	5	242	60	X=140 Y=-952	楕円形	0.43×0.36×0.10		38溝
219	5	242		X=158 Y=-924	円形	0.66×0.63×0.11	土師器(甕類1片)	29・30・32溝
220	5	242	60	X=152 Y=-956	楕円形	0.48×0.43×0.12		40溝
221	5	242	60	X=156 Y=-958	楕円形	0.37×0.27×0.17	土師器(甕類1片)	40溝
222	7	323		X=130 Y=-983	隅丸長方形	0.21×0.17×0.13		
223	7	323		X=130 Y=-983	隅丸長方形	0.33×0.22×0.27		
224	7	323		X=154 Y=-921	隅丸長方形	0.35×0.23×0.21		
229	7	324		X=150 Y=-921	不整形	0.60×0.27×0.17		
233	7	324		X=148 Y=-921	楕円形	0.30×0.25×0.17		
234	7	324		X=148 Y=-920	楕円形	0.36×0.28×0.06		
235	7	324		X=148 Y=-919	隅丸長方形	0.32×0.26×0.13		
241	7	324		X=147 Y=-919	隅丸方形	0.29×0.24×0.11		
242	7	324		X=147 Y=-919	円形	0.32×(0.26)×0.23		
243	7	324		X=147 Y=-920	楕円形	(0.28)×0.23×0.30		
245	7	324		X=146 Y=-919	不整形	0.49×0.46×0.23		P 259・280
247	7	324		X=145 Y=-920	楕円形	0.37×0.29×0.05		
249	7	324		X=145 Y=-918	楕円形	0.23×0.21×0.12		

番号	面	挿図	PL.	グリッド	形状	長軸×短軸×深さ	出土遺物(番号)	重複遺構・備考
250	7	324		X=145 Y=-918	隅丸方形	0.23×0.22×0.13		
251	7	324		X=146 Y=-917	隅丸長方形	0.43×0.27×0.26		67土坑
255	7	324・ 325	197	X=144 Y=-919	楕円形	0.44×0.33×0.30	凹石(1)	
257	7	324		X=148 Y=-920	楕円形	0.29×0.22×0.22		P 232・299
258	7	324		X=148 Y=-920	楕円形	0.32×0.22×0.13		
259	7	324		X=146 Y=-919	隅丸方形?	0.33×(0.16)×0.13		P 245
260	7	324		X=146 Y=-917	楕円形	0.36×0.27×0.10		67土坑
261	7	324		X=145 Y=-918	楕円形	0.66×0.32×0.22		67土坑
262	7	324		X=144 Y=-917	隅丸長方形?	(0.25)×0.29×0.26		P 254
266	7	324		X=150 Y=-921	楕円形?	(0.18)×0.23×0.09		P 229
268	7	324		X=148 Y=-921	隅丸長方形	0.46×0.25×0.22		
271	7	324		X=142 Y=-918	隅丸方形	0.23×0.21×0.23		
272	7	324		X=143 Y=-917	隅丸長方形	0.28×0.22×0.16		P 282
273	7	324		X=143 Y=-915	隅丸長方形	0.21×0.17×0.28		
274	7	324		X=145 Y=-916	隅丸長方形?	(0.17)×0.22×0.07		
276	7	324		X=151 Y=-921	隅丸長方形	0.17×0.14×0.24		
277	7	324		X=150 Y=-920	隅丸方形?	(0.12)×0.18×0.13		66土坑、P 227
279	7	324		X=148 Y=-920	隅丸方形	0.20×(0.22)×0.07		P 232
281	7	324		X=148 Y=-921	隅丸台形	0.24×0.14×0.06		
282	7	324		X=144 Y=-917	隅丸長方形	(0.24)×0.21×0.17		P 272
283	7	324		X=143 Y=-918	楕円形	(0.45)×0.35×0.13		
285	7	324		X=144 Y=-917	楕円形	0.29×0.24×0.12		
286	7	324・ 325	197	X=143 Y=-917	円形	0.33×0.31×0.15	凹石(2)	P 284
288	7	324		X=147 Y=-917	楕円形	(0.27)×0.21×0.22		
289	7	324		X=144 Y=-918	隅丸長方形	(0.30)×0.18×0.12		
290	7	324		X=144 Y=-918	楕円形	(0.26)×0.20×0.09		P 291
291	7	324		X=144 Y=-918	円形	0.23×0.21×0.05		P 290
295	7	323		X=147 Y=-926	隅丸長方形	(0.30)×0.23×0.26		4 掘立 P 5
299	7	324		X=148 Y=-920	隅丸方形	0.23×(0.18)×0.16		P 257
303	8	738	153	X=136 Y=-984	円形	0.60×0.51×0.28		64住
304	8	738	153	X=138 Y=-986	円形	0.58×0.57×0.25		78住
305	8	738	153	X=137 Y=-986	楕円形	0.73×0.54×0.41	土師器(杯類 1片、甕類 3片)	29住
306	8	737・ 738		X=146 Y=-964	楕円形	0.47×0.41×0.31	土師器杯(19)、土師器(杯類 2片)	
307	8	738		X=132 Y=-983	円形	0.35×0.30×0.26		
308	8	739		X=133 Y=-983	楕円形	0.51×0.45×0.30		56溝
309	8	739		X=134 Y=-983	楕円形	0.68×0.52×0.23		
310	8	739		X=126 Y=-979	隅丸長方形	0.33×0.26×0.09		
311	8	739		X=128 Y=-980	楕円形	0.40×0.32×0.14		
312	8	739		X=139 Y=-980	円形	0.32×0.27×0.19		119・139住
313	8	739		X=138 Y=-979	楕円形	0.38×0.33×0.25		
314	8	739		X=138 Y=-979	隅丸方形	0.41×0.33×0.11		
315	8	739		X=136 Y=-975	円形	0.32×0.30×0.07		
316	8	739		X=140 Y=-973	楕円形	0.45×0.34×0.24		99・126・140住
317	8	739		X=140 Y=-973	円形	0.26×0.25×0.20		99・126・140住
318	8	739		X=134 Y=-980	隅丸長方形	0.44×0.33×0.20		79土坑
319	8	739		X=135 Y=-965	楕円形	(0.42)×(0.35)×0.19		77土坑
322	6	276		X=133 Y=-936	楕円形	0.20×0.16×0.26		
323	6	276		X=132 Y=-936	楕円形	0.20×0.17×0.27		
324	6	276		X=134 Y=-934	楕円形	0.18×0.15×0.21		
326	7	323		X=126 Y=-958	楕円形	(0.40)×0.39×0.17	土師器(甕類 2片)	
327	9	890	178	X=151 Y=-972	隅丸方形	0.34×0.29×0.04		56畑
328	9	890	179	X=140 Y=-977	楕円形	0.51×0.41×0.18	土師器甕(2)	
329	9	890	179	X=134 Y=-959	隅丸方形	0.38×0.35×0.26	土師器(甕類 1片)	8 竪穴
330	9	891	179	X=144 Y=-972	隅丸方形	0.38×0.35×0.19	土師器(杯類 1片、甕類 7片)	
331	9	891	179	X=141 Y=-973	楕円形?	0.58×0.35×0.24		P 332と併せて土師器(甕類 2片)
332	9	891	179	X=144 Y=-973	楕円形?	0.58×0.35×0.24		P 331と併せて土師器(甕類 2片)
333	9	891	179	X=139 Y=-976	隅丸長方形	0.42×0.34×0.14		
334	9	891	179	X=139 Y=-976	楕円形	(0.33)×0.27×0.14		
335	9	891	179	X=142 Y=-970	楕円形	0.57×0.42×0.12	土師器(甕類 1片)	
336	9	891	179	X=140 Y=-971	隅丸方形	0.35×0.33×0.22	土師器(甕類 2片)	
337	9	891	179	X=144 Y=-967	隅丸方形	0.42×0.36×0.08		
338	9	891	179	X=146 Y=-962	隅丸方形	0.50×0.47×0.10		54畑
339	9	891	179	X=140 Y=-966	円形	0.41×0.40×0.13		
340	9	891	179	X=141 Y=-966	隅丸方形	0.37×0.34×0.05		

ピット計測表

番号	面	挿図	PL.	グリッド	形状	長軸×短軸×深さ	出土遺物(番号)	重複遺構・備考
341	9	891	179	X=138 Y=955	隅丸方形	0.34×0.30×0.20		57畑
342	9	891	179	X=138 Y=955	隅丸方形	0.28×0.25×0.32		186住
343	9	891	179	X=139 Y=954	隅丸方形	0.55×0.48×0.27	土師器(杯類2片)	186住
344	9	891	179	X=147 Y=959	楕円形	0.29×0.27×0.14	土師器小型甕(1)、土師器(甕類4片)	54畑

2区ピット計測表

番号	面	挿図	PL.	グリッド	形状	長軸×短軸×深さ	出土遺物(番号)	重複遺構・備考
1	7	333		X=166 Y=901	楕円形	0.61×0.43×0.31		
2	7	333	89	X=150 Y=831	楕円形	0.42×0.33×0.16		
3	7	333	89	X=152 Y=828	不整形	0.36×0.25×0.06		
4	7	333	89	X=149 Y=855	楕円形	0.55×0.45×0.08		
5	8	748		X=157 Y=852	円形?	0.30×(0.13)×0.10	須恵器(甕類1片)	

4区ピット計測表

番号	面	挿図	PL.	グリッド	形状	長軸×短軸×深さ	出土遺物(番号)	重複遺構・備考
1	6	299	81	X=129 Y=588	楕円形	0.40×0.31×0.15		

5区ピット計測表

番号	面	挿図	PL.	グリッド	形状	長軸×短軸×深さ	出土遺物(番号)	重複遺構・備考
1	8	845	172	X=047 Y=907	隅丸長方形	0.38×0.31×0.26		3・15・28住
2	8	845	172	X=051 Y=907	楕円形	0.66×(0.41)×0.36		15住
3	9	910	184	X=033 Y=931	楕円形	0.50×0.46×0.32		47住、10畑

遺物觀察表

遺物観察表

4区1面 1・2号復旧溝群遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重	高 度			
PL.185	1	石製品 火打石	充填土 完形	2.7 4.2	1.6 17.2	-/-	石英	稜線および表面に潰れが見られる。	

4区1面 6号復旧溝群遺物観察表

第14図	1	肥前磁器 染付碗	充填土 底部	口底 4.2	高 -	-/-	灰白	内面1重網目、底部内面花状文。外面2重網目文。高台内滴「福」字崩れ銘。	
第14図	2	瀬戸陶器 すり鉢	充填土 底部1/3	口底 (13.0)	高 -	-/-	明赤褐	底部右回転糸切無調整。内外面錆釉。体部内面下位から底部内面使用によりやや摩滅。	
第14図	3	在地系土器 皿	充填土 1/4	口底 (10.2) (7.0)	高 2.5 -	-/-	にぶい橙	全体に器壁厚い。底部回転糸切無調整。	
第14図 PL.185	4	石製品 砥石	充填土 略完形	長幅 (7.3) 3.1	厚重 1.9 59.6	-/-	砥沢石	正面1面のみ使用。裏面には刃慣らし傷状の鋭利な線状痕が横方向に2か所見られる。右側面には幅7~8mmのタガネ痕が残る。	
PL.185	5	石製品 火打石	充填土 完形	長幅 2.1 3.2	厚重 1.8 12.9	-/-	石英	稜線および表面に潰れが見られる。	
第14図 PL.185	6	銅製品 不詳	充填土 ほぼ完形	長幅 2.5 2.3	厚重 2.5 14.57	-/-	-/-	5つの部品からなる銅製品。上部に中空半球形の部品2つを球形にあわせ、その下部に鳩目形の部品をあて最下部に5弁の花形の台座を置き、直径2mmの棒状部品で貫通し上下端を広げ加締め固定する。	

4区1面 8号復旧溝群遺物観察表

第13図	1	瀬戸・美濃 陶器 折縁皿	充填土 口縁部1/10	口底 (11.0) -	高 -	-/-	にぶい黄橙	口縁部外反し、端部肥厚。体部内面丸鑿による縦位凹線。内外面灰釉。貫入する。	
第13図 PL.185	2	礫石器 磨石	充填土 完形	長幅 6.7 5.5	厚重 5.5 247.6	-/-	粗粒輝石安山岩	半球状の礫を素材とする。下面が使用により平滑になっている。キズ状の線状痕もみられ、方向は多様である。	
第13図 PL.185	3	石製品 凹石	充填土 1/2	長幅 (18.6) (10.4)	厚重 (3.5) 1022.8	-/-	粗粒輝石安山岩	扁平な楕円礫の中央部に断面漏斗状の凹みが1か所認められたため凹石とした。	
PL.185	4	石製品 火打石	充填土 完形	長幅 2.4 3.9	厚重 1.8 22.5	-/-	石英	稜線上に潰れが多数見られる。	

4区1面 9号復旧溝群遺物観察表

第11図 PL.185	1	石造物 板碑	充填土 破片	長幅 (20.7) (13.5)	厚重 (2.6) 772.1	-/-	緑色片岩	主尊部破片。浅い葉研彫りのキリーク(阿弥陀如来)種子と蓮座の一部が残る。碑面の風化著しい。裏面は平ノミ状工具痕を残す。	
----------------	---	-----------	-----------	------------------------	----------------------	-----	------	---	--

4区1面 3号復旧土坑群遺物観察表

第17図	1	製作地不詳 陶器 皿	充填土 1/4	口底 -	高 1.7 -	-/-	灰白	楕円形の皿か。残存部無文。内面から底部外面灰釉で、底部外面の一部無釉。	
------	---	------------------	------------	---------	---------------	-----	----	-------------------------------------	--

4区1面 1号溝(上層)遺物観察表

第19図 PL.185	1	石造物 宝篋印塔	底面より26cm 2/3	高幅 22.2 (26.1)	厚重 (27.6) 16400.0	-/-	粗粒輝石安山岩	屋蓋部。段形は上5段、下2段で最上部は露盤。隅飾は三輪輪郭付きで1か所のみ残る。全体に破損は著しいものの、段端部などの風化による摩滅は少。	
第19図 PL.185	2	石造物 板碑台座	底面より35cm 完形	厚幅 33.9 37.5	高重 19.8 26460.0	-/-	二ツ岳石	軽石転石の上面中央部に細長い葉研状の溝を穿つ。溝の長さは6.3cm、幅22.8cm、深さ10.5cmである。溝の側面には平ノミ状工具による整形痕が縦方向に残る。通常は地面に直接埋め込む板碑用の台座。石材より現地製作されたものと考えられる。	

4区1面 遺構外遺物観察表

第20図	1	中国磁器 皿か	表土 口縁部1/10	口底 (8.9) -	高 -	-/-	白	口縁部外反。内外面白磁釉。口縁端部外面、上面と内面釉を削る。	
第20図 PL.185	2	石造物 板碑	表土 破片	長幅 (12.5) (7.7)	厚重 2.3 352.5	-/-	緑色片岩	主尊部破片。浅い葉研彫りの蓮座の一部が残る。碑面は風化する。	
第20図 PL.185	3	石製品 凹石	表土 完形	長幅 12.8 8.3	厚重 7.9 329.9	-/-	二ツ岳軽石	表裏面の中央部に断面漏斗状の凹み(長径6cm)が1か所ずつ認められる。凹み内部は摩滅している。	

5区1面 1号土坑遺物観察表

第21図 PL.185	1	銅製品 がま口	底面 ほぼ完形	長幅 6.4 4.8	厚重 1.1 6.36	-/-	-/-	銅製のがま口金具で、厚さ1mm程の薄板をU字型に丸めがま口型に整形、両端部は平たくし小孔をあけ軸とする。同形を2つ製作しあわせて開閉させるがま口となるが一方の側面1か所に別造りのループを取り付ける。金具内面および側面の一部に平織布が残存する。	
第21図 PL.185	2	銭貨 寛永通寶	底面 ほぼ完形	長幅 2.340 2.379	厚重 0.128 2.56	-/-	-/-	2枚鑄着して出土したうちの1枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭。裏面は外縁・郭明瞭だが彫浅い。2枚鑄着したうちの一枚・	2枚鑄着出土
第21図 PL.185	3	銭貨 寛永通寶	底面 一部破損	長幅 2.836 2.842	厚重 0.143 4.56	-/-	-/-	3枚鑄着して出土したうちの1枚目で寛永通寶(四文銭・11波)、外縁・文字・郭とも彫は浅いが明瞭。裏面も外縁・波・郭とも明瞭。表面全体に平織の布目が鑄化付着する。	3枚鑄着出土
第21図 PL.185	4	銭貨 寛永通寶	底面 完形	長幅 2.853 2.888	厚重 1.33 4.41	-/-	-/-	3枚鑄着して出土したうちの2枚目で寛永通寶(四文銭・11波)、外縁・文字・郭とも彫は浅いが明瞭。裏面も外縁・波・郭とも明瞭。	
第21図 PL.185	5	銭貨 文久永寶	底面 完形	長幅 2.675 2.697	厚重 1.41 2.92	-/-	-/-	3枚鑄着して出土したうちの3枚目で文久永寶(草文)、外縁・文字・郭とも明瞭。裏面に11波外縁・郭とも明瞭。寶の字を覆うように布の一部と見られる繊維が鑄化付着する。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第21図 PL.185	6	銭貨 半銭銅貨	底面 ほぼ完形	長 幅	2.263 2.253	厚 重	0.219 3.39	-/-/-	2枚錯着して出土したうちの二枚目。硬い錆に覆われ文字不鮮明。大きさ・重量と一部の文字・文様から半銭銅貨と判断した。
第21図 PL.185	7	銭貨 稲5銭白銅貨	底面より3cm (人骨直上) ほぼ完形	長 幅	2.219 2.192	厚 重	0.139 3.22	-/-/-	外形はほぼ完形の近世銅貨で、表面の劣化が著しく文字等不詳で僅かに大日本の文字が読み取れるのみで外形等から稲5銭白銅貨の可能性が高いが詳細は不明。

5区1面 2号土坑遺物観察

第22図 PL.186	1	鼈甲製品 櫛	底面より13cm (人骨直上) 完形	長 幅	11.7 2.9	厚 重	0.4 6.13	-/-/-	鼈甲製と見られる櫛。棟は薄く歯は深く刻まれている。外形は片側が低く非対称の形状。上端のカーブにあわせ5mm程に刻みを入れ、その刻みに接するように鋸により切り込みを入れ歯を形成する。両端の1枚づつを除き、歯の先端部は両側から削り細く加工する。
第22図 PL.186	2	銭貨 寛永通寶	底面より9cm (人骨直上) ほぼ完形	長 幅	2.278 2.312	厚 重	0.126 2.26	-/-/-	3枚錯着して出土したうちの3枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも明瞭だが、裏面は平坦で外縁・郭は不明瞭。
第22図 PL.186	3	銭貨 寛永通寶	底面より9cm (人骨直上) ほぼ完形	長 幅	2.836 2.858	厚 重	0.154 4.62	-/-/-	3枚錯着して出土したうちの2枚目で寛永通寶(四文銭・11波?)。外縁・文字・郭とも明瞭だが彫は浅い。裏面は平坦で外縁・波・郭は不明瞭。縁の凹凸は劣化破損と見られる。
第22図 PL.186	4	銭貨 寛永通寶	底面より9cm (人骨直上) ほぼ完形	長 幅	2.782 2.806	厚 重	0.140 4.21	-/-/-	3枚錯着して出土したうちの1枚目で寛永通寶(四文銭・11波)。表裏とも外縁・文字・波・郭とも明瞭。縁の凹みは劣化破損と見られる。
第22図 PL.186	5	銭貨 半銭銅貨	底面 ほぼ完形	長 幅	2.238 2.243	厚 重	0.169 3.10	-/-/-	半銭銅貨で、外形はほぼ完形だが表面劣化のため年号および詳細は不明。

5区1面 遺構外遺物観察表

第23図 PL.186	1	石製品 蓋石	天明泥流層中 略完形	径 幅	74.0 -	厚 重	8.8 64030.0	-/-/二ツ岳石	円盤状の上下面に石臼の挽目状に4方向より中央に向け2~3cm間隔でタガネ状工具による連続刺突線状工具痕が残る。表面の風化・研磨による摩滅は認められない。
第23図 PL.186	2	常滑陶器 甕	天明泥流層中 一部欠	口 底	70.0 21.6	高 -	85.2 -	-/-/明赤褐	内外面暗赤褐色の釉。口縁部上面重ね焼痕。本来は完形。表土掘削時に破損。

1区2面 2号溝(上層)遺物観察表

第29図 PL.186	1	瀬戸・美濃 陶器 反皿	埋没土 口縁部1/4、底 部1/6	口 底	(12.8) (7.4)	高 -	2.5 -	-/-/灰白	全面灰釉。高台脇削り込む。口縁部外反。
第29図 PL.186	2	瀬戸・美濃 陶器 尾呂徳利	埋没土 1/2~1/4	口 底	(3.6) -	高 -	- -	-/-/淡黄	肩部外面7条の横線。口縁部内面から外面鉛釉。口縁部外面から肩部外面薬灰釉。
第29図 PL.186	3	瀬戸・美濃 陶器 灯火皿か	埋没土 1/3	口 底	8.6 4.0	高 -	2.1 -	-/-/灰白	焼成不良。内面から口縁部外面灰釉か鉛釉。釉は白濁し、内面のほとんどは剝離。高台は碁笥底状。残存部に灯芯受は認められない。
第29図 PL.186	4	石製品 砥石	埋没土 破片	長 幅	(4.5) 2.4	厚 重	2.1 18.0	-/-/砥沢石	断面が不整な台形を呈する小破片である。3面使用。破損面に使用の痕跡は見られない。本来この形状であったのか、破損と再生を繰り返した結果なのかは不明である。

1区2面 3号溝(上層)遺物観察表

第29図 PL.186	5	肥前磁器 染付小碗	壁面 1/2	口 底	7.5 (3.2)	高 -	4.2 -	-/-/灰白	外面草花文。高台内外面下半無釉。やや焼成不良。
第29図 PL.186	6	肥前陶器 陶胎染付碗	西側土手直上 口縁部~体部 3/4	口 底	10.3 -	高 -	- -	-/-/灰	外面唐草文。外面下半釉が薄く素地の色が透ける。
第29図 PL.186	7	肥前陶器 陶胎染付碗	埋没土 口縁部1/5、底 部完	口 底	(10.8) 5.2	高 -	7.2 -	-/-/灰	東屋山水文の発色は比較的良好。
第29図 PL.186	8	肥前陶器 陶胎染付碗	西側土手直上 口縁部1/6、底 部完	口 底	(10.4) 4.8	高 -	7.8 -	-/-/灰白	外面東屋山水文。体部から口縁部直線的に延びる。高台端部を除き施釉。貫入する。
第29図 PL.186	9	瀬戸・美濃 陶器 碗	埋没土 口縁部1/3、底 部1/2	口 底	(9.5) 3.8	高 -	4.7 -	-/-/灰白	口縁部外反。底部内面周縁凹線状に窪む。内面から体部外面下位鉄釉。内面目痕2か所残存。
第29図 PL.186	10	瀬戸・美濃 陶器 腰鏝碗	埋没土 口縁部一部欠	口 底	9.3 4.0	高 -	5.6 -	-/-/灰白	口縁部外面下に螺旋状凹線。内面から口縁部外面灰釉、凹線部から高台内薄い鉄釉。高台端部無釉。灰釉に貫入。
第29図 PL.186	11	瀬戸・美濃 陶器 腰鏝碗	土手埋没土 口縁部1/4、底 部完	口 底	(9.3) 4.2	高 -	6.0 -	-/-/淡黄	口縁部外面下に螺旋状凹線。内面から口縁部外面灰釉、凹線部から高台内薄い鉄釉。高台端部無釉。灰釉に貫入。
第29図 PL.186	12	瀬戸・美濃 陶器 腰鏝碗	底面直上 口縁部1/4欠	口 底	9.4 4.3	高 -	6.1 -	-/-/灰白	口縁部外面下に螺旋状凹線。内面から口縁部外面灰釉、凹線部から高台内薄い鉄釉。高台端部無釉。灰釉に貫入。
第29図 PL.186	13	瀬戸・美濃 陶器 碗	埋没土 口縁部1/4、底 部1/2	口 底	(10.0) (5.0)	高 -	7.3 -	-/-/淡黄	高台やや撥状に開く。内面から高台脇鉛釉。
第29図 PL.186	14	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗	壁面 口縁部~体部 3/4欠	口 底	(11.8) 5.5	高 -	7.1 -	-/-/淡黄	内面から高台脇鉄釉に近い鉛釉。口縁部薬灰釉。高台脇以下鉄化粧。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚			
第29図 PL.186	15	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗	埋没土 口縁部3/4欠	口底 (11.0) 5.5	高 7.6 -	-	-/-/灰白	内面から高台脇胎釉。口縁部薬灰釉僅かに白く発色。高台脇以下胎釉を化粧風に薄く施釉。	
第29図	16	瀬戸・美濃 陶器 碗	底面直上 口縁部~体部 1/4	口底 (12.6) -	高 -	-	-/-/灰白	内面から高台脇胎釉。釉部分的に白濁し、焼成不良。	
第29図 PL.186	17	瀬戸・美濃 陶器 蓋物	埋没土 体部1/8、底部 3/4	口底 8.0	高 -	-	-/-/灰白	蓋受け部無釉。内面薄い灰釉。体部外面から高台脇胎釉。	
第29図 PL.187	18	肥前磁器 染付皿	壁面 口縁部~体部 1/2欠	口底 (12.0) 3.8	高 3.7 -	-	-/-/白灰	内面に染付。底部内面蛇ノ目釉剥ぎ。釉剥ぎ部に薄いアルミナ塗布。高台脇以下無釉。	
第29図 PL.187	19	瀬戸・美濃 陶器 梅文皿	埋没土 口縁部1/3、底 部2/3	口底 (11.2) 4.0	高 4.2 -	-	-/-/灰白	底部内面簡略化した梅文を呉須で描く。内面から高台脇胎釉。貫入入る。	中世。
第29図	20	瀬戸・美濃 陶器 灯火皿	埋没土 1/3	口底 (8.6) (3.6)	高 2.6 -	-	-/-/灰白	口縁端部に灯芯受け1か所貼り付け。内面から口縁部外面胎釉。高台は基筈底状。	江戸時代。
第29図	21	瀬戸・美濃 陶器 片口鉢	埋没土 口縁部~体部 1/4	口底 (13.1) -	高 -	-	-/-/灰白	外面口縁部下凹線巡る。残存部に片口認められない。内外面胎釉。	
第30図 PL.187	22	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	埋没土 1/4	口底 (31.8) (12.2)	高 12.3 -	-	-/-/にぶい黄橙	内外面錆釉。	
第30図	23	堺陶器 すり鉢	埋没土 口縁部片	口底 -	高 -	-	-/-/橙	口縁部内面凸帯明瞭。外面口縁部下ヘラ削り。内外面無釉。	
第30図 PL.187	24	丹波・信楽 陶器 すり鉢	壁面・土手埋没 土 口縁部1/8、体 部1/4	口底 (35.4) -	高 -	-	-/-/灰	外面轆轤目。口縁部外面下部張り出す。無釉。	
第30図	25	在地系土器 鉢か火鉢	西側土手埋没土 口縁部から底部 片	口底 -	高 -	-	-/-/黒~灰白	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色~灰白色。外面上半粗い磨き、下半撫で。内面回転横撫で。底部外面型痕。底部に撫で痕があり、脚が存在した可能性高い。	
第30図	26	在地系土器 香炉か	埋没土 1/4	口底 (14.3) (10.7)	高 5.0 -	-	-/-/灰白	断面灰白色、器表一部暗灰色。外面ヘラ削り。内面回転横撫で。口縁部内面接合痕明瞭に残る。底部外面剥がれ部にヘラ削りが認められ、脚が剥がれた可能性高い。	
第30図	27	在地系土器 鍋	埋没土 口縁部片	口底 -	高 -	-	-/-/黒	断面灰白色、器表黒色。外面煤付着。口縁部外反。内面丁寧な回転横撫で。口縁部外面回転横撫で。外面口縁部以下撫でて、接合痕と型痕残る。	
第30図	28	在地系土器 鍋	埋没土 口縁部1/4、底 部一部	口底 (33.6) (18.4)	高 11.0 -	-	-/-/黒	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色。外面煤付着。内面丁寧な回転横撫で。口縁部外面回転横撫で。体部外面撫でて、凹凸残る。体部外面下端から底部外面型痕残る。	
第30図	29	在地系土器 鍋か	埋没土 底部片	口底 -	高 -	-	-/-/黒	断面灰白色、器表黒色。内面丁寧な撫でか回転横撫で。外面型痕残る。内面に「源義」押印。	
第30図	30	搬入系土器 か 焙烙	埋没土 1/8	口底 (34.6) (29.4)	高 5.3 -	-	-/-/にぶい橙	断面と内面器表にぶい橙色、外面器表黒褐色。内面回転横撫で。口縁部外面回転横撫で。外面口縁部下撫でて、凹凸残る。底部外面撫で。胎土中に金雲母多く含む。	
第30図 PL.187	31	在地系土器 焙烙	埋没土 1/3	口底 (39.0) (36.0)	高 5.7 -	-	-/-/褐灰	口縁部断面中央暗灰色、他の断面部分灰白色、器表褐灰色。内外面回転横撫で。体部外面下位の窪み部分に型痕残る。底部外面型痕残る。体部外面の接合痕不明瞭。内耳1か所残存。	
第31図 PL.187	32	在地系土器 焙烙	東側土手直上 2/3	口底 38.6 35.8	高 6.5 -	-	-/-/褐灰	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表褐灰色。体部外面器表暗灰色で体部下端から底部外面は灰白色。内面から口縁部外面回転横撫で。体部外面ヘラ撫でて窪み部分に型痕残る。底部外面型痕残る。内耳2か所残存。	
第31図	33	在地系土器 焙烙	埋没土 体部下位から底 部片	口底 -	高 -	-	-/-/褐灰	断面黒色、器表付近灰白色、器表褐灰色。内面から体部外面回転横撫で。体部外面下位型痕残る。底部外面型痕残る。底部内面押印。	
第31図 PL.187	34	石製品 砥石	埋没土 破片	長幅 (12.1) 4.5	厚 1.4 77.5	重	-/-/珪質頁岩	表裏面2面使用。左右側面および上部小口面には整形時の加工痕が残る。	
第31図 PL.187	35	石製品 砥石	壁面 完形か	長幅 11.1 3.3	厚 2.3 109.8	重	-/-/砥沢石	表裏両面と右側面の一部の3面使用。正面の使用頻度が高く、研ぎ減りにより下部から上部に向かって傾斜している。左右側面には櫛歯タガネ痕が残る。	
第31図 PL.187	36	石製品 石臼(上)	西側土手直上 1/3	径幅 (28.0) -	高 重 (12.1) 4918.3	重	-/-/粗粒輝石安山 岩	1/3残。上面縁部は剥落部に摩滅が見られるため、剥落状態で使用されたものと考えられる。側面に挽き手孔の一部残る。底面は摩滅し僅かに挽目跡が残るのみで、中央部には直径5cmの軸受孔が見られる。	

1区2面 6号溝(上層)遺物観察表

第32図	1	肥前磁器 青磁皿	底面直上 口縁部一部、底 部1/2	口底 (13.0) 4.7	高 4.0 -	-	-/-/白	高台高い。内面から高台脇青磁釉。底部内面蛇ノ目釉剥ぎ。	
第32図	2	在地系土器 焙烙	埋没土 口縁部~底部片	口底 -	高 -	-	-/-/暗灰~黒	断面灰白色、内面器表暗灰色、口縁部から体部器表黒色、体部外面下端から底部外面灰白色。口縁部から底部内面にかけて幅広の内耳貼り付け。	

1区2面 3号道路遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第31図 PL.187	37	石製品 砥石	底面 破片	長 幅	(7.3) (4.8)	厚 重	(3.0) 167.5	-/-/砥沢石	4面使用だが、砥面の観察から、左右側面の使用頻度が高い。正面には櫛歯タガネ痕が全面に残る。下端小口部にはノミ状工具の痕跡が見られる。

1区2面 6号畑遺物観察表

第39図 PL.187	1	銅製品 キセル	確認面 一部破損	長 幅	6.1 0.8	厚 重	0.8 2.72	-/-/-	キセル吸い口部分で、吸い口端部付近で破損し直接接合はしないが同一個体と見られる。内部にろうと見られる植物痕が残る。
----------------	---	------------	-------------	--------	------------	--------	-------------	-------	---

1区2面 8号畑遺物観察表

第42図 PL.187	1	鉄製品 釘	確認面 一部欠損	長 幅	7.0 2.3	厚 重	1.4 8.36	-/-/-	砂を巻き込み錆化し高師小僧の様な著しく脆弱な鉄製品で、X線観察により角釘と判明。頭部分は薄く延ばし折り曲げている。
第42図	2	(イモ石膏型)	畝中	長 幅	9.3 3.8	厚 -	3.7 -	-/-/-	下半部は種芋でそこから葉柄が伸長している。植え付け方法は縦植えと推定される。
第42図	3	(イモ石膏型)	畝中	長 幅	8.2 3.9	厚 -	3.6 -	-/-/-	下半分が種芋で、上半部は葉柄の基部である。植え付け方法は縦植えと推定される。

1区2面 9号畑遺物観察表

第42図 PL.187	4	石製品 砥石	埋没土 破片	長 幅	(5.3) (2.5)	厚 重	1.7 37.8	-/-/砥沢石	正面1面使用。裏面および左右側面、下端小口部には櫛歯タガネ痕が見られる。
----------------	---	-----------	-----------	--------	----------------	--------	-------------	---------	--------------------------------------

1区2面 10号畑遺物観察表

第42図	5	(イモ石膏型)	畝中	長 幅	15.2 4.1	厚 -	3.1 -	-/-/-	種イモと考えられる塊茎から筒状の葉柄が伸びている。種イモから子イモが発生している。種イモの向きから、植え付け方法は縦植えと推定される。
------	---	---------	----	--------	-------------	--------	----------	-------	---

1区2面 水田遺物観察表

第53図 PL.187	1	銅製品 キセル	確認面 破片	長 幅	5.0 0.8	厚 重	0.9 4.60	-/-/-	キセルの吸い口で表面は劣化し荒れ吸い口端部は破損する。
----------------	---	------------	-----------	--------	------------	--------	-------------	-------	-----------------------------

1区2面 遺構外遺物観察表

第52図 PL.187	1	剥片石器 石鏝	天明泥流層中 略完形	長 幅	(1.7) (1.4)	厚 重	0.3 0.5	-/-/黒曜石	表裏面全面に押圧剝離による二次加工を施し整形している。凹基無茎鏝
----------------	---	------------	---------------	--------	----------------	--------	------------	---------	----------------------------------

2区2面 1号溝(上層)遺物観察表

第56図	1	瀬戸・美濃 陶器 鉄絵皿	埋没土 口縁部1/8、底部 1/4	口 底	(12.2) (7.8)	高 -	2.6 -	-/-/灰白	内面太い鉄絵。内面から高台外面灰釉。貫入入る。内面目痕1か所残る。
第56図	2	在地系土器 鍋	底面より22cm 口縁部片	口 底	- -	高 -	- -	-/-/灰白～橙	口縁端部外方に屈曲して外反。内面器表黒斑状の黒色部あり。二次被熱による変色の可能性高い。口縁端部上面から内面丁寧な回転横撫で。口縁部外面回転横撫で。口縁部下撫で、凹凸残る。口縁部下接合痕明瞭に残る。
第56図	3	在地系土器 焙烙	土手埋没土 口縁部から底部 片	口 底	- -	高 -	- -	-/-/黒	断面から器表付近灰白色、器表黒色。口縁部外面から内面回転横撫で。外面下半から底部外面型痕。幅広の内耳1か所残存。
第56図 PL.187	4	石製品 砥石	埋没土 破片	長 幅	(8.3) (2.5)	厚 重	4.5 129.6	-/-/砥沢石	幅狭面2面を使用し、砥面は研ぎ減りにより凹状になっている。幅広の面および下端小口部は平坦に加工されているが、未使用である。

2区2面 5号溝(上層)遺物観察表

第57図 PL.187	1	銅製品 銅線	土手直上 破片	長 幅	- 0.1	厚 重	0.1 0.46	-/-/-	直径1mmの銅線で劣化破損する。7点の総重量。
----------------	---	-----------	------------	--------	----------	--------	-------------	-------	-------------------------

2区2面 8号溝(上層)遺物観察表

第59図	1	製作地不詳 陶器 碗か	埋没土 底部完	口 底	- 4.5	高 -	- -	-/-/灰白	内面から高台外面透明釉。貫入入る。外面轆轤目。高台端部目痕3か所。残存部無文。
------	---	-------------------	------------	--------	----------	--------	--------	--------	---

2区2面 5号畑遺物観察表

第64図 PL.187	1	銭貨 寛永通寶	確認面 破片	長 幅	2.447 破損	厚 重	0.172 0.6	-/-/-	銭貨の破片で1/3程度の残存で通および永の字が残る。劣化は著しいが、外縁・文字・郭とも彫は深く明瞭。
----------------	---	------------	-----------	--------	-------------	--------	--------------	-------	--

2区2面 7号畑遺物観察表

第62図	1	瀬戸・美濃 陶器 筒形香炉	埋没土 口縁部から体部 1/4	口 底	(9.2) -	高 -	- -	-/-/灰白	口縁端部内外面突き出る。口縁端部上面やや窪み内斜。口縁端部内面から体部外面鉛釉。
------	---	---------------------	-----------------------	--------	------------	--------	--------	--------	--

2区2面 水田遺物観察表

第73図 PL.187	1	銅製品 銅線	確認面 破片	長 幅	- 0.1	厚 重	0.1 1.77	-/-/-	直径1mmの銅線で劣化破損する。3点の総重量。
----------------	---	-----------	-----------	--------	----------	--------	-------------	-------	-------------------------

3区2面 6号溝遺物観察表

第79図	1	瀬戸・美濃 陶器 菊皿	壁面 体部下位から底部 1/2	口 底	- (7.6)	高 -	- -	-/-/灰白	内面に布目残る。内面から高台脇灰釉。底部内面目痕2か所。
第79図	2	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	東側土手直上 底部1/2	口 底	- (10.6)	高 -	- -	-/-/灰白	底部右回転糸切無調整。錆釉施釉後、体部下端以下を拭う。使用により体部内面下位から底部内面器表磨滅。底部外面周縁磨滅。

遺物観察表

4区2面 水田遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第102図 PL.187	1	石製品 砥石	確認面 破片	長 幅	(3.7) (2.6)	厚 重	(1.7) 19.3	-/-/珪質頁岩	正面、裏面、下端小口面の3面使用。左右側面は破損している。正面と小口面の境には面取り状に幅の狭い砥面が形成されている。
第102図 PL.187	2	石製品 火打石	確認面 破片	長 幅	2.0 3.2	厚 重	1.5 10.0	-/-/玉髄	破片。繰り返しの打撃による稜線の潰れが著しい。
第102図 PL.187	3	銅製品 キセル	確認面 一部破損	長 幅	5.8 1.7	厚 重	2.0 6.20	-/-/-	キセル雁首で、中央部は左右から押しつぶされたように変形。火皿は径1.6cm程の半球形で完存。
第102図 PL.187	4	銅製品 キセル	確認面 破損品	長 幅	4.0 0.7	厚 重	1.4 3.76	-/-/-	キセル雁首で、左右から押しつぶされたように変形。火皿では左右から丸め込まれるように変形している。
第102図 PL.187	5	金属製品 不詳	確認面 ほぼ完形	長 幅	3.4 3.2	厚 重	0.4 31.60	-/-/-	厚さ3～4mmのゆがんだ円形で中央に、菱形の孔を持つ。全体に灰色で重く鉛製品と考えられるが用途は不明。
第102図 PL.187	6	鉄製品 釘	確認面 ほぼ完形	長 幅	4.1 1.2	厚 重	0.9 2.80	-/-/-	断面ほぼ正方形の角釘で、端部は薄く広げて直角に折り曲げ、さらに端部で丸く巻き込む。先端に向かい細くなり端部は劣化破損する。
第102図 PL.187	7	鉄製品 不詳	確認面 一部破損	長 幅	5.1 2.1	厚 重	1.9 10.52	-/-/-	錆化により本体内部は空洞化する。断面狭長方形で端部でおり帰るように曲り他端は劣化破損する。茎の様な形状だが錆化が著しく詳細は不明。

5区2面 2号溝遺物観察表

第103図 PL.187	1	鼈甲製品 筭	底面 破片	長 幅	5.1 0.8	厚 重	0.4 2.10	-/-/-	鼈甲製の加工品。断面小判型で端部は弱く面取加工、全体に平滑で光沢を持つ。端部から僅かに細くなりながら5.1cmで欠損し、破断面は貝殻状にへこむが角部分は磨滅により光沢を残す。破損した筭と見られるが詳細は不明。
-----------------	---	-----------	----------	--------	------------	--------	-------------	-------	--

5区2面1号道路遺物観察表

第103図 PL.187	2	銭貨 寛永通寶	確認面 完形	長 幅	2.460 2.460	厚 重	0.129 2.31	-/-/-	寛永通寶(1期・古寛永)。外縁・文字・郭とも明瞭。永の字が窪む形で変形する。
-----------------	---	------------	-----------	--------	----------------	--------	---------------	-------	--

5区2面 2号畑遺物観察表

第107図 PL.187	1	銅製品 キセル	埋没土 破片	長 幅	1.9 1.8	厚 重	0.3 1.70	-/-/-	キセルの雁首の火皿部分で、平たく押しつぶされた形でいわゆる雁首銭の形状を示す。
-----------------	---	------------	-----------	--------	------------	--------	-------------	-------	---

5区2面 水田遺物観察表

第114図 PL.187	3	(足跡石膏 型)	確認面	足 長 幅	23.0 8.7	- - -	- - -	-/-/-	左足。大きさから成人と推定される。指5本、土踏まず、かかとが明瞭に観察できる。
-----------------	---	-------------	-----	-------------	-------------	-------------	-------------	-------	---

5区2面 1号墓地遺物観察表

第117図 PL.188	1	肥前磁器 染付小碗	埋没土 口縁部1/4、底 部1/2	口 底	(7.4) (3.0)	高 -	4.0 -	-/-/灰白	外面に染付一部残存。
第117図 PL.188	2	京・信楽系 陶器 上絵小碗	確認面 口縁部と底部 1/8、体部1/4	口 底	(6.7) (2.4)	高 -	3.3 -	-/-/灰白	高台の削りはシャープ。内面から高台脇灰釉。細かい貫入。口縁部から体部外面に白、黄緑、赤で簡略化した花文。
第117図 PL.188	3	瀬戸・美濃 陶器 灯火皿	確認面 完形	口 底	8.3 4.2	高 -	1.3 -	-/-/灰白	器高低い。口縁部外面以下回転ヘラ削り。内外面鉛釉。口縁部外面以下釉を拭い、鉄化粧風となる。
第117図 PL.188	4	在地系土器 皿	確認面 口縁部1/3、3/4	口 底	(10.0) 6.8	高 -	1.7 ~ 2.2 -	-/-/橙	断面灰白色、器表橙色。底部内面螺旋状轆轤目。底部左回転糸切無調整。
第117図 PL.188	5	在地系土器 皿	確認面 口縁部1/3欠	口 底	10.3 2.7	高 -	2.1 ~ 2.7 -	-/-/淡黄	口縁部の低い部分は擦って平坦に加工している。底部内面螺旋状轆轤目。底部右回転糸切無調整。
第117図 PL.188	6	石製品 勾玉	確認面 完形	長 幅	2.0 1.4	厚 重	0.6 2.1	-/-/滑石	孔径3mm。全面丁寧な研磨で仕上げられている。表面には多方向の線状痕や敲打痕状のキズが見られ、使用時のものと考えられる。
第117図 PL.188	7	石製品 砥石	確認面 破片	長 幅	(7.4) 2.7	厚 重	2.5 76.0	-/-/砥沢石	正面と両側面の3面使用。裏面には櫛歯タガネ痕が残る。
第117図 PL.188	8	石製品 砥石	埋没土 破片	長 幅	(4.7) 3.9	厚 重	3.1 47.5	-/-/流紋岩	3面使用。正面は研ぎ減りにより、砥面が凹状になっている。両側面も緩やかに凹んでいる。裏面および小口面、両側面には刃慣らし傷状の鋭利な線状痕が多数見られる。
第117図 PL.188	9	石造物 石仏	確認面 略完形	高 幅	(37.1) 13.7	厚 重	11.2 6900.0	-/-/粗粒輝石安山 岩	地藏菩薩立像。丸彫り。印相は蓮華合掌。胴衣部に縦方向の細かいタガネ状工具による線状の整形痕跡を残す。風化による摩滅少。
第117図 PL.188	10	石造物 石仏	天明泥流下層 2/3	高 幅	(24.7) 15.4	厚 重	12.9 4346.7	-/-/粗粒輝石安山 岩	地藏菩薩立像。丸彫り。上部欠失。胴衣部に縦方向の細かいタガネ状工具による線状の整形痕跡を残す。風化による摩滅少。基部は蓮華座を刻出。底面には台座との接合用突起を有する。
第117図 PL.188	11	石造物 墓標	確認面 略完形	高 幅	63.3 28.8	厚 重	17.2 36000.0	-/-/粗粒輝石安山 岩	舟型光背形を呈し、正面に額を造り出し丁寧な面整形を施し、下方に蓮華を陽刻。側～裏面は粗いタガネ状工具による刺突、底面は台座接合用の円柱状突起を有する。紀年銘は「飯(婦)元 月窓雲枕禪定尼 霊位 元禄三(1690)年 七月廿一日」

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				高 幅	厚 重				
第118図 PL.188	12	石造物 墓標	天明泥流下層 略完形	高 幅	64.2 27.3	厚 重	15.0 39520.0	-/-/粗粒輝石安山 岩	位牌形を呈し、正面・上面・側面を細いタガネ状工具による丁寧な面成・整形を施し、裏面及び底面は太いタガネ状工具による粗雑な面成形のまま未整形。正面は額を造り出す。紀年銘は「歸(帰)元 演心妙暢信女 靈位 宝曆七丁丑天 七月二十日」と刻まれた上に墨書する。風化による摩滅少。
第118図 PL.188	13	石造物 石造物台座	天明泥流下層 完形	厚 幅	30.6 41.0	高 重	12.3 12580.0	-/-/粗粒輝石安山 岩	平面形状は七角形蓮座形で側面は逆台形状を呈し蓮弁を刻出する。奥面は粗く面成形をし、蓮弁も省く。表面は上面中央部を残し全面研磨による整形を施す。底面は粗いノミの刺突によりすり鉢状に窪む。
第118図 PL.188	14	石造物 石造物台座	確認面 完形	長 幅	28.2 33.6	厚 重	11.4 14260.0	-/-/粗粒輝石安山 岩	平面形状は隅丸長方形、側面は逆台形状を呈する。正面側のみ蓮座蓮弁を刻出し、正面および上面端部のみ研磨による整形を施す。底面は粗いノミの刺突によりすり鉢状に窪む。
PL.188	15	石製品 火打石	確認面 破片	長 幅	1.6 (1.9)	厚 重	0.7 1.7	-/-/石英	稜線上に連続する微小剥離痕と潰れが認められる。
PL.188	16	石製品 火打石	確認面 破片	長 幅	1.5 2.4	厚 重	1.3 4.4	-/-/玉髓	稜線上に潰れが認められる。

5区2面 1号墓遺物観察表

第120図 PL.188	1	肥前磁器 染付碗	確認面 体部下位以下 1/2	口 底	- 4.0	高 -	- -	-/-/灰白	透明釉白濁し、素地も磁化していない。体部外面花文。底部内面五弁花。
第120図 PL.188	2-1	銭貨 寛永通寶	底面より3cm (底板直上) ほぼ完形だが錆 化	長 幅	2.45 -	厚 重	0.1 -	-/-/-	銭貨が6枚錆着して出土したうちの1枚目で寛永通寶。外縁・文字・郭とも明瞭、裏面は2枚目の鉄銭と密着し不明。
第120図 PL.188	2-2	銭貨 鉄銭	底面より3cm (底板直上) ほぼ完形だが錆 化	長 幅	- -	厚 重	- -	-/-/-	銭貨が6枚錆着して出土したうちの2枚目で鉄銭。錆化が著しく1枚目と分離困難なため詳細不明
第120図 PL.188	2-3	銭貨 銅銭	底面より3cm (底板直上) ほぼ完形だが錆 化	長 幅	- -	厚 重	- -	-/-/-	銭貨が6枚錆着して出土したうちの3枚目で銅銭。錆化が著しく3枚目から6枚目まで分離困難なため詳細不明
第120図 PL.188	2-4	銭貨 銅銭	底面より3cm (底板直上) ほぼ完形だが錆 化	長 幅	- -	厚 重	- -	-/-/-	銭貨が6枚錆着して出土したうちの4枚目で銅銭。錆化が著しく3枚目から枚目まで分離困難なため詳細不明
第120図 PL.188	2-5	銭貨 銅銭	底面より3cm (底板直上) ほぼ完形だが錆 化	長 幅	- -	厚 重	- -	-/-/-	銭貨が6枚錆着して出土したうちの5枚目で銅銭。錆化が著しく3枚目から6枚目まで分離困難なため詳細不明
第120図 PL.188	2-6	銭貨 銅銭	底面より3cm (底板直上) 破片	長 幅	- -	厚 重	- -	-/-/-	銭貨が6枚錆着して出土したうちの6枚目で銅銭。錆化が著しく3枚目から6枚目まで分離困難なため詳細不明
第120図 PL.188	3	石製品 凹石	底面より58cm 破片	長 幅	(18.8) (11.8)	厚 重	(10.4) 893.2	-/-/二ツ岳軽石	軽石転石の上面に研磨による深い漏斗(すり鉢)状の孔が2か所に見られる。

5区2面 2号墓遺物観察表

第121図 PL.188	1	石製品 破石	埋没土 破片	長 幅	(6.3) 5.2	厚 重	1.7 48.8	-/-/軽石	表裏面の2面使用。表面には刃付らし傷状の鋭利な線状痕が2か所見られる。上端小口付近は面取りが認められる。
-----------------	---	-----------	-----------	--------	--------------	--------	-------------	--------	--

5区2面 3号墓遺物観察表

第124図 PL.189	1	肥前磁器 染付小碗	底面より98cm 完形	口 底	7.8 3.0	高 -	4.0 -	-/-/灰白	外面1か所に草花文。
第124図 PL.189	2	在地系土器 皿	底面より69cm 完形	口 底	9.7 6.0	高 -	1.8 ~ 2.2 -	-/-/褐灰	底部内面螺旋状轆轤目。底部左回転糸切無調整。
第124図 PL.189	3	在地系土器 皿	底面より95cm 完形	口 底	9.6 ~ 10.3 6.4	高 -	2.0 ~ 2.4 -	-/-/橙	平面形楕円形に歪む。口縁部内面僅かに窪む。底部左回転糸切無調整。
第125図 PL.189	4	石造物 石造物台座	確認面 完形	長 幅	34.5 37.5	厚 重	12.3 17360.0	-/-/粗粒輝石安山 岩	大型台座。平面形状は方形、側面は逆台形状を呈し、表面は斜方向の工具痕を残したまま粗い面成形。底面は粗いノミの刺突により浅く皿状に窪む。
第125図 PL.189	5-1	銭貨 寛永通寶	底面より2cm (底板直上) ほぼ完形だが錆 化	長 幅	2.447 2.444	厚 重	- -	-/-/-	銭貨11枚が錆着し出土したうちの1枚目で劣化が著しいが錆の上からろうじて寛永通寶(3期・新寛永か)と読み取れる状況。
第125図 PL.189	5-2	銭貨 鉄銭	底面より2cm (底板直上) ほぼ完形だが錆 化	長 幅	- -	厚 重	- -	-/-/-	銭貨11枚が錆着し出土したうちの2枚目で鉄銭。1枚から4枚目までは錆が著しく分離困難なため詳細は不明

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第125図 PL.189	6	錢貨 寛永通寶	底面より2cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長幅	-	厚重	-	-/-/-	錢貨11枚が錆着し出土したうちの3枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。1枚から4枚目までは錆着するが4枚目の破損部から永と通の字が読み取れる状況。	
第125図 PL.189	7-1	錢貨 鉄錢	底面より2cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長幅	-	厚重	-	-/-/-	錢貨11枚が錆着し出土したうちの4枚目で鉄錢。劣化が著しく破損する。	7-1～3、8の 総重量5.08g
第125図 PL.189	7-2	錢貨 鉄錢	底面より2cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長幅	-	厚重	-	-/-/-	錢貨11枚が錆着し出土したうちの5枚目で鉄錢。5枚目から7枚目までは錆着したままで劣化が著しく破損し詳細不明。	
第125図 PL.189	7-3	錢貨 鉄錢	底面より2cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長幅	-	厚重	-	-/-/-	錢貨11枚が錆着し出土したうちの6枚目で鉄錢。5枚目から7枚目までは錆着したままで詳細不明。	
第125図 PL.189	8	錢貨 寛永通寶	底面より2cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長幅	2.280 2.392	厚重	-	-/-/-	錢貨11枚が錆着し出土したうちの7枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁は彫深く明瞭、文字・郭は彫は浅いが明瞭。裏面は6枚目と錆着したままで詳細不明。	
第125図 PL.189	9-1	錢貨 寛永通寶	底面より2cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長幅	2.460 2.503	厚重	0.163	-/-/-	錢貨11枚が錆着し出土したうちの8枚目で寛永通寶(1期・古寛永)。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭。裏面は9枚目と錆着したままで詳細不明。	9-1～3、10の 総重量 10.01g
第125図 PL.189	9-2	錢貨 鉄錢	底面より2cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長幅	-	厚重	-	-/-/-	錢貨11枚が錆着し出土したうちの9枚目で鉄錢。8枚目から11枚目までは錆着したままで詳細不明。	
第125図 PL.189	9-3	錢貨 鉄錢	底面より2cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長幅	-	厚重	-	-/-/-	錢貨11枚が錆着し出土したうちの10枚目で鉄錢。8枚目から11枚目までは錆着したままで詳細不明。	
第125図 PL.189	10	錢貨 寛永通寶	底面より2cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長幅	2.327 2.300	厚重	0.136	-/-/-	錢貨11枚が錆着し出土したうちの11枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも明瞭。裏面は10枚目に錆着したままで詳細不明。	

5区2面 4号墓遺物観察表

第125図 PL.189	11	石造物 石造物台座	確認面 略完形	厚幅	27.3 38.1	高重	9.4 11640.0	-/-/粗粒輝石安山 岩	平面形状は長方形、側面は低い逆台形状を呈する。表面は工具痕を残したままの粗い面成形。底面は粗いノミの刺突によりすり鉢状に窪む。	
第125図 PL.189	12-1	錢貨 寛永通寶	底面より6cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長幅	-	厚重	-	-/-/-	錢貨が10枚錆着した状態で出土したうちの1枚で寛永通寶と見られるが寛の字は12-2の銅銭に密着し未確認。外縁・文字・郭とも明瞭、裏面は錆びにおおわれ詳細不明。	10枚錆着出土 12-1・2の総 重量3.39g
第125図 PL.189	12-2	錢貨 寛永通寶	底面より6cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長幅	-	厚重	-	-/-/-	錢貨が10枚錆着した状態で出土したうちの2枚目で寛永通寶と見られるが12-1と密着し詳細は不明	
第125図 PL.189	13-1	錢貨 鉄錢	底面より6cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長幅	-	厚重	-	-/-/-	錢貨が10枚錆着し出土したうちの3枚目で鉄錢と見られるが詳細不明	13-1～4、 14・15の総重 量15.64g
第125図 PL.189	13-2	錢貨 銅銭	底面より6cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長幅	-	厚重	-	-/-/-	錢貨が10枚錆着し出土したうちの4枚目で銅銭と見られるが詳細不明	
第125図 PL.189	13-3	錢貨 銅銭	底面より6cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長幅	-	厚重	-	-/-/-	錢貨が10枚錆着し出土したうちの5枚目で銅銭と見られるが詳細不明	
第125図 PL.189	13-4	錢貨 銅銭	底面より6cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長幅	-	厚重	-	-/-/-	錢貨が10枚錆着し出土したうちの6枚目で銅銭と見られるが詳細不明	
第125図 PL.189	14	錢貨 寛永通寶	底面より6cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長幅	-	厚重	-	-/-/-	錢貨が10枚錆着し出土したうちの7枚目で寛永通寶と見られるが詳細不明	
第125図 PL.189	15	錢貨 銅銭	底面より6cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長幅	-	厚重	-	-/-/-	錢貨が10枚錆着し出土したうちの8枚目で銅銭と見られるが詳細不明	
第125図 PL.189	16	錢貨 寛永通寶	底面より6cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長幅	-	厚重	-	-/-/-	錢貨が10枚錆着し出土したうちの9枚目で寛永通寶と見られるが詳細不明	16・17の総重 量4.60g

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第125図 PL.189	17	錢貨 銅銭	底面より6cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長 幅	- -	厚 重	-	-/-/-	錢貨が10枚錆着し出土したうちの10枚目で銅銭と見られるが詳細不明

5区2面 5号墓遺物観察表

第128図 PL.189	1	在地系土器 皿	底面より108cm 体部一部欠	口 底	10.0 ~ 10.3 6.0	高 -	2.1 ~ 2.7 -	-/-/橙	口径に比して底径やや小さい。底部内面螺旋状轆轤目。底部左回転糸切無調整。	
第128図 PL.189	2	在地系土器 皿	底面より109cm 体部一部欠	口 底	9.7 ~ 10.5 7.1	高 -	2.0 ~ 2.6 -	-/-/橙	平面形楕円形に歪む。底部内面螺旋状轆轤目、底部内面周縁ドーナツ状に窪む。底部左回転糸切無調整。	
第128図 PL.189	3	錢貨 開元通寶	底面より1cm (底板直上) 完形	長 幅	2.379 2.423	厚 重	0.127 3.09	-/-/-	錢貨が11枚錆着し出土したうちの1枚目で開元通寶。外縁・文字・郭とも彫は深く明瞭。裏面は平坦。	11枚錆着出土
第128図 PL.189	4	錢貨 寛永通寶	底面より1cm (底板直上) 完形	長 幅	2.484 2.472	厚 重	0.123 2.94	-/-/-	錢貨が11枚錆着し出土したうちの2枚目で寛永通寶(1期・古寛永)。外縁・文字・郭とも彫は深くきわめて明瞭。裏面も彫深く外縁・郭とも明瞭。	
第128図 PL.189	5	錢貨 寛永通寶	底面より1cm (底板直上) 完形	長 幅	2.425 2.440	厚 重	0.135 3.45	-/-/-	錢貨が11枚錆着し出土したうちの3枚目で寛永通寶(1期・古寛永)。外縁・文字・郭とも彫は深くきわめて明瞭。裏面も彫深く外縁・郭とも明瞭。	
第128図 PL.189	6	錢貨 寛永通寶	底面より1cm (底板直上) 完形	長 幅	2.508 2.514	厚 重	0.129 3.31	-/-/-	錢貨が11枚錆着し出土したうちの4枚目で寛永通寶(2期・裏文・新寛永)。外縁・文字・郭とも彫は深くきわめて明瞭。裏面も彫深く外縁・郭とも明瞭。	
第128図 PL.189	7	錢貨 寛永通寶	底面より1cm (底板直上) 完形	長 幅	2.321 2.329	厚 重	0.129 3.15	-/-/-	錢貨が11枚錆着し出土したうちの5枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも彫は深くきわめて明瞭。裏面も彫深く外縁・郭とも明瞭。	
第128図 PL.189	8	錢貨 寛永通寶	底面より1cm (底板直上) 完形	長 幅	2.463 2.463	厚 重	0.137 3.21	-/-/-	錢貨が11枚錆着し出土したうちの6枚目で寛永通寶(1期・古寛永)。外縁・文字・郭とも彫は深くきわめて明瞭。裏面も彫深く外縁・郭とも明瞭。	
第128図 PL.189	9	錢貨 寛永通寶	底面より1cm (底板直上) 完形	長 幅	2.317 2.321	厚 重	0.146 3.22	-/-/-	錢貨が11枚錆着し出土したうちの7枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも彫は深くきわめて明瞭。裏面も彫深く外縁・郭とも明瞭。	
第128図 PL.189	10	錢貨 寛永通寶	底面より1cm (底板直上) 完形	長 幅	2.438 2.463	厚 重	0.134 3.32	-/-/-	錢貨が11枚錆着し出土したうちの8枚目で寛永通寶(1期・古寛永)。外縁・文字・郭とも彫は深く明瞭。裏面も彫深く外縁・郭とも明瞭。	
第128図 PL.190	11	錢貨 寛永通寶	底面より1cm (底板直上) 完形	長 幅	2.460 2.448	厚 重	0.128 3.37	-/-/-	錢貨が11枚錆着し出土したうちの9枚目で寛永通寶(1期・古寛永)。外縁・文字・郭とも彫は深く明瞭。裏面は外縁・郭とも明瞭だが彫は浅い。	
第128図 PL.190	12	錢貨 寛永通寶	底面より1cm (底板直上) 完形	長 幅	2.530 2.536	厚 重	0.129 3.14	-/-/-	錢貨が11枚錆着し出土したうちの10枚目で寛永通寶(2期・裏文・新寛永)。外縁・文字・郭とも彫は深くきわめて明瞭。裏面も彫深く外縁・文字・郭とも明瞭。	
第128図 PL.190	13	錢貨 寛永通寶	底面より1cm (底板直上) 完形	長 幅	2.477 2.488	厚 重	0.141 2.79	-/-/-	錢貨が11枚錆着し出土したうちの11枚目で寛永通寶(2期・裏文・新寛永)。外縁・文字・郭とも彫は深くきわめて明瞭。裏面も彫深く外縁・文字・郭とも明瞭。	

5区2面 6号墓遺物観察表

第129図 PL.190	14	在地系土器 皿	埋没土 口縁部1/4欠	口 底	10.2 6.1	高 -	2.2 ~ 2.6 -	-/-/にぶい橙	底部内面螺旋状轆轤目。底部右回転糸切無調整。	
第129図 PL.190	15	在地系土器 皿	底面より77~ 78cm、埋没土 口縁部1/3欠	口 底	8.6 6.3	高 -	2.1 -	-/-/にぶい橙	全体に器壁厚いが、底部周縁のみ薄い。底部内面螺旋状轆轤目。底部右回転糸切無調整。	
第129図 PL.190	16	在地系土器 皿	底面より88cm 底部完	口 底	- 5.6	高 -	- -	-/-/明赤褐	底部内面螺旋状轆轤目。底部左回転糸切無調整。	
第129図 PL.190	17	錢貨 寛永通寶	底面より8cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長 幅	2.377 2.392	厚 重	0.178 3.15	-/-/-	錢貨が6枚錆着し出土したうちの1枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも彫は深い錆化により不明瞭。	6枚錆着出土
第129図 PL.190	18	錢貨 寛永通寶	底面より8cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長 幅	2.457 2.475	厚 重	0.173 3.56	-/-/-	錢貨が6枚錆着し出土したうちの2枚目で寛永通寶(1期・古寛永)。外縁・文字・郭とも彫は深く不明瞭、裏面は彫浅い。	
第129図 PL.190	19	錢貨 寛永通寶	底面より8cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長 幅	2.411 2.370	厚 重	0.139 2.21	-/-/-	錢貨が6枚錆着し出土したうちの3枚目で寛永通寶(3期・新寛永)と読み取れるが、錆化し不明瞭。寛と通の間に錆欠けが見られる。	
第129図 PL.190	20	錢貨 不詳	底面より8cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長 幅	2.307 2.339	厚 重	0.151	-/-/-	錢貨が6枚錆着し出土したうちの4枚目で錆化が著しく5枚目との分離が困難なため詳細不明。	20と21の2枚 重量5.51g
第129図 PL.190	21	錢貨 寛永通寶?	底面より8cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長 幅	2.537 2.566	厚 重	0.186	-/-/-	錢貨が6枚錆着し出土したうちの5枚目で寛の字が見られるが錆化が著しく4枚目との分離が困難なため詳細不明。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長	幅	厚	重			
第129図 PL.190	22	銭貨 寛永通寶	底面より8cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	2.460	2.512	0.142	2.75	-/-/-	銭貨が6枚錆着し出土したうちの6枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。錆化するが彫は深く外縁・文字・郭とも明瞭。	

5区2面 7号墓遺物観察表

第132図 PL.190	1	在地系土器 皿	確認面 口縁部1/5、底部完	口底	(9.4) 5.4	高-	2.3-	-/-/にぶい黄橙	体部外反し、口縁部内湾。口縁部のみ肥厚。底部左回転糸切無調整。	
第132図 PL.190	2	石造物 石造物台座	確認面 略完形	厚幅	(30.6) 35.7	高重	(11.1) 13700.0	-/-/粗粒輝石安山岩	平面形状は方形、側面は逆台形状を呈し、表面は工具痕を残したままの粗い面成形。底面は粗いノミの刺突により浅く皿状に窪む。	
第132図 PL.190	3	銅製品 キセル	確認面 一部破損	長幅	4.5 1.3	厚重	2.2 4.18	-/-/-	キセルの雁首で劣化が著しく、表面は荒れ加工・装飾等は観察できない。火皿および吸い口側端部は左右から押しつぶされたように変形する。	
第132図 PL.190	4	銭貨 寛永通寶	底面より8cm (底板直上) 完形	長幅	2.208 2.208	厚重	0.114 1.42	-/-/-	銭貨が10枚錆着し出土したうちの1枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。彫は深いが錆化が著しく文字等は不明瞭。	10枚錆着出土
第132図 PL.190	5	銭貨 寛永通寶	底面より8cm (底板直上) 完形	長幅	2.343 2.344	厚重	0.130 2.26	-/-/-	銭貨が10枚錆着し出土したうちの2枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。彫深く外縁・文字・郭とも明瞭だが錆化により表面が荒れている。裏面は外縁・郭は認められるが平坦。	
第132図 PL.190	6	銭貨 寛永通寶	底面より8cm (底板直上) 完形	長幅	2.373 2.384	厚重	0.128 2.54	-/-/-	銭貨が10枚錆着し出土したうちの3枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも明瞭だが錆化により表面が荒れている。裏面も外縁・郭とも明瞭。	
第132図 PL.190	7	銭貨 寛永通寶	底面より8cm (底板直上) 完形	長幅	2.437 2.421	厚重	0.150 3.23	-/-/-	銭貨が10枚錆着し出土したうちの4枚目で寛永通寶(1期・古寛永)。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭だが、錆化により表面が有れている。裏面は平坦。	
第132図 PL.190	8	銭貨 寛永通寶	底面より8cm (底板直上) 完形	長幅	2.217 2.252	厚重	0.150 2.83	-/-/-	銭貨が10枚錆着し出土したうちの5枚目で寛永通寶(3期・古寛永)。外縁・文字・郭とも明瞭だが錆化により荒れている。裏面は平坦外縁の一部が劣化破損する。	
第132図 PL.190	9	銭貨 寛永通寶	底面より8cm (底板直上) 完形	長幅	2.450 2.447	厚重	0.151 2.93	-/-/-	銭貨が10枚錆着し出土したうちの6枚目で寛永通寶(1期・古寛永)。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭。裏面は平坦で不明瞭。	
第132図 PL.190	10	銭貨 寛永通寶	底面より8cm (底板直上) 完形	長幅	2.309 2.329	厚重	0.172 3.43	-/-/-	銭貨が10枚錆着し出土したうちの7枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも明瞭。裏面は平坦で不明瞭。	
第132図 PL.190	11	銭貨 寛永通寶	底面より8cm (底板直上) 完形	長幅	2.502 2.488	厚重	0.145 2.92	-/-/-	銭貨が10枚錆着し出土したうちの8枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも明瞭。裏面は平坦で不明瞭。	
第132図 PL.190	12	銭貨 寛永通寶	底面より8cm (底板直上) 完形	長幅	2.320 2.334	厚重	0.138 2.21	-/-/-	銭貨が10枚錆着し出土したうちの9枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも錆化し不明瞭。裏面は平坦で不明瞭。	
第132図 PL.190	13	銭貨 寛永通寶	底面より8cm (底板直上) 完形	長幅	2.477 2.503	厚重	0.218 4.27	-/-/-	銭貨が10枚錆着し出土したうちの10枚目で寛永通寶(1期・古寛永)。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭。裏面は錆化し不明瞭。	

5区2面 8号墓遺物観察表

第132図 PL.190	14	在地系土器 皿	集石下層 口縁部1/2欠	口底	(9.6) 5.6	高-	2.4-	-/-/浅黄橙	口縁部から体部内湾。底部左回転糸切無調整。	
第132図 PL.190	15	石造物 石造物台座	確認面 完形	厚幅	19.0 23.7	高重	8.4 4279.1	-/-/粗粒輝石安山岩	平面形状はやや歪な長方形、側面形状は逆台形状を呈する。表面は斜方向の筋状工具痕を残したままの粗い面成形。底面は粗いノミの刺突により浅く皿状に窪む。	
PL.190	16	石製品 火打石	埋没土 破片	長幅	1.4 2.6	厚重	1.2 5.5	-/-/石英	稜線の一部に潰れが認められる。	

5区2面 9号墓遺物観察表

第136図 PL.191	1	在地系土器 皿	集石下層 1/4	口底	(10.0) (6.8)	高-	2.2-	-/-/にぶい橙	下半広がり、口縁部下で屈曲して立ち上がる。底部回転糸切無調整。	
第136図 PL.191	2	石造物 石造物台座	確認面 完形	厚幅	31.2 33.0	高重	18.3 28100.0	-/-/粗粒輝石安山岩	平面形状はやや歪な方形を、側面は歪な逆台形状を呈す。上面は隅に原石の自然面を僅かに残し、タガネ状工具の刺突による面成形。側部は同じく粗い面成形、底面は粗く皿状に窪む。上面中央付近に上部石造物の接触痕跡が残る。	
第136図 PL.191	3	鉄製品 不詳	集石下面 破片	長幅	4.5 1.7	厚重	1.6 15.89	-/-/-	土砂を巻き込んで硬く錆化した鉄製品で、断面は角形と見られるが詳細形状は不明。	
第136図 PL.191	4	銭貨 寛永通寶	底面より7cm 完形	長幅	2.513 2.457	厚重	0.133 3.63	-/-/-	銭貨が6枚錆着し出土したうちの1枚目で寛永通寶(1期・古寛永)。外縁・文字・郭とも彫は深く明瞭。裏面は彫は浅いが外縁・郭とも明瞭。	6枚錆着出土
第136図 PL.191	5	銭貨 寛永通寶	底面より7cm 完形	長幅	2.553 2.562	厚重	0.142 3.72	-/-/-	銭貨が6枚錆着し出土したうちの2枚目で寛永通寶(2期・裏文・新寛永)。外縁・文字・郭とも彫は深くきわめて明瞭。裏面も彫は深く外縁・郭とも明瞭。	
第136図 PL.191	6	銭貨 寛永通寶	底面より7cm 完形	長幅	2.548 2.535	厚重	0.149 3.04	-/-/-	銭貨が6枚錆着し出土したうちの3枚目で寛永通寶(2期・裏文・新寛永)。外縁・文字・郭とも彫は深く明瞭。裏面も彫は深く外縁・郭とも明瞭だが文の字は浅く不明瞭。	
第136図 PL.191	7	銭貨 寛永通寶	底面より7cm 完形	長幅	2.531 2.549	厚重	0.152 3.99	-/-/-	銭貨が6枚錆着し出土したうちの4枚目で寛永通寶(2期・裏文・新寛永)。外縁の彫は深く明瞭だが文字・郭は彫は浅い。裏面も彫は深く外縁・郭とも明瞭だが文の字は浅く不明瞭。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第136図 PL.191	8	錢貨 寛永通寶	底面より7cm 完形	長幅 2.534 2.546	厚 0.133 3.30		-/-/-	錢貨が6枚錯着し出土したうちの5枚目で新寛永通寶(2期・裏文・新寛永)。外縁・文字・郭とも彫は深く明瞭。裏面も彫は深く外縁・郭とも明瞭だが文の字の彫は浅い。	
第136図 PL.191	9	錢貨 寛永通寶	底面より7cm 完形	長幅 2.537 2.529	厚 0.131 3.41		-/-/-	錢貨が6枚錯着し出土したうちの6枚目で寛永通寶(1期・古寛永)。外縁・文字・郭とも彫は深く明瞭。裏面も外縁・郭とも明瞭。	
PL.191	10	石製品 火打石	埋没土 破片	長幅 2.5 3.0	厚 0.9 6.9		-/-/石英	稜線の一部に潰れが見られる。	

5区2面 11号墓遺物観察表

第139図 PL.191	1	軟質施釉陶器 ミニチュア (徳利)	底面直上 口縁部欠	口底 -	高 -		-/-/灰白	軟質の素地に透明釉。頸部緑色釉による2条の横線。	
第139図 PL.191	2	在地系土器 皿	底面より38cm 完形	口底 10.0 5.8	高 2.3 -		-/-/にぶい橙	底部内面不鮮明な螺旋状轆轤目。底部左回転糸切無調整。	
第139図 PL.191	3	在地系土器 皿	集石下層 口縁部一部欠	口底 9.4 6.2	高 1.8 -		-/-/にぶい橙	口縁端部1箇所油煙付着。底部内面中央と周縁盛り上がる。底部左回転糸切無調整。	
第139図 PL.191	4	在地系土器 皿	集石下層 底部	口底 -	高 -		-/-/にぶい橙	底部周縁ドーナツ状に窪む。	
第139図 PL.191	5	石造物 石造物台座	確認面直下 完形	厚幅 18.4 21.8	高重 9.8 4630.8		-/-/粗粒輝石安山 岩	平面形状はやや歪な長方形、側面形状は歪な逆台形状を呈する。表面は工具痕を残したまま粗い面成形。底面は粗いノミの刺突により浅く皿状に窪む。	
第139図 PL.191	6	銅製品 不詳	集石下面 破片	長幅 5.0 1.0	厚重 0.9 6.23		-/-/-	厚さ1.5mm程の幅の狭い板状の銅製品で、端部から2.5cm程でループ状に折れ曲がる。他端は僅かに広がりながら斜めに破損する。	
第139図 PL.191	7	錢貨 寛永通寶	底面より10cm (底板直上) 完形	長幅 2.577 2.544	厚重 0.142 2.86		-/-/-	錢貨が13枚錯着し出土したうちの1枚目で寛永通寶(2期・裏文・新寛永)。外縁・文字・郭とも彫は深く明瞭だが一部錯化により不明瞭。裏面も彫深いが劣化により外縁・文字・郭とも不明瞭。	13枚錯着出土
第139図 PL.191	8	錢貨 寛永通寶	底面より10cm (底板直上) 完形	長幅 2.524 2.534	厚重 0.159 3.51		-/-/-	錢貨が13枚錯着し出土したうちの2枚目で寛永通寶(1期・古寛永)。外縁・文字・郭とも彫は深く錯化により一部不明瞭。裏面も彫深いが劣化に荒れている。	
第139図 PL.191	9	錢貨 寛永通寶	底面より10cm (底板直上) 完形	長幅 2.311 2.299	厚重 0.148 3.26		-/-/-	錢貨が13枚錯着し出土したうちの3枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも錯化により不明瞭。裏面はやや平坦で劣化に荒れている。	
第139図 PL.191	10	錢貨 寛永通寶	底面より10cm (底板直上) 完形	長幅 2.417 2.425	厚重 0.120 2.23		-/-/-	錢貨が13枚錯着し出土したうちの4枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも彫浅く錯化により不明瞭。裏面はやや平坦で不明瞭。	
第139図 PL.191	11	錢貨 寛永通寶	底面より10cm (底板直上) 完形	長幅 2.576 2.561	厚重 0.149 3.57		-/-/-	錢貨が13枚錯着し出土したうちの5枚目で寛永通寶(2期・裏文・新寛永)。外縁・文字・郭とも彫浅く錯化により不明瞭。裏面はやや平坦だが外縁・文字・郭とも明瞭。	
第139図 PL.191	12	錢貨 寛永通寶	底面より10cm (底板直上) 完形	長幅 2.529 2.548	厚重 0.169 3.91		-/-/-	錢貨が13枚錯着し出土したうちの6枚目で寛永通寶(1期・古寛永)。外縁・文字・郭とも明瞭だが一部錯化により不鮮明。裏面はやや平坦だが外縁・郭とも明瞭。	
第139図 PL.191	13	錢貨 寛永通寶	底面より10cm (底板直上) 完形	長幅 2.290 2.999	厚重 0.130 2.41		-/-/-	錢貨が13枚錯着し出土したうちの7枚目で寛永通寶(1期・古寛永)。外縁・文字・郭とも明瞭だが彫浅い。裏面は平坦で外縁・郭不明瞭。	
第139図 PL.191	14	錢貨 寛永通寶	底面より10cm (底板直上) 完形	長幅 2.393 2.386	厚重 0.142 3.04		-/-/-	錢貨が13枚錯着し出土したうちの8枚目で寛永通寶(1期・古寛永)。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭だが錯化により荒れている。裏面は平坦だが外縁・郭は明瞭。	
第139図 PL.191	15	錢貨 寛永通寶	底面より10cm (底板直上) 完形	長幅 2.387 2.409	厚重 0.175 3.70		-/-/-	錢貨が13枚錯着し出土したうちの9枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭だが錯化により荒れている。裏面は平坦だが外縁・郭は明瞭。	
第139図 PL.191	16	錢貨 寛永通寶	底面より10cm (底板直上) 完形	長幅 2.563 2.556	厚重 0.155 3.81		-/-/-	錢貨が13枚錯着し出土したうちの10枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも彫浅いが明瞭。裏面は平坦だが外縁・郭は明瞭。	
第139図 PL.191	17	錢貨 寛永通寶	底面より10cm (底板直上) 完形	長幅 2.550 2.540	厚重 0.163 3.74		-/-/-	錢貨が13枚錯着し出土したうちの11枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも彫浅いが明瞭。裏面も彫浅いが外縁・郭は明瞭。	
第139図 PL.191	18	錢貨 寛永通寶	底面より10cm (底板直上) 完形	長幅 2.449 2.551	厚重 0.162 3.54		-/-/-	錢貨が13枚錯着し出土したうちの12枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも彫浅いが明瞭。裏面も彫浅いが外縁・郭は明瞭。	
第139図 PL.192	19	錢貨 寛永通寶	底面より10cm (底板直上) 完形	長幅 3.814 3.816	厚重 0.152 8.06		-/-/-	錢貨が13枚錯着し出土したうちの13枚目で寛永通寶。外縁・文字・郭とも彫浅いが明瞭。裏面は平坦で外縁・郭は不明瞭。	
第139図 PL.192	20	錢貨 寛永通寶	台座(5)直下 完形	長幅 2.391 2.378	厚重 0.165 2.19		-/-/-	寛永通寶。彫浅く錯化により外縁・文字・郭とも不明瞭。	

5区2面 12号墓遺物観察表

第141図 PL.192	1	在地系土器 皿	底面より78cm 完形	口底 9.0 6.0	高 2.3 -		-/-/にぶい橙	体部内湾。底部右回転糸切無調整。	
第141図 PL.192	2	石製品 砥石	埋没土 破片	長幅 (4.9) (2.7)	厚重 1.9 37.9		-/-/砥沢石	表裏面2面使用。裏面は使用頻度が低い。左右側面と下端小口面には櫛歯タガネ痕が明瞭に残る。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				厚幅	高さ	重量	その他			
第141図 PL.192	3	石造物 石造物台座	確認面 完形	厚幅 23.5 24.6	高さ 10.6 9250.0			平面形状は方形、側面は逆台形状を呈し、表面は工具痕を残したまま粗い面成形。底面は粗いノミの刺突により浅く皿状に窪む。上面中央に上部石造物との接合用の円形の孔(直径4.5cm、深さ2cm)を穿つ。孔周辺は僅かに石造物の接触痕跡が認められる。出土遺物中に接合用凸部を有する地蔵立像(第117図10)があり、対となる可能性がある。		
第142図 PL.192	4	銭貨 寛永通寶	底面より1cm (底板直上) 完形	長幅 2.290 2.309	厚重 0.133 1.66		-/-/-	銭貨が11枚鑄着し出土したうちの1枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭だが一部劣化により文字が荒れる。裏面は彫は浅いが外縁・郭は明瞭。	11枚鑄着出土	
第142図 PL.192	5	銭貨 寛永通寶	底面より1cm (底板直上) 完形	長幅 2.547 2.563	厚重 0.158 3.65		-/-/-	銭貨が11枚鑄着し出土したうちの2枚目で新寛永通寶(2期・裏文・新寛永)。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭。裏面も彫深く外縁・文字・郭は明瞭。		
第142図 PL.192	6	銭貨 寛永通寶	底面より1cm (底板直上) 完形	長幅 2.425 2.404	厚重 0.138 2.68		-/-/-	銭貨が11枚鑄着し出土したうちの3枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。劣化が著しく外縁・文字・郭とも彫浅く不明瞭。裏面も彫浅いが外縁・郭は明瞭。		
第142図 PL.192	7	銭貨 寛永通寶	底面より1cm (底板直上) 完形	長幅 2.487 2.492	厚重 0.153 3.30		-/-/-	銭貨が11枚鑄着し出土したうちの4枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭。裏面も外縁・郭は明瞭。		
第142図 PL.192	8	銭貨 寛永通寶	底面より1cm (底板直上) 完形	長幅 2.345 2.333	厚重 0.142 2.67		-/-/-	銭貨が11枚鑄着し出土したうちの5枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。劣化が著しく外縁・文字・郭とも彫浅く不明瞭。裏面も外縁・郭は不明瞭。		
第142図 PL.192	9	銭貨 寛永通寶	底面より1cm (底板直上) 完形	長幅 2.484 2.488	厚重 0.129 2.70		-/-/-	銭貨が11枚鑄着し出土したうちの6枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭。裏面は外縁は明瞭だが郭は不明瞭。		
第142図 PL.192	10	銭貨 寛永通寶	底面より1cm (底板直上) 完形	長幅 2.282 2.307	厚重 0.130 2.41		-/-/-	銭貨が11枚鑄着し出土したうちの7枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも明瞭。裏面は外縁は明瞭だが郭は不明瞭。		
第142図 PL.192	11	銭貨 寛永通寶	底面より1cm (底板直上) 完形	長幅 2.542 2.537	厚重 0.142 3.49		-/-/-	銭貨が11枚鑄着し出土したうちの8枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも明瞭。裏面は外縁・郭ともやや不明瞭。		
第142図 PL.192	12	銭貨 寛永通寶	底面より1cm (底板直上) 完形	長幅 2.478 2.497	厚重 0.129 2.67		-/-/-	銭貨が11枚鑄着し出土したうちの9枚目で寛永通寶(1期・古寛永)。外縁・文字・郭とも明瞭。裏面も外縁・郭とも明瞭。		
第142図 PL.192	13	銭貨 寛永通寶	底面より1cm (底板直上) 完形	長幅 2.479 2.482	厚重 0.137 2.79		-/-/-	銭貨が11枚鑄着し出土したうちの10枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭。裏面も彫深く外縁・郭とも明瞭。		
第142図 PL.192	14	銭貨 寛永通寶	底面より1cm (底板直上) 完形	長幅 2.498 2.479	厚重 0.202 3.06		-/-/-	銭貨が11枚鑄着し出土したうちの11枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭。裏面は彫は浅いが外縁・郭とも明瞭。		
第142図 PL.192	15	銭貨 寛永通寶	底面より2cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長幅 2.510 2.503	厚重 0.174 3.21		-/-/-	銭貨が5枚鑄着し出土したうちの1枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭だが、表面は表裏とも劣化により荒れている。	5枚鑄着	
第142図 PL.192	16	銭貨 寛永通寶	底面より2cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長幅 2.516 2.505	厚重 0.145 2.92		-/-/-	銭貨が5枚鑄着し出土したうちの2枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭だが、表面は表裏とも劣化により荒れている。		
第142図 PL.192	17	銭貨 寛永通寶	底面より2cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長幅 2.167 2.144	厚重 0.137 1.83		-/-/-	銭貨が5枚鑄着し出土したうちの3枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも明瞭だが、表面は表裏とも劣化により荒れている。		
第142図 PL.192	18	銭貨 寛永通寶	底面より2cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長幅 2.516 2.509	厚重 0.156 3.41		-/-/-	銭貨が5枚鑄着し出土したうちの4枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭だが、表面は表裏とも劣化により荒れている。		
第142図 PL.192	19	銭貨 寛永通寶	底面より2cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長幅 2.504 2.461	厚重 0.158 2.04		-/-/-	銭貨が5枚鑄着し出土したうちの5枚目で寛永通寶(3期・新寛永)。外縁・文字・郭とも明瞭だが、表面は表裏とも劣化により荒れている。永の字の下側は劣化破損する。		
第142図 PL.192	20	銭貨 寛永通寶	底面より3cm (底板直上) ほぼ完形だが錆化	長幅 2.451 2.278	厚重 0.151 1.52		-/-/-	錆化の著しい銭貨で残存する文字の一部から寛永通寶と見られる。外縁・文字の一部は明瞭な状態で残るが、全体的に脆弱で錆に覆われるため詳細は不明。		

5区2面 13号墓遺物観察表

第144図 PL.192	1	鉄製品 釘	確認面 一部欠損	長幅 5.3 2.1	厚重 0.8 11.60		-/-/-	断面長方形の角釘で頭部分は薄く延ばしたのち折り曲げられている。浅く2か所で屈曲、先端側は破損し全体形状は不明。錆びに覆われて内部は脆弱なため木質等の残存は確認できない。	
-----------------	---	----------	-------------	------------------	--------------------	--	-------	--	--

5区2面 遺構外遺物観察表

第145図	1	在地系土器 片口鉢	確認面 口縁部片	口底	-	高	-	-/-/灰	還元炎焼成。口縁端部内面尖る。	
-------	---	--------------	-------------	----	---	---	---	-------	-----------------	--

1区2.5面 1号復旧溝群遺物観察表

第147図	1	古瀬戸陶器 おろし皿	埋没土 底部1/3	口底	- (4.0)	高	-	-/-/淡黄	無釉。底部内面へらによる卸し目。底部回転糸切無調整。	
-------	---	---------------	--------------	----	------------	---	---	--------	----------------------------	--

1区2.5面 2号井戸遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚			
第153図 PL.193	1	瀬戸・美濃 陶器 小香炉	埋没土 1/2	口底 -	(6.6) -	高 -	4.5 -	-/-/淡黄	底部に脚貼り付け。脚1か所残存。内面中位から底部外面 周縁灰釉。
第153図 PL.193	2	在地系土器 皿	埋没土 口縁部1/2、底 部完	口底 -	(10.5) 6.5	高 -	2.5 -	-/-/浅黄橙	体部内湾。底部中央焼成後に外面側から穿孔。口縁端部一 か所に油煙付着。
第153図 PL.193	3	在地系土器 鍋	埋没土上層・埋 没土 1/2	口底 -	(35.0) (19.6)	高 -	13.3 -	-/-/淡黄	器表黒褐色。外面器表煤付着。口縁部水平に外反。
第153図 PL.193	4	石製品 砥石	埋没土 破片	長 幅	(4.2) 4.2	厚 重	3.7 85.9	-/-/デイスait	上部破損。4面使用だが、裏面と左側面の使用頻度は低い。 左側面の稜線付近には刃慣らし傷が連続的に認められる。
第153図 PL.193	5	石製品 凹石	埋没土 完形	長 幅	16.0 14.4	厚 重	9.8 1516.2	-/-/ニツ岳軽石	軽石転石の上面中央に漏斗(すり鉢)状の孔を有する。裏面 中央にも浅い皿状の凹みをもち、凹み内部は摩耗している。

1区2.5面 3号土坑遺物観察表

第155図 PL.192	1	肥前磁器 蓋物	床上5cm・埋没 土 口縁一部欠	口底 -	11.4 5.0	高 -	5.9 -	-/-/白	外面3方に桐文。内面無文。口縁端部内面無釉。
-----------------	---	------------	------------------------	---------	-------------	--------	----------	-------	------------------------

1区2.5面 遺構外遺物観察表

第156図 PL.193	1	肥前磁器 染付小碗	確認面 口縁部1/4、底 部一部	口底 -	(7.0) (3.0)	高 -	3.8 -	-/-/灰白	外面草花文。高台外面から高台内面下半無釉。
第156図 PL.193	2	肥前磁器 染付碗	確認面 口縁部1/3、底 部完	口底 -	9.8 4.0	高 -	5.4 -	-/-/灰白	底部器壁厚い。外面二重網目文。
第156図 PL.193	3	瀬戸・美濃 陶器 小碗	確認面 口縁部1/2、底 部完	口底 -	(6.6) 3.2	高 -	3.9 -	-/-/灰白	内面から高台脇灰釉。貫入する。
第156図 PL.193	4	瀬戸・美濃 陶器 仏飯器	確認面 1/2	口底 -	(7.4) 4.4	高 -	5.2 -	-/-/灰白	口径に比して器高低い。内面から脚部外面下位灰釉。貫入 する。
第156図 PL.193	5	瀬戸・美濃 陶器 灯火皿	確認面 口縁部1/4、底 部1/2	口底 -	(10.0) 6.0	高 -	2.0 -	-/-/灰白	内面から体部外面下位鉛釉。底部内面周縁薬灰釉。口縁端 部粘土紐を貼り付け灯芯受けをつくる。口縁部外面以下回 転ヘラ削り。
第156図 PL.193	6	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	確認面 底部1/2	口底 -	(12.2) -	高 -	- -	-/-/淡黄	底部右回転糸切無調整。錆釉施釉後、底部外面を雑に拭う。 内外面体部下端以下に目痕2か所。
第156図 PL.193	7	石製品 砥石	確認面 破片	長 幅	(22.8) (9.6)	厚 重	8.1 1956.7	-/-/粗粒輝石安山 岩	正面および左右側面の3面使用。平滑面と刃慣らし傷が多 数見られる。左右側面は研ぎ減りで砥面が凹状を呈する。 裏面は敲打による整形痕を残し、石臼転用の可能性がある。
第157図 PL.193	8	石製品 砥石	確認面 略完形	長 幅	(9.6) 3.2	厚 重	2.6 111.5	-/-/砥沢石	4面使用。正面は側面から見ると山形を呈し、中央部が高 く端部に向かって低くなっている。左右側面は使用頻度が 低く、櫛歯タガネ痕が部分的に残る。裏面の砥面は緩やか な凹状で、凹部には幅4~5mmのタガネ状工具痕が横方向 に見られる。
第157図 PL.193	9	石製品 硯	確認面 破片	長 幅	(5.3) (2.9)	厚 重	(0.6) 10.8	-/-/珪質粘板岩	正面、右側面、上端小口面の3面が平滑で、各面が直角を なす。硯底部の一部と考えられる。
第157図 PL.193	10	石製品 硯	確認面 破片	長 幅	(4.5) (1.4)	厚 重	(0.9) 4.0	-/-/頁岩	左側面は生きている。縁付近には縦方向の沈線が認められ、 整形時の痕跡と考えられる。中央部に向かって緩やかに傾 斜している。

1区3面 3号溝(中層)遺物観察表

第162図 PL.193	1	肥前磁器 染付小碗	西側土手埋没土 1/2	口底 -	(8.3) (2.9)	高 -	4.5 -	-/-/灰白	外面唐草文。
第162図 PL.193	2	肥前磁器 染付仏飯器	東側土手直上 口縁部1/3、高 台3/4	口底 -	7.0 3.6	高 -	4.7 -	-/-/白	外面草花文。脚部外面中位節条に稜をなす。脚部下面無釉。
第162図 PL.193	3	瀬戸・美濃 陶器 小碗	土手埋没土 口縁部1/2、底 部完	口底 -	(6.7) 3.2	高 -	4.2 -	-/-/灰白	内面から体部下位外面灰釉。貼付高台。
第162図 PL.193	4	銅製品 キセル	底面 破片	長 幅	4.0 0.8	厚 重	1.0 1.36	-/-/-	キセルの雁首破片で火皿部分を欠損、吸い口側も劣化破損 する。

1区3面 6号溝(中層)遺物観察表

第163図 PL.193	1	古瀬戸陶器 緑釉皿	埋没土 破片	口底 -	(11.6) -	高 -	- -	-/-/灰白	口縁部のみ灰釉。
第163図 PL.193	2	古瀬戸陶器 盤類	埋没土 体部片	口底 -	- -	高 -	- -	-/-/浅黄橙	外面横線状の轆轤目。内外面灰釉。貫入する。
第163図 PL.193	3	瀬戸・美濃 陶器 御深井皿	西側土手埋没土 口縁部3/4欠	口底 -	- 5.8	高 -	3.3 -	-/-/灰	木瓜形の皿。内面から体部下位いわゆる御深井釉。貫入入 る。
第163図 PL.193	4	瀬戸・美濃 陶器 灯火受皿	西側土手埋没土 口縁部1/2欠	口底 -	9.2 6.4	高 -	2.2 -	-/-/灰白	受け部「コ」字状に1か所切り取る。錆釉施釉後、底部外面 付近の釉を拭う。外面口縁部以下回転ヘラ削り。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚			
第163図 PL.193	5	瀬戸・美濃 陶器 鉄絵鉢	埋没土、西側土 手埋没土 口縁部から体部 1/8欠	口底 32.0 15.0	高 7.8 ~ 9.0 -	厚 -	-/-/淡黄	口縁部外反。口縁部内面段差。灰釉施釉後、高台内を拭う。 内面鉄絵。底部内面と高台に目痕4か所。	
第163図	6	在地系土器 甕か	埋没土 口縁部1/3	口底 (38.4) -	高 -	厚 -	-/-/暗灰~にぶい 黄橙	断面黒色、器表付近にぶい黄橙色、残存部端に焼成前の切り込み。切り込み残存部上端の外面に庇状の貼り付け痕僅かに残る。内面横位撫で。外面粗い磨ぎ。	
1区3面 遺構外遺物観察表									
第175図 PL.193	1	中国白磁 碗	確認面 体部下位片	口底 -	高 -	厚 -	-/-/灰白	体部下位内面に1条の横線。内外面白磁釉。	
第175図	2	肥前磁器 染付か白磁 瓶	確認面 体部下位以下 1/2	口底 5.0	高 -	厚 -	-/-/灰白	体部外面回転ヘラ削り。高台端部を除く外面透明釉。	
第175図 PL.193	3	在地系土器 皿	確認面 口縁部1/2欠	口底 10.0 6.3	高 2.0 ~ 2.3 -	厚 -	-/-/にぶい黄橙	体部から口縁部開く。底部左回転糸切無調整。	
第175図	4	在地系土器 焙烙	確認面 口縁部から底部 片	口底 -	高 -	厚 -	-/-/灰~暗灰	断面中央暗灰色、器表付近灰白色、内面器表灰白から灰色、外延器表暗灰色。内面から口縁部外面回転横撫で。外面下半ヘラ削りで、窪みに型痕残る。底部外面型痕。	
第175図 PL.193	5	銅製品 キセル	確認面 一部残存	長幅 3.8 1.1	厚 1.7 4.30	重 -	-/-/-	キセル雁首破片。二つの破片からなり直接は接合できないが、雁首本体がくびれ火皿側に細く弧を描いてつながっていく形状と見られる。	
第175図 PL.193	6	石製品 砥石	確認面 略完形	長幅 (14.0) 3.7	厚 3.0 288.9	重 -	-/-/砥沢石	4面使用。正面には長軸にほぼ平行する線状痕が多数見られる。	
2区3面 1号溝(中層)遺物観察表									
第176図	1	京・信楽系 陶器 鉄絵碗	埋没土 口縁部~体部 1/4	口底 (9.6) -	高 -	厚 -	-/-/灰白	口縁部外面鉄絵。内面から高台脇透明釉。貫入する。	
第176図 PL.194	2	銅製品 キセル	土手直上 一部欠損	長幅 1.8 1.5	厚 2.0 3.56	重 -	-/-/-	キセル雁首の火皿付近破片。	
第176図 PL.194	3	石製品 砥石?	底面より16cm 完形	長幅 16.2 13.7	厚 8.3 1282.6	重 -	-/-/ニツ岳軽石	正面に幅5mmの刃慣らし傷状の線状痕が数条と平滑面が認められたため砥石とした。平滑面を線状痕が切っている。	
2区3面 10号溝(中層)遺物観察表									
第179図 PL.194	1	石製品 砥石	埋没土・南側土 手埋没土 破片	長幅 (9.1) 5.0	厚 1.0 58.2	重 -	-/-/珪質粘板岩	正面1面のみ使用。砥面には加工時の凹凸が残り、凸部が研磨により非常に平滑になっている。両側面と小口部は平坦であるが未使用と考えられる。	
2区3面 遺構外遺物観察表									
第181図	1	常滑陶器 甕か	確認面 体部片	口底 -	高 -	厚 -	-/-/にぶい褐、暗 赤褐	断面灰色、内面器表にぶい褐色、外面器表暗赤褐色。外面叩き目。	
第181図 PL.194	2	石製品 砥石	確認面 略完形	長幅 (13.0) 3.1	厚 2.9 149.0	重 -	-/-/砥沢石	正面中央部から上端に向かって研ぎ減りにより薄くなっている。裏面には長軸に直交する刃慣らし傷が複数認められる。	
5区3面 水田遺物観察表									
第185図 PL.194	1	金属製品 薄板	確認面 一部破損	長幅 2.2 1.5	厚 0.1 2.39	重 -	-/-/-	厚さ1mm幅1.5cmの非鉄金属製の薄板で、両端は破断したように凸凹に破損する。	
1区4面 3号溝(下層)遺物観察表									
第190図	1	龍泉窯系青 磁 碗	埋没土 口縁部片	口底 -	高 -	厚 -	-/-/灰白	2条1単位の凹線で内面を分割。小片のため口縁部の輪花は不明。	
第190図 PL.194	2	肥前磁器 染付碗	埋没土 口縁部1/2、底 部完	口底 (10.2) 4.3	高 5.3 -	厚 -	-/-/白	外面雪輪梅樹文。高台内不明銘。	
第190図 PL.194	3	瀬戸・美濃 陶器 腰錆碗	埋没土 口縁部~体部一 部欠	口底 9.7 4.4	高 5.8 -	厚 -	-/-/灰白	口縁部外面下に螺旋状凹線。内面から口縁部外面灰釉、凹線部から高台内薄鉄釉。高台端部無釉。灰釉に貫入。	
第190図 PL.194	4	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗	埋没土 口縁部1/4、底 部1/2	口底 (11.1) (4.7)	高 7.4 -	厚 -	-/-/淡黄	内面から高台脇鉄釉。口縁部外面薬灰釉。	
第190図 PL.194	5	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗	埋没土 口縁部1/4欠	口底 9.8 4.3	高 5.8 -	厚 -	-/-/灰白	内面から高台脇鉄釉。口縁部薬灰釉。	
第190図 PL.194	6	瀬戸・美濃 陶器 丸皿	埋没土 口縁部~体部 1/4欠	口底 10.4 5.9	高 4.4 -	厚 -	-/-/褐灰	内面から高台内灰釉。高台付近部分的に無釉。無釉部分に油附着。底部内面中央に回転糸切り痕残る。内面に重焼時の高台痕残る。	中世。
第190図	7	志戸呂陶器 灯火受皿	埋没土 口縁部一部、口 縁部以下1/3	口底 (7.3) (5.8)	高 2.9 -	厚 -	-/-/褐灰	受け部をアーチ状に2か所抉る。内面から口縁部外面錆釉。口縁部~底部、筋状に釉流れる。	
第190図	8	在地系土器 皿	埋没土 1/2	口底 (9.8) (6.7)	高 1.9 -	厚 -	-/-/にぶい橙	体部内湾。口縁部肥厚。底部左回転糸切無調整。	
第190図 PL.194	9	石製品 砥石	埋没土 略完形	長幅 (14.7) 2.6	厚 2.7 113.8	重 -	-/-/砥沢石	4面使用。表裏面の研ぎ減りが著しい。正面は中央部が高く、両端に向かって低くなっている。さらに、左上と右下の摩耗が顕著で片減りが見られる。左右側面の使用頻度は低く、左側面には櫛歯タガネ痕が残る。	

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	(25.6) (11.7)	厚 重			
第190図 PL.194	10	石造物 板碑	埋没土 破片	長 幅	(25.6) (11.7)	厚 重	2.4 826.2	-/-/緑色片岩	主尊部破片。葉研彫りのキリーク(阿弥陀如来)種子と蓮座の一部が残る。碑面の風化は少ない。裏面は横方向の平ノミ状工具痕を残す。
1区4面 6号溝(下層)遺物観察表									
第192図 PL.194	1	肥前磁器 染付小碗	埋没土 口縁部、高台	口 底	7.9 3.4	高 -	4.5 -	-/-/灰白	口縁部外面に笹文。体部外面下位に1条、高台外面に2条の圏線。
第192図 PL.194	2	肥前磁器 染付碗	埋没土 完形	口 底	9.8 4.0	高 -	4.8 -	-/-/白	外面全面に松竹梅などの植物文。貫入入る。
第192図	3	肥前陶器 呉器手碗	埋没土 口縁部1/3、体 部1/4	口 底	(12.3) -	高 -	- -	-/-/淡黄	口縁部やや開く。内外面透明釉で細かい貫入入る。
第192図 PL.194	4	肥前陶器 陶胎染付碗	埋没土 口縁部1/8、底 部3/4	口 底	(11.0) 4.5	高 -	7.0 -	-/-/灰白	外面簡略化した東屋山水文。高台体部に砂付着。貫入入る。
第192図 PL.194	5	瀬戸・美濃 陶器 小碗	埋没土 口縁部1/2、底 部完	口 底	6.5 3.4	高 -	4.1 -	-/-/灰白	内面から高台脇灰釉。不規則な貫入入る。残存部無文。
第192図 PL.194	6	瀬戸・美濃 陶器 染付小碗	埋没土 口縁部1/5、底 部完	口 底	(6.8) 3.4	高 -	4.5 -	-/-/灰白	内面から高台脇灰釉。不規則な貫入入る。外面1か所に不明文様の染付。
第192図 PL.194	7	瀬戸・美濃 陶器 染付小碗	埋没土 口縁部1/2、底 部完	口 底	(7.0) 3.4	高 -	4.1 -	-/-/灰白	内面から高台脇灰釉。不規則な貫入入る。外面1か所に不明文様の染付。
第192図 PL.194	8	瀬戸・美濃 陶器 腰鏝碗	埋没土 口縁部1/2、底 部完	口 底	9.2 4.8	高 -	5.8 -	-/-/灰白	外面中位螺旋状凹線。内面から口縁部外面灰釉、外面口縁部以下薄い鉄釉。高台端部のみ無釉。灰釉に貫入入る。
第192図	9	瀬戸・美濃 陶器 腰鏝碗	埋没土 口縁部1/5、底 部完	口 底	(9.9) 4.2	高 -	5.9 -	-/-/灰白	外面中位螺旋状凹線。内面から口縁部外面灰釉、外面口縁部以下薄い鉄釉。高台端部のみ無釉。灰釉に貫入入る。
第192図 PL.194	10	瀬戸・美濃 陶器 麦藁手碗	埋没土 口縁部1/3欠	口 底	12.3 4.8	高 -	6.5 -	-/-/灰白	口縁部ゆるく内湾。高台脇水平に削る。外面に幅広の縦線を呉須と鉄絵具で交互に描く。口鏝。高台端部を除き透明釉。貫入入る。
第192図	11	瀬戸・美濃 陶器 志野丸皿	埋没土 1/6	口 底	(11.7) (8.2)	高 -	1.8 -	-/-/黄灰	高台非常に低く、平底状。内外面長石釉。貫入入る。
第192図	12	瀬戸・美濃 陶器 反皿	埋没土 1/4	口 底	(13.4) (8.0)	高 -	2.9 -	-/-/灰白	口縁部外反。高台脇水平に削る。高台端部を含め全面に灰釉。底部内面に1か所、外面に2か所の目痕。
第192図 PL.194	13	瀬戸・美濃 陶器 ひょうそく	埋没土 口縁一部欠	口 底	5.0 4.2	高 -	4.2 -	-/-/灰白	内面から坏部外面鉄釉。脚部無釉。脚底部右回転糸切無調整。脚底部中央固定穴1か所。
第192図 PL.194	14	瀬戸・美濃 陶器 仏飯器	埋没土 口縁部1/4、脚 端部1/4欠	口 底	7.0 4.2	高 -	5.9 -	-/-/灰白	坏部から脚柱部外面中位に灰釉。貫入入る。坏部外面に小さく呉須によると推定される線が見えるが、意図的な物か否か不明。
第192図 PL.194	15	瀬戸・美濃 陶器 仏飯器	埋没土 坏部1/4欠	口 底	7.0 7.2	高 -	5.4 -	-/-/灰白	坏部から脚柱部外面に灰釉。貫入入る。
第192図 PL.194	16	瀬戸・美濃 陶器 片口鉢	埋没土 口縁部1/4欠	口 底	12.4 6.2	高 -	8.2 -	-/-/淡黄	口縁部外面凹線状に窪む。内面から体部外面下位灰釉。釉の剥離か所多い。
第192図	17	瀬戸・美濃 陶器 片口鉢	埋没土と底部 口縁部と底部 1/5、体部1/2	口 底	(19.6) (10.8)	高 -	12.5 -	-/-/淡黄	口縁部外面4条の凹線。残存部に片口部僅かに残る。内面から体部外面下位錆色の鉄釉。
第192図	18	志戸呂陶器 灯火皿	埋没土 1/4	口 底	(8.8) (4.4)	高 -	1.6 -	-/-/褐灰	外面中位弱い稜をなす。底部右回転糸切無調整。内面から口縁端部外面錆釉。
第192図	19	渥美陶器 甕か	埋没土 肩部片	口 底	-	高 -	-	-/-/灰	外面器表黒色。外面に叩き目。
第192図	20	渥美陶器 甕か	埋没土 体部片	口 底	-	高 -	-	-/-/灰	外面器表黒色。外面平行叩き目。
第192図 PL.194	21	在地系土器 皿	埋没土 一部欠	口 底	8.3 5.8	高 -	1.4 ~ 2.1 -	-/-/橙	口縁部外面丸味を帯びる。底部左回転糸切無調整。
第192図 PL.194	22	在地系土器 皿	埋没土 完形	口 底	10.0 6.0	高 -	2.1 ~ 2.4 -	-/-/にぶい黄橙	口縁部油煙付着。底部右回転糸切無調整。
第192図	23	在地系土器 片口鉢	埋没土 口縁部片	口 底	-	高 -	-	-/-/灰	還元炎焼成。器壁厚く、口縁端部は内側に突き出る。口縁端部外面1条の凹線。
第192図	24	在地系土器 内耳鍋	埋没土 口縁部片	口 底	-	高 -	-	-/-/灰	還元炎焼成。器壁薄い。口縁部下内面僅かな段差。口縁部僅かに内湾。
第192図 PL.194	25	石造物 板碑	埋没土 破片	長 幅	(11.8) (6.9)	厚 重	(1.1) 131.6	-/-/緑色片岩	中部破片。浅い稜線の一部が残る。碑面はやや風化する。裏面は剥落。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	() ()	厚 重			
第192図 PL.194	26	石造物 板碑	埋没土 破片	長 幅	(13.4) (6.6)	厚 重	(3.1) 349.0	-/-/緑色片岩	大型板碑主尊部破片。浅い薬研彫りの薬研彫りのキリーク(阿弥陀如来)種子の一部が残る。碑面の風化著しい。裏面は平ノミ状工具痕を残す。
第192図 PL.194	27	石製品 凹石	埋没土 完形	長 幅	15.7 11.7	厚 重	8.0 787.1	-/-/二ツ岳軽石	軽石転石の上面中央に漏斗(すり鉢)状の研磨による孔と、その周辺には平滑な研磨面を有する。

1区4面 9号溝遺物観察表

第190図	11	龍泉窯系青 磁碗	埋没土 体部片	口 底	- -	高 -	- -	-/-/灰白	外面鎬蓮弁文。内外面青磁釉。
第190図	12	肥前陶器 陶胎染付碗	埋没土 体部下半以下 1/2	口 底	- (4.6)	高 -	- -	-/-/灰	体部外面染付。高台端部を除き施釉。貫入する。
第190図 PL.194	13	土製品 土錘	埋没土 3/4	長 幅	5.3 1.6	厚 孔	1.3 0.4	細砂粒/酸化焰/橙	小口の直径と中位の最大径、大差ない。
第190図 PL.194	14	石製品 砥石	埋没土 破片	長 幅	(5.5) 3.4	厚 重	2.1 60.4	-/-/砥沢石	正面のみ使用。裏面および両側面には櫛歯タガネ痕が明瞭に認められる。正面は上端部に向かって低くなっている。

1区4面 3号井戸遺物観察表

第196図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部~底部	口 底	12.8 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は横ナデ。以下、外面は摩滅のため詳細不明。	内外面に赤色 塗彩。
第196図 PL.194	2	石造物 板碑	埋没土 破片	長 幅	(16.7) (16.3)	厚 重	2.2 946.2	-/-/緑色片岩	主尊部片。右端に浅い薬研彫りの種子の一部が残る。碑面はやや摩滅・剥落。裏面には横方向の平ノミ状工具痕が残る。	

1区4面 遺構外遺物観察表

第198図 PL.194	1	肥前磁器 染付碗	確認面 口縁部1/4欠	口 底	9.7 4.0	高 -	5.0 -	-/-/灰白	外面雪輪梅樹文。高台内不明銘。
第198図 PL.194	2	肥前磁器 染付火入れ か香炉	確認面 体部下半1/3、 底部完	口 底	- 5.8	高 -	- -	-/-/白	体部外面東屋山水文か。内面上半から高台外面付近施釉。
第198図	3	肥前陶器 呉器手碗	確認面 口縁部~体部 1/4	口 底	(10.2) -	高 -	- -	-/-/淡黄	内外面透明釉。細かい貫入する。
第198図	4	常滑陶器 甕か壺	確認面 肩部片	口 底	- -	高 -	- -	-/-/灰	外面上半自然釉斑状にかかる。
第198図 PL.194	5	銅製品 キセル	確認面 一部欠損	長 幅	4.7 1.8	厚 重	2.1 6.04	-/-/-	キセルの雁首で大型の火皿を持つ、表面は劣化し荒れているため装飾・加工等は不明。
第198図 PL.194	6	銅製品 キセル	確認面 破片	長 幅	1.4 2.6	厚 重	1.5 1.06	-/-/-	キセルの雁首破片で、火皿取付け部分の一部を残すのみで全体形状等は不明。
第198図 PL.194	7	銅製品 キセル	確認面 破片	長 幅	2.1 0.9	厚 重	0.9 1.87	-/-/-	キセルの破片で、全体に錆化が著しく脆弱でオリジナル表面は消失し、ロウ付け部分が盛り上がって見える状況。

2区4面 1号溝(下層)遺物観察表

第203図	1	常滑陶器 片口鉢	埋没土 口縁部片	口 底	- -	高 -	- -	-/-/褐灰	内面から口縁部外面回転横撫で。内面自然釉斑状にかかる。外面口縁部下撫で。
第203図 PL.194	2	石製品 不明	壁面 完形	長 幅	23.3 24.2	厚 重	20.0 5725.4	-/-/二ツ岳石	軽石転石の各所に幅3cmほどの平ノミ状工具による縦方向の切削痕が数条認められる。

2区4面 4号溝(下層)遺物観察表

第203図	3	在地系土器 皿	底面より23cm 1/2	口 底	(9.7) (6.0)	高 -	1.7 ~ 1.9 -	-/-/灰白	口縁部緩い段差をなして低くなる箇所がある。底部左回転糸切無調整。
-------	---	------------	-----------------	--------	----------------	--------	----------------------	--------	----------------------------------

2区4面 10号溝(下層)遺物観察表

第203図 PL.195	5	石製品 砥石?	底面 略完形	長 幅	(17.4) 11.1	厚 重	8.3 710.2	-/-/二ツ岳軽石	不整な楕円形の軽石を素材とし、幅5~6mmの刃慣らし傷状の線状痕と平滑面が見られたため砥石とした。
第203図 PL.195	6	石製品 不明	底面 完形	長 幅	25.4 22.8	厚 重	20.6 7200.0	-/-/二ツ岳石	軽石転石の一部を平ノミ状工具により粗雑な平坦面を造り出す。

2区4面 15号溝遺物観察表

第203図	4	肥前陶器 呉器手碗	埋没土 底部	口 底	- 5.3	高 -	- -	-/-/灰白	高台内面「ハ」字状に広がる。高台端部を除き透明釉。細かい貫入する。
-------	---	--------------	-----------	--------	----------	--------	--------	--------	-----------------------------------

2区4面 水田遺物観察表

第204図 PL.195	1	土製品 土錘	確認面より5cm 完形	長 幅	4.2 1.0	厚 孔	0.9 0.3	細砂粒/酸化焰/浅 黄橙	両端はヘラで切り落とすことなく、細く絞られて収束している。器面は摩滅しているが、ヘラで削った可能性がある。	重量3.90g
-----------------	---	-----------	----------------	--------	------------	--------	------------	-----------------	---	---------

2区4面 遺構外遺物観察表

第206図	1	肥前磁器 染付小皿	確認面 口縁部1/4、底 部1/3	口 底	(9.4) (5.5)	高 -	2.0 -	-/-/白	内面コンニャク印判による草花文。裏文様は松葉文。高台端部を除き透明釉。貫入する。
第206図	2	瀬戸・美濃 陶器 丸皿	確認面 底部1/4	口 底	- (6.5)	高 -	- -	-/-/灰白	内面から高台内周縁灰釉。高台端部無釉。貫入する。
第206図	3	古瀬戸陶器 瓶類	確認面 体部片	口 底	- -	高 -	- -	-/-/灰白	外面5条の横線。外面灰釉。細かい貫入する。内面無釉。
第206図	4	古瀬戸陶器 瓶類	確認面 体部片	口 底	- -	高 -	- -	-/-/灰白	外面灰釉。細かい貫入する。内面無釉。
第206図	5	在地系土器 内耳鍋	確認面 口縁部片	口 底	- -	高 -	- -	-/-/灰	還元炎焼成。口縁部はやや短く、口縁部下内面に小さい段差。内面に細い内耳貼り付け。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
PL.195	6	石製品 火打石	確認面 破片	長幅	1.7 2.6	厚重	1.0 4.7	-/-/石英	稜線上に連続する微小な剥離痕と潰れが見られる。
第206図 PL.195	7	金属製品 鉄砲玉	確認面 ほぼ完形	長幅	1.3 1.3	厚重	1.2 12.54	-/-/-	ほぼ球形の鉄砲玉で表面は腐食のため微小な凹凸が見られる。灰黒色で重く鉛玉と見られる。
第206図 PL.195	8	銅製品 キセル	確認面 一部破損	長幅	8.3 1.7	厚重	2.8 8.16	-/-/-	キセル雁首破片。脆弱で中ほどで破損し直接接合はしないが同一個体の破片と考えられる。表面は劣化破損し装飾・加工は不明。

3区4面 水田遺物観察表

第208図 PL.195	1	銅製品 キセル	確認面 破片	長幅	2.6 0.5	厚重	0.6 0.71	-/-/-	キセル吸い口の端部破片。接合部が剥がれ広がり変形する。
第208図 PL.195	2	銅製品 小柄	確認面 1/2	長幅	9.1 0.8	厚重	0.6 17.50	-/-/-	小柄の柄部分。内部の鉄製茎の錆化により膨れ変形する。茎の形状は錆化が著しく不明。柄本体も錆化が著しく表面が凹凸に荒れている。

3区4面 遺構外遺物観察表

第211図	1	肥前磁器 染付小杯	確認面 口縁部一部、底部完	口底	(5.9) 3.2	高-	4.4 -	-/-/灰白	全体に器壁厚い。口縁部外反。外面2方に染付。
第211図	2	瀬戸・美濃 陶器 折縁皿	確認面 1/8	口底	(10.8) (6.0)	高-	2.3 -	-/-/灰白	口縁部外反し、端部内面側に肥厚。高台脇削り込む。内面から高台内灰釉。
第211図	3	瀬戸・美濃 陶器 反皿	確認面 1/4	口底	(13.6) (8.0)	高-	2.9 -	-/-/灰白	口縁部外反。高台脇削り込む。全面灰釉施釉。貫入入。底部内面と高台内1か所目痕。
第211図 PL.195	4	石製品 砥石	埋没土 破片	長幅	(6.3) (4.3)	厚重	(2.3) 83.8	-/-/砂岩	4面使用。左右側面の使用頻度が高く、砥面が凹状になっている。左側面の稜線では刃慣らし傷が横方向に数条連続的に見られる。
第211図 PL.195	5	金属製品 鉄砲玉	確認面 完形	長幅	1.2 1.2	厚重	1.2 10.73	-/-/-	ほぼ球形の鉄砲玉で表面は腐食のため微小な凹凸が見られる。全体に灰黒色で一部腐食により灰白色を呈し重く鉛玉と見られる。
第211図 PL.195	6	銅製品 キセル	確認面 破片	長幅	2.3 0.9	厚重	1.0 1.86	-/-/-	キセルと思われる銅製品破片。銅板を円筒形にして貼りあわせた状況が見られる。吸い口または雁首の形状を示す部分は残存しない。
第211図 PL.195	7	銅製品 切羽	確認面 完形	長幅	3.7 2.1	厚重	0.1 2.86	-/-/-	厚さ1mm程の銅製切羽で、外形は卵形で一側面に僅かな凹みを持つ。外縁に刻み等の特別な装飾加工は見られない。
第211図 PL.195	8	銅製品 不詳	確認面 一部破損	長幅	2.0 2.0	厚重	2.6 9.72	-/-/-	高さ2cm程の銅薄板を円筒状に丸め、上部に直径2cmの円板を接合し中央に穴を穿ち、直径1.5cmの円板をあてあわせてルーブ形金具で留め内部で端部を両側に広げて固定した銅製品。
第211図 PL.195	9	銭貨 寛永通寶	確認面 一部破損	長幅	- -	厚重	- -	-/-/-	寛永通寶(1期・古寛永)。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭。永の字の部分および外縁の一部が劣化破損する。

4区4面 遺構外遺物観察表

第212図 PL.195	1	銅製品 キセル	確認面 破片	長幅	3.7 0.9	厚重	0.9 2.84	-/-/-	キセル破片で、残存する端部から徐々に細くなるがその先は劣化破損し詳細は不明。
-----------------	---	------------	-----------	----	------------	----	-------------	-------	--

5区4面 8号溝遺物観察表

第213図	1	灰釉陶器 碗	埋没土 口縁部片	口底	15.8 -	高-	- -	黒色鉍物粒少/還元焰/灰白	ロクロ整形(回転方向不明)。内外面に施釉。
第213図	2	灰釉陶器 長頸壺	埋没土 頸部片	口底	- -	高-	- -	黒色鉍物粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。内外面に施釉。外面頸部寄りに釉がたまる。
第213図 PL.195	3	石製品 凹石	底面より32cm 完形	長幅	15.1 13.3	厚重	4.6 578.2	-/-/軽石	軽石を平坦な楕円形に整形している。正面は平坦で、中央部に浅い凹み、その周囲に鋭利な工具によると推定される溝状のキズが見られる。裏面は緩やかに湾曲し、幅広のノミ状工具痕が多数認められる。

5区4面 9号溝(上層)遺物観察表

第214図	1	龍泉窯系青 磁 皿	埋没土 底部1/2	口底	- (5.0)	高-	- -	-/-/灰白	内面釉下に施文。全面青磁釉施釉後、高台内の釉を輪状に削る。
第214図	2	瀬戸・美濃 陶器 碗	埋没土 口縁部~体部片	口底	(9.8) -	高-	- -	-/-/灰白	外面轆轤目顕著。内面から高台脇灰釉。
第214図 PL.195	3	石造物 板碑	底面より18cm 破片	長幅	(19.2) (12.8)	厚重	2.8 1274.4	-/-/緑色片岩	大型板碑主尊部破片。薬研彫りの阿弥陀三尊種子の脇侍サクの一部が残る。碑面の風化著しい。裏面は平ノミ状工具痕を残す。
第214図 PL.195	4	石造物 板碑	底面より7cm 破片	長幅	(21.8) (16.8)	厚重	3.0 1751.3	-/-/緑色片岩	主尊部片。厚さより大型板碑。左端に薬研彫りの種子の一部が残る。碑面はやや摩滅・剥落。裏面には横方向の平ノミ状工具痕が残る。
PL.195	5	石製品 火打石	埋没土 破片	長幅	1.9 3.3	厚重	0.8 9.0	-/-/石英	稜線の一部に潰れが見られる。
第214図 PL.195	6	石製品 不明	埋没土 完形	長幅	2.3 2.1	厚重	0.9 2.8	-/-/軽石	軽石を小型で扁平な楕円形に整形している。裏面には縦方向の線状痕が残る。おはじきまたは碁石か。

5区4面 10号溝遺物観察表

第215図 PL.195	1	石製品 砥石	埋没土 破片	長幅	(8.8) 2.8	厚重	2.8 98.0	-/-/砥沢石	表裏面2面使用。左右側面および下端小口面には櫛歯タガネ痕が明瞭に残る。破損面と正面のなす稜線に線状痕が認められることから、欠損後も使用したと推定できる。
-----------------	---	-----------	-----------	----	--------------	----	-------------	---------	--

遺物観察表

5区4面 12号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第216図	1	在地系土器 鍋	底面 口縁部~底部片	口 底	-	高 -	-	-/-/灰白・灰	断面中央暗灰色、器表付近灰白色、内面器表灰白色、外面器表灰色。外面体部下位煤付着。口縁端部水平に開く。	

1区5面 15号溝遺物観察表

第229図 PL.195	1	肥前陶器 陶胎染付碗	埋没土 体部下半以下 1/2	口 底	-	高 4.7	-	-/-/灰	釉の一部白濁し、やや焼成不良。体部外面簡略化した唐草文。	
-----------------	---	---------------	----------------------	--------	---	----------	---	-------	------------------------------	--

1区5面 23号溝遺物観察表

第229図	2	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	埋没土 口縁部片	口 底	-	高 -	-	-/-/淡黄	口縁部外湾。口縁部内面窪むが、両端と端部器表使用による摩滅。内外面錆蝕。	
-------	---	--------------------	-------------	--------	---	--------	---	--------	--------------------------------------	--

1区5面 38号溝遺物観察表

第229図	3	龍泉窯系青 磁碗	埋没土 体部片	口 底	-	高 -	-	-/-/灰白	鑄蓮弁文碗。内外面青磁釉。貫入入る。	
第229図	4	瀬戸・美濃 陶器 碗	埋没土 口縁部1/8	口 底	(11.0)	高 -	-	-/-/灰白	内面から高台脇鉄釉。	
第229図 PL.195	5	瓦 丸瓦	埋没土 破片	口 底	-	高 -	-	白色鈹物粒多/還元 焰/灰	凹面に布目痕。凸面はヘラナダ。	
第229図 PL.195	6	石製品 不明	埋没土 破片	長 幅	(3.8) (2.0)	厚 重	(0.4) 4.8	-/-/滑石	板状の滑石に2か所穿孔されている。上孔は直径2mmで、右半分を欠損する。下孔は側面から見たときごく一部を残すのみで不明瞭である。表裏面には横方向に1~2条の線刻がある。線刻は断面V字状で鋭利な工具によるものである。	
第229図 PL.195	7	石製品 凹石	底面 略完形	長 幅	14.1 10.5	厚 重	5.0 385.9	-/-/二ツ岳軽石	軽石転石の上面中央に漏斗(すり鉢)状の研磨による孔を有する。	
第229図 PL.195	8	石製品 凹石	底面より14cm 完形	長 幅	27.6 20.1	厚 重	12.8 4868.4	-/-/二ツ岳石	軽石転石の上面中央に漏斗(すり鉢)状の研磨による孔と、その周辺には平滑な研磨面を多数有する。	

1区5面 水田遺物観察表

第231図 PL.195	1	金属製品 鉄砲玉	確認面 ほぼ完形	長 幅	1.3 1.2	厚 重	1.1 10.89	-/-/-	球形で1面のみ平たくなる。灰黒色で重量が有り鉛玉と見られる。	
第231図 PL.195	2	鉄製品 鑿	埋没土 一部欠損	長 幅	11.0 1.8	厚 重	0.9 25.17	-/-/-	断面やや丸みを持つ長方形で先端は鑿状に薄く尖る。反対側では僅かに幅を広げ両開状にくびれたのち1cm程で破損する。木質等の付着は見られないが、鑿の破損品と考えられる。	
第231図 PL.195	3	石製品 砥石	確認面 破片	長 幅	(15.7) (4.8)	厚 重	(2.5) 180.2	-/-/黒色頁岩	下半部破損。破損面を除き全体的に平滑であるが、正面と裏面がより平滑で、線状痕が多数見られることから砥石と判断した。	

1区5面 14号土坑遺物観察表

第239図	1	肥前系磁器 染付小碗	埋没土 口縁部一部、底 部1/2	口 底	(8.0) (3.0)	高 -	4.2 -	-/-/白	釉白濁し焼成不良。素地も磁化不十分。外面コンニャク印判。	
第239図	2	肥前磁器 染付瓶	埋没土 底部1/2	口 底	-	高 5.2	-	-/-/灰白	高台外面2重圈線。体部下位外面1重圈線。内面無釉。	
第239図	3	肥前陶器 陶胎染付碗	埋没土 1/4	口 底	(11.0) (4.0)	高 -	6.8 -	-/-/灰	外面簡略化した山水文。	
第239図 PL.195	4	石製品 砥石	埋没土 破片	長 幅	(7.8) 2.6	厚 重	1.9 68.9	-/-/砥沢石	4面使用。裏面は使用頻度が低く、加工時の痕跡を残す。	

1区5面 31号土坑遺物観察表

第239図 PL.195	5	石製品 不明	埋没土 破片	長 幅	(2.8) 0.5	厚 重	(0.3) 1.0	-/-/珪質粘板岩	断面長方形で棒状を呈する。正面と左右側面は研磨により平滑な面を形成し、裏面は平坦だが他の面ほど平滑ではない。	6と同一個体。
第239図 PL.195	6	石製品 不明	埋没土 破片	長 幅	(2.6) (0.7)	厚 重	(0.3) 1.0	-/-/珪質粘板岩	断面長方形で、下端に向かってやや広がる形状である。正面と左右側面は研磨により平滑な面を形成し、裏面は平坦だが他の面ほど平滑ではない。	5と同一個体。

1区5面 38号土坑遺物観察表

第239図 PL.196	7	石造物 板碑	床土26cm 破片	長 幅	(27.9) (21.6)	厚 重	(2.5) 2332.0	-/-/緑色片岩	上半部。頂部山形および側端部の成・整形はやや歪。二条線なし。主尊キリーク(阿弥陀如来)種子と蓮座は浅く小さく、刻み方も粗雑。裏面に工具痕残らず。	
第239図 PL.196	8	石造物 板碑	床直上 破片	長 幅	(15.9) (30.6)	厚 重	3.0 2727.7	-/-/緑色片岩	中部破片。厚さより大型板碑。葉研彫り蓮座花卉の一部が残る。碑面やや摩滅。裏面に横方向の平ノミ状工具痕残る。原石の節理が斜方向。	
第239図 PL.196	9	鉄製品 刀子	埋没土 一部欠損	長 幅	4.4 1.1	厚 重	0.6 3.27	-/-/-	土砂を巻き込んで錆化し本体は空洞。刃先は斜めに破損、棟・刃側ともになだらかな関を持ち茎は2cm程で劣化破損する。	

1区5面 遺構外遺物観察表

第243図 PL.196	1	中国白磁 碗	確認面 体部片	口 底	-	高 -	-	-/-/灰白	体部下位内面に1条の横線。内外面白磁釉。	
第243図	2	中国磁器 染付皿	確認面 底部1/4	口 底	-	高 (6.3)	-	-/-/白	底部内面2重圈線内に染付。高台内2重圈線内に銘。高台外面1重圈線。高台内面と底部外面境、部分的に釉が切れる。	

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第243図 PL.196	3	石造物 板碑	確認面 破片	長 幅	(46.8) 25.2	厚 重	1.6 3757.2	-/-/緑色片岩	中部破片。上下欠。やや浅い葉研彫りのキリーク種子と蓮座および脇侍種子が残る阿弥陀如来三尊。碑面やや摩滅し紀年銘判読不可。裏面に工具痕なし。
PL.196	4	石製品 火打石	確認面 完形	長 幅	2.5 2.8	厚 重	1.9 16.5	-/-/石英	稜線が潰れ、摩滅している。
2区5面 17号溝遺物観察表									
第245図 PL.196	1	石造物 板碑	埋没土 破片	長 幅	(24.8) (9.7)	厚 重	2.0 854.6	-/-/緑色片岩	左上部破片。線刻二条線残る。浅い葉研彫りのキリーク(阿弥陀如来)種子と蓮座の一部が残る。碑面やや摩滅。裏面は工具痕残らず。
2区5面 遺構外遺物観察表									
第251図 PL.196	1	瀬戸・美濃 陶器 鉄絵皿	確認面 口縁部1/8、底 部1/4	口 底	(12.8) (7.6)	高 -	2.9 -	-/-/灰白	口縁部外反し、端部僅かに内湾。底部内面鉄絵。内面から口縁部外面灰釉。口縁部内面銅緑釉。底部内面重焼痕残る。
第251図 PL.196	2	石製品 石臼(上)	確認面 1/2	径 幅	(29.0) -	高 重	(15.3) 7500.0	-/-/粗粒輝石安山 岩	1/2残。縁は剥落が著しく、上面供給孔の一部残。側面に挽き手孔と軸受孔の一部残。底面は摩滅し挽目は残らず。
5区5面 16号溝遺物観察表									
第259図 PL.196	1	石造物 板碑	埋没土 破片	長 幅	(13.2) (12.2)	厚 重	2.8 689.9	-/-/緑色片岩	大型板碑主尊部破片。葉研彫りのキリーク(阿弥陀如来)種子と蓮座の一部が残る。碑面の風化著しい。
1区6面 47・48号溝遺物観察表									
第265図 PL.196	1	龍泉窯系青 磁碗	埋没土 底部1/4	口 底	- (6.4)	高 -	- -	-/-/灰	内面から高台内周縁青磁釉。
第265図 PL.196	2	石製品 砥石	埋没土 破片	長 幅	(6.9) 5.7	厚 重	1.9 134.0	-/-/砥沢石	4面使用。砥面の平滑さから、幅狭の左側面が最もよく使用され、裏面と右側面の使用度は低い。上端の小口部と正面との境は面取りされている。下半部欠損。
1区6面 82号土坑遺物観察表									
第273図 PL.196	1	銭貨 永楽通寶	底面 一部破損	長 幅	2.541 2.514	厚 重	0.151 2.26	-/-/-	劣化の著しい永楽通寶で、現状では外縁・文字・郭は不明瞭だが、彫は深く錆に覆われていることによるものと考えられる。
第273図 PL.196	2	銭貨 元豊通寶	底面 一部破損	長 幅	2.290 2.334	厚 重	0.184 2.28	-/-/-	劣化が著しく一部破損する元豊通寶。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭。
第273図 PL.196	3	銭貨 不詳	底面 破片	長 幅	2.346 -	厚 重	0.137 0.99	-/-/-	劣化の著しい銭貨で右横に平の字が見られるが他は劣化により詳細不明。
1区6面 83号土坑遺物観察表									
第273図 PL.196	4	銭貨 皇宋通寶?	底面 ほぼ完形だが錆 化	長 幅	2.358 2.351	厚 重	0.126 2.20	-/-/-	銭貨が6枚錆着し出土したうちの1枚目で、外縁・郭は明瞭だが文字はつぶれ不明瞭だがその外形から皇宋通寶と見られる。裏面は平坦で外縁・郭不明瞭。
第273図 PL.196	5	銭貨 銅銭	底面 ほぼ完形だが錆 化	長 幅	2.225 2.209	厚 重	0.108 1.69	-/-/-	銭貨が6枚錆着し出土したうちの2枚目で、外縁・文字・郭とも不明瞭。裏面は平坦で一部に鋳溜り状の凹凸が有るが1枚目の錆び付とも考えられる。
第273図 PL.196	6	銭貨 大観通寶	底面 ほぼ完形だが錆 化	長 幅	2.501 2.540	厚 重	0.188 4.73	-/-/-	銭貨が6枚錆着し出土したうちの3枚目で大観通寶。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭。裏面の外縁・郭は彫浅いが明瞭。
第273図 PL.196	7	銭貨 銅銭	底面 ほぼ完形だが錆 化	長 幅	2.419 2.428	厚 重	0.163 2.93	-/-/-	銭貨が6枚錆着し出土したうちの4枚目で錆化が著しく下端に元の字が確認できる程度。外縁・文字・郭とも不明瞭で錆化により詳細は不明。右上の外縁の凹みは劣化によるものと見られる。
第273図 PL.196	8	銭貨 銅銭	底面 ほぼ完形だが錆 化	長 幅	2.351 2.374	厚 重	0.115 2.90	-/-/-	銭貨が6枚錆着し出土したうちの5枚目で、外縁・郭とも不明瞭。文字部分は盛り上がるが平坦で判読困難。裏面も平坦で外縁と郭が区別できる程度。
第273図 PL.196	9	銭貨 銅銭	底面 ほぼ完形だが錆 化	長 幅	2.277 -	厚 重	0.143 0.98	-/-/-	銭貨が6枚錆着し出土したうちの6枚目で、表面は平坦な上に錆化が進み文字等判読不明。
1区6面 遺構外遺物観察表									
第277図 PL.196	1	龍泉窯系青 磁碗	確認面 体部下位片	口 底	- -	高 -	- -	-/-/灰白	内外面青磁釉。外面片彫りによる施文。高台付近のため文様不明瞭。貫入入る。
第277図 PL.196	2	石造物 五輪塔	確認面 略完形	高 幅	15.7 15.1	厚 重	- 1782.0	-/-/二ツ岳軽石	空風輪。略完形。成形は均質、表面は丁寧な研磨整形を施す。底面は突起を有せず平坦に成整形。
3区6面 30号溝遺物観察表									
第283図 PL.196	1	常滑陶器 甕か	埋没土 肩部～頸部片	口 底	- -	高 -	- -	-/-/にぶい赤褐、 灰褐	断面灰色～暗灰色、内面器表灰褐色、外面器表にぶい赤褐色。頸部内外面回転横撫で。肩部内外面撫で。
3区6面 遺構外遺物観察表									
第285図 PL.196	1	石製品 砥石	確認面 破片	長 幅	(9.9) 3.0	厚 重	3.0 112.2	-/-/砥沢石	4面使用。正面は研ぎ減りが著しく、側面から見ると中央部が高く両端が低い山形になっている。さらに左上が低く、片減りしている。
4区6面 18号溝遺物観察表									
PL.196	1	石製品 火打石	埋没土 完形	長 幅	(3.7) (2.6)	厚 重	1.5 13.8	-/-/石英	稜線が潰れ、摩滅している。
4区6面 20号溝遺物観察表									
第289図 PL.196	1	龍泉窯系青 磁碗	埋没土 体部下位片	口 底	- -	高 -	- -	-/-/灰	外面鎊蓮弁文。内外面青磁釉。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第289図	2	尾張陶器 片口鉢	埋没土 体部片	口 底	- -	高 -	- -	-/-/灰白	内面使用により器表摩滅。外面回転横撫で。	
4区6面 28号溝遺物観察表										
第291図	1	龍泉窯系青 磁碗	埋没土 体部片	口 底	- -	高 -	- -	-/-/灰白	外面鎬蓮弁文。内外面青磁釉。粗い貫入入る。	
4区6面 40号溝遺物観察表										
第297図 PL.196	1	石製品 凹石	埋没土 完形	長 幅	21.7 21.0	厚 重	16.9 5424.7	-/-/二ツ岳石	軽石転石の一面中央部に漏斗(すり鉢)状の研磨による窪みを有する。	
4区6面 57号溝遺物観察表										
第294図 PL.196	1	石造物 板碑	底面 破片	長 幅	(21.4) (14.8)	厚 重	2.1 853.8	-/-/緑色片岩	基部破片か。裏面に横方向の平ノミ状工具痕を残す。左端側部に二次的な研磨の痕跡が残り、転用されたものと推察される。	
4区6面 遺構外遺物観察表										
第300図	1	龍泉窯系青 磁碗	確認面 体部片	口 底	- -	高 -	- -	-/-/灰白	外面鎬蓮弁文。内外面青磁釉。外面一部に焼成時の溶着痕。粗い貫入入る。	
第300図	2	古瀬戸陶器 盤類	確認面 体部から底部 1/2	口 底	- 1/8	高 -	- -	-/-/灰白	外面回転ヘラ削り。内面灰釉刷毛塗り。	
第300図 PL.197	3	銭貨 元豊通寶	底面 完形	長 幅	2.369 2.405	厚 重	0.146 2.15	-/-/-	元豊通寶。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭だが、表面は錆化によりやや荒れている。裏面はやや平坦だが表の文字を映す凹凸が見られる。	
1区7面 2号掘立柱建物遺物観察表										
第306図 PL.197	1	鉄製品 鎌	埋没土 一部欠損	長 幅	6.9 5.4	厚 重	1.4 22.43	-/-/-	雁又の鉄鎌で、土砂を巻き込んで錆化し本体は空洞となる。茎との境を一周する形で段を持ち茎は2cm程で劣化破損する。	
1区7面 66号土坑遺物観察表										
第322図	1	龍泉窯系青 磁碗	埋没土 口縁部片	口 底	- -	高 -	- -	-/-/灰	外面丸彫による蓮弁文。	
第322図	2	龍泉窯系青 磁碗	埋没土 体部下位片	口 底	- -	高 -	- -	-/-/灰白	粗い貫入入る。内面片彫りによる文様。残存部外面無文。	
1区7面 255号ピット遺物観察表										
第325図 PL.197	1	石製品 凹石	埋没土 完形	長 幅	18.9 19.2	厚 重	15.9 2752.8	-/-/二ツ岳軽石	不整な球形の軽石の正面中央部に漏斗状の凹み(直径約4.5cm)を有する。凹み内部は表面が摩耗し平滑である。裏面にも浅い皿状の凹みが見られる。周囲には刃慣らし傷状の線状痕が複数見られる。	
1区7面 286号ピット遺物観察表										
第325図 PL.197	2	石製品 凹石	埋没土 完形	長 幅	24.0 20.4	厚 重	13.5 3619.1	-/-/軽石	軽石転石の上面中央に皿状・すり鉢状の孔を有する。	
1区7面 遺構外遺物観察表										
第326図 PL.197	1	須恵器 蓋	確認面 端部一部欠	口 底	7.0 -	高 -	2.7 -	粗砂粒・茶褐色粘 土粒/酸化焰/浅黄	小径。瓶の蓋か。ロクロ整形。右回転。天井部外面は中心寄りに回転ヘラ削り。	器面は摩滅。
第326図	2	灰釉陶器 瓶	確認面 胴部片	口 底	- -	高 -	- -	細砂粒少/還元焰/ 灰白	ロクロ整形。外面は回転ヘラ削り。外面に釉。	
第326図 PL.197	3	土製品 土錘	確認面 2/3	長 幅	4.0 1.5	厚 孔	1.4 0.5	細砂粒/酸化焰/橙	器面はナデ調整。両小口は欠損。	重量7.82g
第326図 PL.197	4	鉄製品 板状鉄製品	埋没土 破片	長 幅	4.6 3.0	厚 重	0.7 3.72	-/-/-	厚さ0.5mm程の不定形な薄い鉄板で、折りたたまれるような形状で折れ曲がる。	
第326図 PL.197	5	銭貨 開元通寶	埋没土 完形	長 幅	2.454 2.465	厚 重	0.145 2.28	-/-/-	開元通寶。彫深く外縁・文字・郭ともきわめて明瞭。裏面も同様だが寶の字の裏に鋳溜りとみられる凹凸部分がある。	
2区7面 30号溝遺物観察表										
第329図 PL.197	1	土製品 土錘	底面直上 完形	長 幅	4.4 1.5	厚 孔	1.4 縦0.3 横0.4	細砂粒/酸化焰/に ぶい褐	小口の一方は徐々に絞られているのに対し、もう一方はヘラで切り落とされている。器面は丁寧なナデ。	重量9.16g
2区7面 33号溝遺物観察表										
第329図 PL.197	2	土師器 鉢	底面直上 1/3	口 底	7.4 -	高 -	7.4 -	粗砂粒/良好/黄褐	口縁部は体部との間に弱い稜をなし、内傾して立ち上がる。横ナデ。体部は下半部が手持ちヘラ削り。上半部はナデか。底部は凸面状。手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
2区7面 遺構外遺物観察表										
第334図	1	龍泉窯系青 磁碗	確認面 口縁部一部	口 底	- -	高 -	- -	-/-/灰白	外面鎬蓮弁文。内外面青磁釉。	
3区7面 遺構外遺物観察表										
第343図	1	在地系土器 片口鉢	確認面 体部下位~底部 片	口 底	- -	高 -	- -	-/-/灰白	断面橙色、器表灰白色から暗灰色。底部外面回転糸切無調整。内面使用により器表摩滅。	

4区7面 遺構外遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第354図 PL.197	1	銭貨 元祐通寶	確認面 ほぼ完形だが錆化	長幅 2.380 2.399	厚重 0.180 2.62		-/-/-	元祐通寶。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭だが、錆化により文字および外縁の一部が劣化破損する。裏面はやや平坦だが外縁・郭は明瞭。	
PL.197	2	銭貨 祥符元寶	確認面 ほぼ完形だが錆化	長幅 2.167 2.070	厚重 0.143 1.10		-/-/-	祥符元寶。劣化破損により外縁は崩れる、文字の劣化するが判読可能な状況。裏面は平坦。	

5区7面 9号溝遺物観察表

第355図 PL.197	1	石造物 板碑	底面より7cm 破片	長幅 (18.4) (12.9)	厚重 (2.4) 790.4		-/-/緑色片岩	主尊部破片。浅い葉研彫りのキリーク(阿弥陀如来)種子の一部が残る。碑面はやや風化する。	
第355図 PL.197	2	石造物 板碑	底面より25cm 破片	長幅 (36.3) (19.8)	厚重 2.9 3325.6		-/-/緑色片岩	中型板碑基部破片。裏面縁部には平ノミ状工具による成形痕が残る。	

5区7面 19号溝遺物観察表

第355図	3	常滑陶器 甕か	埋没土 頸部~肩部片	口底	-	高	-	-/-/灰	肩部外面自然釉かかる。	
-------	---	------------	---------------	----	---	---	---	-------	-------------	--

5区7面 22号溝遺物観察表

第358図 PL.197	1	銭貨 治平元寶	壁面 ほぼ完形	長幅 2.471 2.462	厚重 0.133 2.19		-/-/-	外縁・文字・郭とも彫深く明瞭。裏面は外縁・郭明瞭だが彫浅い。劣化後破損により二つに割れる。	
-----------------	---	------------	------------	----------------------	---------------------	--	-------	---	--

5区7面 23号溝遺物観察表

第355図	4	土師器 杯	底面直上・底面 17cm 1/2	口底	13.0	高	3.3	粗砂・細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部外面は中心寄りに手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
-------	---	----------	------------------------	----	------	---	-----	----------------	--	--

5区7面 24号溝遺物観察表

第356図	1	土師器 杯	底面直上 2/3	口底	14.3 7.2	高	4.5	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は先端部のみ横ナデ。以下は横位に手持ちヘラ削り。底部外面も手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
-------	---	----------	-------------	----	-------------	---	-----	------------	--	--

5区7面 27号溝遺物観察表

第357図	1	須恵器 杯	底面10cm 1/3	口底	12.4 6.8	高	3.4	粗砂粒少/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
-------	---	----------	---------------	----	-------------	---	-----	------------	--------------------------	--

5区7面 28号溝遺物観察表

第357図	2	瓦 丸瓦	埋没土 破片	口底	-	高	-	粗砂粒多/還元焰/灰	凸面は全面ヘラナデ。凹面は布目痕の上に一部ヘラナデ。側端面取り2回。	
-------	---	---------	-----------	----	---	---	---	------------	------------------------------------	--

5区7面 8号土坑遺物観察表

第361図	1	瓦 平瓦	床上7cm 破片	口底	-	高	-	粗砂粒/還元焰/黄灰	凸面は全面ナデ。凹面は布目痕を残す。狭端面取り2回。狭端面はヘラ削り。	
-------	---	---------	-------------	----	---	---	---	------------	-------------------------------------	--

5区7面 10号土坑遺物観察表

第361図	2	土師器 台付甕	埋没土 口縁部~胴部片	口底	17.8	高	-	粗砂粒/良好/灰黄褐	S字状の口縁。上半はやや長い。口縁部は横ナデ。胴部外面には1cmあたり5本のハケ目。頸部内面はヘラナデ。	
-------	---	------------	----------------	----	------	---	---	------------	--	--

5区7面 11号土坑遺物観察表

第361図 PL.197	3	土師器 杯	床上6cm 3/4	口底	8.5	高	1.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデと考えられる。	器面に鉄分凝集。
第361図 PL.197	4	瓦 丸瓦	床上直上 破片	口底	-	高	-	粗砂粒・軽石・白色鈹物粒多/還元焰/灰	凸面は全面にナデ。凹面は布目痕を残す。側端面取り3回。側面狭端面はヘラ削り。	炭素吸着。
第361図	5	瓦 平瓦	埋没土 破片	口底	-	高	-	粗砂粒多/還元焰/暗緑灰	凸面は全面ナデ。凹面は全面に縦位のナデ。側端面取り2回。側面はヘラ削り。	

5区7面 遺構外遺物観察表

第362図	1	須恵器 瓶	確認面 肩部片	口底	-	高	-	鈹物粒少/還元焰/オリープ灰	ロクロ整形(回転方向不明)。外面に施釉。	
第362図 PL.197	2	陶製品 凹面硯	確認面 破片	口底	-	高	-	白色・黒色鈹物粒少/還元焰/灰	凹面硯の硯面の一部である。堤は低くその周囲に海が巡っている。脚部は欠損しているが、窓の一部が認められる。	
第362図	3	瓦 平瓦	確認面 破片	口底	-	高	-	粗砂粒/還元焰/灰白	凸面全面にナデ。沈線文の工具痕が残る。凹面は布目痕を残す。側端面取りを1回。側面はヘラ削り。	
第362図	4	瓦 平瓦	確認面 破片	口底	-	高	-	小礫・粗砂粒/還元焰/灰	凸面全面にナデ。凹面は布目痕を残す。側端面取りを2回。側面の狭端面はヘラ削り。	
第362図	5	常滑陶器 片口鉢	確認面 体部下位~底部片	口底	-	高	-	-/-/灰	内面使用による摩滅。	

1区8面 1号住居遺物観察表

第366図 PL.197	1	土師器 杯	中央床直上 1/2	口底	11.8	高	5.3	粗砂・細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部外面に黒斑。
第366図	2	土師器 杯	埋没土 口縁部~底部 1/2	口底	15.0	高	-	粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデと考えられる。	被熱のため、器面は摩滅。
第366図	3	土師器 甕	埋没土 口縁部~胴部上 位1/2	口底	15.2	高	-	粗砂粒・軽石/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。炭素吸着。
第366図 PL.197	4	土師器 不明	埋没土 不明	口底	-	高	-	粗砂粒/良好/浅黄	現状は逆三角錐状を呈す。高杯の杯部底面と、脚部にほぼ上に接続した部分の可能性が考えられるが、詳細不明。先端欠損。	残存面に、格子状の線刻が施される。

1区8面 2号住居遺物観察表

第369図 PL.197	1	土師器 杯	北東部床上10cm 完形	口底	11.0	高	3.7	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	
-----------------	---	----------	-----------------	----	------	---	-----	----------	--	--

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第369図 PL.197	2	土師器 杯	北部床上51cm 口縁部一部欠	口底 -	11.0 -	高 -	3.0 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第369図 PL.197	3	土師器 杯	南部床上51cm 口縁部一部欠	口底 -	12.3 -	高 -	4.0 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面は摩滅。
第369図	4	土師器 杯	東部床上22cm 2/3	口底 -	12.8 -	高 -	3.95 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面下位に手持ちヘラ削り。これより上位は成形時のナデ。一部に型肌を残す。内面はナデ。	
第369図	5	土師器 杯	西部床上16cm 3/4	口底 -	15.0 -	高 -	4.9 -	粗砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部外面に黒斑。器面は摩滅。
第369図	6	土師器 杯	北部床上53～ 55cm 口縁部～底部1/2	口底 -	18.3 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。口縁部との間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第369図	7	土師器 碗か	北部床上29cm 口縁部下位～高 台部	口底 -	- -	高 台	- 8.8	粗砂粒/良好/橙	足高台の付いた碗か。口縁部外面は横位のヘラ削り。高台部外面は横ナデ後、基部寄り縦位のヘラ削り。内面上半部に指ナデ痕、下半部に横ナデ。	
第369図 PL.197	8	須恵器 蓋	北東床上18cm 口縁部一部欠	口底 4.4	17.7 -	高 -	3.2 -	黒色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部切り離し後、輪状の摘み部を貼付。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削り。	
第369図 PL.197	9	須恵器 杯	北東床上20～ 24cm 3/4	口底 11.1	17.2 -	高 -	4.1 -	黒色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ削り後の付け高台。	
第369図 PL.197	10	須恵器 杯	東部床直上 3/4	口底 11.7	18.0 -	高 -	4.0 -	黒色鈹物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ削り後の付け高台。	内面はやや摩耗。
第369図	11	土師器 甕	北部床上38～ 42cm 口縁部～胴部 1/3	口底 -	21.5 -	高 -	- -	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。炭素吸着。
第369図 PL.198	12	土製品 土錘	埋没土 完形	長 幅	5.2 1.4	厚 孔	1.3 0.4	粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	小口の直径と最大径に大きな差がない。小口面はヘラで調整している。	器面は摩滅。 重量9g
第369図 PL.198	13	石製品 白玉	埋没土 完形	長 幅	2.3 1.7	厚 重	0.9 4.1	-/-/滑石	未成品。素材の滑石片中央部に直径3mmの穿孔が見られる。孔径から、正面から裏面に向かって一方向に穿孔したと推定される。正面上端部および裏面下端部は平坦で、粗く整形した時の加工痕と考えられる。	
第369図 PL.198	14	石製品 砥石	床上13cm 完形	長 幅	17.8 8.7	厚 重	7.4 1433.3	-/-/砥沢石	大型。4面使用。正面の研ぎ減りが著しく、砥面は凹状である。上下の小口面には加工時の敲打痕が残存。側面には刃慣らし傷が多数認められる。	

1区8面 3号住居遺物観察表

第370図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口底 -	12.6 -	高 -	- -	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。	外面の一部に炭素吸着。
-------	---	----------	----------------	---------	-----------	--------	--------	----------	---	-------------

1区8面 4号住居遺物観察表

第371図 PL.198	1	須恵器 蓋	中央部床直上 口縁部一部欠	口底 -	11.1 -	高 摘	3.2 2.2	白色鈹物粒多/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部切り離し後、宝珠状の摘みを貼付。天井部外面の中心寄りには回転ヘラ削り。	
第371図 PL.198	2	石製品 紡輪	東部床直上 完形	長 軸 短 軸	4.6 4.3	厚 重	1.8 39.9	-/-/蛇紋岩	孔径7mm。広面は多方向のキズが多数見られ、周縁は使用時の破損と考えられる剥離痕が見られる。側面には断面V字形の鋭利な工具による線状痕が放射状に認められる。	
第371図 PL.198	3	石製品 不明	埋没土 破片	長 幅	(2.7) (2.3)	厚 重	(0.4) 3.2	-/-/珪質粘板岩	左側欠損。板状の素材に直径3mmの穿孔を施す。表裏面では大小の線状痕が多数見られる。	

1区8面 5号住居遺物観察表

第374図	1	土師器 杯	右袖側床直上 1/2	口底 -	13.1 -	高 -	3.9 -	細砂粒/良好/灰褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。
第374図	2	土師器 杯	中央床直上 1/2	口底 -	13.3 -	高 -	3.9 -	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第374図	3	土師器 甕	東壁床直上 口縁部～胴部中 位片	口底 -	17.9 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面は摩滅。 胴部外面に黒斑。

1区8面 6号住居遺物観察表

第378図	1	土師器 杯	カマド床直上 口縁部～底部片	口底 -	14.2 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/淡黄	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第378図	2	土師器 杯	埋没土 1/4	口底 -	16.6 -	高 -	2.8 -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面はやや摩滅。
第378図 PL.198	3	土師器 杯	カマド床直上・ 掘り方 2/3	口底 -	11.8 -	高 -	4.9 -	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。外面以下は摩滅。内面はナデ。	
第378図 PL.198	4	土師器 甕	東壁直下床直上 完形	口底 6.8	16.8 -	高 -	11.5 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	器形は大きく歪んでいる。口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位にナデに近いヘラ削り。内面は斜位のヘラナデ。底部中央に直径1.9cmの焼成前穿孔。切開部にヘラ削り。	
第378図 PL.198	5	土師器 甕	中央部西より床 直上～埋没土 3/4	口底 -	22.4 -	高 -	26.9 -	粗砂粒・灰白色軽 石・黒色鈹物粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は頸部直下と孔直上にヘラナデ。この間には縦位のヘラ磨き。孔の切開面はヘラ削り。	器面はやや摩滅。
第378図 PL.198	6	土師器 甕	北東隅床直上～ 埋没土 口縁部・底部一 部欠	口底 11.1	23.4 -	高 -	33.0 -	粗砂粒・軽石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位に2方向のナデ状のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部は摩滅が著しい。	被熱。器面は摩滅。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第378図	7	土師器 甕	北部床上8cm 口縁部～胴部下 位1/3	口 底	18.2 -	高 -	-	粗砂粒多・軽石/ 良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。最下位は斜 位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第378図	8	土師器 甕	中央部西より床 直上～埋没土 口縁部～胴部上 位1/2	口 底	21.2 -	高 -	-	粗砂粒・軽石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	外面の一部に 炭素吸着。
第379図 PL.198	9	礫石器 敲石	床上22cm 完形	長 幅	(11.3) 4.0	厚 重	2.2 158.5	-/-/黒色頁岩	扁平な棒状礫素材。両端に剥離痕が認められる。左側面 では、平滑面と長軸に平行する線状痕が多数認められる。	

1区8面 7号住居遺物観察表

第381図	1	土師器 杯	掘り方 1/4	口 底	13.8 -	高 -	-	細砂粒・雲母/良 好/にぶい橙	口縁部は底部との間に稜を有する。中位には段をなす。横 ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第381図	2	土師器 甕	カマド床直上、 掘り方 口縁部～胴部 中位	口 底	21.2 -	高 -	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は横 位のヘラナデ。	器面は摩滅。

1区8面 8号住居遺物観察表

第382図	1	土師器 杯	北部隅床上8cm 1/4	口 底	13.2 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は底部との間に稜を有する。中位には段をなす。横 ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
-------	---	----------	-----------------	--------	-----------	--------	---	-----------------	--	--------

1区8面 9号住居遺物観察表

第383図	1	土師器 杯	北部床直上 3/4	口 底	10.4 -	高 -	3.7 -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。	器面は摩滅。
第383図 PL.198	2	土師器 杯	カマド床上8cm 口縁部一部欠	口 底	12.0 -	高 -	3.9 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第383図	3	土師器 杯	中央床直上 3/4	口 底	11.1 -	高 -	3.6 -	細砂粒・赤茶色粘 土粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第383図	4	土師器 甕	西壁床上4cm ～埋没土 口縁部～胴部片	口 底	22.8 -	高 -	-	粗砂粒・雲母/良 好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面に横位 のヘラナデ。	外面に炭素吸 着。
第383図 PL.198	5	土製品 土錘	埋没土 3/4	長 幅	4.1 1.8	厚 孔	1.8 0.5	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	両小口とも欠損している。器面はナデ調整。	器面は摩滅。 重量10g
第383図 PL.198	6	石製品 砥石	埋没土 破片	長 幅	(5.9) (4.7)	厚 重	(2.8) 109.8	-/-/変輝緑岩	表面平滑な棒状礫に刃慣らし傷様の線状痕が複数見られた ため砥石とした。上端部の剥離痕などから敲石の可能性も ある。	

1区8面 10号住居遺物観察表

第387図 PL.198	1	土師器 杯	南部床直上 完形	口 底	11.2 -	高 -	4.8 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削りであるが、器面は摩滅のため、詳細不明。内 面はナデ。	
第387図 PL.198	2	土師器 杯	北西床直上 完形	口 底	12.0 -	高 -	4.3 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる が、器面が摩滅のため詳細不明。	
第387図 PL.198	3	土師器 杯	東部床直上 完形	口 底	11.8 -	高 -	3.9 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる が、器面が摩滅のため詳細不明。	
第387図 PL.198	4	土師器 杯	中央部床直上 完形	口 底	11.8 -	高 -	3.85 -	細砂粒/良好/橙	器面は大きく歪んでいる。口縁部は横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削りと考えられるが、器面が摩滅のため詳細不明。	
第387図 PL.199	5	土師器 杯	東部床直上 完形	口 底	12.8 -	高 -	3.85 -	粗砂・細砂粒/良 好/明赤褐	器形は大きく歪む。口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘ ラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第387図 PL.199	6	土師器 甕	南部床直上～埋 没土 1/2	口 底	24.0 7.4	高 -	23.7 -	粗砂粒・軽石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。中位は横位 のヘラ削り。内面は縦位のヘラ磨きと考えられるが、器面 摩滅のため詳細不明。最下端と底部周縁部にヘラ削り。	被熱のため器 面摩滅。外面 に焼成時の黒 斑。
第387図 PL.199	7	土師器 甕	東壁直下床直上 口縁部～胴部下 位	口 底	21.0 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は斜 横位のヘラナデ。	被熱。
第387図 PL.199	8	土師器 甕	北部床上11～ 16cm 3/5	口 底	20.3 3.6	高 -	36.1 -	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は2度に分けて横ナデ。胴部外面は上半部が斜縦位、 下半部が斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第388図 PL.199	9	石製品 敲石	北部床直上 完形	長 幅	13.8 6.2	厚 重	4.0 550.0	-/-/変質安山岩	棒状礫を素材とする。左周縁と下端に敲打痕が連続的に認 められるため敲石とした。正面左下および裏面中央部では 平滑面が見られ、磨石としての機能ももっていたと推定さ れる。	
第388図 PL.199	10	石製品 凹石	東部床直上 完形	長 幅	20.9 9.1	厚 重	8.2 1328	-/-/二ツ岳軽石	軽石転石の上面中央に漏斗(すり鉢)状の研磨による小さな 孔と、その周辺には平滑な研磨面を有する。	

1区8面 11号住居遺物観察表

第390図	1	土師器 杯	東部床上11cm 口縁部一部欠	口 底	10.9 -	高 -	4.4 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第390図 PL.199	2	土師器 杯	カマド前床上8 cm 口縁部一部欠	口 底	10.4 -	高 -	3.9 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第390図 PL.199	3	土師器 杯	北東部床直上 3/4	口 底	11.7 -	高 -	3.9 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第390図 PL.199	4	土師器 甕	カマド前床直上 底部欠	口 底	15.5 -	高 -	-	粗砂粒多/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	被熱。外面に 炭素吸着。

遺物観察表

1区8面 13号住居遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第394図 PL.199	1	土師器 杯	南部床直上 3/4	口底	10.8	高	3.7	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。内面はナデ。	器面は摩滅。 外面に黒斑。
第394図 PL.199	2	土師器 杯	カマド前床直上 完形	口底	10.2	高	3.3	粗砂粒少/良好/明 赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	器面摩滅。
第394図 PL.199	3	土師器 杯	南部床直上～埋 没土 口縁部一部欠	口底	10.1	高	3.2	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	
第394図	4	土師器 鉢	カマド前床直上 1/4	口底	8.8	高	-	細砂粒/良好/橙	鉢との中間形態。口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第394図 PL.199	5	土師器 小型甕	南部床直上 1/2	口底	9.6	高	-	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部から底部は横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	器面はやや摩滅。
第394図 PL.200	6	土師器 甕	カマド前床直上 口縁部～胴部中 位	口底	17.3	高	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第394図 PL.200	7	土師器 甕	カマド床直上7～ 17cm 口縁部～胴部中 位3/4	口底	20.2	高	-	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は頸部直下で横位の、それ以下は斜縦位・斜横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	器面は摩滅。
第395図	8	土師器 甕	東部床直上～埋 没土、カマド 口縁部～胴部下 位・胴部1/4	口底	21.1	高	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面上位は斜横位の、中位は横位の、下位は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面は摩滅。

1区8面 14号住居遺物観察表

第398図 PL.200	1	土師器 杯	中央床直上12cm 完形	口底	10.6	高	3.3	粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は底部との間にわずかな稜を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。
第398図	2	土師器 杯	中央床直上23cm 完形	口底	10.8	高	3.6	粗砂粒・雲母/良 好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第398図 PL.200	3	土師器 杯	中央床直上23cm 完形	口底	10.8	高	3.4	粗砂粒少/良好/に ぶい褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	
第398図 PL.200	4	土師器 杯	南部床直上12cm 完形	口底	10.7	高	3.4	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられるが、器面が摩滅のため詳細不明。	
第398図	5	土師器 杯	中央床直上14cm 完形	口底	10.6	高	3.5	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられるが摩滅。	
第398図 PL.200	6	土師器 杯	南部床直上9cm 完形	口底	11.3	高	3.6	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられるが、器面が摩滅のため詳細不明。	
第398図 PL.200	7	土師器 杯	北西床直上 3/4	口底	11.0	高	3.5	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第398図	8	土師器 杯	中央床直上23cm 一部欠損	口底	10.0	高	3.3	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第398図 PL.200	9	土師器 杯	中央床直上16cm 一部欠損	口底	11.4	高	3.7	粗砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。 外面に黒斑。 内面の全面に 炭素吸着。
第398図 PL.200	10	土師器 杯	南西部床直上 完形	口底	11.0	高	3.3	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	器面はやや摩滅。
第398図	11	土師器 杯	南部床直上19cm 完形	口底	11.4	高	3.85	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部内面は手持ちヘラ削りと考えられる。	器面は摩滅。
第398図	12	須恵器 杯	埋没土 破片	口底	12.2	高	-	黒色鈹物粒/還元 焰/黄灰	ロクロ整形(右回転か)。底部外面は手持ちヘラ削り。	
第398図	13	土師器 高杯	南東部床直上14cm 杯部口縁部1/2 欠	口底	10.4	高脚	5.3 7.8	細砂粒/良好/橙	杯部の口縁部は横ナデ。脚部外面は上半部にヘラ削り。裾部に横ナデ。	器面は摩滅。
第398図 PL.200	14	土師器 高杯	東部床直上22cm 杯部3/4	口底	12.2	高脚	6.1 7.6	粗砂・細砂粒/良 好/橙	杯部は皿状を呈す。口縁部は横ナデか。脚部外面は縦位のヘラ削り。裾部は横ナデ。内面は縦位の指ナデ。裾部には粘土紐の輪積痕を残す。	器面は摩滅。
第398図 PL.200	15	土師器 高杯	中央床直上～床 上30cm 杯部1/3	口底	12.6	高脚	6.5 7.7	粗砂・細砂粒/良 好/橙	杯部は皿状を呈す。口縁部は横ナデか。脚部外面は縦位のヘラ削り。裾部は横ナデ。内面は縦位の指ナデ。裾部には粘土紐の輪積痕を残す。	器面は摩滅。
第399図 PL.200	16	土師器 鉢	中央床直上～床 上16cm 2/3	口底	20.8	高	11.8	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は横位あるいは斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面に黒斑。 摩滅。
第399図 PL.200	17	須恵器 鉢	北部床直上38cm 1/3	口底	13.4 8.1	高	11.2	粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。中位に沈線状の凹線が2条巡る。底部は水平方向に突出。円板状を呈する。側面と底部外面は手持ちヘラ削り。	
第399図	18	須恵器 壺	中央床直上25cm 口縁部～肩部片	口底	14.2	高	-	黒色鈹物粒/還元 焰/灰白	紐づくり後、ロクロ整形。胴部外面はカキ目。	
第400図	19	須恵器 壺	埋没土 頸部	口底	-	高	-	粗砂粒多/還元焰/ にぶい赤褐	ロクロ整形(左回転か)。中位に沈線状の凹線が2条巡る。	
第400図 PL.200	20	土師器 甕	中央床直上20cm 胴部下位～底部 片	口底	5.1	高	-	粗砂粒多/良好/に ぶい黄橙	胴部外面はヘラ削り。内面はヘラナデ。底部中央に直径2.8cmの焼成前穿孔。孔の切開面にヘラ削り。	外面に炭素吸着。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第400図 PL.200	21	土師器 小型甕	南東部床上13 ~16cm 1/3	口底 -	12.0 -	高 -	11.7 -	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面から底部外面は横位のヘラ削り。 内面は横位のヘラナデ。	器面は摩滅。
第400図 PL.200	22	土師器 甕	掘り方 口縁部~胴部中 位	口底 -	22.0 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	
第400図 PL.200	23	土師器 甕	南西部床直上 口縁部~胴部中 位	口底 -	20.7 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	
第400図	24	土師器 甕	中央床直上~床 上19cm 口縁部~胴部中 位	口底 -	20.6 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位・斜位のヘラ削り。内 面は横位のヘラナデ。	外面に炭素吸 着。
第400図 PL.201	25	土師器 甕	中央床直上~床 上27cm 口縁部~胴部中 位1/4	口底 -	21.0 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	器面は摩滅。
第400図	26	土師器 手捏ね	埋没土 1/3	口底 -	6.2 3.4	高 -	4.2 -	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部は体部から屈曲。強く外反して立ち上がる。外面は ヘラ磨き。内面はナデ。	
第400図 PL.200	27	土製品 土錘	埋没土 一部欠	長 幅	6.1 1.6	厚 孔	1.6 0.35	細砂粒・黒色鈹物 粒/酸化焰/にぶい 黄橙	器面はナデ調整と考えられる。	器面は摩滅。 重量12.85g
第400図 PL.200	28	土製品 土錘	埋没土 端部一部欠	長 幅	5.9 1.8	厚 孔	1.7 0.5	細砂粒・黒色鈹物 粒/酸化焰/橙	器面はナデ調整と考えられる。	重量15.68g
第400図 PL.200	29	土製品 土錘	埋没土 1/2	長 幅	3.9 1.6	厚 孔	1.3 0.4	細砂粒・黒色鈹物 粒/酸化焰/にぶい 黄橙	小口面は両端とも欠損。	器面は摩滅。 重量8.86g
第400図	30	土製品 土錘	埋没土 1/3	長 幅	2.8 1.6	厚 孔	- 0.3	細砂粒少/酸化焰/ にぶい橙	器面は指ナデと考えられる。	重量3.57g
第400図	31	土製品 土錘	埋没土 破片	長 幅	1.9 1.2	厚 孔	- 0.4	細砂粒/酸化焰/に ぶい橙	器面は指ナデ。	重量1.33g 未実測破片 0.93g
第401図 PL.201	32	石製品 砥石	埋没土 略完形	長 幅	14.6 6.6	厚 重	4.8 448.8	-/-/砥沢石	4面使用。正面および右側面は研ぎ減りで底面が凹状に なっている。正面中央部に直径5~6mmの小孔が認められ る。	
第401図 PL.201	33	石製品 砥石	北西部床上28cm 完形	長 幅	20.4 6.7	厚 重	9.8 1950.1	-/-/砥沢石	表裏2面使用。表面は研ぎ減りで底面が凹状を呈する。左 右側面および小口面は敲打のような整形痕が残る。	
第401図 PL.201	34	鉄製品 鎌	埋没土 破片	長 幅	5.9 3.4	厚 重	0.7 23.16	-/-/-	土砂を巻き込んで錆化本体は空洞化する。厚さ2mm長方形 で一端は劣化破損。柄取付け部側が破損した鎌と見られる。	
1区8面 15号住居遺物観察表										
第402図	1	土師器 杯	貯蔵穴埋没土 破片	口底 -	-	高 -	-	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
1区8面 16号住居遺物観察表										
第405図	1	土師器 杯	北部床上32cm 3/4	口底 -	11.9 -	高 -	4.5 -	粗砂粒少・赤色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部外面に黒 斑。器面はや や摩滅。
1区8面 17号住居遺物観察表										
第407図	1	土師器 杯	西部床直上 3/4	口底 -	12.2 -	高 -	3.5 -	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの 部分を残す。内面はナデ。	
第407図	2	須恵器 蓋	掘り方 口縁部片	口底 -	19.2 -	高 -	-	黒色鈹物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部外面は中心寄りに回転ヘラ削 り。	
第407図	3	土師器 甕	北部床直上 口縁部~胴部上 部片	口底 -	23.8 -	高 -	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面にはヘラ削りが施されると考え られるが、器面は摩滅。	
1区8面 18号住居遺物観察表										
第410図	1	土師器 杯	南東部床直上 1/2	口底 -	11.3 -	高 -	3.4 -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面 は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第410図 PL.201	2	土師器 杯	北部床上32cm 口縁部一部欠	口底 -	11.0 -	高 -	3.2 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩 滅。
第410図 PL.201	3	土師器 杯	北部床上32~ 41cm 底部一部欠	口底 -	11.5 -	高 -	4.1 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。	器面は摩滅。
第410図 PL.201	4	土師器 杯	中央床上25cm 3/4	口底 -	14.4 -	高 -	5.4 -	粗砂粒少/良好/橙	器形は大きく歪んでいる。口縁部は横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第410図	5	土師器 杯	南部床直上 1/3	口底 -	16.4 -	高 -	6.5 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面 は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第410図 PL.201	6	土師器 鉢	中央床上35cm 1/2	口底 -	14.0 -	高 -	-	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面は横位の手持ちヘラ削り。内面 はナデ。	器面はやや摩 滅。
第410図 PL.201	7	灰釉陶器 壺	カマド・埋没土 口縁部片	口底 -	6.8 -	高 -	-	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(回転方向不明)。口縁部中位に沈線2条が巡る。	内外面に施釉 するも剥落著 しい。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第410図	8	土師器 甕	北部床上26cm 口縁部～胴部上 位片	口 底	21.5 -	高 -	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は横 位のヘラナデ。	被熱。
第410図	9	土師器 甕	北部床上40～ 43cm 口縁部～胴部上 位1/3	口 底	17.0 -	高 -	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	被熱。器面は 摩滅。
第410図 PL.201	10	土師器 甕	北東部床上30 ～42cm 口縁部～胴部中 位1/3	口 底	18.6 -	高 -	-	粗砂粒多/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	
第410図 PL.201	11	土製品 土錘	南部床上11cm 一部欠	長 幅	4.5 2.05	厚 孔	1.9 0.4	粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	小口面はヘラ切り。器面はナデ調整。	器面は摩滅。

1区8面 19号住居遺物観察表

第412図	1	土師器 杯	北部床直上 1/2	口 底	13.5 -	高 -	4.4 -	粗砂粒多/良好/淡 黄	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第412図 PL.201	2	土師器 杯	中央部床直上～ 床上12cm 口縁部一部欠	口 底	11.0 -	高 -	4.2 -	細砂粒・黒色鈹物 粒/良好/にぶい黄 橙	口縁部は内傾気味に立ち上がり、底部との間には稜を有す る。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸 着。摩滅。
第412図 PL.201	3	土師器 杯	北東部床上16cm 口縁部一部欠	口 底	13.6 -	高 -	5.5 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面 は手持ちヘラ削りと考えられるが、摩滅のため詳細不明。 内面にヘラナデの工具痕。	
第412図 PL.201	4	土師器 高杯	北西部床上9cm 杯部2/3、脚部 上位	口 底	15.6 -	高 -	-	粗砂粒/良好/浅黄 橙	杯部上位は横ナデ。外面下位はヘラ削り。脚部外面は縦位 のヘラ削り。内面はナデ。	
第412図	5	土師器 甕	中央部床上9cm 口縁部～胴部中 位片	口 底	26.6 -	高 -	-	粗砂粒多/良好/灰 黄褐	口縁部は著しく歪んでいる。横ナデ。胴部外面は縦位のヘ ラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。器面は 摩滅。
第412図 PL.201	6	石製品 紡輪	中央部床直上 略完形	長 軸 短 軸	4.6 4.3	厚 重	1.9 48.9	-/-/滑石	孔径9mm。広面の周縁は使用により欠損している。側面は 鋭利な工具による線状痕が放射状に見られる。	
第412図 PL.201	7	石製品 管玉	西部床直上 完形	長 径	2.8 1.1	厚 重	- 6.2	-/-/珪質頁岩	孔径は上面で3mm、下面で2mm、穿孔は一方である。孔 の周囲は同心円状に浅く窪み、窪み部も丁寧に研磨されて いる。表面には研磨時のごく細かい線状痕が縦方向に認め られる。	

1区8面 20号住居遺物観察表

第416図 PL.201	1	土師器 杯	カマド床直上 口縁部一部欠	口 底	12.0 -	高 -	3.8 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの 部分を残す。内面はナデ。	器面はやや摩 滅。
第416図 PL.201	2	土師器 杯	東壁床上11cm 3/4	口 底	13.2 -	高 -	3.9 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩 滅。
第416図 PL.201	3	須恵器 杯	床直上・掘り方 2/3	口 底	16.1 11.2	高 -	5.8 -	粗砂粒多/還元焰/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ削り。	底部内面は摩 耗。
第416図 PL.201	4	須恵器 椀	カマド前床上9 cm 2/3	口 底	10.6 -	高 台	4.3 7.2	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ切り後の付け 高台。貼付後、周縁部にナデ調整。	
第416図	5	土師器 甕	1号カマド右袖 口縁部～胴部上 位1/3	口 底	22.0 -	高 -	-	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	

1区8面 21号住居遺物観察表

第418図 PL.202	1	土師器 杯	カマド前床直上 口縁部1/4欠	口 底	11.7 -	高 -	5.2 -	粗砂粒少/良好/明 赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第418図	2	土師器 甕	カマド内床直上 口縁部～胴部中 位片	口 底	15.6 -	高 -	-	粗砂粒多/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は縦位 のヘラナデ。	被熱。
第418図 PL.202	3	剥片石器 打製石斧	埋没土 完形	長 幅	12.1 7.8	厚 重	2.9 278.0	-/-/凝灰質砂岩	経年変化と鉄分の付着で全体的に稜線の摩耗が著しい。周 縁および全面に二次加工を施し整形。平面形は左右対称で はなく、左側縁には抉りが入っているが、右側縁は直線的 な形状である。	

1区8面 22号住居遺物観察表

第421図	1	土師器 鉢	カマド埋没土 1/4	口 底	14.2 -	高 -	-	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。 内面はナデ。	外面は摩滅。
第421図	2	土師器 鉢	埋没土 口縁部～体部下 位1/3	口 底	10.4 -	高 -	-	細砂粒/良好/橙	鉢との中間形態。口縁部は体部との間に稜を有する。体部 外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第421図	3	土師器 甕	埋没土 胴部下位～底部 1/2	口 底	-	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	底部に直径2.2cmの焼成前穿孔。ヘラ削り。胴部外面は横 位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第421図	4	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部中 位片	口 底	19.1 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位・斜位のヘラ削り。内面 は横位のヘラナデ。	被熱。外面に 炭素吸着。
第421図 PL.202	5	土製品 土錘	埋没土 完形	長 幅	7.1 1.7	厚 孔	1.5 0.3	細砂粒・黒色鈹物 粒/酸化焰/橙	両小口に向かって徐々に径を狭めている。器面はナデ調整。	器面は摩滅。 重量15.48g

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第421図 PL.202	6	土製品 土錘	埋没土 1/2	長幅 3.2 1.5	厚 1.6 0.4		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	一方の小口面は欠損する。器面はナデ調整。	重量6.33g

1区8面 23号住居遺物観察表

第422図 PL.202	1	土師器 杯	カマド床直上 一部欠損	口底 11.4 -	高 3.7 -		粗砂粒少/良好/に ぶい橙	器形は大きく歪んでいる。口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第422図	2	土師器 甕	カマド床直上 口縁部~胴部上 位片	口底 18.0 -	高 -		粗砂粒多/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。

1区8面 24号住居遺物観察表

第424図	1	土師器 杯	カマド床直上 破片	口底 12.8 -	高 -		細砂粒/良好/褐灰	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第424図	2	土師器 甕	西壁直下床直上 14cm 胴部下位~底部 片	口底 10.8 -	高 -		粗砂粒/良好/浅黄	胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部はヘラ削り。	器面は摩滅。

1区8面 25号住居遺物観察表

第426図 PL.202	1	土師器 杯	西壁際床直上8cm 2/3	口底 12.3 -	高 5.1 -		粗砂粒少・赤色粘 土粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第426図 PL.202	2	土師器 杯	西壁際床直上11cm 口縁部1/4欠	口底 13.4 -	高 4.8 -		粗砂粒少/良好/明 赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第426図 PL.202	3	土師器 鉢	カマド床直上~ 床直上6cm、14住 埋土 口縁部~胴部下 位2/3	口底 15.1 -	高 -		粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部は縦位の丁寧なヘラ削り。内面は横位のナデ。	被熱か。器面に炭素吸着。
第426図 PL.202	4	土師器 甕	右袖 口縁部~胴部下 位3/4	口底 16.6 -	高 -		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。

1区8面 26号住居遺物観察表

第428図 PL.202	1	土師器 杯	南部床上12cm、 埋没土 完形	口底 11.1 -	高 3.35 -		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	器面は摩滅。 底部外面に黒斑。
第428図 PL.202	2	土師器 杯	南東床直上 完形	口底 10.3 -	高 3.4 -		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	器面は摩滅。 底部外面に黒斑。
第428図	3	土師器 鉢	南西部床直上 1/2	口底 16.9 -	高 -		粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面は横位のナデ。	器面はやや摩滅。
第428図 PL.202	4	土師器 小型甕	南東隅床直上 口縁部一部欠	口底 10.8 -	高 11.1 -		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面から底部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	底部外面に黒斑。器面はやや摩滅。
第428図 PL.202	5	土師器 甕	南東隅床直上 口縁部~胴部中 位	口底 22.1 -	高 -		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラ削り。	器面は摩滅。
第428図 PL.202	6	須恵器 碇	埋没土 破片	口底 16.6 17.0	高 1.4 -		白色鉍物粒/還元 焰/灰	平面円形で平底の盤状を呈する。復元径12.8cmの摩面の周囲に堤を巡らし、その外側に溝が一周する。ロクロ整形。側面の下半と底部外面に回転ヘラ削り。	

1区8面 28号住居遺物観察表

第432図	1	土師器 杯	南部床上20cm、 埋没土 1/3	口底 12.1 -	高 3.9 -		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。	器面は摩滅。
第432図	2	土師器 甕	埋没土 口縁部~胴部上 位片	口底 15.8 -	高 -		粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。一部ハケ目状工具の上にヘラナデか。内面は横位のヘラナデ。輪積痕を残す。	外面の一部に炭素吸着。

1区8面 29号住居遺物観察表

第434図 PL.202	1	土師器 杯	床直上、掘り方、 埋没土 完形	口底 11.7 -	高 4.4 -		細砂粒・赤褐色粘 土粒/良好/橙	器面は歪み平面は長円形を呈する。口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第434図	2	土師器 高杯	カマド床直上~ 床上9cm 杯部3/4	口底 17.8 -	高 -		粗砂粒少/良好/に ぶい橙	器形はやや歪む。口縁部は横ナデ。底部との間に稜を有する。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第434図	3	土師器 甕	東部床直上 口縁部~胴部中 位片	口底 19.0 -	高 -		粗砂・細砂粒・黒 色鉍物粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位・斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。

1区8面 30号住居遺物観察表

第436図	1	土師器 杯	カマド床直上 1/4	口底 12.8 -	高 -		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。黒色の付着物。
第436図 PL.202	2	土師器 鉢	カマド床直上 完形	口底 9.6 2.7	高 7.6 -		粗砂粒/良好/にぶ い橙	器肉は全体に厚い。口縁部の先端は内湾して立ち上がる。横ナデ。体部から底部は2回に分けて縦位のヘラ削り。内面は縦位のヘラナデ。	器面に炭素吸着。
第436図	3	土師器 鉢	カマド埋没土 1/4	口底 15.1 -	高 -		細砂粒・雲母/良 好/橙	口縁部は横ナデ。体部はヘラ削りか。内面はナデ。	器面は摩滅。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第436図	4	土師器 甕	煙道 口縁部～胴部上 位2/3	口 底	16.0 -	高 -	- -	粗砂粒・雲母/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	被熱か。
1区8面 31号住居遺物観察表										
第438図	1	土師器 高杯	中央部床上14cm 脚部片	口 底	- -	高 -	- -	細砂粒/良好/橙	外面は縦位のヘラ削りか。内面上位は縦位の指ナデ。下位 は横ナデ。	器面は摩滅。
1区8面 32号住居遺物観察表										
第440図 PL.202	1	土師器 杯	南西隅床上9cm 3/4	口 底	11.8 -	高 -	3.3 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第440図 PL.202	2	土師器 杯	北部床上11cm 口縁部一部欠	口 底	14.0 -	高 -	4.1 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの 部分を残すか。内面はナデ。	器面は摩滅。
第440図 PL.202	3	土師器 杯	西部床直上 完形	口 底	13.6 -	高 -	6.2 -	赤黒色粘土粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる が、器面摩滅のため詳細は不明。	
第440図 PL.202	4	須恵器 杯	北西部床上10cm 口縁部～底部片	口 底	14.8 -	高 -	- -	白色鋇物粒多/還 元焰/灰	口縁部は底部との間に受け部を有す る。	
第440図 PL.202	5	土師器 甕	西部床直上 完形	口 底	25.9 -	高 -	26.7 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は数回に分けて斜位のヘラ削り。 内面は斜位のヘラナデ。孔の切開面はヘラ削り。	胴部外面下位 に黒斑。
第440図 PL.203	6	土師器 甕	カマド床直上 完形	口 底	15.7 -	高 -	21.2 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。下位は横位 のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。炭素吸 着。
第440図 PL.203	7	土師器 甕	西部床直上 3/4	口 底	14.0 -	高 -	21.2 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は中位に2か所弱い段をなす。横ナデ。胴部外面は 上位と中位が斜横位、中位は斜位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	外面の広い範 囲に炭素吸 着。
1区8面 34号住居遺物観察表										
第442図	1	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口 底	19.0 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は横 位のヘラナデ。	被熱のため、 炭素吸着。
1区8面 35号住居遺物観察表										
第443図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口 底	14.2 -	高 -	- -	細砂粒/良好/橙	小破片からの器形復元。口縁部は横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削りと考えられる。	器面は摩滅。
1区8面 36号住居遺物観察表										
第444図 PL.202	1	土師器 杯	東壁床上11cm 完形	口 底	11.6 -	高 -	3.2 -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	器面は摩滅。
1区8面 37号住居遺物観察表										
第447図	1	土師器 杯	北東隅床上18cm 口縁部～底部 1/4	口 底	14.4 -	高 -	- -	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第447図	2	土師器 杯	埋没土 1/3	口 底	14.4 -	高 -	5.2 -	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は底部との間に稜を有する。底部外面は手持ちヘラ 削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第447図	3	土師器 高杯	中央部床上21cm 脚部下半1/4	口 底	- -	高 脚	- 13.9	粗砂粒・黒色鋇物 粒/良好/淡黄	裾部は水平方向に大きく外反して伸びる。柱状部外面は縦 位のヘラ削り。裾部は横ナデ。内面は柱状部にヘラ削り。 輪種痕を良く残す。成形時のひび割れに粘土を貼り付け補 修したか。	器面はやや摩 滅。
第447図 PL.203	4	石製品 砥石	埋没土 完形	長 幅	10.5 7.6	厚 重	4.8 287.8	-/-/ニツ岳	正面に断面U字状のキズが多数認められたため砥石とし たが、別器種の可能性がある。キズは概ね左上から右下方 向と右上から左下方向の2方向が見られる。	
第447図 PL.203	5	鉄製品 不詳	埋没土 破片	長 幅	5.7 1.7	厚 重	0.5 8.02	-/-/-	土砂を巻き込んで錆化し本体は脆弱。断面は狭い紡錘形 で利器の可能性が有るが詳細は不明。	
1区8面 38号住居遺物観察表										
第449図	1	土師器 杯	南壁床直上 1/3	口 底	14.0 -	高 -	5.7 -	細砂粒・赤茶色粘 土粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。底部外面は手持ちヘラ 削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第449図 PL.202	2	土師器 杯	東部床直上、掘 り方、埋没土 2/3	口 底	15.6 -	高 -	6.0 -	粗砂粒少・赤褐色 粘土粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第449図	3	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部片	口 底	32.0 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位に軟らかなタッチのヘラ 削り。内面は横位のヘラナデ。	外面の一部に 炭素吸着。
1区8面 39号住居遺物観察表										
第451図	1	土師器 杯	中央部床直上 1/4	口 底	11.6 -	高 -	- -	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部外面に黒 斑。
第451図	2	土師器 杯	南西部床直上 1/2	口 底	12.6 -	高 -	5.2 -	粗砂粒・雲母/良 好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は器 面摩滅。内面はナデ。	
第451図	3	土師器 杯	中央部床直上 1/3	口 底	13.4 -	高 -	4.8 -	粗砂粒・雲母/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。	器面は摩滅。 外面に黒斑。
第451図 PL.203	4	土師器 高杯	住居内2土坑 杯部一部欠	口 底	19.9 -	高 脚	19.6 15.2	粗砂粒/良好/明赤 褐	杯部は口縁部と受け部の間に稜を有する。外面口縁部は横 ナデ。受部はナデ。脚部は縦位の丁寧なヘラ削り。裾部は 横ナデ。内面の杯部はナデの上に放射状にヘラ磨きを施し たものと考えられる。脚部上半部の内面は斜位のヘラナデ。	

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第451図 PL.203	5	須恵器 高杯か	埋没土 杯部下位片	口底	17.8	高	-	白色鈹微粒・結晶 片岩/還元焰/オリ ープ黒	ロクロ整形。右回転。	
第451図 PL.203	6	土師器 甕	床下土坑、中央 部床直上、埋没 土 口縁部～胴部下 位	口底	18.9	高	-	粗砂粒・軽石/良 好/にぶい橙	口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。 内面は斜位のヘラナデ。	被熱。炭素吸着。
第451図 PL.203	7	土師器 手捏ね	北壁床直上 完形	口底	6.5 5.0	高	4.2	粗砂粒/良好/浅黄	口縁部は小さく波打っている。外面の整形は粗雑で粘土の 重なりを消しきっていない。ナデ。内面はナデ。	内外面とも炭素吸着。黒斑状。

1区8面 40号住居遺物観察表

第453図	1	土師器 甕	北部床直上、埋 没土 口縁部～胴部上 位片	口底	15.6	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位に弱い当たりのハケ目。 内面は横位のヘラナデ。	
第453図	2	土師器 甕	中央部床直上 口縁部～胴部上 位片	口底	20.0	高	-	粗砂粒・雲母/良 好/にぶい黄橙	口縁部は中位に弱い段をなす。横ナデ。胴部外面は弱い当 たりのヘラ削り。	
第453図 PL.203	3	土製品 土錘	南部床直上13cm 一部欠損	長 幅	7.7 2.0	厚 孔	1.9 0.6 0.5	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	両小口は孔を開けるための芯棒に粘土を押し付けるように 整形して終わる。器面はナデ。図の上半はヘラが強く当たっ ている。	重量25.51g

1区8面 43号住居遺物観察表

第458図	1	土師器 杯	南部床直上 口縁部～底部 1/4	口底	12.2	高	-	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面 は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第458図	2	須恵器 高杯	埋没土 口縁部片	口底	17.0	高	-	白色鈹微粒多/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。	
第458図 PL.203	3	土師器 甕	カマド構築座 口縁部～胴部下 位	口底	22.1	高	-	粗砂粒・軽石/良 好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は斜横 位のヘラナデ。	被熱。外面に炭素吸着。
第459図 PL.204	4	土師器 甕	貯蔵穴、カマド 前床直上 口縁部～胴部下 位3/4	口底	21.6	高	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は横 位のヘラナデ。	被熱。
第459図 PL.204	5	土師器 甕	カマド構築材 3/4	口底	21.4 3.2	高	36.0	粗砂粒多/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は3～4回に分けて縦位のヘラ 削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。外面に炭素吸着。
第459図 PL.204	6	石製品 白玉	カマド前床直上 完形	長 幅	0.8 0.8	厚 重	0.3 0.3	-/-/滑石	孔径3mm。上下面とも研磨されているが、下面の方がやや 粗雑な研磨である。側面には、縦方向の粗い線状痕が残る。	

1区8面 44号住居遺物観察表

第461図	1	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口底	22.6	高	-	粗砂粒・雲母/良 好/にぶい黄橙	内外面に横ナデ。外面は縦位のヘラ削り。	器面の一部に炭素吸着。
-------	---	----------	-------------	----	------	---	---	---------------------	---------------------	-------------

1区8面 46号住居遺物観察表

第463図	1	土師器 杯	カマド掘り方 口縁部～底部 1/4	口底	13.0	高	-	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第463図	2	土師器 杯	カマド使用面直 上、カマド掘り 方 口縁部～底部 1/4	口底	11.6	高	-	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデ。	焼成時に炭素吸着。

1区8面 47号住居遺物観察表

第465図	1	土師器 杯	南部床直上8cm 口縁部一部欠	口底	12.0	高	3.7	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの 部分を残す。内面はナデ。	
第465図	2	土師器 杯	南東隅床直上 3/4	口底	12.4	高	4.1	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの 部分を残す。内面はナデ。	
第465図	3	須恵器 瓶	埋没土 口縁部片	口底	11.8	高	-	白色鈹微粒/還元 焰/黄灰	ロクロ整形(右回転か)。外面中位に沈線が2条巡る。	
第465図	4	土師器 甕	中央部床直上 口縁部～胴部上 位片	口底	18.6	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は横 位のヘラナデ。	

1区8面 48号住居遺物観察表

第467図	1	土師器 杯	左袖床直上 1/2	口底	11.8	高	4.55	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面 は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面に炭素吸着。黒色。器 面は摩耗。
第467図	2	土師器 杯	床上6cm、埋没 土 3/4	口底	14.2	高	4.8	粗砂粒・赤色粘 土粒/良好/赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデと考えられる。	器面は摩滅。
第467図	3	土師器 甕	床上6cm 口縁部～肩部 1/4	口底	20.8	高	-	粗砂粒多/良好/黄 灰	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り後、横位のヘ ラ削りを重ねる。内面は横位のヘラナデ。	器面は変色。

遺物観察表

1区8面 49号住居遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚			
第469図 PL.204	1	土師器 甌	南壁床直上 3/4	口底 24.7 8.5	高 -	厚 26.9 -	粗砂粒・黒色鈹物 粒/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面上半部は縦位の、下半部は斜縦位のヘラ削り。内面は横位の丁寧なヘラナデ。底部周縁部にヘラ削り。	被熱。
第469図 PL.204	2	土師器 甕	南東隅床直上、 埋没土、カマド 3/4	口底 18.4 4.9	高 -	厚 34.2 -	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は3～4回に分けて斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面は被熱。炭素吸着。摩滅。

1区8面 51号住居遺物観察表

第473図 PL.205	1	土師器 杯	カマド床直上 完形	口底 10.7 -	高 -	厚 4.0 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部外面に黒斑。
第473図 PL.205	2	土師器 杯	南部床直上 完形	口底 10.8 -	高 -	厚 3.6 -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第473図 PL.205	3	土師器 杯	カマド床直上 完形	口底 10.7 -	高 -	厚 3.4 -	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第473図 PL.205	4	土師器 杯	南東部床直上 完形	口底 10.4 -	高 -	厚 -	粗砂粒少・雲母/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第473図 PL.205	5	土師器 杯	カマド床直上 口縁部一部欠	口底 10.9 -	高 -	厚 3.6 -	粗砂粒少・雲母/ 良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。内面はナデ。	外面は摩滅。
第473図 PL.205	6	土師器 杯	南部床直上 口縁部一部欠	口底 10.7 -	高 -	厚 3.4 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第473図	7	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口底 21.5 -	高 -	厚 -	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第473図 PL.205	8	土製品 土錘	埋没土 完形	長幅 6.8 1.9	厚孔	1.8 0.6 0.5	粗砂粒/酸化焰/暗 灰	孔を開けるための芯棒の抜き取りが粗雑であったため、孔の形状が歪んでいる。器面はナデ調整。指で押さえた際の指紋が残る。	器面に炭素吸着。
第473図 PL.205	9	石製品 砥石	南部床直上 破片	長幅 (8.1) (5.6)	厚重	(4.7) 299.8	-/-/砥沢石	4面使用。左右側面の使用頻度が高く、砥面が凹状になっている。下端小口面には加工痕が見られる。上半部欠損。	

1区8面 52号住居遺物観察表

第474図	1	土師器 杯	中央部床直上 1/4	口底 15.0 -	高 -	厚 4.0 -	粗砂粒/良好/灰白	口縁部は3回ほどに分けて横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面の一部に炭素吸着。
第474図	2	土師器 甕	中央部床直上～ 6cm 口縁部～胴部中 位1/4	口底 21.6 -	高 -	厚 -	粗砂粒多/良好/明 赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は斜横位のヘラナデ。	

1区8面 53号住居遺物観察表

第476図	1	土師器 杯	カマド埋没土 口縁部～底部 1/4	口底 9.0 -	高 -	厚 -	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。底部外面に炭素吸着。
第476図	2	土師器 甕	東壁床上15cm 口縁部～胴部上 位片	口底 20.8 -	高 -	厚 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ削りと考えられるが、器面は摩滅のため詳細不明。	

1区8面 54号住居遺物観察表

第477図	1	土師器 杯	南東隅床直上 3/4	口底 11.8 -	高 -	厚 3.7 -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデと考えられる。	器面は摩滅。
第477図	2	土師器 甕	中央部床上31cm 口縁部～胴部上 位片	口底 16.3 -	高 -	厚 -	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面の一部に炭素吸着。器面は摩滅。
第477図 PL.205	3	石製品 凹石	南部床直上 完形	長幅 10.3 9.0	厚重	5.1 359.0	-/-/二ツ岳石	正面中央部に直径5～6cmの漏斗状の凹みが1か所認められる。凹み内部に研磨痕はなく、敲打によると推定される。	

1区8面 55号住居遺物観察表

第479図	1	土師器 杯	カマド前床直上 口縁部～底部片	口底 17.8 -	高 -	厚 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられるが、内面はナデ。摩滅している。	
第479図 PL.205	2	土師器 甌	カマド床直上、 埋没土 口縁部一部欠	口底 18.8 3.4	高 -	厚 12.8 -	粗砂粒・軽石/良 好/浅黄	底部に直径2.3cmの焼成前穿孔。切開部にヘラ削り。口縁部は横ナデ。胴部外面上半部は縦位、下半部は横位のヘラ削り。内面は横位と斜位のヘラナデ。	器面はやや摩滅。外面の一部に黒斑。

1区8面 56号住居遺物観察表

第480図	1	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口底 13.6 -	高 -	厚 -	粗砂粒多・軽石/ 良好/にぶい橙	内外面に横ナデ。	被熱。
-------	---	----------	-------------	-----------------	--------	--------	---------------------	----------	-----

1区8面 57号住居遺物観察表

第482図 PL.205	1	土師器 杯	南部床上12cm 口縁部一部欠	口底 13.3 -	高 -	厚 4.2 -	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい黄橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第482図 PL.205	2	土師器 杯	北部床直上 3/4	口底 11.4 -	高 -	厚 4.5 -	粗砂粒・雲母/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第482図 PL.205	3	土師器 蓋	南部床直上 口縁部・摘み部 一部欠	口底 14.7 -	高 -	厚 -	粗砂粒・雲母・軽 石/良好/にぶい黄 橙	天井部中央に突起状の摘みが付く。天井部はヘラ削り。周縁部に横ナデ。内面はナデ。	器面は摩滅。
第482図 PL.205	4	土師器 蓋	南部床直上～ 10cm 口縁部・摘み部 一部欠	口底 15.0 -	高 -	厚 -	粗砂粒・雲母・軽 石/良好/にぶい黄 橙	天井部中央に突起状の摘みが付く。天井部は縦位のヘラ削り。周縁部に横ナデ。内面はナデ。	器面はやや摩滅。一部に焼成時の炭素吸着。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第482図 PL.205	5	土師器 甕	床上6~7cm、 埋没土 3/4	口底	16.4 5.8	高 -	20.5 -	粗砂粒/良好/浅黄	口縁部は横ナデ。胴部外面は底部寄りに横位の、他は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。外面に炭素吸着。一部に黒斑。
第483図 PL.205	6	土師器 甕	床直上、埋没土 3/4	口底	17.6 5.2	高 -	35.2 -	粗砂粒・軽石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は3回に分けて縦位のヘラ削り。最下位は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。竈のかけ口に沿って炭素吸着。
第483図 PL.206	7	土師器 甕	床上6cm、埋没土 3/4	口底	18.6 5.5	高 -	35.1 -	粗砂粒・軽石/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。器面は摩滅。

1区8面 59号住居遺物観察表

第486図	1	土師器 杯	埋没土 1/4	口底	13.6 -	高 -	3.4 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第486図	2	須恵器 蓋	埋没土 摘み部~天井部 1/4	口底	-	高 摘	-	黒色・白色鈹物粒 /還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部切り離し後、摘み部を貼付。天井部外面の中心寄り回転ヘラ削り。	
第486図 PL.206	3	土師器 甕	カマド前床直上、 煙道 口縁部~胴部上 位	口底	23.0 -	高 -	-	粗砂・細砂粒・輝石 あるいは角閃石 /良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	

1区8面 62号住居遺物観察表

第489図	1	土師器 杯	カマド右袖側床 上6cm 3/4	口底	11.4 -	高 -	3.9 -	細砂粒・赤茶色粘 土粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第489図	2	土師器 杯	カマド右袖側床 直上 2/3	口底	12.3 -	高 -	3.5 -	細砂粒/良好/橙	器形は大きく歪み、平面は長円形を呈す。図は長径部分を測図。口縁部は底部との間に弱い稜をなす。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	器面は摩滅。
第489図 PL.206	3	須恵器 杯	中央部床上16cm 3/4	口底	11.0 -	高 -	4.0 -	粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部外面は回転ヘラ削り。	
第490図 PL.206	4	土師器 甕	掘り方、床直上 口縁部~胴部中 位	口底	24.7 8.6	高 -	-	粗砂粒・赤褐色粘 土粒/良好/にぶい 黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は数回に分けて縦位のヘラ削り。最下位は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。孔の切開面はヘラ削り。	外面に黒斑。器面はやや摩滅。
第491図 PL.206	5	土師器 甕	カマド床直上 口縁部一部欠	口底	18.1 4.7	高 -	19.6 -	粗砂粒多/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。下位は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。外面に炭素吸着。
第491図	6	土師器 甕	南東隅床直上 口縁部~胴部中 位1/3	口底	18.6 -	高 -	-	粗砂粒・軽石/良 好/灰黄褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	内面は黒色。炭素吸着か。
第491図 PL.206	7	石製品 白玉	北部床直上 完形	長幅	1.4 1.5	厚 重	0.7 2.0	-/-/滑石	孔径4mm。上下面ともに丁寧に研磨されている。側面には縦方向の粗い線状痕が見られ、一部整形が進んでいない部分を残すことから未成品と考えられる。	

1区8面 63号住居遺物観察表

第492図 PL.206	1	土師器 杯	中央部床上37cm 底部欠	口底	13.4 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面は横位のヘラ磨き。内面は斜横位のヘラ磨きの上に放射状のヘラ磨きを重ねる。底部の欠損は焼成後穿孔の可能性高い。	内外面とも赤色塗彩。
第492図 PL.206	2	土師器 杯	中央部床上33cm 口縁部一部欠	口底	13.9 -	高 -	5.2 -	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面ナデ後底部中心から放射状にヘラ磨き。	内外面とも赤色塗彩。
第492図 PL.206	3	土師器 杯	西部床上21~ 25cm 1/2	口底	13.6 -	高 -	5.2 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面は斜横位のヘラ磨きの上に放射状にヘラ磨きを重ねる。	内外面とも赤色塗彩。
第492図 PL.207	4	土師器 杯	西部床直上 口縁部一部欠	口底	12.2 -	高 -	5.4 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第492図 PL.207	5	土師器 杯	北東隅床上21cm 完形	口底	12.7 -	高 -	4.7 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第493図 PL.207	6	土師器 小型甕	中央部床直上~ 9cm、埋没土 3/4	口底	13.9 -	高 -	12.9 -	粗砂粒・赤褐色粘 土粒/良好/浅黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。下位は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面の一部に黒斑。
第493図	7	土師器 甕	床上21cm 口縁部~胴部 1/3	口底	28.0 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ状工具によるナデと考えられるが、詳細は不明。内面はヘラナデ。	
第493図 PL.207	8	石製品 砥石	西部床直上 略完形	長幅	(9.7) 3.7	厚 重	3.3 177.9	-/-/砥沢石	4面使用。左右側面の使用頻度が高く、砥面が凹状になっている。破損面に刃慣らし傷が認められることから、破損後も使用されたと推定される。	

1区8面 64号住居遺物観察表

第494図	1	土師器 杯	掘り方埋没土 1/3	口底	10.8 -	高 -	2.9 -	粗砂粒少/良好/に ぶい褐	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第494図	2	土師器 杯	中央部床直上、 掘り方埋没土 1/2	口底	11.1 -	高 -	3.2 -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。

1区8面 65号住居遺物観察表

第496図	1	土師器 杯	東部床上9cm 口縁部~底部 3/4	口底	13.0 -	高 -	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデと考えられる。	器面は摩滅。
-------	---	----------	--------------------------	----	-----------	--------	---	----------	-----------------------------------	--------

遺物観察表

1区8面 66号住居遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	径				
第497図	1	土師器 杯	カマド掘り方 2/3	口底 -	12.8 -	高 -	4.2 -	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。底部外面は手持ちヘラ 削り。内面はナデ。	器面はやや摩 滅。
第497図 PL.207	2	土師器 杯	南西部床直上 口縁部一部欠	口底 -	12.6 -	高 -	4.4 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部は手持ち ヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩 滅。
第497図 PL.207	3	土師器 杯	東部床直上 口縁部一部欠	口底 -	13.2 -	高 -	5.0 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部は手持ち ヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩 滅。
第498図 PL.207	4	土師器 小型甕	東部床直上 底部欠損	口底 -	10.4 -	高 -	13.6 -	粗砂粒/良好/明黄 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は上半部が横位、下半部が縦位 のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	口縁部の欠損 は旧事か。外 面の一部に黒 斑。
第498図 PL.207	5	土師器 甕	カマド前床直上 3/4	口底 -	15.8 -	高 -	21.0 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。下位は斜横 位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面の一部に 黒斑。器面は 摩滅。
第498図 PL.207	6	土師器 甕	カマド前床直上 2/3	口底 6.5	19.3 -	高 -	36.8 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は2～3回に分けて縦位のヘラ 削り。内面は横位のヘラナデ。	外面は被熱。

1区8面 67号住居遺物観察表

第500図 PL.207	1	土師器 杯	北部床直上、床 上23cm 1/3	口底 -	14.9 -	高 -	5.0 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面は横位のヘラ磨き。底部外面は下位にヘラ削り部分を 残す。内面は底部中央から放射状にヘラ磨き。	内外面とも赤 色塗彩。
第500図	2	土師器 杯	カマド前床直上 3/4	口底 -	12.3 -	高 -	5.2 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや炭 素吸着。摩滅 器面はやや摩 滅。
第500図 PL.207	3	土師器 杯	東部床直上 完形	口底 -	12.2 -	高 -	5.8 -	粗砂粒少/良好/に ぶい橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第500図 PL.207	4	土師器 杯	東壁床直上9cm 底部一部欠	口底 -	15.4 -	高 -	7.2 -	粗砂粒少・雲母/ 良好/明赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第500図	5	土師器 杯	カマド前床直 上、南部床直上9 cm 5/6	口底 -	12.7 -	高 -	6.0 -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第500図 PL.208	6	土師器 杯	北西部床直上 底部一部欠	口底 -	12.4 -	高 -	5.5 -	粗砂粒少/良好/明 赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。先端に平坦面。横ナデ。 底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第500図 PL.208	7	土師器 甕	東部床直上 底部一部欠	口底 8.3	21.8 -	高 -	27.4 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面上位から中位は縦位の、それ以 下は斜横位のヘラ削り。内面は横位のナデの上に縦位のヘ ラ磨きをまばらに重ねる。	被熱。内外面 の広い範囲に 炭素吸着。
第500図 PL.208	8	土師器 甕	南東部床直上 完形	口底 -	10.4 -	高 -	16.0 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部上半部は斜縦位の、中位以下は斜位・ 斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第500図 PL.208	9	土師器 甕	北部床直上 3/4	口底 7.0	13.9 -	高 -	18.8 -	粗砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部から頸部は横ナデ。胴部外面上半部は縦位のヘラナ デ。下半部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面は被熱。 一部に黒斑。
第501図 PL.208	10	土師器 甕	カマド前床直 上、床上9～ 12cm 口縁部・胴部一 部欠	口底 6.3	15.5 -	高 -	30.4 -	粗砂粒多/良好/明 赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面はナデに近いヘラ削り。内面は 横位のヘラナデ。	被熱。炭素吸 着。外面は中 位から下位が 摩滅。
第501図 PL.208	11	土師器 手捏ね	東部床直上 完形	口底 4.4	6.5 -	高 -	4.5 -	粗砂粒・軽石/良 好/にぶい黄	鉢形。口縁部は横ナデ。以下は縦位のナデ。内面もナデ。	
第501図 PL.208	12	土師器 甕	カマド前床上12 ～30cm、埋没 土、掘り方 3/4	口底 7.6	25.1 -	高 -	30.6 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位・横位のヘラ削り。内 面は横位のヘラナデ。	器面は摩滅。
第501図 PL.208	13	石製品 紡輪	中央部床直上 完形	径幅 -	3.8 -	厚重 -	1.7 37.9	-/-/滑石	孔径1cm。側面には鋸歯状の線刻が施され、その上下には 沈線を巡らせ区画している。狭面の孔周辺では、同心円状 の浅い窪みが見られる。	

1区8面 68号住居遺物観察表

第502図	1	土師器 杯	埋没土 1/3	口底 -	11.0 -	高 -	3.4 -	細砂粒/良好/橙	器形は歪み底部中央は、やや凹面状となる。口縁部は底部 との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。 内面はナデ。	器面はやや摩 滅。
第502図	2	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口底 -	20.6 -	高 -	-	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい黄橙	内外面とも横ナデ。	器面に炭素吸 着。

1区8面 69号住居遺物観察表

第503図 PL.208	1	土師器 杯	床上9、10cm 2/3	口底 7.0	11.4 -	高 -	4.9 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。体部は上半部がナデ、下半部にヘラ削り。 底部外面はヘラ削り。内面はナデ。	底部に黒斑。
-----------------	---	----------	-----------------	-----------	-----------	--------	----------	------------------	---	--------

1区8面 70号住居遺物観察表

第506図	1	土師器 杯	東部床直上、カ マド、埋没土 2/5	口底 -	12.0 -	高 -	-	粗砂粒少/良好/明 赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸 着。
第506図 PL.209	2	土師器 甕	南西部床上6cm 口縁部1/2欠	口底 7.2	23.1 -	高 -	31.0 -	粗砂粒・赤褐色粘 土粒・軽石/良好/ にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は上位・中位・下位に縦位のヘ ラナデ。内面は上位・中位に横位のヘラナデ。下位は縦位 のヘラナデ。最下位は横位のヘラ削り。	
第506図 PL.209	3	土師器 甕	中央部床直上 1/2	口底 5.8	14.0 -	高 -	22.9 -	粗砂粒/良好/浅黄	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	被熱。外面は 炭素吸着の黒 斑か。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第506図 PL.209	4	土師器 甕	南西部床直上 胴部一部欠	口底	15.2 6.9	高 -	27.5 -	粗砂粒・軽石/良 好/浅黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。器面はやや摩滅。
第506図 PL.209	5	土師器 甕	南東部床上17cm 口縁部～胴部下 位	口底	15.6 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は頸部直下に横ナデ。以下中位までは縦位の、下位は斜横位のヘラ削り。内面は横位・一部斜位のヘラナデ。	被熱。炭素吸着。

1区8面 71号住居遺物観察表

第508図 PL.209	1	土師器 杯	北西部床直上 口縁部一部欠	口底	12.1 -	高 -	4.9 -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第508図 PL.209	2	土師器 杯	カマド前床直上 完形	口底	11.8 -	高 -	4.9 -	細砂粒・雲母/良 好/明赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。底部外面に黒斑。
第508図 PL.209	3	土師器 杯	南東部床直上、 貯蔵穴 口縁部一部欠	口底	12.2 -	高 -	5.4 -	粗砂粒・雲母/良 好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第508図 PL.209	4	土師器 杯	カマド前床直上 口縁部一部欠	口底	14.8 -	高 -	8.1 -	粗砂粒・雲母/良 好/にぶい黄橙	鉢との中間形態。口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第508図 PL.209	5	土師器 鉢	カマド右袖側床 直上 3/4	口底	10.7 -	高 -	6.7 -	粗砂粒・雲母/良 好/明赤褐	口縁部は横ナデ。体部から底部外面はナデに近いヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第508図 PL.209	6	土師器 小型甕	南壁床直上 口縁部一部欠	口底	11.3 5.6	高 -	10.6 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は頸部直下と底部寄り横位の、その間に縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第508図 PL.209	7	土師器 鉢	カマド床直上、 埋没土 口縁部一部欠	口底	18.2 5.9	高 -	16.4 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。胴部下位～底部内外面は摩滅。
第508図 PL.210	8	土師器 甕	貯蔵穴床上12cm 口縁部・胴部一 部欠	口底	16.7 6.1	高 -	31.9 -	粗砂粒・軽石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は2回に分けて縦位のヘラ削り。最下位は横位。内面は横位のヘラナデ。	被熱。外面に炭素吸着。

1区8面 73号住居遺物観察表

第511図 PL.210	1	土師器 杯	東部床直上 完形	口底	10.8 -	高 -	5.1 -	粗砂粒/良好/明黄 褐	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。2回に分けて横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	内面は摩滅。外面に黒斑。
第511図 PL.210	2	土師器 甕	東部床直上 完形	口底	15.4 3.5	高 -	10.2 -	粗砂粒/良好/明赤 褐	底部に直径1.9cmの焼成前穿孔。切開部にヘラ削り。口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面の一部に炭素吸着。
第511図	3	土師器 台付甕か	中央部床上7cm 台部のみ	口底	-	高 台	- 9.8	細砂粒/良好/明赤 褐	筒状に成形した台部に本体を接合した後、下方から粘土を貼付し、丁寧にナデ調整を施している。	器面は摩滅。
第511図 PL.210	4	土師器 小型甕	東部床上10cm 3/4	口底	11.8 4.8	高 -	13.0 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面上半部、下半部に分けての斜位のヘラ削り。内面は横位・斜横位のヘラナデ。	外面の一部に黒斑。
第511図 PL.210	5	石製品 凹石	西部床上10cm 完形	長幅	8.0 7.9	厚 重	6.8 292.6	-/-/二ツ岳石	球形に整形した軽石を素材とする。直径4.5cmの漏斗状の凹みが1か所認められる。凹みの内部は平滑である。	

1区8面 74号住居遺物観察表

第512図	1	土師器 杯	南壁 一部欠損	口底	9.7 -	高 -	2.9 -	粗砂粒・雲母/良 好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面に炭素吸着。摩滅。
第512図	2	土師器 杯	南東部床直上 1/2	口底	14.6 -	高 -	5.2 -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第512図	3	土師器 小型甕	カマド前床直上、 埋没土 口縁部～胴部上 位片	口底	18.0 -	高 -	- -	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	

1区8面 75号住居遺物観察表

第515図	1	土師器 杯	東壁床直上 口縁部～底部 1/3	口底	12.0 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第515図	2	土師器 高杯	北東部床直上 脚部	口底	-	高 脚	- 8.5	粗砂粒/良好/橙	脚部外面はナデ。裾部は横ナデと考えられる。内面にしぼり痕。	杯部内面に炭素吸着。
第515図	3	土師器 甕	北西部床直上 口縁部～胴部上 位1/4	口底	15.6 -	高 -	- -	粗砂粒・軽石/良 好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。外面は頸部直下に横位のヘラ削り。胴部に斜縦位のナデに近いヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面の一部に炭素吸着。
第515図 PL.210	4	石製品 白玉	中央北部床直上 完形	長幅	0.6 0.6	厚 重	0.3 0.1	-/-/滑石	孔径2mm。上面・下面とも研磨されている。側面には、整形時の粗い縦線状痕が残る。	
第515図 PL.210	5	石製品 白玉	中央北部床直上 完形	長幅	0.6 0.7	厚 重	0.2 0.1	-/-/滑石	孔径2mm。上面は研磨により平坦である。下面は部分的に破損し凹凸を残す。側面も研磨されているものの、縦方向の線状痕を残す。	
第515図 PL.210	6	石製品 白玉	床直上 完形	長幅	0.6 0.6	厚 重	0.3 0.1	-/-/滑石	孔径2mm。上下面とも研磨されているが、下面の方がやや粗雑である。側面も比較的丁寧に研磨されているが、縦方向の線状痕が部分的に残る。	
第515図 PL.210	7	石製品 白玉	床直上 完形	長幅	0.6 0.6	厚 重	0.3 0.1	-/-/蛇紋岩	孔径2mm。上下面とも粗く研磨されている。側面は比較的丁寧に研磨されているが、縦方向の線状痕が残る。	
第515図 PL.210	8	石製品 白玉	中央北部床直上 完形	長幅	0.6 0.6	厚 重	0.4 0.2	-/-/滑石	孔径2mm。体部の長さが均一でなく、上下面が傾斜していることから未成品と考えられる。上下面は研磨されているが、凹凸や線状痕が残る。側面は丁寧に研磨されているものの、縦位の線状痕が浅く残る。	
第515図 PL.210	9	石製品 白玉	床直上 完形	長幅	0.6 0.7	厚 重	0.4 0.2	-/-/滑石	孔径3mm。上下面とも研磨されている。側面も研磨されているが、縦方向の線状痕が残る。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第515図 PL.210	10	石製品 白玉	床直上 完形	長幅 0.5 0.5	厚 0.4 0.1		-/-/滑石	孔径3mm。上下面とも丁寧に研磨されている。側面も研磨されているものの、整形時の縦位線状痕が残る。	
第515図 PL.210	11	石製品 白玉	中央北部床直上 完形	長幅 0.7 0.7	厚 0.6 0.2		-/-/蛇紋岩	孔径2mm。体部の長さが均一ではなく、上下面の研磨も粗いことから、未成品と推定される。側面には縦方向の線状痕が残る。	

1区8面 76号住居遺物観察表

第516図	1	土師器 杯	カマド床直上 口縁部～底部 1/3	口底 12.3 -	高 -		粗砂粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。器面は摩滅のため整形不詳。口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。	
第516図	2	土師器 埴	南西部床直上 口縁部～頸部 1/2	口底 9.8 -	高 -		粗砂粒少/良好/橙	器面は摩滅のため、整形不明。	
第516図	3	土師器 甕	南東部床直上 胴部下位～底部	口底 6.0 -	高 -		粗砂粒・軽石/良好/にぶい橙	胴部外面はヘラ削りの上に縦位のヘラナデ。内面は横位のヘラナデ。	器面に炭素吸着。
第516図 PL.210	4	石製品 砥石	中央部床直上 完形	長幅 17.1 6.6	厚 4.3 673.4		-/-/粗粒輝石安山岩	棒状礫の側面および裏面中央部に研磨による平滑面が認められる。多数の刃慣らし傷が両面に見られる。	

1区8面 78号住居遺物観察表

第519図	1	土師器 杯	東壁床直上10cm 1/4	口底 11.6 -	高 3.9 -		粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。内面はナデ。	
第519図	2	土師器 甕	カマド袖材 口縁部～胴部上 半1/4	口底 23.0 -	高 -		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。外面に粘土付着。
第519図 PL.210	3	土師器 甕	カマド袖材 3/4	口底 17.7 3.9	高 25.0 -		粗砂粒多/良好/橙	口縁部内面は先端直下に弱い屈曲点。横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。下位は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面は摩滅。炭素吸着。

1区8面 79号住居遺物観察表

第520図	1	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口底 14.8 -	高 -		粗砂粒/良好/明黄褐	口縁部横ナデ。	
-------	---	----------	-------------	-----------------	--------	--	------------	---------	--

1区8面 80号住居遺物観察表

第522図 PL.210	1	土師器 杯	南壁床直上、埋没土 一部欠損	口底 11.7 -	高 4.5 -		粗砂粒・雲母/良好/橙	口縁部と底部の間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第522図	2	土師器 杯	カマド前床 11cm 1/2	口底 11.8 -	高 -		粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。口縁部は横位のヘラ磨きを重ねる。	
第522図 PL.210	3	土製品 丸玉	埋没土 一部欠損か	長幅 0.62 0.75	厚 0.75 0.1		細砂粒/酸化焰/黒褐	形状はいびつ。器面はナデ調整。	重量0.32g

1区8面 81号住居遺物観察表

第524図	1	土師器 杯	中央南部床直上 12cm 1/3	口底 -	高 -		粗砂粒少/良好/橙	口縁部の先端は欠損。底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
-------	---	----------	------------------------	---------	--------	--	-----------	---	--

1区8面 82号住居遺物観察表

第526図	1	土師器 甕	東部床直上 胴部のみ	口底 -	高 -		粗砂粒多・赤色粘土粒・軽石/良好/明赤褐	外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
-------	---	----------	---------------	---------	--------	--	----------------------	------------------------	-----

1区8面 83号住居遺物観察表

第527図	1	須恵器 高杯	埋没土 杯下半1/4	口底 -	高 -		粗砂粒/酸化焰/明黄褐	ロクロ整形(回転方向不明)。基部に透孔を切り込む際のヘラの当たった痕跡が見られる。	
第527図	2	土師器 甕	カマド床直上 胴部下位～底部	口底 5.6 -	高 -		粗砂粒多/良好/明赤褐	胴部外面は縦位のヘラ削り。最下位は横位。内面はヘラナデ。	被熱。

1区8面 84号住居遺物観察表

第530図	1	土師器 甕	中央部床直上 胴部下位～底部 1/4	口底 3.8 -	高 -		粗砂粒/良好/にぶい黄橙	底部中央に直径2.3cmの焼成前穿孔が見られる。切開面にヘラ削り。外面は斜位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第530図	2	土師器 甕	北部床直上 口縁部～胴部上 位片	口底 17.4 -	高 -		粗砂粒多/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	器面は摩滅。内面に炭素吸着。黒色。
第530図	3	土師器 甕	カマド右袖側床直上 口縁部～胴部上 位1/4	口底 18.8 -	高 -		粗砂・細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面は摩滅。
第530図 PL.210	4	石製品 凹石	カマド床直上 完形	長幅 21.2 14.7	厚 10.8 2374.4		-/-/ニツ岳軽石	軽石転石の上面中央に研磨による漏斗(すり鉢)状の孔を有する。	

1区8面 85号住居遺物観察表

第532図	1	土師器 杯	カマド前床直上 1/2	口底 12.5 -	高 5.1 -		細砂粒・赤褐色粘土粒/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第532図	2	土師器 杯	東部床直上 3/4	口底 12.3 -	高 3.9 -		細砂粒・赤褐色粘土粒/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第532図	3	土師器 杯	カマド前床直上 3/4	口底 12.6 -	高 4.7 -		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第532図 PL.210	4	土師器 杯	カマド前床直上 口縁部～底部 2/3	口 底	13.3 -	高 -	-	細砂粒・赤茶色粘 土粒/良好/橙	器形は歪んでいる。整形は器面が摩滅のため不明。口縁部 は横ナデ。
第532図 PL.210	5	土師器 鉢	カマド前床直上 1/2	口 底	10.6 -	高 -	9.0 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は体部、底部との間に稜を有する。中位には段が見 られる。横ナデ。体部から底部は横位のヘラ削り。内面は 横位のヘラナデ。
第532図	6	土師器 甕	中央部床直上 口縁部～胴部上 位1/2	口 底	20.0 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。

1区8面 86号住居遺物観察表

第534図	1	土師器 杯	カマド前床上8 cm 3/4	口 底	12.3 -	高 -	4.55 -	粗砂粒・雲母/良 好/にぶい黄橙	口縁部は底部との間に稜を有する。中位には明瞭な段をな す。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面の一部に 炭素吸着。
第534図 PL.210	2	土師器 杯	東壁床直上、床 上6cm 口縁部一部欠	口 底	12.3 -	高 -	3.9 -	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい褐	口縁部は底部との間に稜を有する。中位には明瞭な段を持 つ。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸 着。摩滅。
第534図	3	土師器 甕	貯蔵穴、埋没土、 101住埋没土 口縁部～胴部中 位1/2	口 底	14.0 -	高 -	-	粗砂粒・軽石/良 好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面上位は斜横位の、中位以下は斜 縦位のヘラ削り。内面は斜横位のヘラナデ。	器面に炭素吸 着。
第534図 PL.210	4	石製品 砥石	埋没土 破片	長 幅	(3.8) (2.6)	厚 重	2.1 29.2	-/-/砥沢石	孔径4mm。下半部欠損。孔周辺の観察から、穿孔は破損以 前のものである。正面および左側面、小口面の3面使用。	有孔砥石

1区8面 87号住居遺物観察表

第536図	1	土師器 杯	南部床上10cm、 89住埋没土 1/2	口 底	11.2 -	高 -	4.6 -	粗砂粒少・雲母/ 良好/にぶい褐	口縁部は底部との間に稜を有する。底部は中心寄りが平底 を呈する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸 着。
第536図	2	土師器 杯	南東部床直上 口縁部～底部 1/4	口 底	15.3 -	高 -	-	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第536図 PL.210	3	土師器 高杯	南西部床直上 杯部下位～脚部	口 底	-	高 脚	11.6 -	粗砂粒・雲母/良 好/橙	脚部外面は縦位のヘラ削り。裾部は横ナデ。内面はヘラナ デ。	器面はやや摩 滅。
第536図 PL.210	4	土師器 鉢	東部床直上 1/2	口 底	9.6 4.9	高 -	9.2 -	粗砂粒/良好/浅黄	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。最下位は ナデ。内面は斜横位のヘラナデ。	器面に炭素吸 着。
第536図 PL.210	5	土師器 鉢	埋没土 1/2	口 底	9.6 4.2	高 -	9.3 -	粗砂粒多/良好/に ぶい黄橙	小型の甕に類する形状。口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦 位に粗雑なヘラ削り。内面は斜縦位のヘラナデ。	器面は摩滅。
第536図 PL.211	6	土師器 小型甕	南西部床直上 口縁部～胴部下 位	口 底	12.3 -	高 -	-	粗砂粒/良好/淡黄	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位にナデに近いヘラ削り。 内面は横位のヘラナデ。	被熱の為か、 器面は摩滅。

1区8面 88号住居遺物観察表

第540図	1	土師器 杯	東部床直上 1/2	口 底	12.9 -	高 -	4.35 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第540図	2	土師器 杯	南東部床直上 1/3	口 底	13.4 -	高 -	4.1 -	粗砂粒少/良好/に ぶい赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸 着。
第540図	3	土師器 杯	南東部床直上 1/2	口 底	13.2 -	高 -	4.0 -	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。中位には弱い段が 見られる。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	器面はやや摩 滅。
第540図	4	土師器 杯	南東部床直上 1/4	口 底	13.8 -	高 -	3.5 -	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は中位に弱い段をなす。横ナデ。底部外面はヘラ削 り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第540図	5	土師器 甕	P4 1/4	口 底	15.3 4.0	高 -	11.2 -	粗砂粒多/良好/に ぶい黄橙	底部に直径2.8cmの焼成前穿孔あり。切開面にヘラ削り。 口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面上位は 横位、それ以下は縦位のヘラナデ。	
第540図 PL.211	6	土師器 小型甕	東壁床直上 口縁部～胴部下 位	口 底	15.8 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	被熱のため器 面は摩滅。炭 素吸着。
第540図 PL.211	7	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部中 位	口 底	19.5 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位にナデに近いヘラ削り。 斜横位はヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面に炭素吸 着。
第540図	8	土師器 甕	貯蔵穴 1/4	口 底	21.2 8.2	高 -	38.7 -	粗砂粒・軽石/良 好/浅黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は頸部直下にナデの部分を残し、 以下上半部は縦位のヘラ削り。下半部は斜位のヘラ削り。 内面は横位のヘラナデ。	外面の広い範 囲に炭素吸 着。
第540図 PL.211	9	石製品 凹石	中央北西より床 直上 完形	長 幅	26.8 24.2	厚 重	12.5 3858.0	-/-/ニツ岳石	軽石転石の上面の中央部に漏斗状の凹みを有する。凹み内 部は風化し、研磨の痕跡は明らかではない。	

1区8面 89号住居遺物観察表

第542図	1	土師器 高杯	北西部床直上 杯部下位～脚部	口 底	-	高 脚	10.1 -	粗砂粒少・雲母/ 良好/明赤褐	脚部外面はナデ後、縦位にヘラ磨きを重ねる。内面は横ナ デ。	
第542図 PL.211	2	土師器 鉢	西部床直上 口縁部一部欠	口 底	12.6 6.9	高 -	14.2 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口径に比して底径が大きい。口縁部は横ナデ。胴部外面は 縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面に炭素吸 着。
第542図 PL.211	3	土師器 甕	西壁床直上 完形	口 底	17.8 5.1	高 -	8.2 -	粗砂粒・雲母/良 好/浅黄	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラナデに近いヘラ削 り。内面は横位のヘラナデ。底部に直径約3.5cmの焼成前 穿孔。孔の切開面にヘラ削り。	外面の一部に 炭素吸着。黒 斑か。
第542図 PL.211	4	土師器 小型甕	カマド床直上 3/4	口 底	12.1 5.7	高 -	14.3 -	粗砂粒・軽石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は3回に分けて斜縦位のヘラ削 り。内面は横位のヘラナデ。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高さ	口径			
第542図	5	土師器 甕	南東部床直上 口縁部～胴部上 位1/4	口底 -	25.0 -	高 -	粗砂・細砂粒/良 好/橙	器面は摩滅のため、整形不明。	外面に黒斑。
1区8面 90号住居遺物観察表									
第544図 PL.212	1	土師器 甕	東部床直上 口縁部～頸部片	口底 -	15.4 -	高 -	粗砂粒・雲母/良 好/明赤褐	口縁部は中位に弱い段をなす。横ナデ。胴部外面は弱いタッチのヘラ削り。	
第544図	2	土師器 甕	西部床直上 口縁部～胴部上 位片	口底 -	22.4 -	高 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
1区8面 91号住居遺物観察表									
第545図 PL.212	1	土師器 杯	中央部床直上 完形	口底 -	11.5 -	高 4.1 -	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられるが器面摩滅のため不明。	
第545図	2	土師器 杯	東部床直上 3/4	口底 -	10.4 -	高 3.4 -	粗砂粒少/良好/に ぶい褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。底部外面に黒斑。
第545図	3	土師器 杯	東部床直上 一部欠損	口底 -	10.1 -	高 3.8 -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は内湾して立ち上がる。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。口縁部との間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面は摩滅。
第545図	4	土師器 杯	東壁床直上 3/4	口底 -	11.2 -	高 3.5 -	粗砂粒・雲母/良 好/明赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや炭素吸着。やや摩滅。
第545図	5	土師器 杯	床上6、7cm 3/4	口底 -	10.8 -	高 3.4 -	粗砂粒少/良好/に ぶい褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。底部外面に黒斑。
第545図 PL.212	6	土師器 杯	南東部床直上 口縁部一部欠	口底 -	13.2 -	高 5.0 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第545図 PL.212	7	土師器 杯	東部床直上 完形	口底 -	14.8 -	高 4.7 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第547図	8	土師器 杯	西部床直上 1/2	口底 -	18.2 -	高 6.1 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第547図	9	土師器 杯	東部床直上 3/4	口底 -	13.1 -	高 4.2 -	粗砂粒少/良好/に ぶい赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面はやや炭素吸着。
第547図	10	須恵器 高杯	東壁床上8cm、 埋没土 脚部下位1/3	口底 -	-	高脚 12.0	白色鉾物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形。右回転。	
第547図 PL.212	11	土師器 甕	カマド前床直上、 埋没土 3/4	口底 3.1	22.0 -	高 32.0 -	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は上位から中位が縦位の、下位が斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第547図 PL.213	12	土師器 甕	カマド床直上 胴部下位～底部	口底 4.9	-	高 -	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい黄褐	胴部外面は斜縦位のヘラ削り。下位は横位。内面は斜位・横位のヘラナデ。底部外面は木葉痕の上にヘラ削り。	被熱。
第547図 PL.212	13	土師器 甕	袖先端部 口縁部～胴部下 位	口底 -	22.0 -	高 -	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は3～4回に分けて縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。炭素吸着。
第547図 PL.212	14	土師器 甕	袖先端部 2/3	口底 -	21.4 -	高 -	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は3回ほどに分けて斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。外面の一部に炭素吸着。
第548図 PL.212	15	土師器 甕	東部床直上、埋 没土 3/4	口底 5.9	22.3 -	高 35.0 -	粗砂粒/良好/明赤 褐	底径は他に比してやや大きい。口縁部は横ナデ。胴部外面上半部は斜縦位のヘラ削り。下半部は斜位・斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。内面は摩滅。
第548図 PL.213	16	土師器 甕	カマド床直上 3/4	口底 4.9	20.0 -	高 34.9 -	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は2度に分けて横ナデ。内面先端に弱い段を有す。胴部外面上位から中位は斜縦位・斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第548図 PL.213	17	石製品 紡輪	西壁床直上 完形	径幅 -	4.1 -	厚重 1.6 43.8	-/-/蛇紋岩	孔径6mm。側面形はかまぼこ状を呈する。側面では、広面側5～6mmの部分に横方向の削り痕が著しく、削りの単位が観察できる。	
第548図 PL.213	18	石製品 凹石	埋没土 完形	長幅 14.7	19.6 -	厚重 8.4 1753.3	-/-/二ツ岳石	軽石転石の上面中央に刺突による浅い皿状の孔を有する。裏面は平滑面を形成している。	
1区8面 92号住居遺物観察表									
第551図	1	土師器 杯	床直上 2/3	口底 -	12.6 -	高 6.0 -	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に底部中央から放射状のヘラ磨き。	器面に炭素吸着。
第551図	2	土師器 杯	床直上 2/3	口底 -	11.8 -	高 4.4 -	細砂粒・赤褐色粘 土粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。底部外面は手持ちヘラ削り。	器面は摩滅。
第551図	3	土師器 杯	床直上 1/2	口底 -	11.6 -	高 4.3 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第551図 PL.213	4	土師器 杯	床直上 2/3	口底 -	15.6 -	高 6.2 -	細砂粒・雲母/良 好/にぶい橙	口縁部は底部との間に稜を有する。先端は内側に弱い段をなして尖る。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部外面に炭素吸着。黒斑か。
第551図 PL.213	5	土師器 甕	床直上、埋没土 口縁部～胴部下 位	口底 -	19.2 -	高 -	粗砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。器面は摩滅。

1区8面 93号住居遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	径				
第553図 PL.213	1	土師器 杯	カマド床上9cm 完形	口底 -	11.7 -	高 -	4.8 -	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶ い黄橙	器形は大きく歪んでいる。口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第553図 PL.213	2	土師器 杯	南西隅床上9cm 一部欠損	口底 -	12.2 -	高 -	5.2 -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第553図	3	土師器 杯	南西隅床上10、 16cm 3/4	口底 -	12.2 -	高 -	5.4 -	粗砂粒・雲母/良 好/明赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第553図 PL.213	4	土師器 甌	南西隅床上12cm 3/4	口底 5.2	15.0 -	高 -	8.9 2.5	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は上半部がヘラナデ。下半部がヘラ削り。内面はヘラナデ。底部外面はヘラ削り。中央に直径2.5cmの焼成前穿孔。	器面は摩滅。
第554図 PL.214	5	土師器 甌	貯蔵穴 3/4	口底 8.4	21.6 -	高 -	26.2 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は不定方向にヘラナデ。底部周縁部にはヘラ削り。	外面の一部に黒斑。
第554図 PL.214	6	土師器 小型甕	貯蔵穴 完形	口底 4.7	14.5 -	高 -	16.2 -	粗砂粒・雲母/良 好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜位のヘラ削り。底部寄りには横位の、内面は横位のヘラナデ。	器面は摩滅。
第554図 PL.214	7	土師器 甕	貯蔵穴 口縁部～胴部下 位2/3	口底 -	16.0 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面上位は横位の、下位は縦位のヘラナデ。	被熱。
第554図 PL.214	8	土師器 甕	カマド床直上 3/4	口底 8.8	19.7 -	高 -	30.0 -	粗砂粒・軽石/良 好/にぶい黄橙	器形は歪み、横断面は長円形。口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。下位は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面は被熱。摩滅。
第554図 PL.214	9	土師器 甕	貯蔵穴 口縁部・胴部一 部欠	口底 6.3	17.6 -	高 -	35.6 -	粗砂粒・軽石/良 好/浅黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位あるいは斜縦位のヘラ削り。最下部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。

1区8面 94号住居遺物観察表

第555図	1	土師器 杯	掘り方 口縁部～底部片	口底 -	11.8 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第555図	2	須恵器 杯	埋没土 口縁部下位～底 部片	口底 6.0	- -	高 -	- -	白色鈹物粒少/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。底部切り離し後、粗雑なナデ調整。	

1区8面 95号住居遺物観察表

第557図 PL.214	1	須恵器 杯	カマド前床直上 3/4	口底 5.5	13.3 -	高 -	4.5 -	粗砂粒・雲母/酸 化焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面に炭素吸着。摩滅。
-----------------	---	----------	----------------	-----------	-----------	--------	----------	-------------------	--------------------------	-------------

1区8面 96号住居遺物観察表

第561図	1	土師器 杯	南東隅床上6cm 口縁部片	口底 -	12.2 -	高 -	5.4 -	粗砂・細砂粒・雲 母/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。底部外面に黒斑。
第561図 PL.214	2	土師器 杯	東部床上6cm 完形	口底 -	12.5 -	高 -	5.5 -	粗砂・細砂粒・雲 母/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面の一部に炭素吸着。
第561図	3	土師器 杯	東部床直上 口縁部片	口底 -	13.2 -	高 -	5.2 -	粗砂粒・細砂粒・ 雲母/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第561図 PL.214	4	土師器 杯	東壁床上9cm 完形	口底 -	9.4 -	高 -	5.7 -	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は横位に磨き状のナデ。内面はナデ。	底部に黒斑。
第561図 PL.214	5	土師器 鉢	カマド掘り方 底部一部欠	口底 -	11.8 -	高 -	8.0 -	粗砂粒多/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。体部から底部は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面に炭素吸着。
第561図	6	土師器 小型甕	貯蔵穴、南壁床 直上 2/3	口底 -	14.0 -	高 -	12.3 -	粗砂粒・雲母/良 好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ。胴部外面上位・中位は縦位の、下位は横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	外面は被熱か。
第561図 PL.215	7	土師器 甌	右袖側床上6cm 口縁部一部欠	口底 5.5	13.1 -	高 -	14.1 -	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のナデに近いヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。平底の底部の中央に直径3.9cmの焼成前穿孔。孔の切開面にヘラ削り。	器面は摩滅。
第561図 PL.215	8	土師器 小型甕	東壁床上13cm 3/4	口底 5.6	17.0 -	高 -	14.7 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部外面の整形は粗雑。	器面に炭素吸着。
第561図 PL.215	9	土師器 甕	貯蔵穴周り南東 部床直上 2/3	口底 7.3	14.4 -	高 -	24.0 -	粗砂粒少/良好/明 赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面上位は横位のナデ。中位は斜位の磨きに近いヘラナデ。下位は斜縦位のヘラナデ。内面は横位のヘラナデ。	外面に炭素吸着。摩滅。
第561図 PL.215	10	土師器 甕	貯蔵穴 完形	口底 7.1	18.0 -	高 -	26.0 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は3～4回に分けて縦位のヘラ削り。下位の接合部分は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。外面に炭素吸着。
第561図 PL.215	11	土師器 ミアア土器	埋没土 1/2	口底 2.8	5.6 -	高 -	5.9 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は指ナデ。	被熱か。器面は摩滅。

1区8面 97号住居遺物観察表

第562図	1	土師器 杯	西壁床上8cm 1/4	口底 -	12.0 -	高 -	- -	赤茶色粘土粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。内面はナデ。	器面は摩滅。
-------	---	----------	----------------	---------	-----------	--------	--------	-----------------	-----------------------------------	--------

1区8面 98号住居遺物観察表

第564図 PL.215	1	土師器 杯	中央部床直上 3/4	口底 -	12.0 -	高 -	- -	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部外面に黒斑。
第564図 PL.215	2	土師器 杯	中央部床直上 口縁部一部欠	口底 -	12.7 -	高 -	5.5 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。上位にナデの部分を残す。内面はナデの上に斜横位のヘラ磨き。	底部外面に黒斑。
第564図 PL.215	3	土師器 杯	貯蔵穴 口縁部一部欠	口底 -	11.6 -	高 -	5.5 -	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。上位にナデの部分を残す。内面はナデの上に斜横位のヘラ磨き。	底部外面に黒斑。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第564図 PL.216	4	土師器 甌	貯蔵穴周辺床直上 完形	口底 15.0 5.1	高 -	12.1 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラナデに近いヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。平底の底面の中央に直径2.5cmの焼成前穿孔。孔の切開面にヘラ削り。	
第566図	5	土師器 甕	北部床直上、床 上6cm 口縁部～胴部上 位	口底 20.8 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜位・斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。器面はやや炭素吸着。
第566図	6	土師器 甕	カマド前床直上 口縁部～胴部中 位1/4	口底 18.2 -	高 -	-	粗砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位にヘラナデに近いヘラ削り。内面の頸部直下は横位の、それ以下は縦位のヘラナデ。	器面に炭素吸着。
第566図	7	土師器 甕	カマド床直上 口縁部～胴部上 位1/2	口底 16.6 -	高 -	-	粗砂粒・雲母/良 好/浅黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラナデに近いヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第566図 PL.215	8	礫石器 スタンプ形 石器	西部壁直上 完形	長幅 11.7 6.7	厚 5.5 543.3		-/-/溶結凝灰岩	棒状の礫を素材とし、下面と上面が使用により非常に平滑になっている。握り部はやや丸められた形状である。	
第566図 PL.215	9	鉄製品 刀子	埋没土 破片	長幅 5.3 1.5	厚 0.6 4.23		-/-/-	刀子破片で、切先側はやや丸みを持つ三角形で明瞭な関は見られず細くなり端部は劣化破損する。	

1区8面 99号住居遺物観察表

第568図 PL.216	1	土師器 杯	西部床直上 3/4	口底 11.5 -	高 -	4.3 -	細砂粒・赤褐色粘 土粒/良好/橙	器面は歪み、平面は長円形を呈する。口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第568図 PL.216	2	土師器 杯	西部床直上 完形	口底 12.8 -	高 -	4.3 -	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられるが器面摩滅のため不明。	
第568図 PL.216	3	土師器 高杯	西部床直上 杯部下位～脚部 2/3	口底 10.6 -	高 脚	10.2 8.9	細砂粒/良好/橙	脚部外面に縦位のヘラ削り。裾部に横ナデ。内面は横位のヘラナデ。	器面は摩滅。
第568図 PL.216	4	土師器 甕	中央部床直上、 埋没土、85住埋 没土 1/2	口底 14.4 9.0	高 -	21.5 -	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/淡黄	口縁部は横ナデ。胴部外面上位から中位は横位のヘラ削り。下位は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面は摩滅。胴部外面に黒斑。
第568図 PL.216	5	土師器 小型甕	西部床直上 1/2	口底 18.3 6.7	高 -	22.1 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は上半部に縦位の、下半部に斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。摩滅。内外面に黒斑。
第568図	6	土師器 甕	床上8～13cm、 85住、125住埋 没土 口縁部～胴部中 位	口底 19.0 -	高 -	-	粗砂粒多/良好/橙	口縁部は3回に分けて横ナデ。中位に弱い稜を有する。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第569図 PL.216	7	土師器 甕	西部床直上、埋 没土 3/4	口底 15.6 -	高 -	27.4 -	粗砂粒・黒色鈹物 粒/良好/にぶい黄 橙	器形は全体が大きく歪んでいる。口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ削りを施しているが、器面摩滅のため詳細不明。内面はヘラナデ。	器面は摩滅。外面底部周辺に黒斑。
第569図 PL.216	8	土師器 壺	中央西より床直 上 1/2	口底 15.2 9.5	高 -	31.3 -	粗砂粒多/良好/灰 黄褐	口縁部を始め器形の歪み著しい。胴部外面上半部は縦位の、下半部は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面の広い範囲に炭素吸着。
第569図 PL.217	9	土師器 甕	中央部床直上、 床上6、7cm 3/4	口底 22.3 -	高 -	38.9 -	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は上半部が斜縦位の、下半部は横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	器面は摩滅。
第570図	10	土師器 甕	中央西より床直 上 頸～胴部上位片	口底 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラナデ。内面も横位のヘラナデ。	器面は摩滅。外面の一部に炭素吸着。
第570図	11	土師器 甕	東部床直上 口縁部～胴部上 位1/3	口底 20.8 -	高 -	-	粗砂粒多/良好/に ぶい褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第570図	12	土師器 手控ね	埋没土 1/3	口底 4.6 3.2	高 -	4.7 -	細砂粒多/良好/に ぶい黄橙	コップ状を呈する。内外面ともやや粗雑なナデ。	

1区8面 100号住居遺物観察表

第573図 PL.217	1	土師器 杯	南西部床直上 口縁部一部欠	口底 11.2 -	高 -	-	粗砂粒少/良好/明 赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第573図 PL.217	2	土師器 杯	南西部床直上 口縁部一部欠	口底 11.8 -	高 -	4.9 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第573図 PL.217	3	土師器 杯	南西部床直上 一部欠損	口底 11.7 -	高 -	4.8 -	粗砂粒少・赤色粘 土粒/良好/明赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第573図	4	土師器 杯	南西部床直上 3/4	口底 11.7 -	高 -	5.1 -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第573図	5	土師器 杯	床直上 1/3	口底 12.0 -	高 -	-	粗砂粒少/良好/明 赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面に炭素吸着。
第573図 PL.217	6	土師器 杯	東部床直上 完形	口底 12.1 -	高 -	5.3 -	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第574図 PL.217	7	土師器 杯	南部床直上 一部欠損	口底 12.9 -	高 -	5.1 -	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面に黒斑。
第574図	8	土師器 杯	東部床直上 1/2	口底 14.7 -	高 -	-	粗砂粒少/良好/明 赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第574図 PL.217	9	土師器 小型台付鉢 か	貯蔵穴 一部欠損	口 底	4.7 -	高 台	8.3 5.0	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は内湾して立ち上がる。体部は椀状を呈する。台部 は小さくハの字に外反する。外面の体部はヘラナデ。台部 は指ナデ。	器面に炭素吸 着。やや摩滅。
第574図 PL.217	10	土師器 小型壺	南東部床直上 頸部~胴部下位 1/2	口 底	- -	高 -	- -	粗砂粒少/良好/橙	胴部上半部は丁寧なナデ。下半部は横位のヘラ削り。内面 は頸部直下に指ナデ。以下は横位のナデ。	器面はやや摩 滅。
第574図 PL.217	11	土師器 甌	カマド前床直上 1/2	口 底	20.9 8.2	高 -	27.4 -	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/淡黄	口縁部は横ナデ。胴部外面は3回に分けて斜縦位のヘラ削 り。内面は横位のヘラナデ。孔の切開面にヘラ削り。	器面は摩滅。 一部に黒斑。
第574図 PL.217	12	土師器 甕	カマド東袖側床 直上 口縁部~胴部上 位1/3	口 底	16.6 -	高 -	- -	粗砂粒・雲母/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のハケ目。内面は頸部 付近が横位、上位が斜位、これ以下が縦位のハケ目。	
第574図 PL.217	13	土師器 甕	南東隅床直上 口縁部~胴部上 位片	口 底	18.0 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	被熱。
第574図 PL.217	14	土製品 丸玉	床直上 一部欠損	長 幅	1.25 1.25	厚 孔	1.3 0.08	粗砂粒少・雲母/ 酸化焰/黄灰	粘土塊を丸く整形している。粘土の重ねが見られる。一部 欠損し孔に達している。	重量1.87g
第574図 PL.218	15	土製品 土錘	埋没土 一部欠	長 幅	7.6 1.6	厚 孔	1.5 0.4	細砂粒/酸化焰/明 赤褐	小口と中位の直径、差が小さい。器面はナデ調整。	重量18.38g
第574図 PL.218	16	土製品 土錘	埋没土 一部欠損	長 幅	5.6 1.6	厚 孔	1.5 0.4	細砂粒/酸化焰/橙	器面はナデ調整。	器面は摩滅。 重量11.98g
第574図 PL.218	17	礫石器 石皿	床直上 完形	長 幅	17.6 17.3	厚 重	4.9 2084.9	-/-/二ツ岳石	扁平な円形礫の表裏面中央部が平滑であったため石皿とし た。	

1区8面 101号住居遺物観察表

第576図	1	土師器 杯	掘り方 3/4	口 底	10.4 -	高 -	3.4 -	粗砂粒少/良好/に ぶい橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸 着。
第576図	2	土師器 杯	埋没土 破片	口 底	12.3 -	高 -	- -	粗砂粒少/良好/に ぶい褐	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面 は手持ちヘラ削りと考えられる。	器面は摩滅。
第576図	3	土師器 甕	南東部床直上~ 床上6cm 口縁部~胴部中 位1/4	口 底	22.2 -	高 -	- -	粗砂・細砂粒・雲 母/良好/灰黄褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は頸部直下に横位のヘラ削り。 以下中位は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面は被熱。 炭素吸着。

1区8面 102号住居遺物観察表

第577図	1	土師器 甕	西部床直上 口縁部~胴部片	口 底	22.0 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ削り。内面は横位のヘラ ナデ。	
-------	---	----------	------------------	--------	-----------	--------	--------	----------	-----------------------------------	--

1区8面 103号住居遺物観察表

第578図 PL.218	1	土師器 杯	カマド床直上 口縁部・底部一 部欠	口 底	12.1 -	高 -	5.1 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜をなす。横ナデ。底部外面は手持 ちヘラ削り。内面はナデ。底部上位に小孔が見られる。焼 成後の穿孔のように見えるが器面の状況が悪く判断が困難 である。	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面 は手持ちヘラ削り。内面はナデ。
第578図	2	土師器 高杯	右袖先端部 脚部上半部	口 底	- -	高 -	- -	粗砂粒少/良好/橙	外面は丁寧なナデの上にヘラ磨きと考えられる。内面は上 半部にナデ。裾部寄りにはヘラ削り。	内面に炭素吸 着。黒色。
第578図 PL.218	3	土師器 小型壺	貯蔵穴 口縁部~胴部中 位	口 底	9.5 -	高 -	- -	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部の先端は横ナデ。以下は縦位のヘラ磨き。胴部外面 は横位・斜横位のヘラ磨き。内面は頸部直下に縦位の指ナ デ。以下はヘラナデ。	器面は摩滅。
第578図 PL.218	4	土師器 小型壺	貯蔵穴 口縁部~胴部上 半	口 底	10.8 -	高 -	- -	粗砂粒少・赤色粘 土粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	器面は摩滅。
第578図 PL.218	5	土師器 小型甕	貯蔵穴 口縁部~胴部中 位	口 底	11.7 -	高 -	- -	粗砂粒・雲母・軽 石/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	器面はやや摩 滅。

1区8面 104号住居遺物観察表

第582図	1	土師器 杯	カマド床直上 口縁部~底部 1/4	口 底	11.0 -	高 -	- -	粗砂・細砂粒/良 好/明赤褐	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面 は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第582図 PL.218	2	土師器 杯	カマド床直上 口縁部一部欠	口 底	10.4 -	高 -	3.2 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの 部分を残す。内面はナデ。	器面の一部に 炭素吸着。
第582図 PL.218	3	土師器 杯	東部床直上 完形	口 底	14.8 -	高 -	5.9 -	粗砂粒・雲母/良 好/褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面にやや炭 素吸着。
第582図 PL.218	4	土師器 甕	中央部床直上 口縁部~胴部中 位1/3	口 底	22.4 -	高 -	- -	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は横 位のヘラナデ。	外面に黒斑。 被熱。
第582図 PL.218	5	土師器 甕	中央部床直上 口縁部~胴部中 位1/3	口 底	23.6 -	高 -	- -	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は横 位のヘラナデ。	被熱。
第582図	6	土師器 甕	カマド床直上 口縁部~胴部下 位	口 底	21.4 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/橙	口縁部の内面、先端直下は沈線状にくぼむ。横ナデ。胴部 外面は3回に分けて縦位のヘラ削り。頸部には工具の強い 当たりの痕跡が残る。残存部最下位のヘラ削りは、斜横位。 内面は横位のヘラナデ。	器面に被熱。 煤付着。
第582図 PL.218	7	土師器 甕	カマド床直上、 カマド掘り方 胴部下半3/4	口 底	- 4.8	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶ い褐	胴部外面に縦位・斜位のヘラ削り。内面は斜横位のヘラナ デ。底部外面はヘラ削り。	破碎後、二次 被熱。炭素吸 着。
第582図	8	須恵器 甕	埋没土 口縁部片	口 底	14.8 -	高 -	- -	黒色鉱物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第582図 PL.218	9	石製品 凹石	床上23cm 完形	長幅 13.3	17.5 厚	6.1 2175.7	-/-/粗粒輝石安山 岩	自然石の上面中央にすり鉢状の研磨による孔を有する。	

1区8面 105号住居遺物観察表

第584図 PL.219	1	土師器 杯	貯蔵穴、北東床 直上 完形	口底	13.0 -	高 4.9 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや歪む。摩滅。
第584図	2	土師器 杯	貯蔵穴 1/2	口底	13.4 -	高 4.8 -	粗砂粒・雲母/良 好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。中位には段をなす。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。
第584図 PL.219	3	土師器 杯	北西床直上 口縁部一部欠	口底	13.1 -	高 4.6 -	粗砂粒少/良好/に ぶい褐	口縁部は底部との間に稜を有する。中位には明瞭な段をなす。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面の一部に炭素吸着。
第585図 PL.219	4	土師器 鉢	中央部床直上、 床上10cm 口縁部～体部下 位1/3	口底	14.2 -	高 -	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は体部との間に稜を有する。口縁部は中位に2か所段がある。横ナデ。体部外面は横位のヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。
第585図 PL.219	5	土師器 鉢	カマド、北部床 直上 1/2	口底	19.4 -	高 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は横位のヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第585図 PL.219	6	須恵器 鉢	埋没土 破片	口底	14.2 8.0	高 -	白色鋳物粒/還元 焰/褐灰	ロクロ整形。右回転。底部外面は手持ちヘラ削りか。	
第585図	7	土師器 甕	中央部床直上、 埋没土 口縁部～胴部中 位	口底	20.8 -	高 -	粗砂粒多・赤褐色 粘土粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位・斜横位のヘラナデ。	外面に黒斑。内面は摩滅。
第585図	8	土師器 甕	北東部床上7 cm、埋没土 口縁部～胴部上 位1/4	口底	19.6 -	高 -	粗砂粒・白色鋳物 粒/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。

1区8面 106号住居遺物観察表

第586図	1	須恵器 椀	南壁 口縁部下位～高 台部片	口底	-	高台 6.6	粗砂粒・雲母/酸 化焰/灰黄褐	ロクロ整形(右回転か)。高台部は底部回転糸切り後の付高台。	器面は摩滅。鉄分凝集。
-------	---	----------	----------------------	----	---	-----------	--------------------	-------------------------------	-------------

1区8面 107号住居遺物観察表

第589図	1	土師器 杯	中央部床直上 1/4	口底	10.8 -	高 -	粗砂粒少/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。口縁部との間に僅かにナデの部分を残す。内面はナデ。	
第589図	2	土師器 甕	中央部床直上、 埋没土 口縁部～胴部片	口底	23.6 -	高 -	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第589図 PL.219	3	土製品 土錘	埋没土 一部欠損	長幅 7.8 1.7	厚 1.5 0.4	厚孔	細砂粒/酸化焰/明 赤褐	平面形は葉巻状を呈する。器面はナデ調整。	重量21.93g
第589図 PL.219	4	土製品 土錘	埋没土 2/3	長幅 5.8 2.0	厚 1.8 0.4 0.5	厚孔	細砂粒/酸化焰/褐	器面はナデ調整。下端は欠損。	重量19.30g
第589図 PL.219	5	土製品 土錘	掘り方、埋没土 1/3	長幅 4.0 1.8	厚 1.7 0.4	厚孔	細砂粒/酸化焰/明 赤褐	器面はナデ調整。	重量9.37g

1区8面 108号住居遺物観察表

第591図	1	土師器 杯	カマド前床直上 1/2	口底	11.8 -	高 3.8 -	細砂粒・赤茶色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第591図	2	土師器 杯	南壁 3/4	口底	12.8 -	高 5.1 -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にわずかにナデの部分を残す。内面はナデ。	器面に鉄分凝集。
第591図 PL.219	3	土師器 台付甕	東部床直上 台部	口底	-	高台 10.7	粗砂粒多/良好/に ぶい黄橙	外面は縦位のヘラ削り。裾部は横ナデ。内面は横位のヘラ削り。	
第591図	4	須恵器 杯	西部床上12cm 1/4	口底	9.2 5.8	高 3.0 -	黒色・白色鋳物粒 少/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部切り離し後、ナデ調整。	
第591図	5	土師器 甕	南東隅床上10cm 口縁部～胴部中 位	口底	16.5 -	高 -	粗砂粒・軽石/良 好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第591図	6	土師器 甕	南部床直上 口縁部～胴部中 位1/4	口底	14.6 -	高 -	粗砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。胴部外面上半部は横位のヘラ削り。残存下位は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面は摩滅。
第591図	7	土師器 甕	南部床直上 胴部下位～底部	口底	-	高 -	粗砂粒/良好/にぶ い褐	外面は斜横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第591図	8	須恵器 甕	東部床直上 口縁部～胴部中 位1/4	口底	18.2 -	高 -	白色・黒色鋳物粒 /還元焰・軟質/灰 黄	紐づくり後、口縁部はロクロ整形。胴部は叩き整形。外面は平行叩き目か。内面は同心円文状の当て具痕。	器面は摩滅。鉄分凝集の為観察困難。

1区8面 110号住居遺物観察表

第594図 PL.219	1	土師器 杯	カマド床直上 口縁部一部欠	口底	12.9 -	高 4.4 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。中位には段をなす。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第594図	2	土師器 甕	カマド床直上 口縁部～胴部上 位1/4	口底	22.8 -	高 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。	被熱。内面は摩滅。
第594図	3	土師器 甕	中央部床直上 口縁部～胴部上 位1/4	口底	14.1 -	高 -	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は中位に段をなす。横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第594図 PL.219	4	土師器 甕	中央部床直上 口縁部～胴部中 位1/3	口底 -	21.1 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は3回に分けて横ナデ。中に弱い稜を有する。胴部外面は上半部に斜位、下半部に横位のヘラ削り。内面は横位のヘラ削り。	器面は摩滅。

1区8面 111号住居遺物観察表

第597図	1	土師器 杯	東部床直上 1/3	口底 -	11.2 -	高 -	4.5 -	粗砂・細砂粒/良 好/明赤褐	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。2度に分けて横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第597図 PL.219	2	土師器 杯	南東部床上20cm 完形	口底 -	11.0 -	高 -	3.6 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	器面は摩滅。
第597図	3	土師器 杯	掘り方 1/2	口底 -	11.4 -	高 -	3.7 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。2度に分けて横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第597図	4	土師器 杯	南部床上15cm 口縁部一部欠	口底 -	10.8 -	高 -	3.3 -	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第597図 PL.219	5	土師器 杯	中央部床直上 1/4	口底 -	11.7 -	高 -	3.7 -	細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	
第597図	6	土師器 小型甕	東部床直上、床 上8cm 口縁部～胴部中 位1/2	口底 -	10.6 -	高 -	-	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ削り。内面はヘラナデと考えられるが、器面摩滅のため詳細不明。	
第597図	7	土師器 甕	煙道先端 口縁部～胴部上 位1/3	口底 -	21.6 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第597図 PL.219	8	石製品 凹石	カマド掘り方 完形	長幅 14.3	25.5 12.1	厚重 3522.0	-/-	ニツ岳軽石	軽石転石の上面中央に研磨による漏斗(すり鉢)状の孔(直径8cm)を有する。	

1区8面 112号住居遺物観察表

第599図 PL.219	1	土師器 杯	カマド掘り方 完形	口底 -	11.8 -	高 -	3.2 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は歪んでいる。上半部は横ナデ。以下はナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	器面に鉄分含む土粒付着。
第599図 PL.219	2	須恵器 皿	南壁掘り方 底部一部欠	口底 -	12.0 -	高台 6.0	2.7 6.0	灰黒色粘土粒/酸 化焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付高台。底部を薄く切り離したため、穴が開いてしまっている。	器面は摩滅。一部に炭素吸着。
第599図 PL.219	3	須恵器 皿	南西部床直上 口縁部一部欠	口底 -	13.1 -	高台 6.3	3.0 6.3	粗砂粒/酸化焰か/ 黄灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付高台。貼付後、周縁部にナデ調整。	底部外面と高台部内面を除く器面に炭素吸着。
第599図 PL.219	4	須恵器 椀	南西部床直上 2/3	口底 -	21.8 -	高台 11.6	9.8 11.6	黒色鉄物粒多・白 色鉄物粒少/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。最下位に回転ヘラ削り。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。貼付後、周縁部にナデ調整。	高台部端部には棒状の圧痕が多く見られる。
第599図	5	土師器 甕	カマド床直上 口縁部～胴部中 位1/4	口底 -	20.8 -	高 -	-	粗砂・細砂粒/良 好/明褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面は摩滅、剥離。
第599図 PL.220	6	土師器 甕	カマド床直上 口縁部～胴部中 位2/3	口底 -	19.4 -	高 -	-	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面上位は斜横位、中位は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。

1区8面 113号住居遺物観察表

第601図	1	土師器 杯	カマド左袖 1/4	口底 -	13.8 -	高 -	4.6 -	細砂粒・雲母/良 好/明赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第601図	2	土師器 杯	埋没土、掘り方 1/2	口底 -	12.2 -	高 -	3.8 -	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい赤 褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第601図	3	土師器 甕	カマド前床直上 口縁部～胴部上 位1/4	口底 -	19.2 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。

1区8面 114号住居遺物観察表

第602図 PL.220	1	土師器 杯	西部床直上 口縁部1/4欠	口底 -	11.6 -	高 -	3.7 -	粗砂粒/良好/明褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面に黒色の付着物。
第602図 PL.220	2	土師器 杯	北西部床直上 完形	口底 -	12.2 -	高 -	4.4 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第602図 PL.220	3	土師器 杯	北西部床直上 完形	口底 -	12.3 -	高 -	4.4 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第602図 PL.220	4	石製品 凹石	西部床直上 2/3	長幅 (10.2)	(12.0) (10.2)	厚重 299.3	(5.9)	-/-	ニツ岳軽石	軽石転石の正面中央部に漏斗状の凹みを有する。凹み内部は摩滅により一部平滑になっている。

1区8面 115号住居遺物観察表

第603図	1	土師器 杯	掘り方埋没土 破片	口底 -	12.2 -	高 -	-	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面はヘラ削り。内面はナデ。	
-------	---	----------	--------------	---------	-----------	--------	---	------------------	--------------------------	--

1区8面 116号住居遺物観察表

第606図	1	土師器 杯	東部床直上 1/4	口底 -	11.8 -	高 -	4.8 -	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。	器面は摩滅。
第606図	2	土師器 杯	埋没土 口縁部1/2欠	口底 -	10.7 -	高 -	3.2 -	粗砂粒・雲母/良 好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第606図 PL.220	3	土師器 高杯	東部床直上 杯部3/4、脚部 欠	口底 -	11.7 -	高 -	-	粗砂粒少・赤色粘 土粒/良好/赤褐	杯部はいわゆる模倣杯の形状をなす。口縁部は横ナデ。脚部外面はヘラナデ。	器面は摩滅。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第606図 PL.220	4	土師器 高杯	北東部床直上 杯部欠損・脚部欠	口底	-	高台	8.3	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	杯部はいわゆる模倣杯の形状をとっていたと考えられる。脚部外面は縦位のヘラナデ。裾部は横ナデ。	杯部内外面と脚部外面に赤色塗彩。脚部内面に炭素吸着。
第606図 PL.220	5	土師器 甌	南東部床直上 1/2	口底	26.2	高	23.2	粗砂粒・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は横位を主体に一部縦位のヘラナデ。底部には直径8cmの焼成前穿孔。孔の切開面にヘラ削り。	被熱。外面の一部に黒斑。
第606図	6	土師器 小型甕	中央部床直上 口縁部～胴部下位1/4	口底	16.2	高	-	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第606図	7	土師器 甕	中央部床直上 口縁部～胴部上位4/5	口底	16.5	高	-	粗砂粒/良好/浅黄	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラナデ。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第606図	8	土師器 甕	中央部床直上 口縁部～胴部中位2/3	口底	19.8	高	-	粗砂粒/良好/浅黄	口縁部は横ナデ。胴部外面は3回ほどに分けて斜縦位のナデに近いヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。外面に炭素吸着。
第606図 PL.220	9	土製品 土錘	掘り方 1/2	長幅	4.3 1.6	厚孔	1.5 0.4	細砂粒/酸化焰/にぶい赤褐	器面はナデ調整。小口面の欠損は旧事か。	重量11.30g

1区8面 117号住居遺物観察表

第607図	1	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位片	口底	17.9	高	-	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のナデに近いヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
-------	---	----------	------------------	----	------	---	---	--------------	---------------------------------------	-----

1区8面 118号住居遺物観察表

第610図 PL.220	1	土師器 杯	埋没土 口縁部1/4欠	口底	12.2	高	4.8	粗砂粒少・赤褐色粘土粒・雲母/良好/橙	口縁部の先端は平坦面を形作る。口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第610図 PL.220	2	土師器 杯	床上23、24cm 口縁部1/4欠	口底	12.2	高	5.0	粗砂粒少・黒色粘土粒・雲母/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第610図 PL.220	3	土師器 鉢	中央部床直上、埋没土 完形	口底	11.0	高	6.8	粗砂粒・赤色粘土粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第610図 PL.220	4	土師器 鉢	南東隅床直上、貯蔵穴 2/3	口底	10.0	高	6.6	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	器形は大きく歪む。口縁部は横ナデ。体部外面は斜横位のヘラ削り。内面は頸部直下にハケ目。ナデ。以下は横位のヘラナデ。	
第610図 PL.220	5	土師器 鉢	南部床直上、埋没土 口縁部～体部1/4欠	口底	10.9	高	6.9	粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデと考えられる。体部外面は縦位のヘラ削りか。内面はヘラナデか。	器面は摩滅。被熱のためか。
第610図 PL.220	6	土師器 台付甕	中央部床14cm 一部欠損	口底	13.9	高台	15.9 6.5	粗砂粒/良好/橙	台部は低くハの字状に外反。口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のナデに近いヘラ削り。脚部外面も同様。胴部内面は斜位の強いヘラナデ。脚部はナデ。	被熱。
第610図 PL.220	7	土師器 小型甕	南東部床13～24cm 3/4	口底	17.2 6.2	高	14.3	粗砂粒・雲母・軽石/良好/にぶい黄橙	平底の底部中央に直径2.3cmの焼成後穿孔。甌として利用したと考えられる。口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第610図	8	土師器 甕	南東部床直上、南部床14cm 口縁部～体部下位1/4	口底	22.8	高	-	粗砂粒・赤黒色粘土粒・軽石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位に数回に分けてのヘラ削り。内面上位は横位、中位以下は斜縦位のヘラナデ。	器面はやや摩滅。
第610図 PL.220	9	土師器 甕	南西部床直上、埋没土 2/3	口底	18.9 4.7	高	25.9	粗砂粒・軽石・赤色粘土粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。頸部直下にハケ目を残す。	被熱。器面は摩滅。
第610図	10	土師器 甕	西部床直上～床上9cm 口縁部～胴部上位片	口底	18.4	高	-	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は中位に弱い段をなす。横ナデ。胴部外面は横位の弱いヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第610図 PL.220	11	石製品 管玉	中央北床直上 完形	長径	3.3 0.8	厚重	-	-/-/蛇紋岩	直径3mmの孔を両端から穿孔する。肉眼で孔は一直線ではなく、くの字状に曲がっているのが観察できる。表面には整形時と考えられる擦痕が見られる。	

1区8面 119号住居遺物観察表

第612図 PL.221	1	土師器 杯	北西部床直上 完形	口底	13.4	高	5.0	粗砂粒少・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第612図 PL.221	2	土師器 杯	西部床直上 3/4	口底	14.0	高	4.7	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。中位には明瞭な段をなす。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。摩滅。
第612図 PL.221	3	土師器 杯か	埋没土 口縁部片	口底	15.8	高	-	細砂粒/良好/にぶい黄橙	直径0.4cmの焼成前穿孔あり。内外面とも丁寧なヘラ磨ぎ。蓋の可能性も考えられる。	
第612図	4	土師器 甕	東部床直上、埋没土 口縁部～胴部上半片	口底	19.2	高	-	粗砂粒多/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。器面に炭素吸着。摩滅。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第612図 PL.221	5	土師器 甕	南西部床直上 1/3	口底 16.8 3.8	高 -	19.0	粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部は狭小で不安定。斜めに歪んでいる。	被熱。炭素吸着。摩滅。
第612図 PL.221	6	土製品 土錘	埋没土 一部欠	長幅 5.4 1.6	厚 1.5 0.4		白色鈹物粒/酸化 焰/灰黄褐	孔径は他より大きい。	器面は摩滅。 重量11.61g
第612図 PL.221	7	土製品 丸玉	床直上、掘り方 一部欠損	長幅 0.85 0.9	厚 0.9 0.15		細砂粒/酸化焰/褐 灰	一部欠損。器面は摩滅。	重量0.6g
第613図 PL.221	8	礫石器 石皿	中央部床直上 完形	長幅 20.3 18.4	厚 3.8 1909.5		-/-/粗粒輝石安山 岩	扁平な楕円礫の正面に平滑面が認められたため石皿とした。下端には剥離によって浅い抉りが入っている。	
第613図 PL.221	9	石製品 凹石	北西部床直上 完形	長幅 16.2 12.6	厚 11.1 1088.9		-/-/軽石	軽石転石の上面中央に漏斗(すり鉢)状の孔と、その周辺には平滑な研磨面と刃物による線状の切削痕を有する。	
第613図 PL.221	10	石製品 不明	北西部床直上 完形	長幅 40.8 18.3	厚 18.6 5650.0		-/-/二ツ岳石	軽石転石の各所に平ノミ状工具による平滑面を多数有する。左側面は軽石特有の表面の凹凸がなく、非常に平滑な面を形成している。	

1区8面 120号住居遺物観察表

第615図	1	土師器 杯	カマド 口縁部片	口底 12.5 -	高 -	-	粗砂粒/良好/褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第615図	2	土師器 甕	東部カマド側床 直上、床上8cm 口縁部~胴部上 位	口底 16.0 -	高 -	-	粗砂粒・軽石/良 好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。

1区8面 122号住居遺物観察表

第617図	1	土師器 杯	南東部床上12cm 2/3、口唇部欠	口底 -	高 -	-	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面はヘラ削りと考えられる。内面はナデ。	外面は摩滅。
第617図	2	土師器 杯	中央部床直上 1/2	口底 12.4 -	高 -	3.7	粗砂粒少/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第617図 PL.221	3	須恵器 杯	中央部床上8cm 口縁部一部欠	口底 9.7 5.8	高 -	3.7	白色・黒色鈹物粒 /還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ削り。切り離しは粗雑。	
第617図	4	土師器 鉢	東部床直上 口縁部~体部上 位	口底 6.9 -	高 -	-	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。体部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。

1区8面 123号住居遺物観察表

第618図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口底 11.9 -	高 -	-	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。	器面は摩滅。
第618図	2	須恵器 甕	南西部床直上 胴部片	口底 -	高 -	-	白色・黒色鈹物粒 /還元焰/灰	紐づくり後、叩き整形。外面は疑似格子目状叩き目の上に横位のカキ目。内面に2種類の当て具痕。	

1区8面 124号住居遺物観察表

第621図	1	土師器 杯	1号カマド床直上 、中央部床上 17cm、埋没土 1/3	口底 13.6 -	高 -	4.5	粗砂粒・雲母/良 好/明赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第621図	2	土師器 甕	2号カマド右袖 口縁部~胴部上 位片	口底 22.6 -	高 -	-	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部が歪んでいるため、胴部の張りが弱くなる可能性あり。口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ削り。内面はヘラナデ。	器面は摩滅。
第621図 PL.221	3	土製品 土錘	1号カマド床直上 一部欠	長幅 7.3 1.9	厚 1.7 0.3		細砂粒/酸化焰/明 赤褐	器面は丁寧なナデ調整。	重量20.28g
第621図	4	土製品 土錘	貯蔵穴 1/3	長幅 3.8 1.6	厚 1.8 0.4		細砂粒/酸化焰/明 褐	両小口とも欠損。器面はナデ調整。	重量7.04g

1区8面 125号住居遺物観察表

第624図 PL.221	1	土師器 杯	南東部床直上 口縁部一部欠	口底 13.0 -	高 -	5.8	粗砂粒少・雲母/ 良好/明赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部外面の中心寄りに黒斑。
第624図	2	土師器 甕	貯蔵穴 口縁部~胴部上 位2/3	口底 17.4 -	高 -	-	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラナデ。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第624図 PL.221	3	礫石器 磨石	南部床上8cm 完形	長幅 9.0 7.5	厚 4.2 385.7		-/-/溶結凝灰岩	全体的に平滑であるが、表裏両面の平坦部が摩滅していることから磨石とした。	
第624図 PL.221	4	剥片石器 石鏃	埋没土 完形	長幅 1.9 1.8	厚 0.3 0.9		-/-/流紋岩	表裏両面の周縁に二次加工を施し整形している。	凹基無茎鏃

1区8面 126号住居遺物観察表

第626図 PL.221	1	土師器 高杯	南東部床直上 杯部1/2	口底 21.0 -	高 -	-	粗砂粒少/良好/明 赤褐	外面は口縁部が横ナデ。受け部はヘラ削り。内面屈曲部にハケ目を残す。	
第626図	2	土師器 甕	東部床上16cm 口縁部~胴部上 位1/3	口底 18.8 -	高 -	-	粗砂・軽石/良好/ にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。炭素吸着。

1区8面 127号住居遺物観察表

第627図 PL.221	1	土師器 杯	床直上 3/4	口底 13.8 -	高 -	5.1	粗砂粒・雲母/良 好/明赤褐	口縁部は内面側に稜を有し外方に屈曲する。口縁部は横ナデ。底部外面は中心寄りに手持ちヘラ削り。他はナデ。内面はナデ。	
第627図 PL.221	2	土師器 杯	床直上 完形	口底 11.9 -	高 -	5.9	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第627図 PL.221	3	土師器 杯	床直上、埋没土 完形	口底 -	12.8 -	高 -	5.8 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第627図	4	土師器 甕	床直上、埋没土 口縁部～胴部中 位1/4	口底 -	16.5 -	高 -	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のへらナデに近いへら削り。内面はへらナデ。	被熱。
第627図	5	土師器 甕	床直上 口縁部～胴部下 位1/2	口底 -	14.1 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	被熱。炭素吸着。

1区8面 128号住居遺物観察表

第630図	1	土師器 杯	貯蔵穴 2/3	口底 -	14.1 -	高 -	6.2 -	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第630図 PL.221	2	土師器 甕	カマド右袖先床 直上 口縁部～胴部下 位	口底 -	16.2 -	高 -	-	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部から頸部直下まで横ナデ。胴部外面は縦位のへら削り。内面はへらナデと考えられる。	被熱。炭素吸着。内面は摩滅。
第630図	3	土師器 甕	南西部床直上 口縁部～胴部上 位3/4	口底 -	17.8 -	高 -	-	粗砂粒/良好/浅黄	口縁部横ナデ。胴部外面は縦位のへらナデ。内面は横位のへらナデ。	
第630図	4	土師器 小型甕	南壁床10cm、 床下土坑 口縁部～胴部上 位1/4	口底 -	13.6 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はナデに近いへら削り。内面は横位のへらナデ。	器面は摩滅。

1区8面 129号住居遺物観察表

第631図	1	土師器 杯	掘り方 破片	口底 -	13.6 -	高 -	-	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。
-------	---	----------	-----------	---------	-----------	--------	---	-----------------------	--

1区8面 130号住居遺物観察表

第634図 PL.221	1	土師器 杯	中央部床直上15、 27cm 完形	口底 -	12.5 -	高 -	5.2 -	粗砂粒・雲母/良 好/明褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	内面は一部剥離。摩滅。
第634図	2	土師器 杯	中央部床直上25cm 口縁部1/4	口底 -	15.4 -	高 -	6.6 -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第634図 PL.221	3	土師器 小型甕	中央部床直上4、 12cm 口縁部～胴部下 位1/3	口底 -	12.5 -	高 -	-	粗砂粒/良好/灰褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のへら削り。頸部直下にはへらナデを重ねる。内面は横位のへらナデ。	被熱。炭素吸着。
第634図	4	土師器 甕か	北部床直上8cm 口縁部片	口底 -	18.0 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は胴部から上方に向けて立ち上がった後、中位で屈曲、斜め外方に延びる。変換点に段をなす。横ナデ。	器面は摩滅。
第634図 PL.221	5	土製品 支脚	カマド床直上 完形	上径 8.6 下径 6.6	高 -	13.1 -	-	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい黄橙	全体の形状は円柱状を呈する。上端に向けて大きく外反。上端の直径は裾部の直径を大きく上回る。上半部は中実、下半部は粘土紐による輪積み。器面は下位が横ナデ。これより上位は縦位のナデ。	

1区8面 131号住居遺物観察表

第636図 PL.222	1	土師器 杯	東壁床直上 口縁部一部欠	口底 -	13.1 -	高 -	4.6 -	粗砂粒少・雲母/ 良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ後、斜横位のへら磨き。	
第636図 PL.222	2	土師器 杯	東壁床直上 3/4	口底 -	12.2 -	高 -	5.4 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は内湾気味に立ち上がる。底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削りと考えられる。内面はナデ。	器面は摩滅。
第636図 PL.222	3	土師器 杯	中央部床直上 口縁部一部欠	口底 -	13.9 -	高 -	6.2 -	粗砂粒少・雲母/ 良好/赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第636図 PL.222	4	土師器 鉢	カマド床直上、 掘り方 3/4	口底 6.1	11.6 -	高 -	10.0 -	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。体部外面はへら削りか。内面は横位のへらナデ。	外面は磨滅。
第638図 PL.222	5	土師器 甕	東壁床直上 口縁部一部欠	口底 8.1	24.6 -	高 -	22.7 -	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位から中位はへらナデ。下位はへらナデに近い縦位のへら削り。内面はナデの上に縦位のへら磨き。最下位は底部と孔の切開面にへら削り。	被熱。
第638図	6	土師器 甕	カマド床直上、 掘り方 1/3	口底 10.0	21.6 -	高 -	29.0 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は3～4回に分けて幅の狭いへらナデ。内面は丁寧なへらナデ。孔の切開面にへら削り。	外面に炭素吸着。被熱。
第638図 PL.222	7	土師器 鉢	カマド床直上 口縁部一部欠	口底 6.9	21.6 -	高 -	16.5 -	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	鉢との中間形態。口縁部は横ナデ。胴部外面は横位・斜横位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	外面の一部に炭素吸着。
第638図 PL.222	8	土師器 甕	カマド床直上 口縁部・胴部一 部欠	口底 -	16.3 7.0	-	30.0 -	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面上半部は縦位のへらナデ。下半部は斜横位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	被熱。炭素吸着。

1区8面 133号住居遺物観察表

第641図	1	須恵器 椀	北東部床直上 口縁部下位～底 部片	口底 -	-	高台 -	6.9 -	粗砂粒・片岩/還 元焰・軟質/灰黄	ロクロ整形(右回転か)。高台部は底部回転糸切り後の低い高台。	器面の摩滅が顕著。
第641図	2	土師器 甕	北東部床直上 口縁部～胴部上 位片	口底 -	16.0 -	高 -	-	粗砂・細砂粒/良 好/明赤褐	口縁部は横ナデ。輪積痕を残す。胴部外面は横位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	

1区8面 134号住居遺物観察表

第642図	1	土師器 杯	北西部床直上7、 15cm 1/3	口底 -	12.4 -	高 -	3.6 -	細砂粒/良好/灰褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。
-------	---	----------	-------------------------	---------	-----------	--------	----------	-----------	---

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第642図 PL.222	2	土製品 丸玉	北部床上20cm 一部欠損	長幅 0.85 0.8	厚 0.8 0.1		細砂粒/酸化焰/褐 灰	穿孔方向に縦長の形状を呈する。器面はナデ調整。	僅かに欠損。 重量0.47g

1区8面 135号住居遺物観察表

第646図	1	土師器 杯	南東部床上15cm 口縁部片	口底 11.8 -	高 5.1 -		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第646図	2	土師器 杯	西部床直上 口縁部～底部 1/4	口底 13.0 -	高 -		細砂粒/良好/赤褐	口縁部は先端に平坦面を有する。底部との間には稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	器面に炭素吸着。
第646図	3	土師器 杯	北部床上7cm 底部のみ3/4	口底 -	高 -		粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部欠損後も割れ口を調整して二次利用している。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第646図 PL.222	4	土師器 甌	南東部床直上 完形	口底 14.0 4.9	高 10.0 -		粗砂粒・雲母/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラナデ。内面は縦位・斜位のヘラナデ。底部外面はヘラ削り。中央に直径2.4cmの焼成前穿孔。孔の切開面にヘラ削り。	
第646図	5	土師器 甕	床上7cm 口縁部～胴部上 半片	口底 26.6 -	高 -		粗砂粒・軽石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。輪積痕を残す。胴部上位は縦位に、以下は横位・斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	整形時に口縁部に入った亀裂に粘土塊を貼付し、これをナデで補修している。
第646図 PL.222	6	土師器 甕	中央部床上7～ 14cm 3/4	口底 16.1 7.4	高 24.0 -		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面上半部は丁寧なナデ。下半は一部に横位、その他は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。器面はやや摩滅。胴部外面下位は黒斑か。

1区8面 136号住居遺物観察表

第647図	1	土師器 杯	床直上 口縁部～底部片	口底 11.2 -	高 -		粗砂粒/良好/橙	小破片から器形復元。口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面の一部に炭素吸着。
第647図	2	土師器 甕	床直上 口縁部～胴部上 位片	口底 17.0 -	高 -		粗砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ削り。	被熱。変色。 粘土付着。

1区8面 137号住居遺物観察表

第650図	1	土師器 甕	南西部床直上、 床下土坑 口縁部片	口底 16.0 -	高 -		粗砂粒・軽石/良 好/にぶい黄橙	横ナデ。	
第650図	2	土師器 甕	西部床直上 口縁部片	口底 20.0 -	高 -		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐	外面中位に明瞭な段をなす。横ナデ。	
第650図 PL.223	3	土師器 甕	南西部床直上、 床下土坑 口縁部～胴部中 位1/3	口底 23.6 -	高 -		粗砂粒・雲母/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部上半部は縦位のヘラナデ。下半部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	内外面の広い範囲に炭素吸着。黒斑。

1区8面 138号住居遺物観察表

第651図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部片	口底 9.8 -	高 -		粗砂・細砂粒/良 好/橙	小破片から復元。口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。	
-------	---	----------	-------------	----------------	--------	--	-----------------	-------------------------------------	--

1区8面 139号住居遺物観察表

第653図	1	土師器 杯	北西部床直上、 埋没土 口縁部～底部 1/3	口底 11.8 -	高 -		細砂粒/良好/橙	口縁部は外面中位に弱い段をなす。内面は先端直下に凹線が巡る。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	器面はやや摩滅。
第653図	2	土師器 広口壺か	掘り方 頸部～底部3/4	口底 6.4 -	高 -		粗砂・細砂粒/良 好/にぶい黄橙	器形は歪んでいる。横断面は楕円形。口縁部は横ナデ。胴部外面上位は斜縦位のヘラ磨き。下位は横位・縦位のヘラ磨き。内面は斜横位のヘラナデ。	胴部外面に黒斑。

1区8面 140号住居遺物観察表

第654図	1	土師器 甕	埋没土 口縁部～頸部片	口底 18.1 -	高 -		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
-------	---	----------	----------------	-----------------	--------	--	-----------------	--	-----

1区8面 141号住居遺物観察表

第657図	1	土師器 杯	南壁際床直上 1/2	口底 12.0 -	高 5.1 -		粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第657図	2	土師器 甕	カマド床直上 口縁部～胴部中 位	口底 17.9 -	高 -		粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第657図	3	土師器 甕	カマド前床直上 口縁部～胴部下 位	口底 18.2 -	高 -		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。外面に粘土付着。
第657図 PL.223	4	土師器 甕	カマド前床直 上、P1 1/3	口底 15.2 6.6	高 37.0 -		粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。最下位は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。輪積痕を多数残す。	被熱。炭素吸着。

1区8面 142号住居遺物観察表

第659図 PL.223	1	土師器 杯	中央部床直上 口縁部一部欠	口底 12.6 -	高 4.6 -		粗砂粒/良好/淡黄	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に底部から口縁部に放射状のヘラ磨き。	
第659図 PL.223	2	土師器 鉢	南部床直上 口縁部一部欠	口底 13.9 4.9	高 7.8 -		粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。体部外面は中位に縦位の、下位に横位のヘラ削り。口縁部との間にナデの部分を残す。内面は横位のヘラナデ。	器面はやや摩滅。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第659図 PL.223	3	土製品 丸玉	中央部床直上 完形	長 幅	0.8 0.8	厚 孔	0.6 0.1	細砂粒/酸化焰/暗 灰	縦方向にやや扁平な形状。器面には丁寧なナデ。	重量0.48g
1区8面 143号住居遺物観察表										
第660図	1	土師器 杯	南東部床直上7cm 口縁部片	口 底	13.4 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/明赤 褐	小片から器形を復元。口径が小さくなる可能性あり。口縁部は横ナデ。底部との間には稜を有する。	
1区8面 144号住居遺物観察表										
第662図	1	土師器 杯	南部床直上、埋 没土 2/3	口 底	12.6 -	高 -	5.3 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
1区8面 145号住居遺物観察表										
第665図	1	土師器 杯	掘り方 1/4	口 底	11.2 -	高 -	- -	粗砂粒・赤茶色粘 土粒/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第665図	2	土師器 甕	北部床直上 口縁部～胴部上 位1/4	口 底	18.6 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のへら削り。内面はへらナデ。	
1区8面 146号住居遺物観察表										
第667図	1	土師器 杯	カマド床直上 口縁部片	口 底	12.8 -	高 -	- -	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第667図 PL.223	2	土製品 丸玉	北壁床直上 完形	長 幅	1.1 1.3	厚 孔	1.0 0.05	細砂粒/酸化焰/灰	孔の軸に対し横長の俵状を呈する。孔の大きさは上下で異なり下端は横長に広がる。	重量1.41g
第667図 PL.223	3	土製品 丸玉	北東隅床直上 完形	長 幅	0.95 1.0	厚 孔	0.9 0.075	細砂粒少/酸化焰/ 暗灰	形状、器面の整形ともに丁寧。	重量0.86g
第667図	4	土製品 丸玉	中央部東より床 直上 一部欠損	長 幅	1.2 0.7	厚 孔	1.0 0.1	細砂粒/酸化焰/暗 灰	平面形は隅丸方形に近い。	重量1.30g
第667図 PL.223	5	土製品 丸玉	中央部東より床 直上 一部欠損	長 幅	1.1 1.2	厚 孔	1.1 0.075	細砂粒/酸化焰/灰	器面の整形は丁寧。	重量1.38g
第667図 PL.223	6	土製品 丸玉	中央部東より床 直上 2/3	長 幅	1.15 1.25	厚 孔	1.0 0.075	細砂粒少/酸化焰/ 灰	平面形はやや横長。	重量1.29g
第667図 PL.223	7	土製品 丸玉	中央部東より床 直上 一部欠損	長 幅	1.1 1.3	厚 孔	1.0 0.05	細砂粒少/酸化焰/ 灰	上端の孔の周囲の摩滅は旧事の可能性がある。	重量1.22g
第667図 PL.223	8	土製品 丸玉	中央部東より床 直上 完形	長 幅	1.5 1.6	厚 孔	1.3 0.1	細砂粒少/酸化焰/ 灰	孔の軸線に対し横長の俵状を呈する。	重量2.86g
第667図 PL.223	9	土製品 丸玉	中央部東より床 直上 2/3	長 幅	1.2 1.15	厚 孔	1.1 0.05	細砂粒少/酸化焰/ 灰	孔の軸線と同方向。縦長の俵状を呈する。	重量1.10g
第667図 PL.223	10	石製品 砥石	西部床直上 破片	長 幅	(6.6) 5.2	厚 重	2.9 101.9	-/-/砥沢石	正面および左右側面の3面を使用。両側面の摩耗が著しく砥面が凹状を呈する。正面は中央部が高く両端に向かって低くなっている。	
1区8面 147号住居遺物観察表										
第668図	1	土師器 甕	西壁床直上 胴部下位～底部 1/2	口 底	- 7.8	高 -	- -	粗砂粒/良好/灰黄 褐	胴部外面は斜位にへらナデに近いへら削り。内面はへらナデ。	被熱。器面に炭素吸着。
1区8面 149号住居遺物観察表										
第671図	1	土師器 杯	南西部床直上 1/2	口 底	11.2 -	高 -	5.5 -	粗砂粒・赤褐色粘 土粒/良好/明赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第671図	2	土師器 杯	南部床直上 1/3	口 底	15.8 -	高 -	- -	粗砂粒・雲母/良 好/明赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第671図	3	土師器 鉢	西部床直上 口縁部～胴部上 位	口 底	12.4 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面はへら削りと考えられる。内面は横位のへらナデ。	外面は摩滅。被熱か。
第671図	4	土師器 甕	中央部床直上16cm 口縁部～胴部中 位1/4	口 底	19.0 -	高 -	- -	粗砂粒多・軽石/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	被熱。器面に炭素吸着。
1区8面 150号住居遺物観察表										
第672図	1	土師器 杯	東部床直上 1/4	口 底	11.8 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第672図 PL.223	2	土製品 土錘	埋没土 一部欠	長 幅	5.0 1.5	厚 孔	1.5 0.4	粗砂粒/酸化焰/橙	器面は摩滅と考えられる。両小口は欠損。	重量10.85g
1区8面 151号住居遺物観察表										
第673図	1	土師器 高杯か	北東部床直上7cm 脚部	口 底	- -	高 脚	- 8.6	粗砂粒/良好/にぶ い橙	外面は縦位にナデに近いへら削り。裾部は横ナデ。内面は横位のへらナデ。	被熱か。器面に炭素吸着。
第673図 PL.223	2	土師器 甕	東部床直上、床 直上9cm、埋没土 1/3	口 底	15.8 6.4	高 -	12.4 -	粗砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位に3回に分けてへら削り。底部には直径0.9cmの焼成前穿孔。切開面にへら削り。内面はへらナデ。	内外面に炭素吸着。
1区8面 152号住居遺物観察表										
第675図	1	土師器 杯	北東部床直上 破片	口 底	11.4 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	内面の一部に炭素吸着。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	脚			
第675図	2	土師器 甕	北部床上17cm 口縁部片	口底 -	14.8 -	高 -	粗砂粒/良好/灰黄 褐	横ナデ。一部に縦位のヘラ削り。	器面に炭素吸着。
1区8面 153号住居遺物観察表									
第678図	1	土師器 杯	床上27、32cm 3/4	口底 -	12.0 -	高 -	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ後、斜横位にヘラ磨き。	器面はやや摩滅。
第678図	2	土師器 杯	床上16、25cm 2/3	口底 -	12.2 -	高 -	粗砂粒少・赤褐色 粘土粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第678図	3	土師器 杯	中央床直上 2/3	口底 -	12.5 -	高 -	細砂粒・雲母/良 好/明赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面に炭素吸着。
第678図 PL.223	4	土師器 杯	東部カマド側床 直上、床上28cm 完形	口底 -	10.1 -	高 -	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	鉢との中間形態。口縁部は横ナデ。体部はナデ。以下底部にかけて横位のヘラ削り。内面はナデ。	
第678図 PL.223	5	土師器 甕	南部床上28cm 口縁部～胴部下 位	口底 -	15.5 -	高 -	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。胴部は内外面とも摩滅。	被熱。
第678図	6	土師器 甕	東部床直上 口縁部～胴部上 位1/2	口底 -	18.0 -	高 -	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のナデに近いヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第678図 PL.223	7	土師器 甕	南東部床上13cm 口縁部～胴部下 位3/4	口底 -	11.2 -	高 -	粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	器形はややつぶれている。口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラナデの上に部分的にヘラ削りを重ねる。内面は横位のヘラナデ。	器面は被熱の 為か摩滅。炭 素吸着。
第678図	8	土師器 甕	南部床上17cm 口縁部～胴部下 位1/3	口底 -	14.0 -	高 -	粗砂・細砂粒/良 好/赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位にナデに近いヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面は摩滅。
第678図	9	土師器 甕	カマド周り床直 上、床上20cm 口縁部～胴部下 位1/2	口底 -	15.3 -	高 -	粗砂粒・軽石・黒 色鉱物粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。下に横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。一部に 炭素吸着。
1区8面 154号住居遺物観察表									
第680図	1	土師器 杯	中央部床直上 1/2	口底 -	13.2 -	高 -	細砂粒・雲母/良 好/明赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第680図	2	土師器 高杯	北部床直上 脚部下半	口底 -	- -	高脚 11.8	細砂粒/良好/明赤 褐	外面は縦位のヘラ削りか。裾部は横ナデ。内面はヘラナデ。裾部は横ナデ。	器面に黒色の 付着物。
第680図 PL.224	3	土師器 甕	中央部床直上 底部一部欠	口底 8.9	17.6 -	高 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は上位から中位が縦位のヘラ削り。下位は横位の粗雑なヘラ削り後、一部に縦位のヘラ削りを重ねる。胴部下端は焼成後の穿孔。割れ口を調整している。甕を甕として二次利用したか。	胴部外面に黒 斑。
第680図 PL.224	4	土師器 甕	中央部床直上 1/2	口底 6.2	16.0 -	高 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は整形が粗雑で外面に粘土紐の輪痕が見られる。横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。一部削りに近い部分も見られる。	被熱。炭素吸 着。
第680図 PL.224	5	土師器 甕	東部床上27cm 1/3	口底 3.6	24.8 -	高 -	粗砂粒・赤色粘土 粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は4回ほどに分けて斜縦位のヘラ削り。下位は斜位。内面は横位のヘラナデ。	被熱。下位は 外面に炭素吸 着。
1区8面 156号住居遺物観察表									
第682図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口底 -	15.0 -	高 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。	器面は摩滅。
1区8面 157号住居遺物観察表									
第684図	1	土師器 高杯	中央部床上19cm 杯部片	口底 -	16.4 -	高 -	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部の先端は横ナデ。以下はナデ。受け部外面はヘラ削り。内面はナデ。	
1区8面 158号住居遺物観察表									
第685図	1	土師器 杯	カマド前床直 上、埋没土 一部欠損	口底 -	10.5 -	高 -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
1区8面 159号住居遺物観察表									
第688図 PL.224	1	土師器 杯	中央部床直上 口縁部一部欠	口底 -	14.0 -	高 -	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩 滅。
第688図 PL.224	2	土師器 杯	北部床直上、埋 没土 1/4	口底 -	22.0 -	高 -	粗砂粒少・赤色粘 土粒/良好/橙	大径。鉢との中間形態。口縁部は底部との間に稜をなす。横ナデ。底部外面はヘラ削り。内面はナデ。	
第688図 PL.224	3	土師器 小型甕	中央部床直上 完形	口底 -	9.8 -	高 -	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面上半部は横位の、下半部は斜縦位のヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩 滅。
第688図 PL.225	4	土師器 甕	南西部床直上 完形	口底 6.2	17.2 -	高 -	粗砂粒・黒色鉱物 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位・斜位のヘラ削り。内面は上位に横位の、以下は斜縦位・斜横位のヘラナデ。やや尖状の底部中央に直径約2.0cmの焼成前穿孔。	
第688図 PL.224	5	土師器 甕	中央部床直上 完形	口底 -	19.4 -	高 -	粗砂粒・軽石・赤 色粘土粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。炭素吸 着。
第688図 PL.225	6	土師器 甕	中央部床直上 胴部1/3欠	口底 4.6	17.9 -	高 -	粗砂粒多/良好/灰 黄褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は2回に分けて縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面に被熱、 炭素吸着。
第689図 PL.225	7	土師器 甕	北部床直上 3/4	口底 4.8	20.3 -	高 -	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位の、最下位は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。底部周 縁に黒斑。
第689図 PL.226	8	土師器 甕	カマド床直上 3/4	口底 -	21.6 -	高 -	粗砂粒多/良好/に ぶい褐	口縁部は横ナデ。外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第689図 PL.226	9	土師器 甕	中央部床直上 底部一部欠損	口底	20.8 3.2	高 -	36.1 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部は3～4回に分けて斜縦位・斜位のヘラ削り。内面は斜位・横位のヘラナデ。	被熱。
第689図 PL.226	10	土師器 甕	西部床直上 口縁部～胴部 3/4	口底	19.9 -	高 -	- -	粗砂粒多/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は上位が縦位の、中位から下位は斜縦位のヘラ削り。内面は上位と下位寄りに横位の、その間は縦位のヘラナデ。	外面は被熱。内面は被熱のためか黒色。煤か。
第690図 PL.226	11	土師器 甕	中央部床直上 口縁部～胴部下 位3/4	口底	19.0 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は中位に弱い稜を有する。横ナデ。胴部外面は3～4回に分けて斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第690図 PL.227	12	土師器 甕	西部床直上 口縁部～胴部下 位3/4	口底	20.1 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は上位から下位に長い単位のヘラ削り。下位は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第690図 PL.227	13	土師器 甕	北部床直上 口縁部～胴部下 位	口底	20.9 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部外面は縦位に複数回に分けてヘラ削り。内面は斜位のヘラナデ。	被熱。炭素吸着。
第690図 PL.227	14	土師器 甕	北部床直上 胴部下位～底部 欠	口底	17.6 -	高 -	- -	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面上位から中位は斜縦位の、下位は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。内面は摩滅。
第691図	15	土師器 甕	西部床直上 口縁部～胴部上 位1/4	口底	26.6 -	高 -	- -	粗砂粒・赤色粘土 粒・軽石/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は斜横位のヘラナデ。	
第691図 PL.227	16	土師器 甕	中央部床直上 口縁部・胴部一 部欠	口底	21.4 -	高 -	33.1 -	粗砂粒/良好/明褐 灰	口縁部は3回に分けて横ナデ。胴部外面上位・中位は斜位の、下位は斜横位・斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面に炭素吸着。
第691図 PL.228	17	土師器 甕	カマド前床直上 口縁部～胴部上 位	口底	21.8 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第691図 PL.227	18	土製品 土錘	埋没土 完形	長幅	7.6 1.5	厚孔	1.4 0.5 0.4	粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	両小口は孔を開けるための芯棒に粘土を押し付けるように整形している。	器面は摩滅。重量16.39g
第691図 PL.227	19	石製品 不明	北部床上6cm 完形	長幅	3.2 2.8	厚重	0.8 9.2	-/-/滑石	粗く成形した板状の滑石の中央部に直径7mmの孔を両側から穿孔している。玉または垂飾品の未成品と考えられる。周縁では剥離の後、研磨しているのが見られる。	
第691図 PL.228	20	石製品 砥石	西部床上8cm 完形	長幅	37.5 17.6	厚重	10.2 9900.0	-/-/粗粒輝石安山 岩	大型の楕円形自然礫の長側面に研磨による痕跡を有する。	
第691図 PL.228	21	石製品 不明	中央部床直上 完形	長幅	17.1 13.0	厚重	12.0 1902.0	-/-/二ツ岳軽石	軽石転石の上面に平滑な研磨面を有する。	

1区8面 160号住居遺物観察表

第693図	1	土師器 杯	北東隅床上7cm 1/2	口底	11.8 -	高 -	4.7 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデと考えられる。	器面はやや摩滅。
第693図	2	土師器 高杯	中央部床直上 杯部下位～脚部 1/3	口底	- -	高脚	- 9.6	粗砂粒少/良好/橙	脚部外面は縦位のヘラ削り。裾部は横ナデ。内面は中位にヘラ削り。他はヘラナデ。横ナデ。	
第693図	3	土師器 甕	西北部床直上 口縁部～胴部上 位1/3	口底	15.2 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面の一部に炭素吸着。

1区8面 161号住居遺物観察表

第694図	1	土師器 杯	カマド左袖内 1/4	口底	15.6 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	器面は摩滅。
第694図	2	土師器 杯	中央部床直上、 カマド掘り方 1/4	口底	12.0 -	高 -	- -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	
第694図 PL.228	3	須恵器 椀	埋没土 高台欠1/4	口底	17.4 -	高 -	- -	粗砂粒・灰黒色粘 土粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ切り後の付高台。貼付後、周縁部にナデ調整。	
第694図 PL.228	4	土師器 甕	カマド床直上 口縁部～胴部下 位3/4	口底	18.9 -	高 -	- -	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面最上位は横位の、上位は斜横位の、それ以下は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第694図 PL.228	5	石製品 不明	床直上 破片	長幅	(20.6) (16.6)	厚重	(6.1) 1361.1	-/-/二ツ岳軽石	扁平な軽石の上面が平滑である。側面は3面が破損している。	

1区8面 162号住居遺物観察表

第698図	1	土師器 杯	東部床直上 破片	口底	13.8 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第698図	2	土師器 鉢か	カマド前床直上 口縁部～底部片	口底	20.0 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ。中位に弱い段を有する。底部との間には稜を有する。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	炭素吸着。
第698図	3	土師器 小型甕	カマド床直上 口縁部～胴部上 位片	口底	15.6 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	

1区8面 163号住居遺物観察表

第700図	1	土師器 杯	南東部床直上 1/2	口底	13.0 -	高 -	- -	粗砂粒少・赤色粘 土粒/良好/明赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。先端は平坦面をなす。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第700図	2	土師器 杯	西北部床直上 3/4	口底	12.4 -	高 -	4.4 -	粗砂粒・赤茶色粘 土粒/良好/にぶい 橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第700図	3	土師器 高杯	カマド右袖側床直上 口縁部下位～脚部1/3	口底	-	高	-	細砂粒・赤色粘土粒/良好/明赤褐	杯部口縁部は横ナデ。受け部から脚部はヘラ削り。裾部は横ナデ。脚部内面上部はヘラ削り。	器面はやや摩滅。
第700図	4	土師器 甕	中央部床直上 口縁部～胴部中位1/4	口底	22.2	高	-	粗砂粒・軽石/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
1区8面 164号住居遺物観察表										
第702図	1	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口底	18.7	高	-	粗砂粒/良好/にぶい赤褐	中位に弱い段をなす。横ナデ。	
1区8面 165号住居遺物観察表										
第703図	1	土師器 杯	埋没土 1/4	口底	14.0	高	-	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第703図	2	土師器 小型甕	埋没土 口縁部～肩部片	口底	12.8	高	-	粗砂粒少/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面はナデ。	
1区8面 166号住居遺物観察表										
第705図	1	土師器 杯	中央部床上7cm 1/4	口底	11.6	高	-	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。	器面は摩滅。
第705図	2	土師器 杯	中央西より床直上 破片	口底	12.8	高	-	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。	器面は摩滅。
第705図 PL.228	3	土製品 土錘	中央部床直上 3/4	長幅	5.2 1.4	厚孔	1.3 0.4	細砂粒/酸化焰/橙	両小口はヘラ状工具により切り落とされている。	側面大きく欠損。 重量7.69g
1区8面 167号住居遺物観察表										
第708図	1	土師器 杯	東部床上7cm 1/2	口底	12.3	高	3.8	細砂粒・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデと考えられる。	器面はやや摩滅。
第708図	2	土師器 鉢か	埋没土 破片	口底	18.4	高	-	粗砂粒少/良好/にぶい赤褐	口縁部は中位に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第708図 PL.228	3	土製品 垂飾品か	埋没土 1/2	長幅	3.0 1.0	厚孔	0.9 0.1	粗砂粒/酸化焰/橙	形状は両小口より中央部分の直径がやや太く、管玉状を呈する。小口面は平坦を意識している。孔は極めて細い。	器面は摩滅。 重量3.16g
1区8面 168号住居遺物観察表										
第709図 PL.228	1	土師器 杯	貯蔵穴 口縁部一部欠	口底	14.8	高	7.5	粗砂粒少・赤色粘土粒/良好/明赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第709図 PL.228	2	土師器 高杯	床直上 口縁部・脚部一部欠	口底	14.4	高脚	10.5 9.7	粗砂粒/良好/橙	杯部口縁部は横ナデ。受け部は横位のヘラ削り。脚部外面は斜縦位のヘラナデ。基部と裾部は横ナデ。内面はヘラナデ	被熱。
第709図 PL.228	3	土師器 鉢	貯蔵穴 口縁部一部欠	口底丸底	12.8	高	8.3	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。体部は上半部にナデ。型肌痕跡が見られる。下半部にヘラナデ。底面は横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	内外面とも炭素吸着。焼成時か。
第709図 PL.228	4	土師器 鉢	貯蔵穴 口縁部一部欠	口底	14.8	高	10.3	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。体部上半部はナデ。輪積痕を残す。下半部から底部はヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	内面に炭素吸着。
第711図 PL.228	5	土師器 甕	北東部床直上 3/4	口底	21.5 7.7	高	25.8	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面はナデの上に縦位のヘラ磨き。底部周縁はヘラ削り。	被熱。炭素吸着。
第711図 PL.229	6	土師器 甕	カマド床直上 完形	口底	15.8 7.1	高	31.1	粗砂粒/良好/灰黄褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は3～4回に分けて縦位の、最下位は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面被熱。煤付着。
第711図	7	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部下位1/2	口底	16.7	高	-	粗砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位に3回ほどに分けてのヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面は被熱。炭素吸着。
第711図	8	土師器 甕	左袖側床直上 口縁部～胴部上位片	口底	15.0	高	-	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部内面はヘラナデ。	
1区8面 170号住居遺物観察表										
第713図	1	土師器 杯	カマド前床直上 口縁部片	口底	11.6	高	-	粗砂粒少/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面は斜横位のヘラ磨き。	
第713図	2	土師器 杯	埋没土 破片	口底	11.4	高	4.5	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。その間の広い範囲はナデ。内面はナデの上に斜横位のヘラ磨き。	
1区8面 171号住居遺物観察表										
第715図	1	土師器 鉢か	カマド左袖 口縁部～胴部破片	口底	13.6	高	-	細砂粒/良好/灰黄褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデか。	
1区8面 172号住居遺物観察表										
第717図	1	土師器 杯	北西部床上13cm 3/4	口底	12.0	高	4.4	粗砂粒少・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデと考えられる。	被熱のためか器面にひび割れ。
第717図	2	土師器 鉢	中央部西端床直上 口縁部～底部中位1/4	口底	18.8	高	-	細砂粒・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は体部・底部との間に稜を有する。口縁部の中位には弱い段が見られる。横ナデ。体部以下は横位のヘラ削り。内面はナデ。	
第717図	3	土師器 鉢	南東部床直上 口縁部～体部下位片	口底	20.3	高	-	粗砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は中位に段をなす。体部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第717図	4	土師器 鉢	中央部西より床直上 口縁部～胴部上位1/4	口底	12.0	高	-	粗砂粒少/良好/赤褐	鉢と杯の中間形態。口縁部は横ナデ。体部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。
第717図	5	土師器 甗	南部床直上 口縁部～胴部上位片	口底	19.8	高	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。
1区8面 173号住居遺物観察表									
第718図	1	土師器 杯	南西部床直上 破片	口底	11.6	高	-	粗砂粒/良好/明赤褐	口径は大きくなる可能性あり。口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。器面は摩耗。
1区8面 174号住居遺物観察表									
第720図	1	土師器 杯	東壁床直上 破片	口底	12.8	高	-	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は内側に稜をなし内湾して立ち上がる。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの部分有する。内面は斜横位のヘラ磨き。外面に黒斑。
第720図	2	須恵器 甗	北東部床上6～9cm、167・175・177住 胴部片	口底	-	高	-	黒色粘土粒少/還元焰/灰白	紐づくり後、叩き整形。外面に平行叩き目。内面に同心円文状の当て具痕。直径9cmが推定される焼成後穿孔あり。孔の周縁は丁寧な調整。
1区8面 175号住居遺物観察表									
第722図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口底	12.6	高	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。外面に黒斑。
第722図	2	土師器 杯	埋没土 口縁部片	口底	11.8	高	-	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。
第722図	3	土師器 甗	北西部床上12cm 口縁部～胴部上位片	口底	17.4	高	-	粗砂粒/良好/淡黄	器面摩滅のため、整形は詳細不明。胴部内面はヘラナデ。
1区8面 176号住居遺物観察表									
第724図 PL.229	1	土師器 杯	南東部床直上 3/4	口底	10.8	高	3.9	粗砂粒・雲母/良好/にぶい橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。器面はやや摩滅。
第724図	2	土師器 甗	埋没土 口縁部～胴部上位片	口底	17.8	高	-	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は斜位のヘラナデ。
1区8面 177号住居遺物観察表									
第726図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口底	13.4	高	-	粗砂・細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。
第726図	2	土師器 鉢	南西部床上55cm 破片	口底	13.8	高	-	粗砂粒/良好/浅黄	口縁部は横ナデ。体部は斜位のヘラ削り。口縁部との間にナデの部分を残す。内面は斜位のナデ。器面に炭素吸着。
第726図	3	土師器 甗	南西部床上18cm 胴部下位～底部片	口底	4.5	高	-	粗砂粒/良好/浅黄橙	底部に直径2.8cmの焼成前穿孔。胴部外面に斜縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。
1区8面 178号住居遺物観察表									
第727図	1	土師器 甗	カマド床直上 口縁部～胴部上位片	口底	18.8	高	-	粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部内面はヘラナデ。
1区8面 1号竪穴状遺構遺物観察表									
第728図	1	土師器 杯	床直上 破片	口底	13.8	高	-	粗砂粒/良好/橙	器面摩滅のため整形不明。外面に黒斑。
第728図	2	土師器 甗	床直上 口縁部～胴部上位片	口底	20.0	高	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は手持ちヘラ削り。内面はヘラナデ。器面は摩滅。
1区8面 3号竪穴状遺構遺物観察表									
第728図	3	土師器 杯	床上7cm 1/4	口底	12.4	高	3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられるが、器面摩滅のため、詳細不明。
1区8面 4号竪穴状遺構遺物観察表									
第729図	1	土師器 杯	床直上 口縁部～底部 1/3	口底	15.6	高	-	粗砂粒少・赤黒色粘土粒/良好/明赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。
第729図	2	土師器 高杯	床直上 杯部下位～脚部 1/2	口底	-	高脚	10.0	粗砂粒少・細砂粒/良好/橙	杯部は外面がヘラ削り。内面はナデ。脚部外面は縦位のヘラ削りに裾部の横ナデが重なると考えられる。内面上半部はヘラ削り。器面は摩滅。
第729図 PL.229	3	土師器 甗	床直上 3/4	口底	21.4 6.8	高	26.6	粗砂粒多/良好/明黄褐	口縁部は横ナデ。外面は胴部上半部、下半部に縦位のヘラ削り。一部この上にナデが重なる。内面に横位・縦位のヘラナデ。被熱。器面は変色、変質。
第729図 PL.229	4	土師器 甗	床直上 3/4	口底	23.5 8.8	高	29.3	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面各位で、方向を変えながらヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。被熱のため器面は変色、変質。底部周縁は摩耗。

1区8面 5号竪穴状遺構遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	径				
第730図	1	土師器 杯	床直上 口縁部一部欠	口底 -	12.0 -	高 -	4.1 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第730図	2	土師器 杯	床直上 口縁部一部欠	口底 -	12.4 -	高 -	3.7 -	細砂粒・雲母/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第730図 PL.229	3	土師器 杯	床直上 完形	口底 -	10.6 -	高 -	3.2 -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第730図 PL.229	4	土師器 杯	床直上 2/3	口底 -	11.7 -	高 -	6.8 -	細砂粒/良好/橙	坩・鉢との中間形態。口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデと考えられる。	器面は摩滅。
第730図 PL.229	5	土師器 鉢	床直上 口縁部・胴部一部欠	口底 -	10.8 -	高 -	9.9 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は内傾して立ち上がり中位に段をなす。胴部との間にも稜を有する。横ナデ。胴部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面の一部に黒斑。

1区8面 6号竪穴状遺構遺物観察表

第731図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口底 -	-	高 -	-	細砂粒/良好/にぶ い褐	小破片。口径は小さくなる可能性あり。口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	
-------	---	----------	-----------	---------	---	--------	---	-----------------	---	--

1区8面 7号竪穴状遺構遺物観察表

第731図	2	土師器 杯	床直上・埋没土 破片	口底 -	13.0 -	高 -	-	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。
第731図	3	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位1/4	口底 -	20.0 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。器面に炭素吸着。

1区8面 54号溝遺物観察表

第733図 PL.229	1	土師器 杯	西側立ち上がり 直上 完形	口底 -	11.9 -	高 -	5.3 -	粗砂粒・赤茶色粘 土粒/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第733図 PL.229	2	土師器 杯	底面直上 口縁部一部欠	口底 -	12.3 -	高 -	4.9 -	粗砂粒少・雲母/ 良好/赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	器面は摩滅。
第733図 PL.229	3	土師器 杯	壁面 完形	口底 -	12.4 -	高 -	5.3 -	粗砂粒少・雲母/ 良好/明赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第733図 PL.229	4	土師器 杯	底面直上 完形	口底 -	13.2 -	高 -	5.9 -	粗砂粒少・雲母/ 良好/明赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	
第733図 PL.230	5	土師器 杯	底面より8cm 口縁部一部欠	口底 -	12.5 -	高 -	5.0 -	粗砂粒少・雲母/ 良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第733図 PL.230	6	土師器 杯	西側立ち上がり 直上 口縁部一部欠	口底 -	11.8 -	高 -	6.0 -	粗砂粒少・雲母/ 良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	
第733図 PL.230	7	土師器 杯	西側立ち上がり 直上 完形	口底 -	13.2 -	高 -	6.4 -	粗砂粒少/良好/橙	鉢に近い形状。口縁部は底部との間に弱い稜を有する。強い当たりの横ナデ。底部外面にナデのようなヘラ削り。内面はナデ。工具の当たった痕跡を残す。	
第733図 PL.230	8	土師器 杯	壁面 口縁部一部欠	口底 -	12.6 -	高 -	5.5 -	粗砂粒・雲母/良 好/明赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部外面に黒斑。
第733図 PL.230	9	土師器 鉢	壁面 口縁部一部欠	口底 3.5	10.2 3.5	高 -	4.8 -	粗砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。底部外面はナデ。	器面に炭素吸着。摩滅。
第733図 PL.230	10	土師器 鉢	底面直上・埋没 土 3/4	口底 5.2	19.3 5.2	高 -	12.2 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は上位にヘラナデ。中位下位はヘラナデの上に横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	底部外面に木葉痕。器面はやや摩滅。
第733図 PL.230	11	土師器 鉢	壁面 口縁部一部欠	口底 -	9.6 -	高 -	7.2 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部から底部外面は横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	器面はやや摩滅。
第733図 PL.230	12	土師器 鉢	西側立ち上がり 直上 完形	口底 3.9	13.1 3.9	高 -	8.4 -	粗砂粒・雲母/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。体部はヘラナデ。内面もヘラナデ。	
第733図 PL.230	13	土師器 小型甕	西側立ち上がり 直上 3/4	口底 5.1	13.0 5.1	高 -	11.2 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラナデ。内面もヘラナデ。	内外面の広い範囲に炭素吸着。黒斑。
第733図 PL.230	14	土師器 甕	底面直上 口縁部・胴部一 部欠	口底 7.5	17.0 7.5	高 -	32.3 -	粗砂粒・軽石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位の、最上位のみ横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	底部外面に炭素吸着。被熱。
第734図 PL.230	15	土師器 甕	底面より10～ 11cm 完形	口底 6.5	15.8 6.5	高 -	33.9 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部から頸部直下まで横ナデ。胴部外面は3回に分けて縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部外面もヘラ削り。	胴部から底部外面の広い範囲に黒斑。被熱。
第734図 PL.230	16	土師器 甕	底面より16cm 3/4	口底 6.4	15.6 6.4	高 -	34.7 -	粗砂粒/良好/淡黄	口縁部は横ナデ。胴部外面の頸部直下は横位の、上位から中位は縦位の、下位は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面は摩滅。
第734図 PL.231	17	土師器 甕	西側立ち上がり 直上 1/2	口底 5.5	18.3 5.5	高 -	32.8 -	粗砂粒/良好/明黄 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は3回ほどに分けて縦位のヘラ削り。内面は横位・斜位のヘラナデ。底部外面はヘラ削り。	外面の広い範囲に黒斑。
第734図 PL.231	18	土師器 甕	底面直上 口縁部一部欠	口底 6.6	14.6 6.6	高 -	28.3 -	粗砂粒多/良好/淡 黄	口縁部は横ナデ。胴部外面は上位・中位に縦位の、下位に斜横位の弱い当たりのヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	胴部外面に黒斑。
第733図 PL.230	19	土師器 手捏ね	西側立ち上がり 直上 完形	口底 4.9	5.7 4.9	高 -	5.1 -	粗砂粒/良好/浅黄 橙	鉢形を呈するが器形は大きく歪む。整形も粗雑。外面は指ナデの痕跡を残す。内面も輪積痕を残す。	

遺物観察表

1区8面 57号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	-			
第737図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口底 9.0	高 -	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。内面はナデ。	器面は摩滅。

1区8面 60号土坑遺物観察表

第737図 PL.231	1	土師器 杯	床上14cm 完形	口底 11.2	高 -	5.2	粗砂粒少/良好/明赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。器肉はやや厚い。	
第737図	2	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部下 位1/4	口底 25.0	高 -	-	粗砂粒・軽石/良好/にぶい黄橙	器形は歪んでいるか。胴部は作図より張る可能性あり。口縁部は横ナデ。胴部外面は上位にヘラ削りか。以下は縦位のヘラ削り。内面はヘラナデか。	器面は摩滅。

1区8面 61号土坑遺物観察表

第737図	3	土師器 杯	埋没土 口縁部片	口底 13.8	高 -	-	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
-------	---	----------	-------------	------------	--------	---	------------	-----------------------------	--

1区8面 71号土坑遺物観察表

第737図	4	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部上 位片	口底 12.4	高 -	-	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。	器面は摩滅。
第737図 PL.231	5	石製品 凹石	埋没土 1/2	長幅 (13.9) (15.0)	厚重 (6.8) 1041.6	-	-/二ツ岳軽石	軽石転石の上面中央に漏斗(すり鉢)状の研磨による孔と、その周辺には平滑な研磨面を有する。	

1区8面 72号土坑遺物観察表

第737図 PL.231	6	土師器 杯	床直上 口縁部一部欠	口底 13.0	高 -	5.6	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第737図	7	土師器 小型甕	床直上 口縁部～胴部中 位片	口底 (14.9)	高 -	-	粗砂・細砂粒・雲母/良好/灰黄褐	口縁部から頸部は横ナデ。胴部外面上位は斜縦位の、中位は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラ削り。	器面に炭素吸着。

1区8面 78号土坑遺物観察表

第737図	8	土師器 杯	埋没土 口縁部片	口底 11.8	高 -	-	細砂粒/良好/赤褐	横ナデ。	
-------	---	----------	-------------	------------	--------	---	-----------	------	--

1区8面 79号土坑遺物観察表

第737図	9	土師器 杯	埋没土 破片	口底 13.3	高 -	-	細砂粒少/良好/橙	口縁部は内面先端で屈曲。短く外傾して立ち上がる。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に斜位のヘラ磨き。	
第737図 PL.231	10	土師器 杯	床上40cm 口縁部一部欠	口底 11.6	高 -	3.6	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第737図	11	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口底 24.0	高 -	-	粗砂粒/良好/黒褐	横ナデ。	器面に炭素吸着。摩滅。

1区8面 80号土坑遺物観察表

第737図	12	土師器 杯	床直上 口縁部1/4	口底 14.8	高 -	-	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。内面はナデの上に横位のヘラ磨きを重ねる。	
第737図	13	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口底 19.0	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	横ナデ。	

1区8面 87号土坑遺物観察表

第737図	14	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口底 11.8	高 -	-	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面はヘラ削り。内面はナデ。	
第737図	15	土師器 甕	床上13cm 胴部下位～底部 1/3	口底 9.0	高 -	-	粗砂粒/良好/浅黄	胴部外面はヘラ削りの上に横位のヘラナデを重ねる。内面は斜横位のヘラナデ。	接合部分で欠損している。器面に黒斑。

1区8面 88号土坑遺物観察表

第737図	16	土師器 杯	床直上 1/3	口底 14.0	高 -	3.9	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部外面に炭素吸着。
-------	----	----------	------------	------------	--------	-----	----------	-----------------------------	------------

1区8面 89号土坑遺物観察表

第737図	17	土師器 杯	床上13cm 破片	口底 12.8	高 -	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。	
-------	----	----------	--------------	------------	--------	---	----------	-----------------------------	--

1区8面 90号土坑遺物観察表

第737図	18	土師器 甕	床上14cm・埋没土 口縁部～胴部上 位1/2	口底 21.0	高 -	-	粗砂粒・赤黒色粘土粒・軽石/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
-------	----	----------	-------------------------------	------------	--------	---	-----------------------	----------------------------------	-----

1区8面 306号ピット遺物観察表

第737図	19	土師器 杯	埋没土 破片	口底 11.8	高 -	-	細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。煤か。
-------	----	----------	-----------	------------	--------	---	-------------	---	-------------

1区8面 遺構外遺物観察表

第740図 PL.231	1	土師器 杯	確認面 1/3	口底 12.8	高 -	4.8	粗砂粒/良好/浅黄橙	平底で皿状を呈する。全体に粗雑な整形。口縁部は横ナデ。体部外面と底部外面はヘラ削り。	
第740図	2	須恵器 長頸壺	確認面 頸部下位片	口底 -	高 -	-	黒色鋳物粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。外面施釉。内面にも釉付着。	自然釉
第740図 PL.231	3	不明 不明	確認面 破片	口底 -	高 -	-	粗砂粒・白色鋳物粒/酸化焰/褐灰	外面にカキ目か。内面はナデ。	外面に線刻か
第740図 PL.231	4	土製品 土錘	確認面 一部欠損	長幅 6.4 1.4	厚孔 1.5 0.4	-	細砂粒/酸化焰/にぶい黄橙	器面はナデ調整。	重量12.32g

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第740図 PL.231	5	土製品 土錘	確認面 一部欠	長 幅	5.4 1.8	厚 孔	1.6 0.4 0.5	粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	両小口とも欠損。	器面は摩滅。 重量14.84g
第740図 PL.231	6	土製品 土錘	埋没土 一部欠損	長 幅	5.8 1.7	厚 孔	1.5 0.4	細砂粒/酸化焰/明 黄褐	器面はナデ調整。	小口の欠損は 旧事か。重量 13.91g
第740図 PL.231	7	土製品 土錘	113・119・139住 埋没土 3/4	長 幅	5.4 1.6	厚 孔	1.6 0.4	細砂粒/酸化焰/明 赤褐	器面はナデ調整。	重量13.27g
第740図	8	埴輪 円筒	確認面 胴部片	口 底	-	高 -	-	粗砂粒・雲母/窖 窯焼成/橙	外面に1cmあたり4本の縦位のハケ目。内面はナデ。	
第740図 PL.231	9	石製品 砥石	確認面 破片	長 幅	9.0 4.1	厚 重	(3.5) 182.5	-/-/砥沢石	4面使用。正面の研ぎ減りが著しく、砥面が凹状を呈する。	
第740図 PL.231	10	礫石器 敲石	確認面 完形	長 幅	6.9 2.5	厚 重	1.7 50.9	-/-/溶結凝灰岩	断面長方形の小型棒状礫を素材とする。右側稜線に敲打痕がまとまって認められたため敲石とした。	
第740図 PL.231	11	礫石器 磨石	確認面 完形	長 幅	6.7 5.5	厚 重	2.9 155.3	-/-/粗粒輝石安山 岩	扁平な楕円礫の表裏面中央部が平滑であったため磨石とした。側面の一部に敲打痕が見られ、敲石として使用した可能性もある。	
第740図 PL.231	12	石製品 凹石	確認面 完形	長 幅	13.9 12.0	厚 重	5.6 1404.9	-/-/粗粒輝石安山 岩	自然石の上面中央にすり鉢状の研磨による小さな孔と、その周辺には平滑な研磨面を有する。	
第740図 PL.231	13	石製品 凹石	確認面 完形	長 幅	22.8 22.8	厚 重	14.5 4519.2	-/-/二ツ岳石	軽石転石の上下2面の中央部に漏斗状の研磨による窪みを有する。	
第740図 PL.231	14	琥珀製品 勾玉	確認面 破片	長 幅	2.8 2.0	厚 重	1.5 3.60	-/-/-	琥珀製と見られる勾玉破片。劣化が著しく表面は細かくひび割れ荒れている。孔は両面穿孔で中央で食い違う。孔縁は両端とも上方に僅かに広がり使用による摩耗と考えられる。	左孔0.5 右孔 0.4

2区8面 1号遺物集中遺物観察表

第745図 PL.232	1	土師器 杯	確認面 1/2	口 底	13.8 -	高 -	5.2 -	粗砂粒少/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第745図	2	土師器 杯	確認面 1/3	口 底	14.4 -	高 -	4.5 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	

2区8面 2号遺物集中遺物観察表

第746図 PL.232	1	土師器 杯	確認面 口縁部一部欠	口 底	11.1 -	高 -	4.7 -	粗砂粒/良好/明褐	口縁部は弱く、内傾気味に立ち上がる。先端は内側がそがれるように薄くなる。底部との間には稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。 炭素吸着。
第746図	2	土師器 杯	確認面 3/4	口 底	12.4 -	高 -	4.7 -	細砂粒/良好/橙	器形は大きく歪んでいる。口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第746図	3	土師器 杯	確認面 3/4	口 底	11.3 -	高 -	4.3 -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第746図 PL.232	4	土師器 杯	確認面 口縁部一部欠	口 底	11.8 -	高 -	4.5 -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第746図 PL.232	5	土師器 杯	確認面・埋没土 完形	口 底	10.8 -	高 -	4.0 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第746図	6	土師器 杯	確認面 3/4	口 底	11.0 -	高 -	3.7 -	赤茶色粘土粒/良 好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第746図 PL.232	7	土師器 杯	確認面(杯10の 上) 口縁部一部欠	口 底	12.5 -	高 -	4.3 -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第746図 PL.232	8	土師器 杯	確認面(杯7の 上) 口縁部一部欠	口 底	12.2 -	高 -	4.2 -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。外面中位にも弱い段がある。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第746図	9	土師器 杯	確認面 3/4	口 底	12.3 -	高 -	4.3 -	粗砂粒少/良好/黄 橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に鉄分凝集。
第746図	10	土師器 杯	確認面 3/4	口 底	12.9 -	高 -	3.8 -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第746図	11	土師器 甕	確認面 口縁部～胴部中 位1/4	口 底	10.8 -	高 -	-	粗砂粒少・赤茶色 粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は上位が横位の、中位が斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	

2区8面 17号土坑遺物観察表

第747図 PL.232	1	石製品 凹石	床上5cm 破片	長 幅	(15.5) (19.6)	厚 重	(11.0) 2457.5	-/-/二ツ岳石	軽石転石の上下両面に窪みを有する。上面の窪みは直径8cmで漏斗状を呈し、窪み部の内部は研磨により表面が平滑である。下面の窪みは浅く皿状である。	
-----------------	---	-----------	-------------	--------	------------------	--------	------------------	----------	---	--

2区8面 遺構外遺物観察表

第749図	1	土師器 杯	確認面 2/3	口 底	11.0 -	高 -	3.7 -	粗砂粒少・赤茶色 粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第749図	2	土師器 杯	確認面 口縁部一部欠	口 底	10.8 -	高 -	3.3 -	赤茶色粘土粒少/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。	器面は摩滅。
第749図 PL.232	3	須恵器 椀	確認面 口縁部一部欠	口 底	14.3 7.1	高 -	5.5 -	粗砂粒/酸化焰/明 黄褐	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付高台。	口縁部外面に 墨書「口」
第749図 PL.232	4	土製品 土錘	確認面 完形	長 幅	3.7 0.8	厚 孔	0.7 0.2	細砂粒/酸化焰/に ぶい褐	両端はヘラで切り落とすことなく、徐々に細く絞られて収束している。器面は丁寧なナデ。	重量2.02g

遺物観察表

5区8面 1号住居遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第758図 PL.232	1	土師器 鉢	カマド内床直上 口縁部一部欠	口底	13.3 5.9	高 -	9.5 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は摩滅のため観察が困難であるが、上半部はナデ、下半部はヘラ削りか。内面はヘラナデ。	内外面の一部に炭素吸着。被熱か。
第758図 PL.232	2	土師器 甕	東部床直上 3/4	口底	18.4 7.1	高 -	33.6 -	粗砂粒多/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は上半部が斜縦位の、下半部が斜横位あるいは横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面胴部下半に黒斑。

5区8面 2号住居遺物観察表

第760図 PL.232	1	土師器 杯	東壁直下掘方 1/2	口底	11.7 -	高 -	3.0 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。外面は体部がナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第760図	2	土師器 甕	カマド内床直上、カマド掘方 口縁部～胴部上位片	口底	18.6 -	高 -	-	粗砂・細砂粒・黒色 鋳物粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。外面は胴部上位が横位の、中位は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面は被熱。やや摩滅。
第760図	3	土師器 甕	カマド内床直上 胴部下位～底部片	口底	6.9 -	高 -	-	粗砂粒・黒色鋳物 粒/良好/明黄褐	胴部は狭小な底部から大きく張り出す。整形は器面が摩滅のため詳細不明。外面はヘラ削り。内面はヘラナデと考えられる。	

5区8面 3号住居遺物観察表

第761図 PL.232	1	須恵器 杯	北東部床上12cm 2/3	口底	14.4 6.0	高 -	5.6 -	粗砂粒・灰黒色粘 土粒/酸化焰ぎみ/ 灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第761図	2	土師器 小型甕	東部床直上 口縁部～胴部上位片	口底	11.0 -	高 -	-	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	器面に炭素吸着。
第761図 PL.232	3	石製品 不明	埋没土 破片	長幅	5.6 3.3	厚重	1.9 16.1	-/-/二ツ岳軽石	板状の軽石を素材とする。正面は平滑面である。	

5区8面 4号住居遺物観察表

第764図 PL.232	1	土師器 杯	カマド床上6cm 口縁部一部欠	口底	11.7 7.3	高 -	3.3 -	粗砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ。体部は手持ちヘラ削り。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。口縁部には放射状に細く針状のヘラ磨き。	
第764図 PL.232	2	須恵器 杯	東壁床直上 口縁部一部欠	口底	12.6 7.3	高 -	3.5 -	粗砂粒・灰色粘土 粒/還元焰・軟質/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面はやや摩滅。
第764図	3	土師器 甕	カマド床直上～ 床上8cm 胴部下位～底部片	口底	4.6 -	高 -	-	粗砂・細砂粒/良 好/明赤褐	胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。底部外面はヘラ削り。	外面に煤付着。

5区8面 5号住居遺物観察表

第766図 PL.232	1	土師器 杯	北西床上10cm 口縁部一部欠	口底	12.3 -	高 -	4.3 -	細砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第766図	2	土師器 杯	カマド埋没土 口縁部～底部 1/4	口底	11.8 -	高 -	-	細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ。体部外面はナデ。型肌の痕跡が残る。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第766図 PL.232	3	土師器 杯	南西床直上 口縁部一部欠	口底	12.9 -	高 -	3.6 -	粗砂・細砂粒/良 好/橙	器形は大きく歪んでいる。口縁部は横ナデ。体部はナデ、指ナデ。底部外面の一部にヘラ削り。体部から底部外面に型肌を残す。内面はナデ。	
第766図	4	須恵器 椀	カマド床直上 口縁部中位～高 台部片	口底	-	高台	6.2	粗砂粒・灰色粘土 粒/酸化焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付高台。	器面はやや摩滅。
第766図	5	灰釉陶器 椀	埋没土 底部～高台部片	口底	-	高台	8.4	黒色鋳物粒少/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。高台部は付高台。内外面に施釉。刷毛塗るか。	大原2号窯式期
第766図	6	灰釉陶器 瓶	埋没土 胴部片	口底	-	高	-	黒色鋳物粒多/還 元焰/オリブ灰	ロクロ整形(右回転)。外面に施釉。	
第766図	7	土師器 甕	カマド床直上～ 床上10cm 口縁部～胴部上位片	口底	18.4 -	高 -	-	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。輪積痕を残す。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	

5区8面 6号住居遺物観察表

第769図 PL.233	1	土師器 杯	カマド右袖側床 直上 3/4	口底	12.5 -	高 -	4.0 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。底部外面の削痕は旧事と考えられる。	器面はやや摩滅。
第769図	2	須恵器 壺	埋没土 口縁部片	口底	-	高	-	白色鋳物粒多/還 元焰・やや軟質/ 灰	ロクロ整形(左回転か)。口縁部の先端は欠損。外面に微隆起の突帯。下位に波高の高い波状文が巡る。	
第769図 PL.233	3	土師器 小型甕	北壁床上45cm 2/3	口底	13.3 4.7	高 -	12.5 -	粗砂粒・軽石/良 好/にぶい黄橙	器形は歪み横断面はやや長円形。口縁部は横ナデ。外面胴部は頸部直下にナデの部分を残す。それ以下は横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	器面に被熱。炭素吸着。
第769図 PL.233	4	土師器 甕	北壁床上17～ 20cm 口縁部～胴部 1/3	口底	17.8 -	高 -	-	粗砂粒・軽石/良 好/橙	口縁部は横ナデ。外面は胴部に縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第769図 PL.233	5	石製品 砥石	南壁床直上 完形	長幅	14.8 7.4	厚重	7.6 575.8	-/-/粗粒輝石安山 岩	正面は側面形山形の砥面で非常に平滑である。左右側面および裏面には断面V字状の刃慣らし傷と平滑面が見られる。小口面も平滑で破損後、研磨に使用している。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第769図 PL.233	6	石製品 不明	北壁床上16cm 完形	長幅 11.8 13.3	厚 5.4 684.4	5.4 684.4	-/-/二ツ岳軽石	軽石転石の上面に平滑な研磨面を多数有する。		
第769図 PL.233	7	鉄製品 不詳	カマド前床上 45cm 破片	長幅 14.7 9.5	厚 2.6 343.45	2.6 343.45	-/-/-	土砂を巻き込んで錆化し本体は脆弱で形状は不明瞭。全体に放射割れが入り鑄造鉄製品の破片が錆化したものと考えられる。		

5区8面 7号住居遺物観察表

第770図	1	土師器 杯	床直上 1/4	口底 -	12.0 -	高 3.4 -	粗砂粒多/良好/浅 黄	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部外面に黒斑。
第770図	2	土師器 甕	床上7cm 口縁部~胴部上 位片	口底 -	16.8 -	高 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	

5区8面 8号住居遺物観察表

第771図	1	土師器 杯	南部床直上 口縁部一部欠	口底 -	12.2 -	高 5.2 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第771図	2	土師器 杯	東壁床直上 3/4	口底 -	12.2 -	高 4.4 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。中位には弱い段が見られる。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第771図 PL.233	3	土師器 甕	北壁床直上~床 上18cm 口縁部~胴部 1/3	口底 -	21.6 -	高 -	粗砂粒・軽石/良 好/明黄褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。器面は脆弱。

5区8面 9号住居遺物観察表

第774図 PL.233	1	土師器 杯	北東床直上 完形	口底 -	11.9 -	高 6.2 -	粗砂粒・赤色粘土 粒・雲母/良好/明 赤褐	全体に深みあり。口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は中心寄りにヘラ削り。内面はナデ。	
第774図 PL.233	2	土師器 杯	カマド右袖側床 直上 口縁部一部欠	口底 -	12.5 -	高 6.1 -	粗砂粒/良好/赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。口縁部寄りに一部ナデの部分を残す。内面は丁寧なナデ。	赤彩か
第774図	3	土師器 甕か	カマド右袖側床 直上 胴部下位~底部 片	口底 -	5.8 -	高 -	粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	丸胴が大きく張り出す。外面は胴部残存上位に縦位の、以下は斜横位のヘラ削り。底部もヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面の一部に炭素吸着。内面は黒色味。
第774図 PL.233	4	鉄製品 不詳	埋没土 破片	長幅 7.1 4.5	厚 2.3 64.96	2.3 64.96	-/-/-	泥・砂を巻き込んで錆化し本体形状は不明。全体に放射割れがみられ鑄造鉄製品の破片と考えられる。	

5区8面 10号住居遺物観察表

第777図 PL.233	1	土師器 杯	中央床上15cm 口縁部一部欠	口底 -	12.7 -	高 4.4 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第777図	2	土師器 高杯か	中央床上15cm 基部~脚部片	口底 -	-	高 -	粗砂・細砂粒/良 好/橙	大きく開く杯部に筒状の脚部を接合。脚部内面はヘラ状工具により調整。	
第777図 PL.233	3	土師器 甕	カマド焚口床上 6cm 口縁部一部欠	口底 -	19.8 5.8	高 37.1 -	粗砂粒・軽石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。外面は胴部上半部が縦位の、下半部は斜位・横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面は被熱。広い範囲に粘土付着。
第777図	4	土師器 甕	中央床直上 口縁部~胴部中 位片	口底 -	20.5 -	高 -	粗砂粒・黒色鈹物 粒/良好/灰黄	胴部は丸く張り出す。口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部は上半部が斜縦位の、下半部が斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第777図	5	土師器 甕	中央床直上~埋 没土 口縁部~胴部中 位3/4	口底 -	21.0 -	高 -	粗砂粒・軽石・黒 色鈹物粒/良好/灰 黄	胴部は丸く張り出す。口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	

5区8面 11号住居遺物観察表

第778図	1	土師器 杯	床直上 破片	口底 -	18.0 -	高 -	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第778図	2	須恵器 椀	床上19cm及び14 号住居埋没土 口縁部中位~底 部片	口底 -	-	高台 8.8	石英粒多・灰黒色 粘土粒/還元焰/灰 黄褐	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付高台。貼付後、周縁部にナデ調整。	内面は摩耗。

5区8面 12号住居遺物観察表

第781図	1	土師器 杯	東壁床直上 2/3	口底 -	13.9 -	高 5.2 -	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は大きく歪んでいる。横ナデ。底部外面下半に手持ちヘラ削り。上半部はナデの部分を残す。内面はナデと考えられる。	鉄分凝集。
第781図 PL.234	2	土師器 杯	東壁床直上 完形	口底 -	13.1 -	高 6.0 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面はナデ後、下半部にヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第781図 PL.234	3	土師器 甕	東壁 1/2	口底 -	14.2 -	高 11.3 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。平底の底部の中央に直径2.0cmの小孔を焼成前に穿孔。	器面には鉄分付着。
第781図 PL.234	4	土師器 甕	中央床直上 1/2	口底 -	17.1 -	高 15.8 -	粗砂粒・軽石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は丁寧なナデ。尖底状の底部に直径2.4cmの小孔を焼成前に穿孔。	器面に炭素吸着。摩滅。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚			
第781図 PL.234	5	土師器 小型甕	中央床直上 2/3	口底 7.0	高 12.9	厚 15.8	粗砂粒/良好/橙	全体形状がバランスを欠いている。口縁部外面は粗雑なナデ。内面下半にはヘラ削りに近いナデ。外面は胴部上位に横位の、中位は斜横位の、下位は斜縦位のヘラナデ。内面もヘラナデ。底部外面はヘラ削り。	底部外面に黒斑。

5区8面 13号住居遺物観察表

第782図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部 1/3	口底 -	高 12.4	厚 -	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第782図 PL.234	2	土師器 小型甕	床直上及び掘り方 口縁部～胴部下 位片	口底 -	高 12.5	厚 -	粗砂・細砂粒/良 好/明赤褐	口縁部は横ナデ。先端直下は沈線状に凹む。外面は胴部上位に横位の、中位以下に斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面は被熱。炭素吸着。
第782図	3	土師器 甕	床直上及び掘り方 口縁部～胴部片	口底 -	高 18.4	厚 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	

5区8面 14号住居遺物観察表

第784図 PL.234	1	土師器 杯	北壁床直上18cm 口縁部一部欠	口底 8.3	高 11.9	厚 3.3	粗砂粒/良好/橙	口縁部上半部は横ナデ。下半部にナデの部分を残す。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。口縁部の先端と内面の口縁部から底部の一部に煤付着。灯明に使用されたと考えられる。	
第784図 PL.234	2	須恵器 皿	北壁床直上18cm及 び埋没土 2/3	口底 -	高 12.7	厚 2.6 6.4	白色鉾物粒多・灰 黒色粘土粒/還元 焰・やや軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。貼付後、周縁部にナデ調整。	
第784図 PL.234	3	灰陶陶器 椀	西部床直上 口縁部片	口底 -	高 17.8	厚 -	黒色鉾物粒少/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転か)。内外面に施釉。	光ヶ丘1号窯式期
第784図 PL.234	4	鉄製品 不詳	北西部床直上 破片	長幅 3.6	厚 3.6	重 1.1 10.85	-/-/-	土砂を巻き込んで錆化し本体は脆弱で形状は不明瞭。全体に放射割れが入る。薄い板状の鑄造鉄製品の破片が錆化したものと考えられる。	

5区8面 15号住居遺物観察表

第786図	1	土師器 杯	カマド掘り方 1/2	口底 -	高 12.4	厚 4.7	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面に炭素吸着。黒色処理か。器面は摩滅。
第786図	2	土師器 杯	カマド掘り方 1/2	口底 -	高 12.0	厚 -	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。

5区8面 16号住居遺物観察表

第788図 PL.234	1	土師器 小型甕	貯蔵穴 3/4	口底 -	高 13.3	厚 13.7	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は上位から中位に、斜縦位の極めてナデに近いヘラ削り。下位から底部にも方向を変えてヘラ削り。内面は横位のヘラナデ	外面は底部周辺に炭素吸着。内面は黒色に変色。
第788図 PL.234	2	土師器 甕	貯蔵穴 口縁部1/3欠	口底 9.7	高 28.1	厚 30.0	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は4～6回に分けて斜縦位の、内面は全体にわたり横位のヘラナデ。最下位は孔の部分にのみヘラ削り。	外面の一部に炭素吸着。内面も一部黒色味。
第788図 PL.235	3	土師器 甕	貯蔵穴 口縁部・胴部一 部欠	口底 7.5	高 17.8	厚 32.6	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は頸部直下に3～4回に分けて斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	胴部外面は被熱。変色。

5区8面 17号住居遺物観察表

第789図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口底 -	高 10.6	厚 -	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は底部との間に明瞭な稜を有する。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部外面に黒斑。
第789図	2	土師器 小型甕か	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口底 -	高 15.0	厚 -	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ削りと考えられる。内面は横位のヘラナデ。	

5区8面 18号住居遺物観察表

第791図	1	土師器 杯	西部床直上 破片	口底 -	高 12.4	厚 -	細砂粒・赤色粘土 粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第791図	2	土師器 甕	カマド床直上及 び掘り方 胴部下位片	口底 -	高 -	厚 -	粗砂粒・軽石/良 好/にぶい赤褐	外面は縦位・斜縦位のヘラ削り。内面は斜位・横位のヘラナデ。	被熱。器面に炭素吸着。
第791図	3	土師器 甕	埋没土 胴部下位～底部 片	口底 5.0	高 -	厚 -	粗砂粒多/良好/に ぶい黄褐	胴部外面は斜位のヘラ削り。内面はヘラナデ。底部外面に木葉痕。	被熱。炭素吸着。
第791図 PL.235	4	瓦 平瓦	南部床直上38cm 破片	口底 -	高 -	厚 -	片岩の小礫多・粗 砂粒多/還元焰/灰 黄褐	凸面は全面ナデ。凹面は布目痕を残す。側端は面取り2回か。側面はヘラ削り。	凸面に刻書「□」。
第791図 PL.235	5	石製品 白玉	床直上 完形	長幅 1.4	厚 1.4	重 1.2 3.4	-/-/滑石	孔径4mm。上面は傾斜し、下面は凹凸が残り研磨が進んでいないことから、未成品と考えられる。側面では縦方向の鋭利な線状痕が全周に見られる。	

5区8面 19号住居遺物観察表

第793図	1	土師器 杯	南西部床直上 破片	口底 -	高 16.6	厚 -	粗砂粒・雲母/良 好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
-------	---	----------	--------------	---------	-----------	--------	-----------------	-----------------------------	--

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第793図	2	土師器 甕	中央南寄り床直上 口縁部～胴部上位片	口底	19.4	高	-	粗砂粒/良好/浅黄	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第793図	3	須恵器 甕	中央南寄り床直上 口縁部片	口底	-	高	-	粗砂粒/還元焰・不良/灰黄	紐づくり後、ロクロ整形。外面は中位に沈線を巡らし区画。上段は先端直下に波状文を配す。	
第793図 PL.235	4	石製品 白玉	南部床直上 完形	長幅	0.6	厚重	0.1 0.2	-/-/滑石	孔径2mm。上下面は研磨されている。側面では縦方向の線状痕が見られる。	

5区8面 20号住居遺物観察表

第794図	1	須恵器 椀	埋没土 口縁部～底部1/2	口底	14.6	高	-	黒色鈹物粒/還元焰・軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。	高台部剥落後も使用か。
第794図	2	瓦 平瓦	埋没土 破片	口底	-	高	-	白色鈹物粒多/還元焰/暗灰	表面に布目痕を残す。裏面はナデ。	器面に自然釉付着。

5区8面 21号住居遺物観察表

第795図	1	土師器 杯	西壁床直上 1/2	口底	11.8	高	3.6	粗砂・細砂粒・雲母/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面はナデ。わずかに型肌の痕跡を残す。底部外面は手持ちヘラ削り。	
第795図	2	土師器 杯	西壁床直上7cm・埋没土 2/3	口底	11.8	高	3.5	粗砂・細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。体部外面はナデ。わずかに型肌の痕跡を残す。底部外面は手持ちヘラ削り。	器面に鉄分凝集。
第795図	3	土師器 杯	南壁床直上7cm 口縁部下位一部欠	口底	12.1	高	3.4	細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ。外面は体部がナデ、底部が手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に鉄分凝集。
第795図 PL.235	4	須恵器 杯	カマド前床直上 2/3	口底	12.0 5.7	高	3.9	粗砂粒・灰黒色粘土粒/還元焰・軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後。無調整。	

5区8面 22号住居遺物観察表

第796図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部1/4	口底	11.4	高	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は幅広く横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。口縁部との間のわずかな範囲にナデの部分を残す。内面はナデ後、口縁部にヘラ磨きを施す。	
第796図	2	土師器 甕	カマド床直上 胴部下位～底部1/3	口底	-	高	-	粗砂粒・軽石/良好/褐	胴部径は大きくなる可能性あり。器面摩滅のため、整形不明。内面はヘラナデか。	被熱の為か脆弱。

5区8面 23号住居遺物観察表

第799図	1	土師器 杯	カマド掘り方 口縁部～底部片	口底	13.0	高	-	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第799図	2	土師器 甕	西壁床直上～床直上6cm、埋没土 胴部下位1/2	口底	-	高	-	粗砂粒多/良好/明褐	外面は縦位・斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	内外面とも炭素吸着。鉄分付着。
第799図	3	土師器 甕	中央東より床直上 胴部下位～底部片	口底	-	高	-	粗砂粒・軽石・黒色鈹物粒/良好/にぶい黄橙	凸面状の底部。胴部外面はヘラ削り。内面はヘラナデと考えられるが、器面摩滅のため詳細不明。胴部下位の接合部分で破損しており、欠損後も鉢状に使用したか。	

5区8面 24号住居遺物観察表

第801図	1	土師器 杯	右袖側床直上 口縁部一部欠	口底	11.7	高	4.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第801図 PL.235	2	土師器 杯	右袖側床直上 完形	口底	12.9	高	4.1	粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。中位には段をなす。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面とも炭素吸着。
第801図	3	土師器 杯	カマド前床直上 3/4	口底	11.9	高	3.5	細砂粒・赤黒色粘土粒/良好/橙	器形は歪んでいる。口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	器面は摩滅。
第801図 PL.235	4	土師器 甕	カマド前床直上 口縁部～胴部中位片	口底	11.0	高	-	細砂粒・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の整形はヘラ削りと考えられるが、器面摩滅のため不明。内面はヘラナデと考えられる。	
第802図	5	土師器 甕	南部床直上 口縁部～胴部上位1/2	口底	23.0	高	-	粗砂・細砂粒/良好/にぶい黄橙	胴部は丸く張る。口縁部は横ナデ。胴部外面、縦位・斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	内外面共に炭素吸着。黒色味。

5区8面 25号住居遺物観察表

第804図	1	土師器 杯	カマド床直上 口縁部～底部片	口底	14.8	高	-	粗砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
-------	---	----------	-------------------	----	------	---	---	-------------	---------------------------------	--

5区8面 26号住居遺物観察表

第805図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口底	13.8	高	-	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	
-------	---	----------	----------------	----	------	---	---	----------	-----------------------------------	--

5区8面 27号住居遺物観察表

第807図	1	土師器 杯	西壁、西部床上 15～36cm 1/3	口底	11.8	高	4.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は直立気味に立ち上がり、先端が外反。底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面はヘラ削り。内面はナデ。	
第807図	2	土師器 杯	南部床直上 1/4	口底	12.8	高	4.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は直立気味に立ち上がり、底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第807図 PL.235	3	石製品 砥石	西壁床上14cm 完形	長幅	27.0 29.4	厚重	13.5 13800.0	-/-/粗粒輝石安山岩	自然礫の上面中央に皿状の研磨による窪みを有し、側面にも研磨による平滑面を有する。	

遺物観察表

5区8面 28号住居遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	口径				
第809図	1	土師器 杯	カマド前床直上 及び埋没土 1/2	口底 -	13.2	高 -	4.3	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第809図	2	土師器 杯	南東部床直上 口縁部～底部片	口底 -	13.8	高 -	-	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第809図	3	土師器 高杯	南東部床直上 脚部下位片	口底 -	-	高脚	12.6	細砂粒/良好/橙	裾部にいたり大きく外反する。裾部は横ナデ。柱状部はヘラ削りか。内面は横位のナデ。輪積痕を顕著に残す。	器面は摩滅。
第809図 PL.235	4	土師器 甕	南東部床直上 口縁部～胴部上 位片	口底 -	22.4	高 -	-	粗砂粒多/良好/に ぶい橙	胴部は丸く張り出す。口縁部は中位に弱い段をなす。横ナデ。胴部外面は横位、あるいは斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	内面はやや摩滅。

5区8面 29号住居遺物観察表

第810図	1	土師器 杯	南東部床直上 1/3	口底 -	12.4	高 -	3.3	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面はナデ。型肌の痕跡をわずかに残す。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
-------	---	----------	---------------	---------	------	--------	-----	-----------	--	--

5区8面 32号住居遺物観察表

第813図	1	土師器 杯	南部床直上17cm 口縁部～底部片	口底 -	13.2	高 -	-	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第813図	2	土師器 小型甕	南部床直上17cm 口縁部～胴部上 位片	口底 -	17.6	高 -	-	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい黄橙	口縁部は短く外反。横ナデ。胴部外面縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面に鉄分凝集。

5区8面 33号住居遺物観察表

第816図 PL.235	1	土師器 杯	南壁床直上 口縁部一部欠	口底 -	11.4	高 -	4.4	細砂粒・赤褐色粘 土粒/良好/にぶい 橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第816図 PL.235	2	土師器 杯	南壁床直上 口縁部一部欠	口底 -	11.7	高 -	3.8	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面に炭素吸着。黒色。器面はやや摩滅。
第816図 PL.235	3	土師器 杯	北東部床直上 口縁部一部欠	口底 -	12.7	高 -	4.7	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第816図 PL.235	4	土師器 杯	北東部床直上 口縁部一部欠	口底 -	12.2	高 -	4.2	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部外面に黒斑。器面は摩滅。
第816図 PL.235	5	土師器 杯	東壁床直上 完形	口底 -	12.3	高 -	5.4	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第816図 PL.235	6	土師器 杯	西部床直上 口縁部一部欠	口底 -	14.3	高 -	6.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第816図 PL.235	7	土師器 広口壺	東壁床直上 口縁部一部欠	口底 -	11.2	高 -	12.0	細砂粒・赤褐色粘 土粒/良好/にぶい 橙	丸底。口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面はナデを施すと考えられる。	
第816図 PL.236	8	土師器 壺	東壁床直上 完形	口底 -	9.4	高 -	15.2	粗砂粒・黒色鋳物 粒/良好/橙	丸底。口縁部は横ナデ。胴部外面は横位、あるいは斜位のヘラ削り。	外面の一部に黒斑。
第816図 PL.236	9	土師器 壺	カマド床直上 胴部～底部片	口底 -	-	高 -	-	粗砂粒少・赤黒色 粘土粒/良好/橙	胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデと考えられるが、器面は摩滅している。	底部外面に黒斑。
第816図 PL.236	10	土師器 甕	東壁床直上 完形	口底 -	18.7	高 -	12.9	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面下位に横位の、これより上位は縦位のヘラ削り。内面は丁寧なヘラナデ。底部に直径1.3cmの小孔を焼成前に穿孔。	器面は摩滅。
第816図 PL.236	11	土師器 甕	北東部床直上 3/4	口底 10.1	23.4	高 -	32.5	粗砂粒・軽石/良 好/にぶい黄橙	口縁部2回に分けて横ナデ。胴部外面は3回に分けて斜縦位の、最下位は斜横位のヘラ削り。内面上位は横位、中位は斜縦位のヘラナデ。最下端はヘラ削り。	被熱。内外面とも炭素吸着。
第816図 PL.236	12	土師器 台付甕	カマド床直上 完形	口底 -	14.8	高台	21.3 11.3	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面上位は横位の、以下は斜位のヘラ削り。内面は横位のナデ。上部外面は基部から上半部にヘラ削り。下半部は横ナデ。内面上半部は横位のヘラ削り。下半部は横ナデ。	被熱。外面に黒色の付着物。
第817図 PL.236	13	土師器 甕	カマド床直上 口縁部一部欠	口底 4.7	16.4	高 -	19.5	粗砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第817図 PL.236	14	土師器 甕	カマド焚口床直上 口縁部2/3欠	口底 4.8	18.6	高 -	41.9	粗砂粒・黒色鋳物 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位の、最下位は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部外面はヘラ削り。胴部外面は口縁部直下を境に底部までの間は被熱の状況著しい。	黒色の付着物。
第817図 PL.237	15	土師器 甕	カマド床直上 口縁部1/2欠	口底 4.7	22.1	高 -	36.7	粗砂・細砂粒・軽 石/良好/にぶい黄 橙	口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部外面は4回ほどに分けてヘラ削り。上位から中位は縦位、下位は一部斜位、最下位は横位。内面は横位のヘラナデ。底部外面はヘラ削り。	外面に被熱。煤付着。
第817図 PL.237	16	土師器 甕	カマド右袖先端 部床直上 口縁部～胴部下 位	口底 -	20.3	高 -	-	粗砂・細砂粒・軽 石/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は4～5回に分けて縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面下位に炭素吸着。
第818図 PL.237	17	土師器 甕	中央東より床直上 口縁部1/2欠	口底 7.7	14.5	高 -	23.6	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は最上位と最下位が横位、上位が斜位、中位と下位は斜横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。胴部上位に直径1.5cmの焼成後の穿孔が見られる。	外面に黒斑。
第818図 PL.237	18	土師器 甕	カマド床直上 2/3	口底 9.0	17.7	高 -	26.2	粗砂粒/良好/橙	口縁部は中位に2か所小さな段を有する。横ナデ。胴部外面は斜位、斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱のため炭素吸着。摩滅。
第818図	19	須恵器 甕	中央部床直上18cm 口縁部片	口底 -	21.0	高 -	-	粗砂粒・灰色粘土 粒/還元焰/黄灰	紐づくり後、ロクロ整形。中位を微隆起の突帯で区画、その上下に櫛描波状文を配す。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第818図	20	須恵器 甕	中央部床上17cm 口縁部中位～胴 部上位片	口 底	-	高 -	-	粗砂粒・灰色粘土 粒/還元焰/黄灰	紐づくり後、口縁部にナデ整形。中位を沈線で区画し、下 段に櫛描波状文を配す。胴部は叩き整形。外面に平行叩き 目。内面に当て具痕を残す。	
第817図 PL.237	21	石製品 紡輪	南部床上29cm 完形	径 幅	4.0	厚 重	2.3 50.0	-/-/蛇紋岩	孔径7mm。広面の周縁では摩滅や衝撃による小剥離痕が見 られる。側面は丁寧に研磨され光沢をもち、横方向の細か い線状痕が多数見られる。狭面には放射状の線状痕が全周 に認められる。	出土地点が同 一の2つの破 片が接合。
5区8面 34号住居遺物観察表										
第820図	1	土師器 杯	カマド右袖側床 直上 口縁部～底部 1/2	口 底	12.0	高 -	4.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削りと考えられる。 内面はナデ。	器面は摩滅。
第820図	2	土師器 杯	カマド内床直上 口縁部～底部 1/4	口 底	17.0	高 -	-	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちへら削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第820図	3	土師器 甕	カマド内床直上 胴部片	口 底	-	高 -	-	粗砂粒・軽石/良 好/明赤褐	外面は縦位主体のへら削り。内面は横位のへらナデ。	被熱。
5区8面 35号住居遺物観察表										
第821図	1	土師器 杯	北東部床上16cm 2/3	口 底	12.2	高 -	3.2	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面はナデ。底部外面は手持ちへら 削り。内面はナデ。	器面はやや摩 滅。
5区8面 36号住居遺物観察表										
第822図	1	土師器 壺	埋没土及び2号 遺物集中 口縁部～頸部片	口 底	18.4	高 -	-	灰黒色粘土粒/良 好/にぶい黄橙	口縁部は大きく外反して立ち上がり、先端は外側に肥厚し 折り返し口縁状を呈する。外面は横ナデ後、縦位にへら磨 き。一部にハケ目を残す。内面は横位か。頸部直下に指ナ デ痕。	器面は摩滅。
5区8面 37号住居遺物観察表										
第824図	1	土師器 杯	埋没土 底部片	口 底	-	高 -	-	細砂粒/良好/橙	底部外面手持ちへら削り。内面はナデ。	
第824図	2	須恵器 甕	中央東より床直 上 胴部片	口 底	-	高 -	-	白色鈹物粒/還元 焰/灰	紐づくり後、叩き整形。外面は平行叩き目。内面は当て具痕。	
5区8面 38号住居遺物観察表										
第826図	1	土師器 甕	北東部床上20cm 口縁部～胴部上 位片	口 底	21.6	高 -	-	粗砂粒・軽石/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のへら削り。内面は横位 のへらナデ。	
第826図	2	土師器 甕	北東部床直上 胴部下位～底部 片	口 底	-	高 -	-	粗砂粒・軽石・雲 母/良好/にぶい黄 橙	胴部外面は斜横位のへら削り。底部外面もへら削り。内面 はへらナデ。	外面に被熱。
5区8面 39号住居遺物観察表										
第827図	1	土師器 杯	南東部床直上 1/3	口 底	12.0	高 -	4.0	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部の先端は平坦面をなす。横ナデ。底部外面は手持ち へら削り。内面はナデ。	底部外面に黒 斑。
第827図	2	土師器 高杯	中央北より床直 上 杯部1/3	口 底	11.0	高 -	-	細砂粒・赤色粘土 粒少/良好/明赤褐	杯部口縁部は横ナデ。受け部外面はへら削り。内面はナデ 後、へら磨きを重ねる。	器面はやや摩 滅。
第827図	3	土師器 高杯	中央北より床上 28cm 脚部片	口 底	-	高 脚	8.8	細砂粒/良好/明赤 褐	外面は縦位のへら削り。裾部に横ナデ。内面は横位のへら ナデ。	器面はやや摩 滅。
第827図 PL.238	4	石製品 砥石?	中央北より床直 上 破片	長 幅	(12.5) (13.4)	厚 重	5.4 890.7	-/-/粗粒輝石安山 岩	円礫から剥離した大型の剥片を素材とする。背面の自然面 に断面V字状の刃慣らし傷が縦方向に多数見られたため砥 石とした。自然面は平滑であるが、研磨が施されているか は判断できない。	
5区8面 40号住居遺物観察表										
第828図	1	土師器 器台か	埋没土 脚部片	口 底	-	高 脚	14.8	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	中位に円形の穿孔を配す。外面はへら磨き。内面はへらナ デ。	
第828図	2	土師器 甕	中央部床直上 胴部下位～底部 片	口 底	-	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	胴部外面はナデに近いへら削り。内面はへらナデ、最下位 にへら削り。	器面の一部に 炭素吸着。
5区8面 41号住居遺物観察表										
第831図 PL.238	1	土師器 杯	貯蔵穴 口縁部一部欠	口 底	12.0	高 -	4.4	細砂粒・赤黒色粘 土粒多/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面は剥離・ 摩滅。被熱の 為か。
第831図	2	土師器 杯	北東部床上20 ～22cm、埋没 土 口縁部・底部一 部欠	口 底	11.4	高 -	5.0	細砂粒・赤褐色粘 土粒/良好/明赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちへら削り。内面はナデ。	
第831図	3	土師器 杯	北部床上10cm 3/4	口 底	12.6	高 -	4.2	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちへら削り。内面はナデ。	
第831図	4	土師器 杯	南東隅床上9～ 10cm 底部一部欠	口 底	11.4	高 -	-	細砂粒・赤褐色粘 土粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちへら削り。内面はナデ。	内面に炭素吸 着。器面は摩 滅。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第831図	5	土師器 杯	南壁床上16cm 口縁部～底部 1/3	口 底	16.4 -	高 -	-	細砂粒・赤褐色粘 土粒少/良好/明赤 褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第831図 PL.238	6	土師器 杯	貯蔵穴 2/3	口 底	10.3 2.6	高 -	4.8 -	粗砂粒/良好/淡黄	鉢に分類することもできるか。底部は狭小な平底。口縁部 は横ナデ。体部外面は下半と底部外面がヘラ削り。内面は ナデ。	器面の一部に 炭素吸着。
第831図 PL.238	7	土師器 小型壺	東部床直上 口縁部一部欠	口 底	8.4 -	高 -	9.8 -	粗砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は短く穏やかに屈曲。胴部は下ぶくれ。全体に器肉 が厚い。器面は摩滅しているが口縁部に横ナデ。胴部外面 は横位のヘラ削り。内面は指ナデ。	
第831図	8	土師器 甌	埋没土 胴部下位～底部 片	口 底	- 10.0	高 -	-	粗砂粒/良好/橙	外面はナデに近いヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第831図 PL.238	9	土師器 甌	中央北より床上 6～9cm 口縁部一部欠	口 底	20.8 9.0	高 -	32.0 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は下位が斜位、その他が縦位、 最下位が横位のヘラ削り。内面上位はヘラナデの上に幅の 狭い工具によるナデ。中位、下位はナデの上に斜縦位のヘ ラ磨き。底部はヘラ削りによる面取り。	胴部外面下半 に黒斑。

5区8面 42号住居遺物観察表

第832図 PL.238	1	土師器 杯	西部床直上 口縁部一部欠	口 底	12.1 -	高 -	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。外面体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。 内面はナデ。	
-----------------	---	----------	-----------------	--------	-----------	--------	---	----------	---------------------------------------	--

5区8面 48号住居遺物観察表

第834図	1	土師器 杯	南東隅床直上 3/4	口 底	13.2 -	高 -	4.4 -	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第834図	2	須恵器 皿	カマド内床上6 cm、埋没土 口縁部・高台一 部欠	口 底	13.2 -	高 -	-	粗砂粒/還元焰ぎ み/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切後の付け高台。 高台部剥落後も使用か。	器面に炭素吸 着。

5区8面 50号住居遺物観察表

第835図	1	土師器 甕	カマド掘り方、 15住東部床直上 口縁部～胴部上 位片	口 底	19.8 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	被熱。
-------	---	----------	--------------------------------------	--------	-----------	--------	---	------------------	--------------------------------------	-----

5区8面 1号竪穴状遺構遺物観察表

第836図	1	土師器 杯	床上22cm 口縁部～底部 1/4	口 底	11.8 -	高 -	-	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部の先端は内側が削げるように尖る。底部との間に稜 を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられ る。	器面は摩滅。
第836図 PL.238	2	土師器 杯	埋没土 3/4	口 底	10.4 -	高 -	6.3 -	粗砂粒多/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面はナデ。下半部はこの上にヘラ 削り。内面はヘラナデ。	
第836図	3	土師器 小型甕	床上23cm 口縁部～胴部片	口 底	11.4 -	高 -	-	粗砂粒・軽石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ削り。内面は横位のヘラ ナデ。	
第836図 PL.238	4	礫石器 磨石	床上18cm 完形	長 幅	13.0 5.5	厚 重	5.2 532.2	-/-/文象斑岩	四角柱形の棒状礫を素材とする。上面小口部に平滑面が認 められたため、磨石とした。	

5区8面 4号竪穴状遺構遺物観察表

第837図	1	土師器 甕	床上27cm 胴部下位～底部 片	口 底	- 7.6	高 -	-	粗砂粒/良好/明赤 褐	胴部外面は縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。底部外面は ヘラ削り。欠損後、皿状に二次調整し使用か。	
-------	---	----------	------------------------	--------	----------	--------	---	----------------	---	--

5区8面 5号竪穴状遺構遺物観察表

第838図	1	土師器 杯	床直上 1/3	口 底	12.0 -	高 -	4.7 -	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。	
第838図	2	土師器 壺	埋没土 胴部中位片	口 底	- -	高 -	-	粗砂粒/良好/明赤 褐	外面は横位のヘラ磨き。内面は横位のヘラナデ。	

5区8面 30号溝遺物観察表

第839図	1	土師器 杯	底面・埋没土 1/3	口 底	13.0 -	高 -	4.8 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。底部外面は手持ち ヘラ削りと考えられる。内面はナデ。	器面は摩滅。
第839図	2	土師器 杯	埋没土 1/2	口 底	13.0 -	高 -	5.0 -	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/浅黄橙	全体に器肉厚く鈍重な作り。口縁部は横ナデ。底部外面は 手持ちヘラ削り。口縁部直下にナデの部分を残す。内面は 横位のヘラ磨きを充填。	
第839図 PL.238	3	土師器 鉢	埋没土 口縁部一部欠	口 底	10.3 6.4	高 -	4.7 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面はナデ。底部外面はヘラ削り。 内面はナデ。	内面に炭素吸 着。黒色処理 か。
第839図	4	須恵器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口 底	12.2 -	高 -	-	白色・黒色鉱物粒 少/還元焰/灰	ロクロ整形(左回転か)。底部回転ヘラ削り。	内面に自然釉 付着。
第839図	5	須恵器 高杯	埋没土 脚部片	口 底	- -	高 -	-	白色鉱物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。中位に沈線2条が巡る。幅の狭い長 方形透孔が3か所配されると考えられる。	
第839図	6	土師器 甕	底面 口縁部～胴部 中位1/2	口 底	17.2 -	高 -	-	粗砂粒・軽石/良 好/浅黄	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位、 斜位のヘラナデ。	外面が被熱の ためか脆弱。
第839図 PL.238	7	石製品 白玉	底面直上 完形	長 幅	2.0 1.7	厚 重	0.6 3.0	-/-/滑石	孔径4mm。上面・下面とも研磨されているが、切断時の痕 跡が残り未成品と考えられる。側面には縦方向に粗い線状 痕が見られる。	

5区8面 33号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第842図	1	須恵器 甕	埋没土 胴部上半部片	口底	-	高	-	白色鉍物粒少/還元 焰/灰	ロクロ整形(回転方向不明)。沈線2条による区画内に10本1単位の櫛歯状工具による刺突文が施される。肩部にはカキ目が巡る。	
第842図 PL.238	2	土師器 小型台付甕	確認面 口縁部~胴部下 位	口底	10.8	高	-	粗砂粒/良好/橙	台部は欠落している。口縁部は横ナデ。胴部外面は上半部が横位の、下半部が斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	内面はやや摩滅。
第842図 PL.238	3	瓦 丸瓦	底面より35cm 破片	口底	-	高	-	片岩の小礫・粗砂 粒多/還元焰/灰	凸面はヘラナデ。凹面は布目痕を残す。側端面取りを3回。側面、狭端面はヘラ削り。	凹面にヘラによる刻書「成」。
第842図 PL.238	4	石製品 砥石	壁面 完形	長幅	17.6 3.2	厚重	3.3 269.5	-/-/砥沢石	正面の減りが顕著で、中央部が高く上下端に向かって低くなっている。正面左上と右下の減りが著しく、片減りが見られる。裏面には複数の刃慣らし傷がある。	
第842図 PL.238	5	鉄製品 不詳	埋没土 破片	長幅	3.9 2.3	厚重	0.8 10.35	-/-/-	厚さ2mm程の不定形な鉄板で、錆化と破損が著しく詳細は不明。	

5区8面 34号溝遺物観察表

第842図 PL.238	6	土製品 土錘	底面より20cm 一部欠	長幅	6.8 1.8	厚	1.5 -	細砂粒/酸化焰/明 赤褐	最大径と小口部の直径に大きな変化が見られない。孔径は4mmと他と比較して大径である。	器面はやや摩滅。重量18.97g
-----------------	---	-----------	-----------------	----	------------	---	----------	-----------------	--	------------------

5区8面 35号溝遺物観察表

第842図 PL.238	7	須恵器 杯	底面より21cm・ 12住埋没土 口縁部一部欠	口底	11.2 7.0	高	3.7 -	粗砂粒・灰黒色粘 土粒多/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ切り後、無調整。口縁部外面下位にも回転ヘラ削り。	
第842図	8	須恵器 鉢か	埋没土 口縁部片	口底	17.8	高	-	白色鉍物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部寄り外面に回転ヘラ削り。	
第842図 PL.238	9	鉄製品 鎌	底面より20cm 完形	長幅	13.2 4.7	厚重	1.7 60.57	-/-/-	土砂を巻き込んで錆化し本体は脆弱。刃は直線的で柄装着部は直角に近い角度で折り曲げられているが、木質等の痕跡は見られない。	
第842図 PL.238	10	鉄製品 角釘か	底面より23cm 一部破損	長幅	12.1 6.5	厚重	1.9 48.25	-/-/-	断面はほぼ正方形の角棒状で、一端部から3cm程で強く曲がりその先で徐々に細くなり、その先でゆるく曲がり端部は劣化破損する。	
PL.238	11	原石 -	埋没土 完形	長幅	2.5 2.3	厚重	0.8 5.6	-/-/滑石	板状の滑石片で、玉の素材と考えられる。	

5区8面 13号土坑遺物観察表

第844図 PL.238	1	土師器 埴	床直上~床上6 cm 3/4	口底	9.6 2.6	高	7.2 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデの上にヘラ削りを重ねる。体部は上半部にナデを、下半部に当たりの弱いヘラ削り。内面、頸部の一部にハケ目。体部はヘラナデ。	
第844図 PL.238	2	土師器 小型壺	床直上 胴部~底部	口底	-	高	-	粗砂・細砂粒/良 好/赤褐	丸く横に張り出す胴部に、狭小な平底の底部が付く。胴部と底部の外面は丁寧な磨きの上に赤彩。内面はヘラナデ。	内面は炭素吸着か。黒色。
第844図	3	土師器 台付甕	床直上 胴部下位~台部	口底	-	高台	- 7.4	粗砂粒・雲母/良 好/橙	台部の端部が内側に折り返され肥厚することからS字状口縁の裏の残存と考えられる。胴部外面に1cmあたり7本のハケ目。内面はヘラナデ。台部外面はナデの上に一部ハケ目。内面は指ナデ。底部内面と台部天井部に砂目粘土を貼付。	

5区8面 16号土坑遺物観察表

第844図	4	土師器 高杯	埋没土 口縁部片	口底	19.8	高	-	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部先端は横ナデ。以下、外面は斜横のヘラ削り。内面には横位のハケ目を残す。	
-------	---	-----------	-------------	----	------	---	---	-----------------	--	--

5区8面 17号土坑遺物観察表

第844図	5	土師器 杯	埋没土 口縁部~底部 1/3	口底	12.8	高	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部から体部に幅広く横ナデ。底部との間に僅かにナデの部分を残す。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
-------	---	----------	----------------------	----	------	---	---	----------	--	--

5区8面 20号土坑遺物観察表

第844図	6	土師器 特殊器台	床直上 受け部片	口底	-	高	-	粗砂粒/良好/赤褐	受け部は底部が水平方向に伸び、その途中から斜め上方に向けて杯部が立ち上がる。透孔の一部が残存するが、全体形状は不明。受け部中央に脚部に貫通する小孔がみられる。内外面ともにヘラ磨き。外面は全面に赤彩。	
-------	---	-------------	-------------	----	---	---	---	-----------	---	--

5区8面 24号土坑遺物観察表

第844図	7	須恵器 椀	床上17cm 口縁部下位~高 台部	口底	-	高台	- 5.8	粗砂粒/酸化焰か/ 褐灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付高台。貼付後は周縁部にナデ調整。	
第844図	8	土師器 甕	床上7cm 口縁部~胴部上 位片	口底	22.8	高	-	粗砂粒多・軽石多 /良好/浅黄	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	被熱。脆弱。

5区8面 遺構外遺物観察表

第846図	1	土師器 杯	確認面 口縁部~底部 1/4	口底	14.8	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部中位に明瞭な段をなす。底部との間にも稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。内面はナデ。	器面に鉄分凝集。
第846図	2	須恵器 椀	確認面 口縁部下位~高 台部	口底	-	高台	- 7.4	粗砂粒・灰黒色粘 土粒/酸化焰/にぶ い褐	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付高台。貼付後、周縁部にナデ調整。	器面に炭素吸着。
第846図 PL.239	3	瓦 平瓦	確認面 破片	口底	-	高	-	粗砂粒少/還元焰/ 灰白	左隅部の破片。凸面の上にナデ。凹面に布目痕を残す。側端面取り3回。側面の広端面ヘラ削り。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第846図 PL.239	4	土製品 土錘	確認面 一部欠損	長 幅	6.3 1.6	厚 孔	1.5 0.3	細砂粒・黒色鈹物 粒/酸化焰/浅黄橙	直径に比して長さを有する。細い両小口ともほとんど欠損している。 S字状口縁台付の基部周辺を二次利用している。用途不明。底部中央に焼成後の長径1.1cm、短径0.8cmの小孔が穿たれている。甕の整形としては外面に1cmあたり5本のハケ目。上部内面に指ナデ、底部と台部天井部に砂目粘土を貼付。	器面は摩滅。 重量13.32g
第846図	5	土製品 不明	確認面 底部～台部片	口 底	-	高 -	-	粗砂粒/良好/橙		
第846図 PL.239	6	石製品 砥石	確認面 破片	長 幅	(6.7) (4.2)	厚 重	(1.9) 81.2	-/-/砥沢石	4面使用。下半部欠損。左側面は研ぎ減りにより、砥面が凹状になっている。上部に直径1.2～1.3mmの孔が両側から穿孔されている。	有孔砥石

1区9面 179号住居遺物観察表

第848図 PL.239	1	土師器 器台	東壁床上20cm 一部欠損	口 底	6.8 -	高 脚	5.2 7.2	粗砂粒/良好/橙	鼓形を呈する。受部は外反気味に立ち上がる。脚部中位に円形の透孔を4か所に配すが配置は不均等。受部外面は横位のナデ。脚部外面は縦位のナデ。裾部は横ナデ。内面上位にヘラナデ。	器面の一部に炭素吸着。
第848図 PL.239	2	土師器 器台	中央部床上10、 17cm 完形	口 底	8.4 -	高 脚	8.3 11.4	粗砂粒少/良好/橙	受け部外面は斜横位の、内面は横位のヘラ磨き。脚部には上下2段に円形の透孔を各3か所に配している。外面は縦位のヘラ磨き。内面はナデ。	受部の内外面、脚部外面に赤彩。
第848図 PL.239	3	土師器 器台	中央部床上11cm 一部欠損	口 底	7.8 -	高 脚	7.5 11.3	粗砂粒少/良好/浅黄橙	受け部先端は外面に面をなす。外面はナデ。内面はナデの上に磨きを重ねていたと考えられる。脚部は中位に円形の透孔を3か所に配す。外面は縦位の磨き。内面はヘラナデ。裾部は横ナデ。	
第848図 PL.239	4	土師器 器台	中央部床上12cm 完形	口 底	7.6 -	高 脚	7.4 10.6	粗砂粒/良好/橙	受け部は直線的に外傾して立ち上がる。脚部も大きく外反する。中位に円形の透孔を3か所に配す。器面は摩滅。脚部外面に磨きが見られる。	受部の内外面、脚部外面に赤彩。
第848図	5	土師器 器台	東部床上22cm 受け部～脚部中 位1/3	口 底	8.2 -	高 -	-	粗砂粒少/良好/淡黄	受け部は皿状を呈す。内外面ともヘラ磨き。脚部は中位に3か所の円形の透孔を配する。外面には縦位のヘラ磨き。内面はハケ目。	受部の内外面、脚部外面に赤色塗彩。
第848図	6	土師器 器台か	南東部床上10cm 脚部3/4	口 底	-	高 脚	- 11.3	粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/橙	外面は基部直下にヘラナデ。以下はヘラ磨き。内面は上位にヘラ削り。以下はハケ目。	
第848図	7	土師器 器台	東部床上15cm 受け部下位～脚部	口 底	-	高 脚	- 11.3	粗砂粒/良好/灰白	脚部は中位に4か所の円形の透孔を配す。外面は全面にヘラ磨き。内面は上半にヘラナデ、下半にヘラ磨き。	外面の全面に赤色塗彩。
第848図 PL.239	8	土師器 器台	中央部床直上 脚部のみ	口 底	-	高 脚	- 12.0	粗砂粒/良好/灰	中位に円形の透孔を3か所に配す。外面は摩滅のため整形不明。内面はヘラナデ。	
第849図	9	土師器 高杯	西部床直上 杯部1/4	口 底	9.8 -	高 -	-	粗砂粒/良好/橙	先端の内側に稜をなし短く外傾する。横ナデ。下位に手持ちヘラ削り。先端との間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面は摩滅。
第849図 PL.239	10	土師器 高杯	中央部床上12cm 杯部	口 底	19.8 -	高 -	-	粗砂粒・赤褐色粘土粒/良好/明赤褐	内外面とも横位のヘラ磨き。	
第849図	11	土師器 高杯	南部床直上 脚部	口 底	-	高 脚	- 14.4	粗砂・細砂粒/良好/橙	上位に3か所に円形の透孔を配す。外面に縦位のヘラ磨き。内面上半部はナデ。下半部は横ナデと考えられる。	器面は摩滅。
第849図 PL.239	12	土師器 鉢か	床直上～床上 20cm 3/4	口 底	8.8 3.4	高 -	7.0 -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はナデ。内面もナデ。	外面の一部に黒斑。
第849図 PL.239	13	土師器 小型甕	南部床直上 3/4	口 底	10.0 -	高 -	10.9 -	粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラナデ。一部にハケ目。内面はヘラナデ。	器面は摩滅。
第849図 PL.239	14	土師器 小型甕	中央部床上10cm 胴部下位一部欠	口 底	8.0 3.6	高 -	8.5 -	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	内外面全体に粗雑なナデ。	底面の外面周辺に黒斑。
第849図 PL.239	15	土師器 鉢か	中央部床上13 ～20cm 3/4	口 底	10.5 6.0	高 -	12.4 -	粗砂粒/良好/浅黄橙	口縁部は片口状を呈する。口縁部は横ナデ。胴部外面はナデ。一部にハケ目を残す。内面はヘラナデ。	器面は摩滅。
第849図 PL.239	16	土師器 小型甕	中央部床上10 ～14cm 3/4	口 底	12.8 -	高 -	16.5 -	粗砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位・斜位のハケ目。下位はナデ。内面は横位のヘラナデ。	器面に煤付着。
第849図 PL.239	17	土師器 甕	南東部床直上～ 床上20cm 口縁部～胴部下 位3/4	口 底	13.7 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は中位下に弱い変換点を有す。横ナデ。胴部外面上半部はハケ目の上に斜横位のヘラナデ。下半部は斜横位のヘラナデ。内面は横位・斜横位のヘラナデ。	被熱。煤付着。
第849図 PL.239	18	土師器 甕	中央部中央部床 上11～20cm 3/4	口 底	15.1 -	高 -	17.8 -	粗砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部は横ナデ。先端は平坦面を形づくりこの面にハケ目を施す。胴部外面は斜横位・斜縦位のハケ目後、一部にナデを重ねる。内面は上位が横位、それ以下は斜位のヘラナデ。	器面は摩滅。外面に炭素吸着。
第849図	19	土師器 甕	中央部床上10 ～17cm 2/3	口 底	15.3 1.9	高 -	17.7 -	粗砂・細砂粒/良好/にぶい褐	狭小な平底の底部。口縁部から頸部直下は横ナデ。胴部外面は斜縦位のハケ目。S字状口縁の甕のような規則性はない。ハケ目後、処々に指の当たった痕を残す。内面は横位のヘラナデ。	器面に炭素吸着。
第849図	20	土師器 甕	中央部床上12cm 口縁部～胴部 2/3	口 底	16.8 -	高 -	-	粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/にぶい赤褐	平面形は長円形を呈する。口縁部上半部に横ナデ。下半部にはハケ目を残す。胴部外面は上位が横位、それ以下が斜横位のハケ目。内面はヘラナデ。	器面は摩滅。

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第849図 PL.239	21	土師器 台付甕	中央部床直上12、 13cm 台部欠損	口底	11.9	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部はS字状を呈する。横ナデ。胴部外面は上位に右上から左下に1cmあたり7本のハケ目。中位以下は右下から左上のハケ目。内面は頸部に削りに近いヘラナデ。胴部は指ナデ。	外面に煤付着。
第849図	22	土師器 台付甕	中央部床直上～ 床直上16cm 台部欠2/3	口底	13.4	高	-	粗砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部はS字状を呈する。横ナデ。胴部外面は上位が右上から左下へ1cmあたり5本のハケ目。中位・下位は右下から左上へのハケ目。内面の上半部は縦位の指ナデ。下半部は削りに近いヘラナデ。	外面に炭素吸着。摩滅。
第850図	23	土師器 台付甕	中央部床直上～ 床直上16cm 口縁部～胴部	口底	15.4	高	-	粗砂粒・黒色鋳物 粒/良好/灰黄褐	口縁部はS字状を呈する。胴部外面は右上から左下に1cmあたり4～5本のハケ目。内面は縦位の指ナデ。	外面に煤付着。
第850図	24	土師器 台付甕	床直上～床直上 17cm 口縁部～胴部 1/2	口底	15.6	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部はS字状を呈する。横ナデ。胴部外面は右上から左下へ1cmあたり6本のハケ目。内面はナデ。	
第850図 PL.240	25	土師器 台付甕	中央部床直上12 ～16cm 台部欠損	口底	18.3	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部はS字状を呈する。胴部外面は上位に右上から左下に1cmあたり7本のハケ目。中位以下は右下から左上のハケ目。内面は頸部にヘラナデ。胴部もヘラナデ。	外面に煤付着。
第850図	26	土師器 台付甕	南部床直上10cm 胴部～台部上位 1/3	口底	-	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部はS字状を呈すると考えられる。胴部外面は右上から左下へ1cmあたり6本のハケ目。中位・下位は右下から左上へのハケ目。肩部に巡らせた横位のハケ目は、中間が器面に当たらずに抜けている。内面は頸部直下に横位のナデ。上位は縦位の指ナデ。中位・下位はヘラナデ。底部内面と台部天井部に砂目粘土を貼付する。	外面に煤付着。内面に黒色の付着物。
第850図 PL.240	27	土師器 台付甕	南部床直上～床 直上11cm 底部欠	口底	26.4	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は頸部直上で弱く湾曲後、斜め上方に長く立ち上がる。横ナデ。胴部外面は上位が右上から左下へ1cmあたり5本のハケ目。以下は右下から左上のハケ目。内面は上半が縦位の指ナデ。下半はヘラナデ。	外面に煤付着。
第850図	28	土師器 台付甕か	北部床直上14～ 17cm 口縁部～胴部	口底	21.9	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は上位が長く伸び、外傾して立ち上がる。横ナデ。胴部外面は右上から左下へ1cmあたり5本のハケ目。内面は指ナデ。	
第851図 PL.240	29	土師器 台付甕	中央部床直上～ 床直上14cm 口縁部～胴部下 位2/3	口底	29.8	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は頸部寄りで屈曲後、斜め上方に長く立ち上がる。胴部外面は上位に右上から左下へ1cmあたり3から4本のハケ目。以下は右下から左上へのハケ目。胴部内面は上位と下位が横位のヘラナデ。その間は縦位の指ナデ。	外面に炭素吸着。
第851図	30	土師器 埴	南東部床直上～ 床直上10cm 口縁部	口底	9.4	高	-	粗砂・細砂粒/良 好/明赤褐	器面摩滅のため、詳細な整形は不明。	
第851図	31	土師器 壺	中央部床直上6～ 10cm 口縁部～胴部片	口底	-	高	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部はいわゆる二重口縁。頸部から弱く外反して立ち上がり中位で変換、さらに大きく外反して延びる。頸部外面には粘土紐を断面台形に貼付。ヘラ状工具で刺突、刻目文をつけている。胴部外面は全面にヘラ磨き。内面は横位のヘラナデ。	内面は黒色。
第851図 PL.239	32	土師器 壺	北部床直上9cm 口縁部片	口底	28.4	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	二重口縁壺の口縁上半部である。外面は斜縦位のハケ目を施した後、3本一単位の棒状浮文を貼付。文様間のハケ目にはヘラ磨きを重ねて消している。内面も縦位のヘラ磨き。	内面に炭素吸着。
第851図	33	土師器 甕	中央部北より床 直上 口縁部～胴部上 位片	口底	28.0	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は頸部直下にヘラナデ。以下斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。中位に向けて一部に縦位の指ナデ。	
第851図 PL.239	34	土師器 手握ね	中央部床直上 2/3	口底	5.6 3.6	高	5.6	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。以下はヘラナデ。内面もヘラナデ。	

1区9面 180号住居遺物観察表

第854図 PL.241	1	土師器 鉢	南部床直上、埋 没土 3/4	口底	10.1 3.7	高	3.5	粗砂粒少/良好/浅 黄橙	口縁部は横ナデ。体部は縦位のヘラナデ。内面にはハケ目を残す。	器面の一部に炭素吸着。黒斑か。
第854図 PL.241	2	土師器 器台	北部床直上7cm 受け部1/3	口底	18.9	高	-	粗砂粒/良好/橙	下位に円形の透孔を配す。7か所が残存する。内外面ともハケ目が認められるが、この上に磨きが重ねられていたと考えられる。	器面は摩滅。
第854図	3	土師器 甕	北部床直上 口縁部～胴部上 位片	口底	12.8	高	-	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部外面は横ナデ後、縦位のヘラ磨き。内面は横位のヘラ磨き。胴部外面は縦位のヘラ磨き。内面はヘラナデか。粘土紐の輪積痕を残す。	器面は摩滅。
第854図 PL.241	4	土師器 小型台付甕	埋没土 1/2	口底	9.8	高台	15.2 5.4	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部はS字状を呈する。横ナデ。胴部外面は上位が縦位に1cmあたり5本のハケ目。中位から下位は右下から左上にハケ目を施した後、肩部に横位のハケ目を重ねる。内面と頸部にはヘラを強く当てナデを加える。以下は指ナデ。台部外面にはナデの上に一部ハケ目。内面はナデ。底部内面と台部天井部には砂目粘土を貼付する。	器面に炭素吸着。
第854図 PL.241	5	土師器 小型台付甕	西北部床直上、 埋没土 3/4	口底	11.2 7.7	高	19.0	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部はS字状を呈す。強いタッチの横ナデ。胴部外面は右上から左下に1cmあたり6本のハケ目。中位から下位は右下から左上のハケ目。一部に地のヘラ削りが残る。内面は横位・斜横位のヘラナデ。台部外面は斜縦位のハケ目。内面はナデ。底部内面と台部天井部に砂目粘土を貼付する。	外面に炭素吸着。
第854図 PL.241	6	土師器 台付甕	北部床直上 口縁部～胴部下 位2/3	口底	13.8	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部はS字状を呈する。横ナデ。胴部外面は右上から左下に1cmあたり8本のハケ目。中位から下位は右下から左上へのハケ目。内面は横位のヘラナデ。縦位の指ナデ。	器面に炭素吸着。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第854図	7	土師器 台付甕	P1 口縁部～胴部上 位片	口 底	16.2 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/橙	口縁部はS字状を呈する。横ナデ。胴部外面は上位に右上から左下に1cmあたり7本のハケ目。中位以下は右下から左上のハケ目。内面はヘラナデ。	
第854図 PL.241	8	土師器 台付甕	中央部床直上 3/4	口 底	16.9 -	高 台	31.3 10.8	粗砂粒/良好/浅黄	口縁部はS字状を呈する。横ナデ。胴部外面は上位に右上から左下に1cmあたり4～5本のハケ目。中位、下位は右下から左上のハケ目。内面は頸部直下に横位のナデ。中位に縦位の指ナデ。下位に横位のヘラナデ。台部外面はナデの上に一部ハケ目を重ねる。内面は縦位の指ナデ。底部内面と台部天井部に砂目粘土を貼付。	外面に煤付着。
第854図 PL.241	9	土師器 壺	中央部床直上 口縁部下位～底 部3/4	口 底	6.7 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は胴部から直立気味に立ち上がり中位で外反。いわゆる二重口縁の形状を呈すると考えられる。口縁部下位は横位のヘラ削り。胴部外面はナデの上にヘラ磨きを重ねているが詳細不明。内面はヘラナデ。	外面下半に黒斑。
第854図 PL.241	10	土師器 壺	P1 頸部～胴部上方	口 底	- -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は二重口縁である。外面は縦位のハケ目。一部にナデが重なる。頸部には突帯を貼付し櫛状工具による刺突文を施す。内面は横位のヘラナデ。胴部外面は横位のヘラ磨き。	
第854図 PL.241	11	鉄製品 鉄鏃	北西部床直上 一部欠損	長 幅	4.6 1.6	厚 重	0.9 3.39	-/-	土砂を巻き込んで錆化し本体は空洞化し脆弱。断面円形の先に楕円形となるが断面は板状で表面の一部に平織の布目が残存する。	

1区9面 181号住居遺物観察表

第856図	1	土師器 台付甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口 底	13.8 -	高 -	- -	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい黄橙	口縁部はS字状を呈するが、屈曲の度合いは弱い。胴部外面に1cmあたり6本のハケ目は口縁部にも工具が当たっている。横位のハケ目の一部も認められる。内面はナデ。	被熱。
-------	---	------------	----------------------	--------	-----------	--------	--------	---------------------	--	-----

1区9面 182号住居遺物観察表

第857図 PL.241	1	土師器 器台	南西部床直上6～ 11cm 2/3	口 底	8.0 -	高 脚	8.5 10.5	粗砂粒/良好/橙	受け部は皿状を呈する。外面上位は横位のヘラ磨き。下位はヘラナデ。内面は横位のヘラ磨き。脚部は中位に3か所の円形の透孔を配す。外面は縦位のハケ目の上にヘラナデ。内面は横位のナデ。ハケ目。	外面の一部に黒斑。
第857図	2	土師器 台付甕	埋没土 口縁部～胴部上 位1/4	口 底	14.4 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は右上から左下に1cmあたり4本のハケ目。内面は縦位の指ナデ。	
第857図	3	土師器 甕	東部床直上14cm 口縁部下位～頸 部1/3	口 底	- -	高 -	- -	粗砂粒/良好/橙	外面は斜縦位のハケ目。内面は斜横位のハケ目の上に一部ナデを重ねる。	
第857図 PL.241	4	土製品 丸玉	西部遺構外 完形	長 幅	3.0 3.0	厚 孔	3.1 縦0.7 横0.6	粗砂粒少/良好/黒 褐	縦横の幅が等しい球形を呈する。丁寧にナデ調整を施した後、一方向から穿孔を行っている。一方の口には粘土が外側に押し出された痕跡が見られる。	重量22.27g。器面に炭素吸着。

1区9面 183号住居遺物観察表

第861図 PL.241	1	土師器 鉢	東部床直上～床 上8cm 口縁部一部欠	口 底	17.7 -	高 -	6.5 -	粗砂粒/良好/橙	外面は口縁部から底部上位にかけては横位のヘラ磨き。底部外面は中心から放射状にヘラ磨き。内面も口縁部は横位、底部は放射状にヘラ磨き。	
第861図	2	土師器 器台	南西部床直上 受部～脚部上半 部3/5	口 底	8.0 -	高 -	- -	粗砂粒少/良好/明 赤褐	受け部は皿状を呈する。内外面とも縦位のヘラ磨き。脚部は縦位に円形の透孔を3か所に配する。外面は縦位のヘラ磨き。内面はヘラナデ。下位にハケ目。	受け部内面に黒斑。
第861図 PL.241	3	土師器 高杯か	南西部床直上 杯部下位～脚部	口 底	- -	高 脚	- 11.8	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	脚部は中位に4か所の円形の透孔を配す。外面はハケ目の上にこれを消すように縦位のヘラ磨き。内面は横位のナデ。	外面に赤色塗彩。
第861図	4	土師器 台付甕	東部床直上7cm 口縁部～胴部上 位片	口 底	11.8 -	高 -	- -	粗砂粒少/良好/に ぶい黄褐	口縁部はS字状を呈する。口縁部は横ナデ。胴部外面は上位に1cmあたり5本のハケ目を右上から左下に、中位は右下から左上に施す。内面は頸部にヘラ削り。胴部は縦位の指ナデ。	内外面とも煤付着。
第861図 PL.241	5	土師器 手捏ねか	北部床直上 3/4	口 底	7.9 3.1	高 -	5.1 -	粗砂粒少/良好/灰 黄褐	鉢形を呈する。器形は大きく歪んでいる。底部は凸面状。外面はナデ。内面もナデ。	炭素吸着。
第861図 PL.241	6	石製品 砥石	埋没土 破片	長 幅	(13.8) (8.6)	厚 重	(2.3) 288.8	-/-/砂岩	板状で、平面形は不整形である。正面、左右側面、左下側面を使用。裏面は段を有し、断面V字状の大きなキズが見られる。	
第861図 PL.241	7	石製品 砥石	南部床直上 完形	長 幅	14.1 7.9	厚 重	4.0 779.5	-/-/粗粒輝石安山 岩	扁平な楕円礫を素材とする。全体的に平滑で、自然面との区別が困難であるが、平坦面中央部が周囲と比べて滑らかであるため砥石とした。裏面に剝離痕が1か所認められる。上部の亀裂は節理面に沿っている。	

1区9面 184号住居遺物観察表

第863図	1	土師器 器台か	南部床直上・ 180住埋没土 台部4/5	口 底	- -	高 脚	- 11.1	粗砂粒少/良好/に ぶい橙	上位に円形の透孔を3か所に配す。外面に斜縦位のヘラ磨き。内面上位にヘラナデ。下位にハケ目。	
第863図 PL.242	2	土師器 台付片口	南部床直上 胴部一部欠	口 底	11.1 -	高 台	12.0 8.1	粗砂粒・赤褐色粘 土粒/良好/明赤褐	半球形の鉢にハの字に外反する台部がつく。口縁部の先端に小さな片口が付く。外面は口縁部に横ナデ。直下にはハケ目が見られるが以下は摩滅。内面は上位に横位のハケ目。以下はヘラナデ。	器面は摩滅。
第863図 PL.242	3	土師器 小型壺	東部床直上 口縁部一部欠	口 底	7.3 4.2	高 -	9.0 -	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部はハケ目の上に横ナデ。内面はハケ目を残す。胴部は上位・中位・下位に分けてヘラナデ。一部にハケ目を残す。	胴部外面下位に黒斑。

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第863図 PL.242	4	土師器 埴	東部床直上、床 上15cm 口縁部・胴部一 部欠	口 底	9.1 4.0	高 -	13.6 -	粗砂粒/良好/橙	胴部は下位が削かれるようにして底部に向かう。口縁部外面は縦位のヘラ磨き。内面は横位のハケ目。胴部はハケ目の上に縦位・斜縦位のヘラ磨き。内面は上半部がヘラナデ。下半部にハケ目を残す。	
第863図 PL.242	5	土師器 小型台付甕	東部床直上～埋 没土 2/3	口 底	14.4 -	高 台	16.8 7.2	粗砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は胴部から弱く屈曲して立ち上がる。口縁部から胴部外面にかけて1cmあたり7本の斜縦位のハケ目後、頸部直上にナデを重ねる。内面は口縁部にハケ目を残す。胴部はヘラナデで一部にハケ目が残る。台部外面はハケ目の上にナデ。内面はハケ目。	器面はやや摩滅。煤付着。黒斑あり。
第863図 PL.242	6	土師器 小型台付甕	西部床直上～埋 没土・180住埋 没土 3/4	口 底	12.6 -	高 台	17.9 7.6	粗砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は胴部から屈曲。外反して立ち上がる。口縁部横ナデ。内面にはハケ目を残す。胴部外面には1cmあたり7～8本のハケ目を上位は斜横位に、中位以下は斜縦位に施す。内面は大半が横位のヘラナデ。下位にハケ目。台部外面はハケ目の上にヘラナデ。内面もヘラナデ。裾部にハケ目。	外面に煤付着。
第863図 PL.242	7	土師器 台付甕	南部床直上・ 180住埋没土 台部欠損	口 底	13.8 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部外面は斜位のハケ目の上に横ナデを施すが、ハケ目を残す。胴部外面は斜横位のハケ目。一部はナデを重ねる。内面は口縁部以下、胴部下位まで横位のハケ目。	外面に煤付着。

1区9面 185号住居遺物観察表

第865図	1	土師器 高杯	北西部床上13 ～15cm 杯部	口 底	22.0 -	高 -	- -	粗砂粒少/良好/に ぶい橙	口縁部先端に横ナデ。以下、外面は斜位のヘラ磨き。内面はハケ目の上に放射状にヘラ磨きを重ねる。	器面の広い範囲に炭素吸着。
第865図	2	土師器 台付甕	北西部床上21cm 口縁部～胴部上 位	口 底	14.6 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/灰黄	口縁部はS字状を呈する。横ナデ。頸部内面にはヘラナデ。胴部外面は右上から左下に1cmあたり7本のハケ目。内面は横ナデの上に指オサエ痕が重なる。	外面に炭素吸着。
第865図	3	土師器 台付甕	北部床上14cm 口縁部～胴部中 位1/3	口 底	16.6 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部はS字状を呈する。横ナデ。胴部外面は上位に右上から左下に1cmあたり6本のハケ目。この上に横位に1周するハケ目を重ねる。中位以下は右下から左上のハケ目。内面は上位に横位のヘラナデ、中位に横位のハケ目、この上に縦位の指ナデを重ねる。	外面に炭素吸着。
第865図 PL.242	4	土師器 壺	中央部床直上～ 床上12cm 3/4	口 底	17.1 8.7	高 -	36.0 -	細砂粒少・雲母/ 良好/赤	口縁部は先端が粘土を貼付することにより肥厚。いわゆる折り返し口縁状を呈する。整形は口縁部の肥厚部分が横位の、以下は縦位のヘラ磨き。内面も縦位のヘラ磨き。胴部外面も縦位のヘラ磨き。内面は横位・縦位のヘラナデ。	底部を除く外面全面と口縁部内面に赤色塗彩。

1区9面 186号住居遺物観察表

第869図 PL.242	1	土師器 器台	北西部床直上～ 埋没土 受け部1/3欠	口 底	8.7 -	高 脚	9.5 11.0	粗砂粒/良好/浅黄 橙	受け部は皿状を呈し中心に脚部に貫通する孔を有す。内外面ともヘラ磨き。脚部は中位に3か所の円形の透孔を配する。外面は縦位のヘラ磨き。内面は上半がヘラナデ。下半が横位のハケ目。	器面は摩滅。
第869図 PL.242	2	土師器 特殊器台	北西部床直上 完形	口 底	17.3 -	高 脚	13.8 13.9	粗砂・細砂粒/良 好/明赤褐	受け部の底部は斜横方向に大きく突出。この上に杯部が付いている。杯部に6か所、円形の透孔を配する。内外面ともヘラ磨きを施したと考えられる。脚部は中位に4か所に円形の透孔を配する。外面は縦位のヘラ磨き。内面裾部は横ナデ。これより上位は横位のヘラ削り。	
第869図 PL.242	3	土師器 鉢	北部床直上 体部一部欠	口 底	10.6 -	高 -	6.2 -	粗砂粒少/良好/浅 黄橙	口縁部は内外面とも横位のヘラ磨き。体部から底部外面は上位にヘラナデ。下位はヘラ削り。内面はヘラナデ。	器面は摩滅。
第869図 PL.242	4	土師器 台付甕	北部床直上 完形	口 底	15.2 -	高 台	24.2 8.5	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部はS字状を呈する。横ナデ。胴部外面は上位が右上から左下に1cmあたり6～7本のハケ目。以下は右下から左上のハケ目。内面は上位が縦位の指ナデ。中位が縦位のヘラナデ。下位が横位のヘラナデ。台部外面は一部にハケ目。内面は横位のナデの上に縦位のヘラナデ。底部内面と台部天井部に砂目粘土を貼付。	外面に炭素吸着。
第869図 PL.242	5	土師器 手捏ね	南壁床上11cm 口縁部一部欠	口 底	4.3 3.3	高 -	3.3 -	細砂粒/良好/浅黄	鉢状を呈する。内外面ともに指ナデ。	器面に黒色の付着物。

1区9面 2号竪穴状遺構遺物観察表

第871図 PL.243	1	土師器 有孔鉢	床直上 3/4	口 底	15.0 -	高 -	12.5 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	縦長の半球形状を呈す。丸底の底部に直径0.9cmの小孔を焼成前に穿孔する。口縁部は横ナデ。胴部外面は上半部が横位、下半部が斜縦位のハケ目。内面はヘラナデ。	外面に黒斑。器面は摩滅。
第871図 PL.243	2	土師器 小型甕	床直上 3/4	口 底	15.0 -	高 -	12.0 -	粗砂粒/良好/橙	やや尖底の丸底。口縁部外面は横ナデ。内面は下半にハケ目を残す。胴部外面は縦位のハケ目。内面は横位のヘラナデ。	器面に炭素吸着。煤か。
第871図 PL.243	3	土師器 小型甕	床直上 口縁部～胴部下 位2/3	口 底	14.2 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のハケ目。一部にハケ目を残し同方向のヘラナデ。内面は横位のヘラナデ。	被熱か。器面は摩滅。
第871図	4	土師器 甕	床上10cm 胴部上位～底部	口 底	- -	高 -	- -	粗砂粒/良好/明赤 褐	胴部外面上半部は縦位のハケ目。下半部はハケ目の上に斜縦位のナデ。内面は斜位のヘラナデ。	器面に炭素吸着。摩滅。
第871図 PL.243	5	土師器 甕	床直上 口縁部～胴部中 位	口 底	12.0 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は頸部直下に指オサエ。以下は横位のヘラナデ。	器面は摩滅。
第871図 PL.243	6	土師器 台付甕	床直上 口縁部・台部一 部欠	口 底	14.6 -	高 台	20.6 8.8	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部はS字状を呈する。横ナデ。胴部外面は上位に右上から左下へ1cmあたり5～8本のハケ目。中位以下は右下から左上のハケ目。内面は頸部直下と下位に横位のヘラナデ。その間の上半に縦位の指ナデ。下半は縦位のナデ。台部外面はナデとハケ目。内面は縦位の指ナデ。底部内面と台部天井部に砂目粘土を貼付。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第871図 PL.243	7	土師器 台付甕	床上7cm 2/3	口底 -	15.4 8.0	高 -	24.4 -	粗砂粒/良好/褐灰	口縁部はS字状を呈する。横ナデ。胴部外面は上位に右上から左下へ1cmあたり5本のハケ目。中位以下は右下から左上のハケ目。内面は上半部に縦位の指ナデ。台部の裾部は内側への折り返しがない。外面はナデ、一部にハケ目。内面はナデ。底部内面と台部天井部に砂目粘土を貼付。	
第871図 PL.243	8	土師器 台付甕	床上14cm 口縁部～胴部下 位1/3	口底 -	15.5 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部はS字状を呈する。横ナデ。胴部外面は上位が右上から左下の1cmあたり6本のハケ目を施した後、横位にハケ目を重ねる。以下は右下から左上に向けてハケ目。内面は上半に縦位の指ナデ。下半は横位のヘラナデ。	外面に炭素吸着。
第871図	9	土師器 台付甕	床直上 口縁部～胴部上 位	口底 -	16.6 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部はS字状を呈する。横ナデ。胴部外面は上位が右上から左下に1cmあたり4～5本のハケ目。内面はヘラナデの上に縦位の指ナデ。	器面の一部に炭素吸着。
第872図 PL.244	10	土師器 台付甕	床上8cm 3/4	口底 -	15.4 9.9	高 -	27.8 -	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部はS字状を呈する。横ナデ。胴部外面は上位に右上から左下へ1cmあたり6～7本のハケ目。中位以下は右下から左上のハケ目。内面は中位に縦位の指ナデ。台部外面はナデ、一部にハケ目。内面は縦位の指ナデ。底部内面と台部天井部に砂目粘土を貼付。	外面に炭素吸着。
第872図 PL.244	11	土師器 台付甕	床上7cm 口縁部～台部上 位3/4	口底 -	17.5 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部はS字状を呈する。横ナデ。胴部外面は上位に右上から左下へ1cmあたり5本のハケ目。以下は右下から左上に向かうハケ目。内面は縦位のヘラナデ。底部内面と台部天井部に砂目粘土を貼付。	外面に炭素吸着。
第872図 PL.244	12	土師器 台付甕	床直上 胴部一部欠	口底 -	28.6 12.3	高 -	38.6 -	粗砂粒・黒色鈹物 粒/良好/にぶい黄 橙	口縁部はS字状に屈曲後、先端が長く延びる。横ナデ。胴部外面は、上位が右上から左下に1cmあたり5本のハケ目の上に横位のハケ目を重ねる。以下は右下から左上へのハケ目。内面は上半部に縦位の指ナデ。下半部に横位のヘラナデ。台部外面は斜位のハケ目。内面は縦位の指ナデ。底部内面と台部内面天井部に砂目粘土を貼付。	外面に煤付着。

1区9面 8号竪穴状遺構遺物観察表

第874図	1	土師器 小型台付甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口底 -	12.8 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶ い黄	口縁部はS字状を呈する。横ナデ。内面は横位のヘラナデと縦位の指ナデ。	器面に炭素吸着。
-------	---	--------------	----------------------	---------	-----------	--------	--------	-----------------	------------------------------------	----------

1区9面 9号竪穴状遺構遺物観察表

第874図 PL.244	2	土師器 壺	床直上 底部欠	口底 -	11.0 -	高 -	- -	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部外面は縦位の、内面は縦位・斜位のヘラ磨き。胴部外面は横位のヘラ磨き。内面は横位のヘラナデ。頸部直下には口縁部と接合した際の指オサエ痕。	被熱の為か、煤付着。
-----------------	---	----------	------------	---------	-----------	--------	--------	------------------	--	------------

1区9面 10号竪穴状遺構遺物観察表

第874図	3	土師器 甕	床直上 口縁部～胴部上 位片	口底 -	16.0 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/橙	小破片からの作図であり、胴部はもっと膨らむ可能性有り。口縁部から頸部直下まで横ナデ。胴部外面に1cmあたり12本のハケ目。内面はヘラナデ。	
-------	---	----------	----------------------	---------	-----------	--------	--------	----------	---	--

1区9面 11号竪穴状遺構遺物観察表

第875図 PL.244	1	土師器 壺	床直上～16cm 3/4	口底 -	18.2 4.0	高 -	20.0 -	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は二重口縁。下段は外傾弱く直立気味に立ち上がる。上段は外反。先端と下端に3個一単位の重円形浮文を配す。頸部には突帯を巡らし、櫛状工具で刺突。肩部には上下二段の平行線文に挟まれて波状文が巡る。器面の整形は上段口縁部が内外面ともに縦位のヘラ磨き。下段口縁部外面は丁寧なヘラナデ。内面はヘラ磨き。胴部外面はヘラ磨き。内面は頸部直下に指ナデ。中位はヘラナデ。下位はハケ目。	
第875図	2	土師器 小型台付甕	床上より13～ 17cm 口縁部～胴部下 位1/3	口底 -	11.6 -	高 -	- -	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は斜縦位のヘラナデ。	

1区9面 51号畑遺物観察表

第879図	1	土師器 器台または 高杯	底面直上 脚部1/3	口底 -	- -	高 -	12.0 -	粗砂粒/良好/明黄 褐	中位3か所に円形の透孔を配す。外面は縦位のヘラナデ。内面は横位のナデ。	
第879図	2	土師器 特殊器台	底面直上 受け部1/2	口底 -	- -	高 -	- -	粗砂・細砂粒/良 好/橙	受け部底部は水平方向に突出する。口縁部は途中から強く外反して立ち上がる。口縁部の中位には7か所に円形の透孔が配される。内外面ともにヘラ磨き。	
第879図	3	土師器 壺か	壁面 口縁部～胴部上 位1/2	口底 -	17.6 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は内外面ともにハケ目の上に横ナデ。内面の下半部にハケ目を残す。胴部外面・内面に横位のヘラナデ。	
第879図	4	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位1/2	口底 -	16.4 -	高 -	- -	粗砂・細砂粒/良 好/橙	外面は口縁部に斜位・横位のハケ目後、上半部に横ナデ。胴部は斜横位・斜縦位のハケ目。内面は頸部にナデ。胴部はハケ目後にナデを重ねる。	
第879図	5	土師器 台付甕	底面より11cm・ 埋没土 口縁部～胴部上 位1/2	口底 -	14.6 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部はS字状を呈する。横ナデ。胴部外面は右上から左下に1cmあたり6本のハケ目。内面頸部、胴部ともにナデ。	
第879図 PL.244	6	土製品 丸玉	底面より14cm 1/3	長幅 3.1 2.4	厚重 1.5 9.87			粗砂粒少/良好/灰 黄褐	第857図4に類似した形状を有すると考えられるが、縦横比は不明。器面は丁寧なナデ。成形後、焼成前に穿孔を施す。	炭素吸着。

1区9面 53号畑遺物観察表

第880図 PL.245	1	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部下 位1/2	口底 -	13.6 -	高 -	- -	粗砂粒・赤褐色粘 土粒/良好/橙	口縁部は先端に横ナデ。以下外面は斜位のヘラ削り。内面はハケ目・ナデ。胴部外面は頸部直下にヘラナデ。以下は斜位のヘラ削りと考えられる。内面はヘラナデ。	器面は摩滅。
-----------------	---	----------	------------------------	---------	-----------	--------	--------	---------------------	--	--------

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第880図 PL.245	2	鉄製品 刀子?	埋没土 破片	長幅 1.0	3.9 厚 2.52	0.5	-/-/-	土砂を巻き込んで錆化本体は空洞化する。断面は狭三角形で刀子破片と見られるが詳細は不明。	

1区9面 1号遺物集中遺物観察表

第885図 PL.245	1	土師器 杯	確認面 1/4	口底 7.4 4.2	高 4.7 -	4.7 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面はヘラ磨きと考えられる。内面はヘラナデ。	器面は摩滅。
第885図 PL.245	2	土師器 埴	埋没土 1/2	口底 11.0 3.8	高 7.2 -	7.2 -	粗砂粒/良好/明赤 褐	広口の口縁部。底部はやや凹状。口縁部は横ナデ。胴部は上半部がヘラナデ。下半部が横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	外面は底部周辺に黒斑。器面は摩滅。
第885図 PL.245	3	土師器 鉢か	確認面 胴部一部欠	口底 12.9 -	高 10.9 -	10.9 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部から底部外面は斜位のハケ目とナデ。内面はヘラナデ。	器面に炭素吸着。被熱か。
第885図	4	土師器 器台または 高杯	確認面 脚部2/3	口底 -	高脚 -	12.3	粗砂粒/良好/橙	中位3か所に円形の透孔を配する。外面に縦位のヘラ磨き。内面に横位のハケ目。	器面は摩滅。
第886図 PL.245	5	土師器 杯	確認面より 6cm 口縁部一部欠	口底 16.3 -	高 4.8 -	4.8 -	粗砂粒多・赤褐色 粘土粒/良好/橙	器形は大きく歪んでいる。口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面焼成時に炭素吸着。
第886図 PL.245	6	土師器 壺	確認面・確認面 より7~8cm 1/2	口底 10.4 6.4	高 19.7 -	19.7 -	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部が頸部から立ち上がった直後にその方向を変え外反弱く立ち上がる。横ナデ。胴部外面は上位・中位は細いハケ目状の工具による斜位のナデ。下位は横位のヘラ削り。最下端はヘラナデ。内面は摩滅。	
第886図 PL.245	7	土師器 壺	確認面より 6cm 3/4	口底 13.9 7.3	高 22.5 -	22.5 -	粗砂粒・赤褐色粘 土粒/良好/橙	口縁部はいわゆる折り返し口縁を呈する。外面上位は横位のヘラ磨き。以下はハケ目の上にヘラ磨きを重ねる。内面も横位のヘラ磨き。胴部外面はナデの上にヘラ磨きを重ねる。内面は横位・斜位のヘラナデ。	
第886図 PL.245	8	土師器 甕	確認面・確認面 より8cm 2/3	口底 12.5 7.4	高 26.5 -	26.5 -	粗砂粒多/良好/橙	口縁部は中位に2か所、小さな変換点がある。横ナデ。胴部外面はナデに近い斜位のヘラ削り。内面は横位・斜位のヘラナデ。	被熱の為か器面が変色、変質。内面は黒色。
第886図	9	土師器 台付甕	確認面 1/3	口底 9.0 -	高台 18.8 6.0	18.8 6.0	粗砂粒・軽石/良 好/にぶい橙	口径は大きくなる可能性あり。器形は歪んでいる。口縁部は「くの字状」に外反して立ち上がる。横ナデ。外面はハケ目状の工具によるヘラナデ。一部にハケ目を残す。内面は横位のヘラナデ。	被熱。炭素吸着。
第886図 PL.245	10	土師器 台付甕	確認面より 6cm 完形	口底 12.0 -	高台 21.3 8.2	21.3 8.2	粗砂粒/良好/灰褐	口縁部はS字状を呈する。横ナデ。胴部は上位に右上から左下に1cmあたり8本のハケ目。その後、横位のハケ目を重ねる。以下は右下から左上に向かうハケ目。内面は上位と下位がヘラナデ。中位は縦位のナデ。台部外面はナデの上にハケ目を重ねる。内面はナデ。底部内面と台部天井部に砂目粘土を貼付する。	器面に炭素吸着。
第886図 PL.246	11	土師器 台付甕	確認面 1/2	口底 16.2 -	高台 22.7 8.5	22.7 8.5	粗砂粒/良好/浅黄	口縁部はS字状を呈する。横ナデ。胴部外面は上位に右上から左下に1cmあたり6~7本のハケ目。以下は右下から左上のハケ目。内面は上半部に指ナデ。下半部にヘラナデ。台部外面は左上から右下にハケ目。内面は縦位の指ナデ。底部内面と台部天井部に砂目粘土を貼付。	外面に煤付着。
第887図 PL.246	12	土師器 台付甕	確認面・確認面 より7~9cm 3/4	口底 13.9 -	高台 24.6 8.3	24.6 8.3	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部はS字状を呈する。上半部の外反の度合いは他より小さい。横ナデ。頸部内面はきちんと面取り。胴部外面は上位に右上から左下に1cmあたり6~8本のハケ目後、肩部に横位のハケ目を一周させている。中位・下位は右下から左上のハケ目。内面は上位が横位、中位・下位が斜位のヘラナデ。台部はナデ。上位に左上からのハケ目。内面は縦位の指ナデ。底部内面と台部天井部に砂目粘土を貼付。	外面に煤付着。
第887図 PL.246	13	土師器 台付甕	確認面 3/4	口底 15.8 -	高台 25.7 9.5	25.7 9.5	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部はS字状を呈する。横ナデ。胴部外面は上位に右上から左下に1cmあたり4~5本のハケ目。以下は右下から左上のハケ目。内面は上半部に指ナデ。下半部にヘラナデ。台部外面は左上から右下にハケ目。内面は縦位の指ナデ。底部内面と台部天井部に砂目粘土を貼付。	外面に煤付着。

1区9面 93号土坑遺物観察表

第888図	1	土師器 器台	床直上13cm 受け部~脚部上 半	口底 7.5 -	高 -	-	粗砂粒/良好/橙	受け部は皿状を呈し、斜め上方に延びる。外面は受け部先端に横ナデ。以下は縦位のナデか。脚部内面はヘラナデ。一部にハケ目を残す。	器面は摩滅。
-------	---	-----------	-------------------------	----------------	--------	---	----------	--	--------

1区9面 94号土坑遺物観察表

第889図 PL.246	1	土師器 壺	床直上~床上 11cm 胴部一部欠	口底 13.8 7.4	高 26.6 -	26.6 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。外面はハケ目の上にナデを重ねる。内面にもハケ目を施した上に一部磨きを加えられる。胴部外面は全体にヘラ磨き。一部ハケ目を残す。内面も上位から中位には横位のハケ目。下位はナデ。	内外面の一部に黒斑。
第889図 PL.246	2	土師器 台付甕	床直上~床上 13cm 1/2	口底 15.9 8.4	高 23.5 -	23.5 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は下位の一部を除き左上から右下にあまり規則性のないハケ目。1cmあたり7本。下位は左下から右上へのハケ目。内面は斜横位のヘラナデ。台部外面は下半にハケ目。内面は全面にハケ目。	外面の一部に黒斑。
第889図 PL.246	3	土師器 台付甕	床上5~14cm 口縁部~胴部下 位2/3	口底 16.7 -	高 -	-	粗砂粒・黒色鈹物 粒/良好/にぶい黄 橙	口縁部はS字状を呈する。横ナデ。胴部外面は上位が右上から左下に1cmあたり5~7本のハケ目後、横位のハケ目を重ねる。中位以下は右下から左上のハケ目。内面は下半が斜縦位、上半が斜横位のヘラナデ。	外面に煤付着。
第889図 PL.246	4	土師器 小型壺	床上6cm 完形	口底 5.0 3.3	高 7.2 -	7.2 -	粗砂粒少/良好/浅 黄橙	口縁部は横ナデ。内面はハケ目を残す。胴部は上半に縦位のハケ目後、横位のナデ。下半はヘラナデ。内面にもハケ目を残す。	

遺物観察表

1区9面 328号ピット遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第891図	2	土師器 台付甕	底面より12cm 口縁部～胴部上 位片	口 底	17.2 -	高 -	-	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部はS字状を呈する。横ナデ。胴部外面は右上から左下に1cmあたり5本のハケ目。内面は縦位の指ナデ。

1区9面 344号ピット遺物観察表

第891図	1	土師器 小型甕	底面より9cm 口縁部～胴部中 位1/2	口 底	12.2 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。ヘラ磨き状を呈す。	内外面とも炭素吸着。被熱。摩滅。
-------	---	------------	----------------------------	--------	-----------	--------	---	------------------	---	------------------

1区9面 遺構外遺物観察表

第892図 PL.247	1	土師器 埴	確認面 3/4	口 底	9.2 2.9	高 -	8.2 -	粗砂粒少/良好/明 赤褐	口縁部は直立気味に立ち上がる。底部は狭小で凹面状。外面も内面もすべて横位のヘラ磨き。	
第892図	2	土師器 器台か	確認面 口縁部片	口 底	15.8 -	高 -	-	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	残存部下端寄りに直径0.6cmの孔が縦位に貫通する。内外面ともヘラ磨き。	

5区9面 43号住居遺物観察表

第894図 PL.247	1	土師器 器台か	埋没土 受け部～脚部上 位片	口 底	8.7 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	受け部は皿状を呈する。内外面ともにヘラ磨き。脚部には凹形の透孔を3か所に配する。外面はヘラ磨き。内面はヘラナデ。	
第894図 PL.247	2	土師器 器台か	西壁床上6cm 受け部片	口 底	9.4 -	高 -	-	粗砂粒/良好/赤褐	受け部は鉢、あるいは杯状を呈する。口縁部は横ナデ。以下外面に1cmあたり5本のハケ目。基部近くに粗雑なナデ。内面はハケ目の上にナデ。	器面にやや炭素吸着。
第894図	3	土師器 特殊器台	埋没土 受け部破片	口 底	-	高 -	-	粗砂粒/良好/明赤 褐	ほぼ水平に伸びた底部の途中から口縁部が立ち上がり、斜め上方に向けて伸びる。下位に凹形の透孔を配す。2か所確認。口縁部の内外面にヘラ磨き。	
第894図 PL.247	4	土師器 台付甕	東部床直上 口縁部～胴部上 位片	口 底	14.6 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部はS字状を呈す。胴部外面は上位に右上から左下に1cmあたり4～5本、以下は右下から左上にハケ目。内面は頸部にナデ。頸部直下は横位のヘラナデ。上位に縦位の指ナデ。	内外面に炭素吸着。
第894図 PL.247	5	剥片石器 打製石斧	埋没土 完形	長 幅	10.7 5.6	厚 重	1.5 87.0	-/-/ホルンフェル ス	両面周縁に二次加工を施し整形している。括れ部の稜線は著しく摩耗し、着柄によるものと推定される。刃部の摩滅は不明瞭。	
第894図 PL.247	6	石製品 砥石?	埋没土 破片	長 幅	(14.2) (12.2)	厚 重	(3.8) 827.6	-/-/粗粒輝石安山 岩	板状の素材の上面が周囲より平滑で、線状痕が認められたことから砥石とした。	

5区9面 44号住居遺物観察表

第895図	1	土師器 壺	床直上 胴部中位～底部 片	口 底	- 3.8	高 -	-	粗砂粒/良好/明赤 褐	横に大きく張り出す胴部に狭小な平底の底部が付く。胴部外面はヘラ削りの上にヘラナデ。ヘラ磨きを重ねる内面は横位のヘラナデ。	
第895図	2	土師器 台付甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口 底	14.0 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部はS字状を呈す。口縁部は横ナデ。胴部外面は右上からの1cmあたり4本のハケ目後、横位のハケ目を重ねる。内面は縦位の指ナデ。	

5区9面 45号住居遺物観察表

第897図 PL.247	1	土師器 鉢(杯)	北東隅床直上 口縁部一部欠	口 底	11.9 4.5	高 -	4.5 -	粗砂粒/良好/橙	外面は口縁部先端が横ナデ。以下ヘラナデ後に斜横位のヘラ磨き。	
第897図	2	土師器 鉢か	中央東より床直 上～床上18cm 口縁部～胴部 1/3	口 底	14.0 -	高 -	-	粗砂粒/良好/橙	外面は口縁部がナデ。指オサエ。胴部は縦位のヘラナデ。内面は横位のヘラナデ。	器面は摩滅。
第897図	3	土師器 器台	西部床直上 受け部～脚部上 位片	口 底	8.6 -	高 -	-	粗砂粒/良好/明赤 褐	受け部は皿状を呈する。端部は屈曲して立ち上がり外側に平坦面をなす。受け部外面の端部は横ナデ。下半部は弱い当たりのヘラ削り。内面は横位のヘラ磨き。脚部には3か所の凹形の透孔を配する。外面はヘラ削り。内面はナデ。	
第897図	4	土師器 特殊器台	南西部床直上 受け部～脚部上 位片	口 底	-	高 -	-	粗砂粒/良好/浅黄	受け部は水平方向に伸び端部をなす。その中位から口縁部が斜め上方に立ち上がる。中位に6か所の凹形の透孔を配すと考えられる。脚部は基部の直径が大きい。中位に凹形の透孔を配す。5か所か。器面はいずれもヘラ磨き。	
第897図	5	土師器 特殊器台	中央西より床直 上 脚部下位片	口 底	-	高 脚	17.0	粗砂粒/良好/赤褐	外反して伸びる。中位に透孔が配される。三角形を呈するか。外面は横位にヘラ磨き。内面はハケ目後、先端は横位に、以下は縦位にヘラ磨き。内外面ともに磨きの工具の幅が狭く線状で不規則な動きのため、単位を測図する。	内外面の大半に赤彩。
第897図	6	土師器 特殊器台か	北西隅床直上 受け部1/3	口 底	18.6 -	高 -	-	粗砂粒/良好/橙	中位に変換点を有し大きく外反する。下段中位に凹形の透孔を有する。内外面ともにヘラ磨き。	器面は摩滅。
第897図	7	土師器 埴	北東隅床上6～ 16cm 胴部上位～底部 片	口 底	-	高 -	-	粗砂粒/良好/明赤 褐	丸底。外面は横位に丁寧なナデ。内面もナデ。	
第897図 PL.247	8	土師器 小型壺	西部床直上 胴部一部欠	口 底	11.5 -	高 -	15.1 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は受口状に立ち上がる。横ナデ。胴部外面は頸部直下にヘラナデ。上半部が斜縦位を主体に、下半部が横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	胴部外面の一部に黒斑。
第898図 PL.247	9	土師器 壺	西部床直上 胴部下位～底部 片	口 底	- 8.6	高 -	-	粗砂粒/良好/淡黄	胴部外面はハケ目。ナデ後、縦位にヘラ磨きを重ねる。底部外面はヘラ削り。内面は横位に1cmあたり10本と細かなハケ目を全面に施す。	胴部欠損後も二次調整。皿状に利用したか。

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	台			
第898図 PL.247	10	土師器 台付甕	北部床上7cm 胴部一部欠	口底 -	13.4 -	高台 21.5 8.5	粗砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部はS字状を呈する。横ナデ。胴部外面は上位が右上から左下へ1cmあたり7本のハケ目。中位と下位は右下から左上へのハケ目。内面は上半部が縦位の指ナデ。下半部はヘラナデ。台部外面は一部にハケ目。内面は縦位の指ナデ。底部内面と台部天井部に砂目粘土を貼付。	胴部外面下部に煤付着。

5区9面 46号住居遺物観察表

第900図 PL.247	1	土師器 器台	南部床直上 脚裾部欠	口底 -	7.5 -	高 -	粗砂粒少/良好/浅 黄橙	受け部は皿状を呈し、中央に小口を穿つも脚部まで貫通していない。脚部には円形の透孔を3か所に配す。	器面は摩滅。
第900図 PL.247	2	土師器 高杯	南西部P 3床直上、埋没土 3/4	口底 -	9.9 -	高脚 12.0 16.0	粗砂粒/良好/橙	杯部は内外面とも横位、斜横位のヘラ磨き。外面は杯部最下位にハケ目が巡る。脚部には3か所に円形の透孔を配す。外面は上から中位にヘラ磨き。内面は上位にヘラ削り。中位に1cmあたり9本のハケ目。下位にヘラナデ。	
第900図	3	土師器 高杯	中央部床上17cm 杯部下半～脚部 下位片	口底 -	-	高 -	粗砂粒/良好/明赤 褐	杯部は斜め上方に大きく外反か。内外面ともにヘラ磨き。脚部も大きく外反する。裾部寄りに4か所の円形の透孔を配す。外面はヘラ磨き。内面上半部はヘラ削り。下半部はヘラナデ。	器面の広い範囲に炭素吸着。黒色。
第900図 PL.247	4	土師器 台付甕	中央床直上、埋 没土 口縁部・胴部一 部欠	口底 -	13.7 -	高台 23.1 7.5	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部はS字状を呈する。横ナデ。頸部内面は面取りをやや意識している。胴部外面は上位が右上から左下へ1cmあたり7本のハケ目。中位と下位は右下から左上へのハケ目。内面は頸部直下が横位のナデ。中位が縦位の指ナデ。下半部が横位のヘラナデ。脚部外面はハケ目を一部に施す。内面は指ナデ。底部内面と台部天井部に砂目粘土を貼付。	外面の広い範囲に煤付着。
第900図 PL.247	5	土師器 小型甕	南東部P 1・2 床直上、埋没土 底部欠	口底 -	14.7 -	高 -	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は外反強く立ち上がる。横ナデ。胴部外面上位に縦位と横位に1cmあたり6本のハケ目。中位以下は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面の広い範囲に炭素吸着。
第900図 PL.247	6	土師器 甕	南西部床直上 口縁部～胴部上 位片	口底 -	17.8 -	高 -	粗砂粒/良好/明黄 褐	口縁部は強く外反して立ち上がる。胴部外面は上位に斜縦位の、中位に斜横位の、下位に斜縦位の1cmあたり7～8本のハケ目。部分的にハケ目をナデ消している。内面は横位のヘラナデ。	

5区9面 47号住居遺物観察表

第901図	1	土師器 鉢	埋没土 1/3	口底 -	13.2 3.2	高 -	5.1 -	粗砂粒/良好/浅黄 橙	狭小な平底の底部を有する。口縁部は横ナデ。体部外面は斜横位のヘラ削り。内面はナデ。	内外面の一部に黒斑。
第901図	2	土師器 台付甕か	北西部床上17 ～21cm 台部～胴部3/4	口底 -	-	高台 -	8.2	粗砂粒/良好/浅黄	低い台部が付くが器種不明。器面も摩滅しており詳細不明。台部外面の一部にハケ目を残す。内面はナデ。	

5区9面 6号竪穴状遺構遺物観察表

第902図	1	土師器 埴か	床直上 口縁部～胴部片	口底 -	8.4 -	高 -	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は短く屈曲して上方に立ち上がる。先端は尖る。横ナデ。胴部外面には1cmあたり9～10本のハケ目。下位にヘラ削り。内面はナデ。	
第902図 PL.248	2	石製品 紡輪	床上11cm 略完形	径幅 -	4.8 -	厚重 1.7 53.5	-/-/砥沢石	紡軸孔径1cm。敲打の後、研磨により隅丸方形に整形している。研磨面の稜線をそのまま残す。		

5区9面 1号遺物集中遺物観察表

第906図	1	土師器 鉢	確認面 1/4	口底 -	10.0 -	高 -	4.6 -	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい黄褐	口縁部は粗雑な横ナデ。体部最下位にヘラ削り。口縁部との間はナデ。底部外面はヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。黒色。
第906図	2	土師器 高杯	確認面 杯部片	口底 -	21.3 -	高 -	-	粗砂粒・軽石/良 好/橙	形状は大きく歪み、端部は波打っている。口縁部は先端に横ナデ。以下はヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第906図 PL.248	3	土師器 小型甕	確認面 3/4	口底 -	14.5 4.4	高 -	14.2 -	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/にぶい 褐	口縁部の外面は横ナデ。内面にはハケ目を残す。胴部外面は斜横位のハケ目、最下位にのみヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。頸部直下にハケ目を残す。	器面に被熱。やや摩滅。
第906図 PL.248	4	土師器 台付甕	確認面 口縁部～胴部下 位1/3	口底 -	14.2 -	高 -	-	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部はS字状を呈する。胴部外面は上位に右上から左下に向けた1cmあたり4～5本のハケ目、中位以下に右下から左上に向けたハケ目。内面は頸部にナデ。胴部上位から中位に指頭による強いナデ、下位に斜位のヘラナデ。	外面の広範囲に炭素吸着。
第906図 PL.248	5	土師器 台付甕	確認面 口縁部～胴部下 位1/3	口底 -	14.4 -	高 -	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部はS字状を呈する。胴部外面は上位に右上から左下の、中位から下位は右下から左上に1cmあたり5本のハケ目。内面は頸部にハケ目を施す。胴部上位に縦位の指ナデ、中位以下はヘラナデ。	
第906図	6	土師器 台付甕	確認面 口縁部～胴部上 位2/3	口底 -	15.8 -	高 -	-	粗砂粒/良好/灰黄	口縁部はS字状を呈す。横ナデ。胴部外面は右上から左下に1cmあたり6～7本のハケ目。内面は頸部とその直下に横位のナデ、これより下位には縦位の指ナデ。	外面に炭素吸着。
第906図	7	土師器 台付甕	確認面 口縁部～胴部片	口底 -	17.0 -	高 -	-	粗砂粒・雲母少/ 良好/にぶい黄橙	口縁部はS字状を呈す。横ナデ。胴部外面は右上から左下に1cmあたり6本のハケ目後、肩部に横位のハケ目を重ねる。口縁部下位にはハケ目の工具のあたった痕跡。内面は頸部にヘラナデ。その直下には指ナデの痕跡とヘラナデ。	外面に炭素吸着。
第906図 PL.248	8	土師器 台付甕	確認面 口縁部～胴部下 位片	口底 -	23.7 -	高 -	-	粗砂粒/良好/浅黄	口縁部は斜め上方に長く立ち上がる。横ナデ。胴部外面は、上位に右上から左下に向かう1cmあたり4～5本のハケ目。中位から下位は右下から左上に向かうハケ目。内面は横位のヘラナデ。	外面は黒色。煤付着か。
第906図 PL.248	9	土師器 小型壺	確認面 口縁部～胴部下 位片	口底 -	7.9 -	高 -	-	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は直立気味に立ち上がる。胴部最大径は中位よりやや下位に位置するか。口縁部外面は横ナデ。以下、頸部までは縦位の粗いヘラナデ。胴部外面上半部は肩部にヘラナデ、中位寄りに斜位のヘラ磨き、下半部は横位のヘラ削り。内面は口縁部に横位のハケ目を残す。頸部直下には指ナデ、指オサエ、以下は横位のヘラナデ。	器面は摩滅。

遺物観察表

挿 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
				口底	高	高				
第906図	10	土師器 壺	確認面 口縁部～胴部 1/3	口底 -	13.6 -	高 -	-	粗砂粒/良好/橙	整形は器面摩滅のため詳細不明。口縁部横ナデ。胴部外面はヘラ磨き。内面は横位のヘラナデと考えられる。	

5区9面 2号遺物集中遺物観察表

第908図 PL.249	1	土師器 鉢	確認面 完形	口底	7.4 4.5	高 -	6.3 -	粗砂粒少/良好/橙	口径、底径ともに小さく、コップ状を呈する。外面は口縁部横ナデ、以下縦位のヘラ磨き。内面も同様のヘラ磨き。底部外面も丁寧なナデ。	
第908図	2	土師器 器台	確認面 1/2	口底	5.6 -	高 脚	9.2 10.2	粗砂粒/良好/明赤 褐	受け部は裾部の広がりと比較して小径。立ち上がり部分は横ナデ。脚部外面は縦位のヘラ削り。内面はハケ目。ヘラナデ。	
第908図 PL.249	3	土師器 器台	確認面 受け部～脚部 中位片	口底	8.5 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	受け部は皿状を呈し脚部に貫通する孔を有しない。内外面とも横位のヘラ磨き。脚部は中位に4か所の円形の透孔を配す。外面は基部直下が横位の、それ以下は縦位のヘラ磨き。内面はヘラナデ。	脚部内面を除く各面に赤彩。
第908図	4	土師器 壺	確認面 口縁部	口底	19.8 -	高 -	-	粗砂粒/良好/明赤 褐	残存部上位は、受け口状に立ち上がる。中位に変換点を有し急速に径を縮める。外面は変換点以下に1cmあたり4本のハケ目。これより上位は横ナデ。内面は内湾部に規則性のないヘラ磨き。変換点以下には横位のヘラ磨き。	
第908図 PL.249	5	土師器 壺	確認面 口縁部～胴部 下位3/4	口底	12.0 -	高 -	-	粗砂粒/良好/浅黄 橙	器面の摩滅著しく整形の詳細不明。口縁部は横ナデ。胴部外面は上位、中位にナデ。この上に磨きを重ねていた可能性あり。下位は斜横位のヘラ削りか。内面頸部直下に指ナデ。以下は横位のヘラナデ。	
第908図	6	土師器 壺	確認面 口縁部中位～胴 部上位1/4	口底	-	高 -	-	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。内面の下半にはハケ目を残す。胴部外面はハケ目を消しながらナデに近いヘラ削り。内面はヘラナデ。一部にハケ目が見られる。	器面は摩滅。
第908図	7	土師器 小型甕	確認面 1/4	口底	11.4 3.6	高 -	11.9 -	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は小さく歪んでいる。粗雑な横ナデ。胴部外面は斜横位の1cmあたり6～7本のハケ目の上に一部ナデを重ねる。胴部下位にはヘラ削りの面を残す。頸部直下にはナデの部分を残す。内面はヘラナデ。	
第908図	8	土師器 甕	確認面 口縁部～胴部 上位	口底	17.2 -	高 -	-	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部の先端は凹状の平坦面を外方に向ける横ナデ。胴部外面に斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第908図 PL.249	9	土師器 台付甕	確認面 1/2	口底	14.4 -	高 台	24.5 8.8	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部はS字状を呈する。横ナデ。胴部上位は右上から左下へ1cmあたり4～5本のハケ目。中位と下位は右下から左上へのハケ目。内面は中位に縦位の指ナデ。下位はヘラナデ。台部外面はナデの上に一部斜位のハケ目。内面は縦位の指ナデ。	外面に煤付着。
第908図 PL.249	10	土師器 台付甕	確認面 3/4	口底	15.8 -	高 台	24.4 8.1	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部はS字状を呈する。胴部外面は上位に右上から左下に1cmあたり5～6本のハケ目。中位と下位は右下から左上のハケ目。この後肩部を一周する横位のハケ目を重ねる。内面は頸部直下が横位の、上位・中位が斜位の、下位が横位のナデ。台部外面はナデ。一部にハケ目。内面は斜縦位の指ナデ。底部内面と台部天井部に砂目粘土を貼付。	

5区9面 遺構外遺物観察表

第911図	1	土師器 器台	埋没土 脚部下位1/2欠	口底	7.4 -	高 -	-	粗砂粒/良好/明赤 褐	受け部は皿状を呈し、斜め上方に向けて立ち上がる。器面の摩滅が著しく詳細は不明。受け部外面には横位のヘラ磨きが施される。脚部には3か所に円形の透孔が配される。内面はヘラナデ。	
-------	---	-----------	-----------------	----	----------	--------	---	----------------	--	--